

PeopleSoft®

---

EnterpriseOne 8.9

作業原価

PeopleBook

---

2003 年 9 月

PeopleSoft EnterpriseOne 8.9  
作業原価 PeopleBook  
SKU FM89JJC0309

Copyright 2003 PeopleSoft, Inc. All rights reserved.

本書に含まれるすべての内容は、PeopleSoft, Inc. (以下、「ピープルソフト」) が財産権を有する機密情報です。すべての内容は著作権法により保護されており、該当するピープルソフトとの機密保持契約の対象となります。本書のいかなる部分も、ピープルソフトの書面による事前の許可なく複製、コピー、転載することを禁じます。これには電子媒体、画像、複写物、その他あらゆる記録手段を含みます。

本書の内容は予告なく変更される場合があります。ピープルソフトは本書の内容の正確性について責任を負いません。本書で見つかった誤りは書面にてピープルソフトまでお知らせください。

本書に記載されているソフトウェアは著作権によって保護されており、このソフトウェアの使用許諾契約書に基づいてのみ使用が許諾されます。この使用許諾契約書には、開示情報を含むソフトウェアと本書の使用条件が記載されていますのでよくお読みください。

PeopleSoft、PeopleTools、PS/nVision、PeopleCode、PeopleBooks、PeopleTalk、Vantiveはピープルソフトの登録商標です。Pure Internet Architecture、Intelligent Context Manager、The Real-Time Enterpriseはピープルソフトの商標です。その他すべての会社名および製品名は、それぞれの所有者の商標である場合があります。ここに含まれている内容は予告なく変更されることがあります。

## オープンソースの開示

この製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) が開発したソフトウェアが含まれています。Copyright (c) 1999–2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. このソフトウェアは「現状のまま」提供されるものとし、特定の目的に対する商品性および適格性の黙示保証を含む、いかなる明示または黙示の保証も行いません。Apache Software Foundationおよびその供給業者は、損害の発生原因を問わず、責任の根拠が契約、厳格責任、不法行為（過失および故意を含む）のいずれであっても、また損害の可能性が事前に知らされていたとしても、このソフトウェアの使用によって生じたいかなる直接的損害、間接的損害、付随的損害、特別損害、懲罰的損害、結果的損害に関しても一切責任を負いません。これらの損害には、商品またはサービスの代用調達、使用機会の喪失、データまたは利益の損失、事業の中断が含まれますがこれらに限らないものとします。

ピープルソフトは、いかなるオープンソースまたはシェアウェアのソフトウェアおよび文書の使用または頒布に関しても一切責任を負わず、これらのソフトウェアや文書の使用によって生じたいかなる損害についても保証しません。

# 目次

---

<b>作業原価概要</b>	<b>1</b>
作業原価管理業務の概要 .....	1
作業原価管理業務について .....	1
Idea to Action: 作業原価システムの競争上の優位性 .....	2
作業原価システム概要 .....	2
システム・インテグレーション .....	3
システムの機能 .....	5
作業原価処理 .....	7
テーブルおよび記述 .....	9
<b>作業の識別</b>	<b>11</b>
作業マスター・レコード .....	11
作業タイプ .....	11
モデル作業 .....	12
作業マスター・レコードの作成 .....	12
住所録情報の検討 .....	13
作業マスター情報の入力 .....	14
作業用住所録情報の変更 .....	20
作業マスター情報の変更 .....	20
作業日付および作業関連情報の入力 .....	21
追加作業情報の入力 .....	24
作業のコピー .....	26
作業の削除 .....	27
作業原価マスター(P51006)の処理オプション .....	28
<b>原価コード構造およびスケジュール</b>	<b>31</b>
原価コード構造の管理 .....	31
原価コード構造の計画 .....	31
原価コード構造の構成要素 .....	32
原価コード構造と一般会計との関係 .....	33
見出しと明細勘定科目 .....	33
詳細レベル .....	34
例: 原価コード構造 .....	35
原価コード構造テーブル .....	38
原価コード構造の作成 .....	38
勘定科目表からのコピー .....	39
処理オプション: 作業原価コード構造(P51091) .....	41
既存作業からのコピー .....	42
新しい原価コード構造の作成 .....	45
原価コード構造の改訂 .....	45

勘定科目の追加 .....	45
勘定科目の削除 .....	47
勘定科目の改訂 .....	49
同じ作業の指定原価コード範囲のコピー .....	52
代替順序の割当て .....	55
代替順序の理解 .....	55
代替順序の手入力割当て .....	57
代替順序の原価コード構造への割当て .....	59
原価コード構造の設定 .....	59
処理オプション: 原価コード・スケジュール(P51901) .....	62
<b>作業予算 .....</b>	<b>64</b>
当初予算の設定 .....	66
当初予算の入力と変更 .....	66
予算の削除 .....	70
予算のロックとロック解除 .....	71
処理オプション: 当初予算(P510121) .....	71
予算改訂の入力 .....	77
処理オプション: 作業予算の改訂(P510171) .....	83
<b>作業原価照会 .....</b>	<b>87</b>
作業状況照会の処理 .....	87
ユーザー定義カラム別作業情報の検討 .....	87
基本作業情報の検討 .....	97
買掛管理情報の検討 .....	107
<b>作業原価レポート .....</b>	<b>109</b>
作業原価集計レポートの印刷 .....	109
マスター作業原価レポートの印刷 .....	109
原価タイプ別集計レポートの印刷 .....	113
単価分析レポートの印刷 .....	115
作業状況照会情報レポートの印刷 .....	118
期間別傾向分析レポートの印刷 .....	120
作業および勘定科目設定レポートの印刷 .....	123
作業マスター・リスト・レポートの印刷 .....	123
作業勘定マスター・リスト・レポートの印刷 .....	123
科目表タイプ・レポートの印刷 .....	123
明細レポートの印刷 .....	124
取引分析レポートの印刷 .....	124
作業別の詳細レポートの印刷 .....	127
補助元帳別の作業詳細レポートの印刷 .....	131
予算改訂の詳細レポートの印刷 .....	132
補足データ・レポートの印刷 .....	134

作業別補足データ・レポートの印刷 .....	134
データ・タイプ別補足データ・レポートの印刷 .....	134
<b>作業進捗状況</b> .....	<b>135</b>
確実性の推移 .....	136
計算方法の理解 .....	137
方法 A(勘定金額-強制) .....	138
方法 B(買取りまたは固定価格契約) .....	139
方法 C(見出し勘定完了率) .....	139
方法 D(デフォルト) .....	139
方法 E(見積残) .....	140
方法 F(強制) .....	140
方法 G(予算デフォルト-強制) .....	140
方法 I(組込み) .....	141
方法 N(予測なし) .....	141
方法 O(一時変更) .....	141
方法 P(完了率) .....	143
方法 Q(数量) .....	143
方法 R(収益-契約単価) .....	144
方法 S(集計) .....	144
方法 T(合計) .....	146
方法 U(残存単価/率) .....	146
方法 V(収益-絶対値) .....	147
作業進捗状況の処理 .....	147
現場進捗状況レポートの作成 .....	147
作業進捗状況の入力 .....	148
<b>利益計算</b> .....	<b>165</b>
作業利益の見積り .....	165
完了率の入力 .....	166
利益計算データの作成 .....	168
計算バージョンの削除 .....	171
利益計算作業状況レポートの印刷 .....	172
見積利益の改訂 .....	173
単一作業に関する見積利益の改訂 .....	173
複数作業に関する見積利益の改訂 .....	177
利益計上仕訳の理解 .....	183
利益計上仕訳の処理 .....	190
利益計上仕訳の作成 .....	191
仕訳の検討 .....	192
取引の転記 .....	195
処理オプション: 転記レポート(R09801) .....	196
管理者向け集計レポートの作成 .....	201
処理オプション: 管理者向け集計レポート(R51443) .....	202
作業の開始または終了 .....	203

<b>分割融資の実行</b>	<b>204</b>
分割融資情報の作成 .....	204
分割融資の実行レポートのテスト・モードによる作成 .....	205
分割融資の実行レポートの最終案の作成 .....	206
処理オプション: 分割融資実行レコードの生成(R51500) .....	207
分割融資実行の処理 .....	209
分割融資実行明細情報の変更 .....	209
分割融資実行の分割 .....	212
分割融資実行状況の変更 .....	214
〈分割融資実行レコードの生成〉レポートの印刷 .....	215
分割融資実行明細レポートの印刷 .....	216
建設工事原価-明細の印刷 .....	216
建設工事原価-集計の印刷 .....	217
<b>作業原価システム・セットアップ</b>	<b>219</b>
作業原価用ユーザー定義コードの理解 .....	220
作業原価システム固定情報の設定 .....	224
作業原価コード構造の設定 .....	227
複数原価コード構造の設定 .....	233
複数原価コード構造の作成 .....	235
処理オプション: 複数原価コード作業の作成(R51092) .....	236
作業原価用 AAI(自動仕訳)の定義 .....	236
作業原価用元帳タイプの処理 .....	240
作業原価用元帳タイプの理解 .....	240
作業原価元帳タイプ .....	241
作業原価用元帳タイプの設定 .....	241
分割融資実行自動採番の設定 .....	243
作業原価用の設定 .....	244
作業状況照会の設定 .....	245
照会カラムの定義 .....	245
作業状況照会カラム・バージョンの削除 .....	251
作業原価用補足データの設定 .....	251
作業原価用データ・タイプの追加 .....	252
<b>作業原価情報の更新</b>	<b>258</b>
カテゴリ・コード情報の更新 .....	258
処理オプション: カテゴリ・コードの一括更新(R51807) .....	258
作業へのコミット済み原価の転記 .....	259
処理オプション: コミット済み原価の再転記(R00932) .....	260
分割融資の実行用勘定科目情報の更新 .....	260

計算方法の更新 .....	260
処理オプション: 計算方法の変更(R519901).....	261
作業原価予測の再計算 .....	261
処理オプション: 予測の再計算(R51803).....	261
最終予測情報の削除 .....	263
処理オプション: 作業原価予測の削除 (R51997) .....	263
作業取引の集計 .....	263
処理オプション: 取引の集計(R09811).....	264
前年度作業仕訳の除去 .....	264
処理オプション: 前年度仕訳の除去(R09911).....	265
作業の除去 .....	265





---

## 作業原価概要

会計情報は企業のバックボーンであり、ビジネスのあらゆるレベルで重要な役割を果たします。作業やプロジェクトを実施する際も、会計情報を効率的に管理する必要があります。J.D. Edwards 作業原価システムを使用することにより、作業に関する会計情報を効率的にトラッキングできます。

---

## 作業原価管理業務の概要

特定の作業またはプロジェクトの収益および支出状況を正確に把握するためには、作業原価管理における効率的なレポート体系を整備する必要があります。J.D. Edwards 作業管理システムでは、さまざまなレポートを使って作業管理が効率的に行えます。

### 作業原価管理業務について

プロジェクトを主要業務とする企業では、頻繁に作業原価システムと呼ばれる会計管理機能を使用して、プロジェクトに関連する原価をトラッキングしたり、確定したりします。J.D. Edwards 作業原価システムを使用することにより、作業に関する次のような情報の照会およびレポート出力ができます。

- 作業の原価
- 作業の予算
- 見積り完了金額
- 利益
- 作業状況

作業原価システムは、さまざまなプロジェクトに使用することができます。たとえば、建物や設備などを自社で建設・生産する場合は、プロジェクトに起因する費用のみをトラッキングし、それによる利益はトラッキングしません。ただし、利益目的で建設や生産を行う場合は、作業から出る利益を細かくトラッキングする必要があります。

作業原価システムを使用するのに適した業種としては、次のものが挙げられます。

- 請負建設業者
- 高速道路の建設業者
- 住宅建設業者
- 建設会社

## Idea to Action: 作業原価システムの競争上の優位性

次に、作業原価計算業務でよく発生する問題とその解決策、およびそれによる投資効果の例をあげます。

**利益計算が正しくないために、適切な意思決定ができない**

利益計算を現状を反映した正しいものにするために、各勘定科目の計算方法が正しく設定されていることを確認してください。計算は、AAI（自動仕訳）を使って行います。作業原価システムでは、計算や必要な更新は AAI により行われるので、ユーザーは別の作業に時間を使うことができます。

**会社の勘定科目コードや構造が変更されたのにモニタリングおよび記録がされていないために、レポートに正しいデータが出力されない**

一括更新プログラムを使用して、勘定科目コード、ビジネスユニット、または会社を更新します。一括更新はカスタム・プログラミングを必要としないため、勘定科目コードおよび構造の変更を時間と経費をかけずに行うことができます。

**作業原価レポートに使用する情報をグループ化するのに表計算ソフト上でデータを並べ替えている**

作業原価レコードにカテゴリ・コードを割り当て、レポート出力する際のデータ選択に使用します。カテゴリ・コードにより、作業またはプロジェクトに関するレポート作成時に必要な情報だけを選択することができます。表計算ソフト上でデータを並べ替える必要はありません。

**作業原価システムのコミットメント元帳 (PA/PU) からコミットメントがリリースされていない**

コミットメントのリリースをトラッキングするためには、〈作業原価固定情報〉フォームの [コミットメント・リリース・フラグ] をオンにします。調達管理システムで作成された伝票が変更されないようにマスター・ビジネス関数 (P0400047) を設定したら、買掛管理システムではなく調達管理システムで品目を入力します。これにより、コミットメントがリリースされずに高額な費用が発生するのを防ぐことができます。

**社内作業またはプロジェクトが完了したら、固定資産として資産計上したい**

作業が完了したら、作業にかかった費用を固定資産システムに振り替える仕訳を起こします。費用を固定資産管理システムに振り替えたら、固定資産レコードを作成し、その資産 ID に仕訳を転記します。作業原価システムと固定資産管理システムの統合により、カスタム・プログラミングを行うことなくシステム間で情報を移動させることができます。

## 作業原価システム概要

---

J.D. Edwards の作業原価システムとその他の J.D. Edwards システムを連動して、プロジェクトや作業原価およびそれに関連する費用や収益を効率的に管理できます。このシステムを使用して次のような処理が可能です。

- 作業に対する原価コード構造を作成し管理する
- 作業予算を設定する
- 作業の各タスクに対するスケジュールを設定する
- プロジェクトや作業に関連する費用および収益を検討し改訂する
- プロジェクトや作業に関連する追加情報を検討し改訂する
- プロジェクトや作業に関連する費用および収益、その他詳細情報についてのレポートを作成する

- 作業の進捗状況を計算する(作業のどの時点でも計算可能)
- プロジェクトや作業の最終見積を計算する
- 損益を計算して記録する(これは作業のどの時点でも計算可能)
- 契約により、分割融資実行の対象となる費用についてのレポートを作成する

作業原価システムでは、次のようなさまざまな業種、業態に応じて作業を柔軟に管理できます。

- 鉱業
- 公益事業
- エンジニアリング
- 映画製作
- ゼネコン
- 製造
- 自家建設資産
- 不動産開発や家屋建築
- 重機製造や高速道路建設

また、次のタスクを実行して作業原価システムをビジネス・ニーズに合わせてカスタマイズすることもできます。

- 作業別に原価コード構造を設定する
- フォームやレポートに業界用語を追加する
- いくつかの方法を組み合わせで最終予測値を計算する

## システム・インテグレーション

作業を効率的に管理できるように、作業原価システムは次のような J.D. Edwards システムと連動しています。

買掛管理	出来高払いや伝票を入力したり、支払処理を行うと、該当する買掛管理(A/P)システムのレコードが更新されます。
売掛管理	作業に関する契約請求を記録すると、該当する売掛管理(A/R)システムのレコードが更新されます。
住所録	このシステムには、仕入先、協力会社、オーナーなどの住所が保管されています。これらの情報は、支払やレポートの印刷などに使用します。
変更管理	このシステムは、作業原価システム、外注管理システム、契約請求システムの予算変更オーダーと統合しています。
契約請求	このシステムでは、作業原価システムの勘定情報に基づいて契約作業の請求を行います。

外注管理	<p>このシステムでは、引当済みの数量と金額で作業原価システムの勘定科目を更新します。契約予算や予測費用の管理は、作業原価システムを使用して行えます。</p> <p>外注管理システムでは、作業原価システムと連動して、作業に関する契約、支払、コミットメントの詳細を日次および長期にわたり管理できます。外注管理システムは、契約の作成および管理、支払ガイドラインの作成、支払の実行、支払った経費のトラッキング、将来のコミットメントのトラッキング、契約コミットメントに対する変更オーダーの入力、契約およびコミットメントに関する状況レポートの生成を行うために使用します。変更管理システムは、作業にリンクされた外注契約コミットメントの変更を記録するのに使用します。</p> <p>外注契約オーダーが外注管理システムに入力されると、コミットメント元帳(PA/PU)のコミットメント未消化額が更新されます。〈勘定別進捗状況入力〉プログラム(P510211)または〈作業別進捗状況の入力〉プログラム(P510212)を使って契約に対する支払いと転記が済むと、コミットメント未消化額がPA/PU元帳からリリースされます。</p> <p>コミットメント元帳の金額/数量が変更されると、作業またはプロジェクトの最終予測金額も更新されます。これらの金額は、すべて〈作業状況照会〉プログラム(P512000 または P512100)で検討できます。これらのプログラムを使って、作業またはプロジェクトの予算金額、実績金額、コミットメント、最終予測金額を比較できます。</p>
設備/工場管理	このシステムを使用して、設備稼動時間数や発生費用の金額を作業内の指定された勘定科目に記録できます。
固定資産	このシステムでは、ビルなどの自家建設資産の価額を記録できます。
一般会計	このシステムは、一般会計の残高に基づいて、作業原価システムの勘定科目情報を更新します。
在庫管理	在庫が出庫されると、作業原価システムに(貸)棚卸資産勘定、(借)費用勘定の仕訳が作成されます。
給与計算	このシステムでは、作業に関連する労務費と設備費を管理します。
不動産管理	不動産管理システムに関連する開発費や内装工事費などは、作業原価システムを使用してトラッキングします。
調達管理	<p>調達管理システムと作業原価システムは共通のデータベースを共有します。これにより、作業に関連する購買オーダーやコミット済み金額を検討できます。</p> <p>調達管理システムでは、トラッキング対象となる将来の支払義務はコミットメント(引当て)と呼ばれます。コミットメント金額/数量は、作業原価コミットメント元帳(PA/PU)に保存されます。コミットメント・レコードは、作業に関連する非在庫資材の購買オーダーが入力されたときに作成され、勘定残高テーブル(F0902)のPA/PU元帳は、購買明細履歴テーブル(F43199)を使って更新されます。</p> <p>コミットメント金額は、購買オーダーが入荷されて、買掛伝票を作成した時点ではまだ変わりません。コミットメント金額は、伝票が転記された時点でリリースされます。転記時には、購買オーダーの入荷または支払に関する追加レコードが購買明細履歴テーブル(F43199)に作成されます。この時点でコミットメント未消化額がコミットメント元帳(PA/PU)からリリースされ、実績元帳(AA/AU)に記録されます。</p>
サービス請求	サービス請求システムは、作業の進捗に応じた請求処理を行います。
作業オーダー処理	このシステムを使用することで、作業オーダーの行項目コミットメントを制限することができます。作業原価システム、外注管理システム、一般会計システムで、各行項目の原価を作業オーダーに記録します。

エンジニアリング・プロジェクト管理	<p>このシステムでは、原価を管理して大規模な製造関連作業の進行状況をトラッキングします。サプライチェーン実行モジュールで作業を管理するのに便利な詳細計画や実行フェーズを使用します。</p> <p>エンジニアリング・プロジェクト管理システムは作業原価システムと連動して次の処理を行います。</p> <p>作業マスター/勘定科目表の作成およびアップロード</p> <p>当初予算情報のアップロード</p> <p>予算改訂の作成およびアップロード</p> <p>最終予測金額の計算</p> <p>作業完了率の計算</p> <p>作業収益性の決定</p> <p>作業原価システムは広範囲な原価分析機能、予算改訂トラッキング機能、詳細な原価コード構造を持ち、契約請求システムと連動するため、エンジニアリング・プロジェクト管理システムのユーザーにとって便利なツールです。</p>
-------------------	--

## システムの機能

作業原価システムのさまざまな機能を使用して、プロジェクトや作業を管理することができます。中でも中心となる会計管理機能を使用することにより、作業に関連する費用や収益を細かく管理できます。

### 最終予測

作業原価システムでは、作業のどの時点でも最終予測を計算できます。最終予測は、作業の原価、収益、完了率などに基づいて計算されます。

最終予測には次の項目があります。

- 最終予測費用
- 最終予測収益
- 最終予測利益
- 予測差異

### 利益計算

作業原価システムで収益と費用を認識することによって、利益を計上する仕訳を作成します。仕訳は作業進行期間のある時点での作業完了率に基づきます。この仕訳は原価計算のために使用されます。各作業で発生した収益および費用は、必要に応じて手入力で調整できます。

## 作業状況照会

作業原価システムにはオンライン照会機能があります。この機能を使用して、プロジェクトや作業と関連する情報をすべて表示できます。事前に定義された作業情報を参照することもできます。〈作業状況照会〉プログラム(P512000 および P512100)では、特定の情報を表示するためにカラムを設定できます。このカラム・フォーマットは、照会を終了する前に次の使用に備えて保存することができます。〈作業状況照会〉プログラムを使用して、次の情報を表示できます。

- 実績金額および数量
- 当初予算金額および数量、改訂予算金額および数量
- 合計引当金額および数量、未決済引当金額および数量
- 最終予測金額および数量
- 予測差異金額および数量
- 各作業ごとの完了率情報

## 監査証跡管理

作業原価システムは、作業に関するすべての取引について監査証跡を詳しく記録します。監査証跡には、最終予測値や予算変更、コミットメントなどに関連する詳細情報を含めることができます。

## 作業予算改訂

作業原価システムを使用して、作業の当初予算情報を入力してロックすることができます。ロックした予算を変更するには、予算の改訂を入力してください。〈予算の改訂〉プログラム(P510171)を使用して、作業予算の変更に関する監査証跡を作成できます。こうすることで、作業の完了時に当初予算と改訂予算を比較できます。

次のような方法で原価を管理する場合に、予算変更の必要が生じることがあります。

- 買掛伝票、給与計算、設備請求、在庫出庫を使用した実際原価管理
- 完了率と最終予測を使用した最終原価管理
- 外注管理や購買オーダーを使用した引当原価管理

## 原価分析

作業原価システムでは、作業にかかる原価情報を単位あたり原価として分析できます。たとえば、次のような情報が分析可能です。

- 作業 1 時間あたりの賃率
- 完成品の単位あたり原価
- 完成品 1 単位あたりの作業時間数

## 分割融資の実行

作業原価システムでは、作業の進捗状況をトラッキングできます。工事の進捗度合いに応じて所定比率の融資額を引き出すローン形態の場合、融資額を計算基準となる勘定科目に原価を計上しておくことにより、金融機関に提出する分割融資実行レポートを出力できます。

## レポート作成

作業原価システムのレポート機能を使用して、作業に関する情報を管理および検討できます。作成できるレポート・タイプは次のとおりです。

- 管理者向け集計レポート
- 作業および勘定科目設定レポート
- 会計明細レポート
- 補足データ・レポート

## 作業原価処理

次の例は、作業の作成から完了までの処理を示しています。この例は、参考情報としてお使いください。個別のステップや手順は会社ごとに違いがあります。

作業情報	会社名、作業番号、作業名などを識別する作業マスター・レコードを作成します。プロジェクトの一部として作業を設定する場合は、最初にプロジェクトのマスター・レコードを作成してから作業のマスター・レコードを作成してください。
原価コード構造およびスケジュール情報	各作業に対して勘定科目表を作成し、作業に関連する費用のトラッキングや管理、レポート作成などを行います。勘定科目表タイプから勘定科目をコピーしたり、既存の作業から勘定科目や関連予算情報をコピーできます。各勘定科目に対して開始予定日と終了予定日を入力し、作業の進捗に合わせてこの情報を更新してください。
当初予算情報	トラッキングやレポート作成を行う各勘定科目に対して、金額や数量情報を入力します。
改訂予算情報	当初予算情報を変更せずに、累計あるいは増分値を使用して金額や数量を変更できます。
作業や指定勘定科目情報の検討	予算や原価差異を必要な時点で分析し潜在的な問題を明確化することで、作業の進捗状況を検討できます。他システムで管理している作業情報や勘定科目情報を表示することもできます。
作業進捗状況の入力	各勘定科目に対して、実績金額や数量、見積完了率などを入力します。最終予測値の計算方法を入力します。業務の必要に応じてこれらの情報を変更し、最終予測情報を再計算します。
利益見積	作業の収益性を検討するために、作業利益を見積ることができます。作業利益見積は、完了前のどの時点でも計算可能です。利益見積りとして、作業の見積累計利益、最終予測利益、最終予測収益、最終予測原価および費用明細が計算されます。利益見積は、純利益か純損失となります。

**利益見積情報の変更** 次のいずれかを変更すると利益見積情報が変更されます。

- 利益計算方法
- 繰延および未払費用情報
- 完了率情報
- 最終予測値情報

**仕訳の作成** 利益計算ごとに利益計上の仕訳を作成します。

**仕訳の転記** 利益計上仕訳を含むバッチを転記します。

**分割融資の実行** 工事の進捗度合いに応じて分割融資が実行されるように、金融機関提出用の分割融資の実行レポートを作成します。

**作業の終了** 実際の作業が完了し、関連取引情報の転記がすべて終了した時点で、作業を終了します。

**作業原価情報の除去** 一般会計システムの除去機能を使用して、勘定残高テーブル(F0902)と取引明細テーブル(F0911)から古いまたは終了した作業原価情報を定期的に除去すると、ディスク・スペースを確保できます。作業を除去する前に関連情報を集計して、勘定科目マスター(F0901)、勘定残高テーブル(F0902)、取引明細テーブル(F0911)にコピーしてください。

## 参照

作業原価情報の集計と除去については『一般会計』ガイドの次のトピックを参照してください。

- 「データの削除」
- 「集計レコードの作成」
- 「前年度仕訳の除去」
- 「前年度勘定残高の除去」
- 「勘定科目マスター・レコードの削除」



## テーブルおよび記述

作業原価システムでは、主に次のテーブルを使用します。

<b>ビジネスユニット・ マスター(F0006)</b>	作業名、作業番号、作業タイプ、会社、カテゴリ・コードなどの作業情報が保管されています。
<b>元帳タイプ・マスター (F0025)</b>	特定の元帳タイプに対する次のような規則が保管されています。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 予算金額</li><li>• 予算数量</li><li>• 年度締め予算</li><li>• 集計と終了</li></ul>
<b>勘定科目マスター (F0901)</b>	作業原価システムの原価コード構造情報、原価コード・スケジュール情報、カテゴリ・コードが保管されています。作業マスター・レコードが作成されると、勘定科目マスターに見出し勘定科目が作成されます。見出し勘定科目を使用して、作業の進捗状況に合わせて完了率を調整できます。
<b>勘定残高テーブル (F0902)</b>	作業原価システムの当初予算情報が保管されています。また、原価コード構造にある各勘定科目に対する作業原価システム勘定残高明細も保管されています。勘定残高テーブルのデータは、作業進捗情報の計算に使用されます。利益計上の仕訳は勘定残高テーブルに転記されます。
<b>取引明細テーブル (F0911)</b>	金額や数量の修正など、勘定残高についての詳しい監査証跡が記録されているため、改訂情報のトラッキングができます。作業原価元帳には金額と数量情報が保管されています。

作業原価システムでは、次のような補足テーブルも使用します。

会社固定情報テーブル (F0010)	番号や名称、会計期間パターン、現行会計期間などの会社の定義が保管されています。
バッチ制御テーブル(F0011)	各バッチを識別する見出しレコードが保管されています。
AAI マスター(F0012)	利益計上仕訳の作成方法、進捗状況の計算の際に単位当たりの費用の実際発生額の変更を不可にするかどうか、分割融資の実行レポートの対象となる勘定科目の識別方法、仕訳の貸借一致を必須とするかどうかなどの規則が保管されています。
自動採番テーブル(F0002)	利益計算のための番号や分割融資の実行番号など自動的に割り当てられるすべての番号の「次の番号」がこのテーブルに保管されています。分割融資の実行レポート用には、システム 51 自動採番と分割融資の実行自動採番のいずれかを使用することができます。
作業原価分割融資の実行自動採番テーブル(F51002)	割り当てた作業または分割融資の実行に使用される「次の番号」が保管されています。
住所録マスター(F0101)	名称、住所番号、検索タイプおよびカテゴリ・コードが保管されています。
顧客マスター(F0301)	顧客の売掛および請求情報が保管されています。
仕入先マスター(F0401)	仕入先の買掛情報が保管されています。
買掛金元帳テーブル(F0411)	買掛金取引実績が保管されています。
照会カラム・テーブル(F5192)	〈作業状況の照会-ユーザー定義カラム〉フォームに表示するユーザー定義カラム情報が保管されています。
利益認識テーブル(F5144)	現在の利益計算方法についての会計情報が保管されています。
利益計算勘定残高テーブル (F5145)	前回の利益計算方法についての会計情報が保管されています。
追加作業マスター(F5108)	予定スケジュールや実績情報が保管されています。
原価コード・スケジュール・テーブル(F51901)	代替参照順序やレポート作成のために設定した勘定科目マスター・カテゴリ・コードが保管されます。
分割融資の実行マスター (F51911)	取引明細テーブル(F0911)の該当勘定科目と分割融資の実行情報が保管されています。
分割融資の実行備考テーブル (F51911Ex)	分割融資の実行の変更や追加についての備考情報が保管されています。
補足データベース・データ・タイプ・テーブル(F00091)	作業の追加情報のトラッキングに使用するデータ・タイプの定義が保管されています。
補足データ・テーブル (F00092)	作業についての追加情報がデータ・タイプで分類され保管されています。
複数原価コード設定テーブル (F51092)	〈複数原価コードの設定〉プログラムのバージョン設定が保管されています。
勘定科目表タイプ・マスター (F5109)	原価コード構造を設定するのに使用する勘定科目表タイプが保管されています。

---

## 作業の識別

作業とは、原価管理と進捗状況のトラッキングの対象となる活動です。本の出版も、高層ビルの建築もすべて作業と考えることができます。

ビジネス・ニーズに合わせて、大規模プロジェクトをサブプロジェクト単位で個別の作業に区別することがあります。このような場合、全体の作業をプロジェクト、個別のサブプロジェクトを作業といいます。

次の例を参考にしてください。

- 10 階建てのオフィス・ビルの建設を請け負う契約を結びました。各階ごとに費用の発生額と進捗状況を管理します。この場合、オフィス・ビルがプロジェクトで、各階が個別の作業になります。
- 分譲地に家屋を 30 件建てる契約を結びました。各家屋ごとに費用の発生額と進捗状況を管理します。この場合、家屋 30 件の建築がプロジェクトで、各家屋が個別の作業になります。
- 大規模な地方空港の建設を請け負う契約を結びました。各作業ごとに費用の発生額と進捗状況を管理します。この場合、空港がプロジェクトで、中央ターミナル・ビル、空港アクセス道路、各コンコースなどの個別プロジェクトが作業になります。

---

## 作業マスター・レコード

作業マスター・レコードは、各プロジェクトと作業に対して作成してください。作業マスター・レコードの作成時には、作業番号や作業名、作業と関連するプロジェクト(該当する場合)などを指定します。作業マスター・レコードには、トラッキングやレポート作成のための情報も含まれます。作業原価システムは一般会計システムと連動しており、作業マスター・レコードを使用して各作業に関連する原価やその他の情報のトラッキングや管理を行います。

---

## 作業タイプ

作業原価システムと一般会計システムは、いくつかのデータ・フィールドを共有しています。フィールド情報が同じであっても、各システムで別のフィールド名を使用している場合があります。たとえば、作業原価システムでは作業タイプという用語を使用します。一般会計システムでは、この入力フィールドはビジネスユニット・タイプと呼ばれることがあります。作業原価システムの[作業タイプ]フィールドを一般会計システムと共有している関係で、作業原価システムのフォームに一般会計システムの用語が使われている場合があります。作業タイプ情報は、同様のビジネスユニットをグループにまとめるために使われます。作業原価システムの[作業タイプ]フィールドは最終予測値に関するレポート作成に使われます。作業タイプはユーザー定義コードです。デフォルトとして使用する作業タイプは、処理オプションで指定できます。

## モデル作業

---

モデル作業を作成して、新しい作業を作成する場合のテンプレートとして使用できます。モデル作業の原価コード構造を他の作業にコピーすることもできます。モデル作業ステータスの割当ては、作業マスター・レコードを作成する時に行います。作業原価システムで、各作業タイプに対して指定できるモデル作業はそれぞれ 1 つだけです。同様の情報がある作業から情報をコピーして、新しい作業を作成できます。コピーした情報を修正して新しい作業を作成します。

## 作業マスター・レコードの作成

---

作業原価システムで管理する各プロジェクトと作業に対して、作業マスター・レコードを作成する必要があります。作業マスター・レコードは、一般会計システムと作業原価システムのリンクとして機能します。このリンクによって、両方のシステムで、プロジェクトや作業に関連する原価や予算などの会計情報を管理することが可能です。

作業マスター・レコードは、プロジェクトと関連作業とのリンクとしての役割も果たします。このリンクを使用すると、各作業に関連する勘定科目の財務情報を集計できます。財務情報には予算、原価、予測などが含まれます。これらの会計情報を分析して、プロジェクト(全体)の状況を判断できます。作業マスター・レコード情報を入力する際に、作業とプロジェクトを関連付けします。

たとえば、プロジェクトの中に、個別管理が必要ないいくつかの主要作業があるとします。プロジェクトに作業番号 5000 を割り当てます。プロジェクトと関連作業のリンクを作成するには、最初の作業に作業番号 5001 を、次の作業に 5002 を割り当てます。各作業を個別にトラッキングしたり、個々の作業からプロジェクト全体に至るさまざまなレベルで勘定科目をひもづけることができます。

作業マスター・レコードには、各作業に固有の情報が記録されています。このマスターには、次のような識別情報も含まれています。

- 会社番号
- プロジェクト番号とプロジェクト名
- 作業番号と作業名
- 作業タイプ

作業を識別する情報を入力した後、各レコードの追加情報を入力します。追加情報を使用して、その他の詳細に関するレポートの作成やトラッキングを行います。たとえば、次のような情報を入力できます。

- 設備情報
- 税情報
- 給与計算情報
- 作業日付
- カテゴリ・コード

## はじめる前に

- 会社を設定します。『一般会計』ガイドの「会社の設定」を参照してください。
- 作業タイプ用のユーザー定義コードを設定します。『作業原価』ガイドの「作業原価用ユーザー定義コードの理解」を参照してください。
- サービス請求システムを使用している場合は、契約タイプを設定します。『作業原価』ガイドの「作業原価用ユーザー定義コードの理解」を参照してください。

## 参照

- 補助元帳の使用方法については『一般会計』ガイドの「補助元帳の処理」

## 住所録情報の検討

作業原価システムから住所録情報にアクセスできます。表示された住所録システムの画面では、会社情報や取引先情報の入力や変更が可能です。仕入先や顧客についての住所録情報も設定できます。住所録情報は、住所録マスター(F0101)、顧客マスター(F0301)、仕入先マスター(F0401)に保管されています。住所録情報は、作業原価システムの必須情報ではありません。

### ▶ 住所録情報を検討するには

〈作業および予算の設定〉メニュー(G5111)から、〈作業現場住所情報〉を選択します。

1. 〈住所の処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
  - 名称
  - 検索タイプ
2. 住所録情報を検討します。

### フィールド記述

記述	用語解説
名称	住所録レコードの名称で 40 バイトまで入力できます。この名称はさまざまなフォームやレポートに表示されます。ダッシュやカンマなどの特殊文字も入力することができます。ただし、これらの特殊文字で住所録の名称を検索することはできません。
検索タイプ	検索する住所録レコードのタイプを指定するユーザー定義コード(01/ST) E = 従業員 X = 元従業員 V = 仕入先 C = 顧客 P = 見込顧客 M = 郵送先一覧 TAX = 納税先

## 参照

- 既存住所録情報の検索については、『住所録』ガイドの「住所録レコードの処理」

## 作業マスター情報の入力

1 つの会社に対して単一の作業マスター・レコードまたは複数の作業マスター・レコードを入力したり、異なる会社に対して複数の作業マスター・レコードを入力できます。

プロジェクトの階層を設定するには、最初にプロジェクト用の作業マスター・レコードを入力し、次にプロジェクトと関連する各作業用について作業マスター・レコードを入力します。最初にプロジェクトの情報を入力してください。

作業マスター・レコードを 1 つ作成する場合には、〈作業マスターの改訂〉フォームを使用します。複数の作業マスター・レコードを作成する場合は、〈会社別作業の改訂〉フォームを使用してください。作業マスター・レコードを作成するには、[作業番号]フィールド、[作業名(記述)]フィールド、[会社]フィールドをそれぞれ入力してください。特定作業の固有情報は、作業マスター・レコードの作成時に入力するか、あとから追加することができます。

---

### 注意:

作業マスター・レコードの作成は、一般会計システムではなく作業原価システムで行う必要があります。システムにより次の処理が行われます。

- 追加作業マスター(F5108)に関連レコードを作成する。
- F% 元帳にある作業用の元帳見出し勘定を勘定科目マスター(F0901)に作成する。見出し勘定科目を使用して、利益計算に使用する特定作業の完了率を調整できます。
- 作業マスター情報をビジネスユニット・テーブル・マスター(F0006)に保管する。JB などの特定のビジネスユニット・タイプがレコードに自動的に追加されるように設定できます。
- 給与計算システムを使用している場合は、ビジネスユニット固定情報テーブル(F069056)を更新する。

---

作業マスター情報はビジネスユニット・マスター(F0006)と追加作業マスター(F5108)に保管されます。一般会計の見出し勘定は、勘定科目マスター(F0901)に作成されます。

## カテゴリ・コード情報の入力

ビジネスユニット・カテゴリ・コードとは、レポート作成のためにプロジェクトや作業に割り当てるユーザー定義コードのことです。カテゴリ・コードは、必要に応じて最高 30 まで定義できます。カテゴリ・コード 1 から 20 には 3 桁のコードが、カテゴリ・コード 21 から 30 には 10 桁のコードが使用できます。システム 00 のカテゴリ・コードは複数の J.D. Edwards システムにより使用されます。ビジネスユニット・カテゴリ・コードは、ビジネスユニット・マスター(F0006)に保管されます。

### はじめる前に

- ビジネスユニット・カテゴリ・コードを設定します。『作業原価』ガイドの「作業原価用ユーザー定義コードの理解」を参照してください。

▶ 単一作業マスター・レコードを入力するには

〈作業および予算の設定〉メニュー(G5111)から、〈作業原価マスターの改訂〉を選択します。

1. 新しい作業マスター・レコードを作成するには、〈作業マスターの処理〉で[追加]をクリックします。

2. 〈作業マスターの改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 作業 No.
- 会社

3. プロジェクトに作業を割り当てるには、次のフィールドに値を入力します(任意)。

- プロジェクト

4. 必要に応じて次の任意フィールドに値を入力します。

- 詳細レベル
- ビジネスユニット・タイプ
- モデル作業
- 規定完了%

[規定完了%]フィールドに値を入力して、最終予測値の算出前に必要な完了率を指定します。計算方法 P または Q を使用する場合は、次のフィールドに値を入力できます。

- 補助元帳非活動

5. [追加明細]タブをクリックして、次の任意フィールドに値を入力します。

- 作業現場住所
- オーナー住所
- 監督者住所 No.
- 契約タイプ

サービス請求システムを使用する場合は、[契約タイプ]フィールドに値を入力します。  
契約タイプは、レポート作成に使用するユーザー定義コードです。

- 都道府県
- 転記編集

6. [OK]をクリックします。

#### フィールド記述

記述	用語解説
作業 No.	会社の中で費用をトラッキングする単位を表す英数字のコード。組織の部署や課などの部門の他にも、倉庫、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。ビジネスユニットを伝票、会社、個人などに割り当てることにより、さまざまなレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別に未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの支払/入金予定を把握することができます。ビジネスユニットにセキュリティを設定することにより、ビジネスユニットに関する情報を、特定のユーザーからしか照会できないようにできます。
会社	<p>特定の企業、組織、団体などを識別するコード。会社コードが会社固定情報テーブル(F0010)に設定され、完全な貸借対照表を持つ財務報告対象を指定する必要があります。このレベルでは、会社間取引を持つことができます。</p> <p>注：日付や AAI などのデフォルト値に会社 00000 を使用できます。取引入力には会社 00000 を使用できません。</p>
プロジェクト	会社内で、レポート目的で複数作業を特定プロジェクトにグループ化(階層化)するビジネスユニットの番号。各プロジェクトに対して、作業マスターレコードがそれぞれ必要です。さらに、グループに関連した間接コストをトラッキングする勘定科目をもたせることも可能です。プロジェクト番号は、ビジネスユニットの詳細レベルと組み合わせて使用されます。



詳細レベル	<p>作業のプロジェクト、親作業、従属作業、その他のグループとの関係を識別します。これは勘定用の詳細レベルとは異なります。作業用詳細レベルについての情報は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>有効コードは 2 から 9 で、2 から順に 9 が 一番詳細なレベルになります。レベル 1 は会社用に予約されています。</li> <li>集計レベルには、それより低い関連レベルのビジネスユニットが含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての詳細レベルを使用する必要はありません。値が一定している限り、レベルをスキップすることが可能です。</li> <li>〈作業マスターの改訂〉フォームと〈会社別作業改訂〉フォームでは、プロジェクト番号と詳細レベルを一緒に使用できます。</li> <li>情報がきちんと集計されるように、プロジェクトおよびプロジェクト内の各作業番号は順番になっている必要があります。</li> </ul> </li> </ul> <p>注:作業用に情報を集計するには、ビジネスユニット・カテゴリコードなどのほうがより適切です。</p> <p>たとえば、詳細レベルが 2 のオフィスパークのプロジェクト(プロジェクト番号 10000)があるとします。オフィスパークプロジェクトに従属するのは、作業番号 10010 と 10020 の北オフィスパークと南オフィスパークで、それぞれ詳細レベルは 3 になります。南および北のオフィスパークに従属するのは、ビル A、B とビル C、D で、どちらも詳細レベルは 4 になります。</p>
ビジネスユニット・タイプ 補助元帳非活動	<p>ビジネスユニットの分類を指定するユーザー定義コード(00/MC)。</p> <p>特定の補助元帳が使用できるかどうかを示すオプション。完了した作業、退職した従業員、処分した資産などが使用できない補助元帳の例です。補助元帳が使用できないことを示すにはこのオプションをオンにしてください。補助元帳が再び使用可能になったら、このオプションはオフにしてください。テーブル内の補助元帳の情報をレポートに使用して、取引を勘定残高テーブル(F0902)のレコードへ転記されないようにするには、このオプションをオンにしてください。有効な値は次のとおりです。</p> <p>オフ = 補助元帳は使用可 オン = 補助元帳は使用不可</p>
規定完了%	<p>勘定、作業オーダーなどの項目の進捗状況を識別する測定値。常時自動計算されるフィールドではないので手作業で更新する必要があります。</p>
モデル作業	<p>--- フォーム固有 ---</p> <p>勘定科目に対する見積最終原価の計算が可能になる時点における完了率(パーセント)を示します。この完了%がこの規定完了率と同じかそれよりも大きくなった時点で、見積最終原価が計算されます。この計算には、計算方法"P"(完了%)と計算方法"Q"(数量)が使われます。</p> <p>勘定科目またはビジネスユニットの種類(モデル/集計)を示すコード。有効な値は次のとおりです。</p> <p>ブランク モデルではない</p> <p>M モデル</p> <p>C 集計 プログラム P10862 により自動的に作成されるため、手動で設定することはできません</p>

<b>作業現場住所</b>	住所番号は、住所録システムのエントリを識別する番号です。従業員、応募者、参加者、顧客、仕入先、テナント、保管場所などを識別するために使用します。
<b>オーナー住所</b>	作業の対象となる会社または個人を識別する住所番号。通常は契約請求システムまたはサービス請求システムにおけるオーナーの住所番号です。
<b>契約タイプ</b>	契約タイプを識別するユーザー定義コード(51/CT)
<b>都道府県</b>	都道府県を指定するユーザー定義コード(00/S)。通常は郵便で使用される略語がコードになります。
<b>転記編集</b>	<p>作業(ビジネスユニット)に関する取引の総勘定元帳への転記を制御するコード。有効な値は次のとおりです。</p> <p>ブランク = 転記可</p> <p>K = 転記可。ただし当初予算はロックされるため、予算を変更するには変更オーダーの入力が必要。</p> <p>N = 転記不可。開始前の作業や終了した作業に使用します。</p> <p>P = 転記不可。作業の除去は可能です。</p>

#### ▶ 複数作業マスター・レコードを入力するには

〈作業および予算の設定〉メニュー(G5111)から、〈会社別作業の改訂〉を選択します。

1. 〈作業マスターの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
  - 作業名
  - 作業タイプ
  - 会社
2. 作業を選んで、[選択]をクリックします。

PeopleSoft®

会社別作業の改訂

OK 検索 削除 キャンセル フォーム ロー レポート ツール

会社 00050 Project Management Company

スキップ先作業 JB

レコード 1 - 10

グリッドのカスタマイズ

	作業 No.	作業名	圧縮 記述	会社	詳細 レベル	BU タイプ	作業 転記	プロジェクト No.	契約 タイプ
<input checked="" type="checkbox"/>	JB	Model Job	MODELJOB	00050	3	JB			FF
<input type="checkbox"/>		1601 Birmingham Steel Corporation	BIRMINGHAMSTEELCORPORATION	00050	2	JB			T&M
<input type="checkbox"/>		1620 Birmingham Steel - Memphis	BIRMINGHAMSTEELMEMPHIS	00050	3	JB		1601	FF
<input type="checkbox"/>		1621 Birmingham Steel - Baytown	BIRMINGHAMSTEELBAYTOWN	00050	3	JB		1601	FF
<input type="checkbox"/>		2500 Transportation Expansion Pr	TRANSPORTATIONEXPANSIONPROJ	00050	3	JB			T&M
<input type="checkbox"/>		5000 Project Holding Company	PROJECTHOLDINGCOMPANY	00050	2	JB			DEV
<input type="checkbox"/>		5100 Potomac Hotel	POTOMACHOTEL	00050	3	JB		5000	DEV
<input type="checkbox"/>		5200 Drill Press	DRILLPRESS	00050	3	JB		5000	T&M
<input type="checkbox"/>		5300 Cooler/Freezer	COOLERFREEZER	00050	3	ET		5000	CX
<input type="checkbox"/>		5350 Wet and Willy Wilderness Rid	WETANDWILLYWILDERNESSRIDE	00050	3	JB			FF

3. 〈会社別作業の改訂〉のグリッドで、スクロール・バーを使って空白行を表示します。
4. グリッドの最後の空白行で、次のフィールドに値を入力します。
  - 作業 No.
  - 会社名
  - 会社
5. プロジェクトに作業を割り当てるには、次のフィールドに値を入力します。
  - プロジェクト No.
6. 必要に応じて次の任意フィールドに値を入力します。
  - 詳細レベル
  - 転記編集
  - BU タイプ
  - モデル作業
7. 必要に応じて他のフィールドにも値を入力します(任意)。
8. [OK]をクリックして入力事項を保存します。

## 作業用住所録情報の変更

作業に対する住所録情報を変更できます。住所録情報は、作業原価システムの必須情報ではありません。

### ▶ 作業用住所録情報を変更するには

---

〈作業および予算の設定〉メニュー(G5111)から、〈作業原価マスターの改訂〉を選択します。

1. 〈作業マスターの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
  - 作業名
  - 作業タイプ
  - 会社
2. 作業を選択します。
3. [ロー]メニューから、[作業マスター情報] - [住所録]を選択します。
4. 〈住所録の改訂〉フォームで次のいずれかのタブをクリックし、必要なフィールドの値を変更して作業に関連する住所録情報を更新します。
  - 住所録
  - 郵送
  - 追加情報
  - 関連住所
  - カテゴリ・コード 1-10
  - カテゴリ・コード 11-30
5. [OK]をクリックします。

### 参照

- 住所録情報の追加や変更については、『住所録』ガイドの「住所録レコードの作成および更新」

## 作業マスター情報の変更

作業マスター・レコードの情報を変更または追加するには、〈作業マスターの改訂〉フォームを使用します。作業番号は変更できません。

### ▶ 作業マスター情報を変更するには

---

〈作業および予算の設定〉メニュー(G5111)から、〈作業原価マスターの改訂〉を選択します。

1. 〈作業マスターの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
  - 作業名
  - 作業タイプ
  - 会社

2. 作業を選択します。
3. [ロー]メニューから、[作業マスター情報] - [作業の改訂]を選択します。
4. 〈作業マスターの改訂〉で、必要なフィールドを変更して[OK]をクリックします。

## 作業日付および作業関連情報の入力

各プロジェクトや作業のスケジュールが決まった時点で、その予定開始日付と終了日付、実際開始と終了日付などを入力します。レポート作成に使用するその他の情報も入力します。予定開始日付や終了日付、その他の日付は、作業の作成時に入力するか、あとから入力することができます。作業に関連した日付情報は、追加作業マスター(F5108)に保管されます。

各作業に対して、設備料金情報を入力します。最初に、各設備の料金を示すユーザー定義コードを設定してください。設備料金情報は、ビジネスユニット・マスター(F0006)に保管されます。この情報は、作業に要する設備料金の記録のために、設備/工場管理システムで使われます。

作業についての税情報も入力できます。ユーザー定義コードを設定して、税金の計算方法と、総勘定元帳の売上勘定および経費勘定への配賦方法を管理できます。

給与計算システムを使用している場合は、作業に関する給与計算情報を入力できます。作業に間接費レートを適用するかどうかと、適用する場合の率を指定できます。この場合の間接費は、従業員に支払う賃金以外の項目で、従業員に対して直接的にその発生を認識することのできる経費として定義されます。主な例は、給与税、健康保険、会社負担の福利厚生費などです。作業に関する給与計算レポートにこれらの情報を記載するかどうかを指定できます。作業に対して適用する賃率の税金規則を指定できます。作業に関する給与計算情報は、ビジネスユニット固定情報テーブル(F069056)に保管されます。

J.D. Edwards の給与計算システムを使用しない場合は、処理オプションで給与計算フィールドが表示されないように設定できます。

### はじめる前に

- 設備料金と税目(税率と税域)用のユーザー定義コードを設定します。『作業原価』ガイドの「作業原価用ユーザー定義コードの理解」を参照してください。

### ▶ 作業日付やその他の作業関連情報を入力するには

---

〈作業および予算の設定〉メニュー(G5111)から、〈作業原価マスターの改訂〉を選択します。

1. 〈作業マスターの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
  - 作業名
  - 作業タイプ
  - 会社
2. 作業を選択します。
3. [ロー]メニューから、[作業マスター情報] - [作業日付/その他]を選択します。

PeopleSoft®

作業日付その他の情報

OK キャンセル ツール

作業 No. 5100 Potomac Hotel

設備料金コード HIF

資産税納税先

税目-税率/税域 S DEN

作業日付

予定開始日付 06/10/05 実績開始日付 06/15/05

予定完了日付 04/30/07 実績完了日付 05/22/07

その他日付 5 12/27/06 その他日付 6 11/20/06

給与計算情報

労務費配賦 1 EEOコード (Y/N) N

固定間接費係数 1.0000 税域-給与計算

申告対象作業 (Y/N) N

4. 〈作業日付その他の情報〉で、次のフィールドに税情報を入力します(任意)。

- 設備料金コード
- 資産税納税先
- 税目-税率/税域

5. 次のフィールドに作業日付に関する情報を入力します(任意)。

- 予定開始日付
- 実績開始日付
- 予定完了日付
- 実績完了日付
- その他日付 5
- その他日付 6

6. 次のフィールドに作業の給与計算についての情報を入力します(任意)。

- 労務費配賦
- EEO コード
- 固定間接費係数
- 税域-給与計算
- 申告対象作業

〈作業マスターの改訂〉フォームの[フォーム]メニュー、または〈会社別作業の改訂〉フォームの[ロー]メニューから[給与固定情報]を選択して、追加の給与計算情報にアクセスします。

7. [OK]をクリックして入力情報を保存し、〈作業マスターの処理〉に戻ります。

## フィールド記述

記述	用語解説
設備料金コード	<p>DY(日次)、MO(月次)、WK(週次)などの請求料金を示すユーザー定義コード(00/RC)。1つの設備に対して複数の請求料金を設定することができます。このフィールドがブランクの場合、次の順序で有効な請求料金が検索されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 勘定科目マスター(F0901)。このテーブルには最も詳しい料金情報が含まれます。1つの作業に対して複数の料金を適用することができます。たとえば、異なる作業条件に対してそれぞれ料金を設定できます。</li> <li>2. ビジネスユニット・マスター(F0006)。このテーブルの料金情報は、勘定科目マスターほど詳しくはありません。このテーブルに基づく場合、1つの作業に1つの料金のみ設定できます。</li> <li>3. 賃貸規則(F1302) - このテーブルには一番簡略な情報が含まれています。このテーブルの設定時に指定した検索基準に従って検索されます。</li> </ol> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>作業原価システムの場合: 設備料金コードは、〈設備時間入力〉で使用する3つのデフォルトの2番目の値で、作業に対して請求する設備料金を決定します。このフィールドを使用して、作業に対するデフォルト料金コードを入力できます。ここで料金コードを入力しない場合は〈設備時間入力〉プログラムで手入力する必要があります。</p>
資産税納税先	<p>資産税を支払う納税先の住所番号。このフィールドは、年度締めに関連する税住所を自動更新する際に使用されます。</p>
税目-税率/税域	<p>課税方法および収益勘定と費用勘定への計上方法を指定するユーザー定義コード(00/EX)。得意先や仕入先に税目コードを割り当てて、取引のデフォルトコードを設定します。</p> <p>この税目コードは、課税、非課税コードとは異なります。1件の請求書に対して課税、非課税両方の支払項目を入力することはできませんが、税目コードは1つしか指定できません。</p>
予定開始日付	<p>プロジェクトまたは作業の予定開始日付を入力してください。この情報はレポートに使用します。</p>
実績開始日付	<p>このフィールドにプロジェクトまたは作業の実際の開始日付を入力してください。この情報はレポートに使用します。</p>
予定完了日付	<p>このフィールドにプロジェクトまたは作業の予定完了日付を入力してください。この情報はレポートに使用します。</p>
実績完了日付	<p>このフィールドにプロジェクトまたは作業の実際の完了日付を入力してください。この情報はレポートに使用します。</p>
その他日付 5	<p>このフィールドにプロジェクトまたは作業に関連する日付を入力してください。この情報はレポートに使用します。日付はユーザー定義です。</p>

その他日付 6	このフィールドにプロジェクトまたは作業に関連する日付を入力してください。 この情報はレポートに使用します。日付はユーザー定義です。
労務費配賦	<p>労務費に給与計算の税および福利厚生に関する固定間接費を含むかどうかを制御します。有効な値は次のとおりです。</p> <p>0 = 固定間接費の結果額が 0 になるように、固定間接費係数は常に 1.0000 です。</p> <p>1 = 労務費に固定間接費が含まれるように、固定間接費係数は常に 1.0000 です。</p>
EEO コード	<p>ビジネスユニットに対して EEO レポートを必須とするかどうかを指定します。情報としてのみ提供します。有効な値は次のとおりです。</p> <p>Y = EEO レポートを必須とする</p> <p>N = EEO レポートは必須にしない</p> <p>注: EEO レポート用の情報は従業員マスター(F06011)に保管されます。</p>
固定間接費係数	直接労務費に間接費を付加する乗数。たとえば、係数が 1.32 の場合には、労務費 100 円につき 32 円の間接費が付加されます。
税域-給与計算	税率や勘定科目について共通の税規則を適用する地理的な地域。税域には、州、郡、市などの納税先を含める必要があります。このフィールドは給与税などの会計処理で使用されます。
申告対象作業	<p>税務レポート用に使用する給与支払証明レポートに、この作業についての情報を含めるかどうかを指定する値。有効な値は次のとおりです。</p> <p>Y = 含める</p> <p>N = 含めない(デフォルト)</p>

## 追加作業情報の入力

レポート作成のために、〈追加作業マスター〉フォームを使用して作業予算日付やカテゴリ・コードの定義を入力できます。このフォームでカテゴリ・コードを設定すると、定義したカテゴリ・コード別に作業情報を表示できます。

追加作業マスターを使用して、会計年度別の最終予測残高、およびカテゴリ・コード値に関連する新しい勘定科目マスター・ファイル・レコードの作成を管理します。

作業原価システムに作業を追加すると、自動的に追加作業マスターが作成されます。

### ▶ 追加作業情報を入力するには

〈作業および予算の設定〉メニュー(G5111)から、〈作業原価マスターの改訂〉を選択します。

- 〈作業マスターの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
  - 作業名
  - 作業タイプ
  - 会社
- 作業を選択します。
- [ロー]メニューから、[作業マスター情報] - [追加作業]を選択します。



PeopleSoft®

追加作業マスター

OK キャンセル ツール

作業 No. 5100 Potomac Hotel

予算開始西暦/年 20 05

予算終了西暦/年 20 07

カテゴリ・コード 1 選択

カテゴリ・コード 2 選択

カテゴリ・コード 3 選択

4. 〈追加作業マスター〉で、次の任意フィールドに値を入力します。

- 予算開始西暦/年
- 予算終了西暦/年

5. 次のフィールドに、カテゴリ・コードの定義を入力します(任意)。

- カテゴリ・コード 1 選択
- カテゴリ・コード 2 選択
- カテゴリ・コード 3 選択

6. [OK]をクリックします。

## フィールド記述

### 記述

予算開始西暦/年

### 用語解説

予算開始時あるいは作業についての最初の元帳取引が発生した時点のいずれか早い方の西暦の上 2 桁です。たとえば、1998 年の西暦上 2 桁は 19 です。作業原価システムで作業を追加すると、現在の西暦上 2 桁が自動的に割り当てられます。

注: このフィールドと[予算開始会計年度]フィールドの組合せの年度が、[予算終了西暦上 2 桁]フィールドと[予算終了会計年度]フィールドの組合せよりも以前になるように設定してください。

---

<b>予算終了西暦/年</b>	予算終了時あるいは作業についての最後の元帳取引が発生した時点のいずれか遅い方の西暦上 2 桁です。たとえば、1998 年の西暦上 2 桁は 19 です。作業原価システムで作業を追加すると、現在の西暦上 2 桁がこのフィールドに自動的に割り当てられます。 注：このフィールドと[予算終了会計年度]フィールドの組合せの年度が、[予算開始西暦上 2 桁]フィールドと[予算開始会計年度]フィールドの組合せより以降になるように設定してください。
-----------------	---

<b>カテゴリ・コード 1 選択</b>	勘定科目に対するカテゴリ・コード 1 を作成するために、その勘定科目の原価コードから選択される文字を指定します。勘定科目が勘定科目マスター (F0901) に追加されると、カテゴリ・コードが自動的に作成されます。原価コードには最高 8 文字まで使用できるため、有効な値は 1~8 になります。カテゴリ・コードの中にブランクを使用する場合は、+記号を入力してください。 たとえば、原価コード 03100、05120、12100 の勘定科目を追加するとします。 ○ このフィールドで "121" を指定すると、原価コードの 1、2、3 桁目が選択され、カテゴリ・コード 1 としてコード 031、051、121 が作成され勘定科目に割り当てられます。 ○ "2+4" を指定すると、原価コードの 2 桁目と 4 桁目が選択され、間にスペースが入ります。コード 30、52、20 が作成され勘定科目に割り当てられます。 ○ "678" を指定すると、原価コードの 6、7、8 桁目が選択されます。追加された原価コードにこれらの桁数が存在しないため、これらの勘定科目のカテゴリ・コード 1 はブランクになります。
----------------------	--

カテゴリ・コード 1 用の自動選択機能を使用しない場合は、このフィールドをブランクにしてください。

注：この機能は<カテゴリ・コードの一括更新>プログラム(R51807)の処理オプションでも使用できます。

--- フォーム固有 ---

カテゴリコード 2 およびカテゴリコード 3 の選択フィールドは、その勘定科目に対してそれぞれカテゴリコード 2 とカテゴリコード 3 を作成するために、勘定科目の原価コードから選択する文字の指定に使用します。

---

## 作業のコピー

コピーした既存の作業情報に新しい作業番号を割り当てて、新しい作業を作成できます。この機能を使用すると、既存の類似レコードを使用して新しい作業のマスター・レコードを簡単に作成できます。プロジェクト内の各作業には、それぞれ異なる作業番号が必要です。

### ▶ 作業をコピーするには

---

〈作業および予算の設定〉メニュー(G5111)から、〈作業原価マスターの改訂〉を選択します。

1. 〈作業マスターの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。

- 作業名
- 作業タイプ
- 会社

2. コピーする作業を選択して[コピー]をクリックします。

3. 〈作業マスターの改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。
  - 作業 No.
4. 必要なフィールドの値を変更します。
5. [OK]をクリックします。
6. 〈作業マスターの処理〉で、[検索]をクリックして新規作業を表示します。

## 作業の削除

不適切な作業マスター・レコードを作成した場合、そのマスター・レコードを削除できます。作業を削除すると、ビジネスユニット・マスター(F0006)、勘定科目マスター(F0901)、追加作業マスター(F5108)から作業番号が削除されます。ビジネスユニット固定情報テーブル(F069056)などの新規作業の作成で更新されたテーブル情報は、作業原価システムによって更新されます。

---

### 注意:

作業に対応する原価コード構造の作成時に、勘定科目と予算情報が作業に対して設定されている場合は、最初に予算と勘定科目情報を削除してください。その後で、作業を削除します。

---

作業から勘定科目を削除することができます。ただし、勘定科目に関連する取引が存在する場合、つまり、取引明細テーブル(F0911)に情報が存在する場合は、その勘定科目は削除できません。勘定科目取引を無効にして、その情報が使用されないようできますが、勘定科目と関連情報は作業レコードに残ります。

### はじめる前に

- 作業の予算情報を削除します。『作業原価』ガイドの「予算の削除」を参照してください。
- 作業の勘定科目情報を削除します。『作業原価』ガイドの「原価コード構造の改訂」を参照してください。

---

### ▶ 作業を削除するには

〈作業および予算の設定〉メニュー(G5111)から、〈作業原価マスターの改訂〉を選択します。

1. 〈作業マスターの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
  - 作業名
  - 作業タイプ
  - 会社
2. 削除する作業を選択して[削除]をクリックします。
3. [OK]をクリックして、削除を確認します。
4. 〈作業マスターの処理〉で[検索]をクリックして、作業が削除されたことを確認します。  
削除した作業がグリッドに表示されなくなったことを確認してください。

## 作業原価マスター(P51006)の処理オプション

### デフォルト・タブ

作業の照会または追加の際に使用するデフォルトを指定します。

---

#### 1. 作業タイプ

デフォルトのビジネスユニットタイプを指定します。ビジネスユニット／作業タイプを空欄にする場合は、ブランクにしておきます(デフォルト)。

#### 2. 転記編集コード

ブランク = ブランクにする

1 = Nにする

作業を追加する時のデフォルトの転記編集コードを入力します。  
"1"を入力すると、作業勘定科目のデフォルト転記編集コードは"N"になります。

---

### 表示タブ

〈作業原価マスター〉プログラムのフィールドの表示オプションを設定します。

---

#### 1. 会社番号の変更時

ブランク = チェックしない

1 = 警告

2 = エラー

作業の勘定科目が会社と関連している場合、会社番号が変更された時に通知するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 編集なし(デフォルト)

1 警告を表示する

2 エラーを表示する

#### 2. 給与計算フィールド

ブランク = 表示する

---

---

1 = 表示しない

給与計算フィールドを表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 給与計算フィールドを表示(デフォルト)

1 給与計算フィールドを表示しない

---

## バージョン・タブ

次の処理オプションでは、実行するアプリケーションのバージョンを指定します。

---

### 1. 当初予算(P510121)のバージョン

使用する当初予算(P510121)のバージョンを指定します。ブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

### 2. 作業状況照会(P512000)のバージョン

〈作業状況の照会〉プログラム(P5121000)のバージョンを指定します。ブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

### 3. 予算改訂(P510171)のバージョン

使用する予算改訂(P510171)のバージョンを指定します。ブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

### 4. 作業補足データ(P00092)のバージョン

〈補足データ〉プログラム(P00092)のバージョンを指定します。このフィールドをブランクにすると、ZJDE0008 が使用されます。

### 5. 作業から作業へのコピー(P51091)のバージョン

使用する作業から作業へのコピー(P51091)のバージョンを指定します。ブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

### 6. 原価コード・スケジュール(P51901)のバージョン

---

〈原価コード・スケジュール〉プログラム(P51901)のバージョンを指定します。空白にした場合、ZJDE0001 が使用されます。

#### 7. 購買オーダーのバージョン (P4310)

〈購買オーダー〉プログラム(P4310)のバージョンを指定します。このフィールドを空白にすると、ZJDE0001 が使用されます。

#### 8. 選択ボタン・エグジット

- 1 = 作業マスター改訂
- 2 = 会社別作業改訂
- 3 = 当初予算
- 4 = 予算改訂
- 5 = 類似作業のコピー
- 6 = 原価コード表
- 7 = 完了率の更新
- 8 = 拡張作業マスター

ローを選択して[選択]ボタンをクリックするか、ローをダブルクリックした時にアクセスするアプリケーションを指定します。

- 1 作業マスター・レコード (デフォルト)
  - 2 会社別作業の改訂
  - 3 当初予算
  - 4 予算の改訂
  - 5 類似作業のコピー
  - 6 原価コード・スケジュール
  - 7 完了率の更新
-

---

## 原価コード構造およびスケジュール

作業マスター・レコードの作成後、作業の原価コード構造を作成します。原価コード構造とは、作業に関連する勘定科目の内訳のことです。これらの各勘定科目をタスクと考えることもできます。作業原価コード構造は、作業と関連する原価のトラッキングや管理、レポート作成などに使用します。作業原価システムの作業原価コード構造は、一般会計システムの勘定科目表と同じ役割を果たします。

既存の作業または勘定科目表から原価コード構造をコピーすると、簡単に原価コード構造が作成できます。必要な勘定科目を追加して原価コード構造を作成します。作業の原価コード構造をコピーした後、作業に合わせて勘定科目を変更します。勘定科目の追加、勘定科目情報の変更、勘定科目の削除が可能です。

原価コード構造には、代替順序を割り当てることができます。代替順序を使用して、特別な順序で勘定科目を表示したりレポートを作成することができます。

原価コード構造の作成後、各勘定科目に対して原価コード・スケジュールを設定します。原価コード・スケジュールは、同時に実行しなければならないタスクの識別などに使用します。同時進行できないタスクは、時系列で設定できます。

---

## 原価コード構造の管理

原価コード構造を使用して、予算、金額、数量など作業と関連する勘定科目情報を整理、管理します。原価コード構造は、プロジェクトや作業、タスクとその関連勘定科目とのリンクとして機能します。

さらに、原価コード構造を使用し、個別の処理やタスクなどとコードを関連させることにより、作業をさまざまな側面から管理できます。このようにして体系化したコードを基準にして、作業を表示したりレポートを作成することが可能になります。

### 参照

- 原価コード構造の元帳タイプの設定については、『作業原価』ガイドの「作業原価用元帳タイプの処理」

---

## 原価コード構造の計画

原価コード構造の設定では、次の事項を考慮してください。

- 原価コード構造の使用者
- 原価コード構造をもとに作成するレポートや予測の目的
- 効率的な原価コード構造

作業の原価コード構造の使用目的は、使う人の立場によって異なります。たとえば、次のような利用者が考えられます。

- 各フェーズの作業内容や進捗状況を知る必要がある技術者
- 作業の各勘定科目に計上された費用をトラッキングする経理担当者または公認会計士
- 作業と費用の両方に関心がある管理者

効率的な原価コード構造とは、上記のようなさまざまなニーズに対応できる構造を意味します。

原価コード構造を作成する時に、構造をさらに詳細に定義したり、必要なレポート作成のために、コードの各桁に意味を持たせることができます。たとえば、各コードを使用して、「だれが」、「いつ」、「どこで」、「何を」、といった各作業の側面を定義することが可能です。

たとえば、次のような基準に基づいて、8桁の原価コード構造を作成できます。

- 最初の3文字は、作業の中の特定の作業項目を示す
- 次の3文字は作業項目の中の特定のタスクのタイプを示す
- 最後の2文字は、作業が行われる物理的な場所を示す

原価コード構造と各コードを設定する場合、レポート作成や予測のためのニーズを十分考慮してください。作業原価システムでは、いろいろな方法で原価コード情報を整理したり、レポートを作成したりすることができます。最初に綿密な計画を立てて設計することで、より使いやすいレポートの作成やコード表示が可能になります。

たとえば、原価コード構造を使って作業内の特定の関連タスクに関連付けられた最終原価を予測できます。また、分割融資の実行または与信限度の条件に基づいて、清算可能な勘定科目の分割融資の実行レポートを原価コード構造を使って生成することもできます。原価コード構造は、勘定科目情報の識別や整理が簡単に行えるように設定してください。

原価コード構造は、また、プロジェクトや作業とタスクの関係を識別するためのリンクとして機能する必要があります。このためには、プロジェクト全体を最上位に置き、そこから個別の作業や勘定科目に降りていくような階層の原価コード構造に設定します。

## 原価コード構造の構成要素

原価コード構造は3つの部分から構成されています。

<b>作業番号</b>	作業番号は、原価コードや原価タイプと関連する特定の作業を表わします。さらに、この作業番号は、作業と作業が属するプロジェクトとのリンクの役割を果たします。
<b>原価コード</b>	<p>原価コードは8桁の文字フィールドで、このコードを使用して原価コード構造を系統立て、業務要件やレポート作成要件を満たすことができます。原価コードは、次のような方法で設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 各勘定科目の詳細レベル別階層。たとえば、詳細レベル6の勘定は、詳細レベル5の勘定の従属勘定になります。</li><li>• 整地、舗装、造園などのタスクや作業の一部と関連させる。</li><li>• ユーザー定義コードと関連させる。これにより、別の作業も同様の方法でコードを管理できるようになります。また、ユーザー定義コードに基づいて原価コード構造を参照したり、レポートを作成することもできます。</li></ul> <p>各原価コードに意味を持たせて、勘定科目に関連して「だれが」、「何を」、「どこで」といった情報を定義できます。たとえば、最初の2文字は作業のタイプ(電気工事、配管工事など)を表すように設定できます。残りの文字はその他の関連詳細を定義するのに使用できます。</p> <p>代替順序の識別のために、特定の文字を使用してカテゴリ・コードを定義することもできます。指定したカテゴリ・コードに基づいて、レポートの作成や費用の予測が算出できるようになります。</p>
<b>原価タイプ</b>	原価タイプは、原価コード構造の勘定科目と関連する原価についてさらに細かく定義します。これは、材料費や労務費などの勘定科目タイプと対応しています。



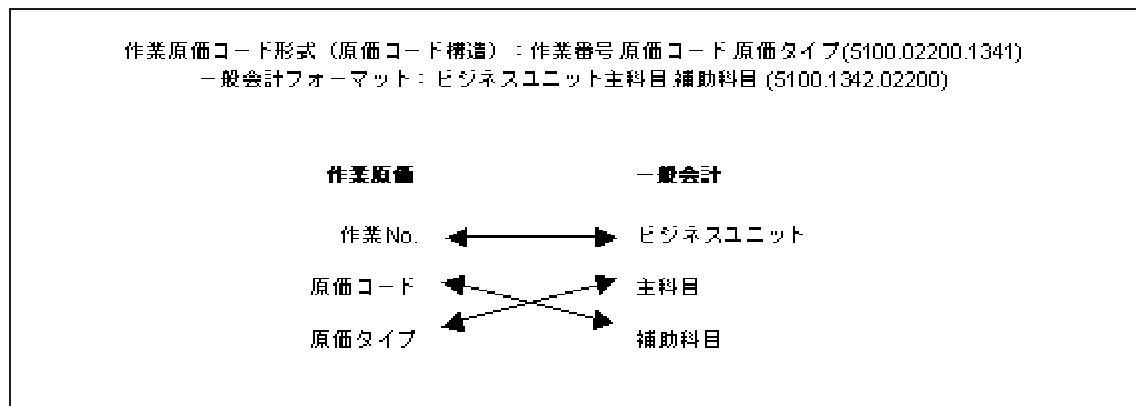
## 原価コード構造と一般会計との関係

作業原価システムの原価コード構造は、一般に勘定科目表または勘定科目と呼ばれる一般会計システム内にあります。J.D. Edwards ソフトウェアは、次のようにして作業原価システムと一般会計システムを関連付けています。

- 2つのシステムで、勘定科目情報に関連するデータベース・テーブルを共有している。
- 作業に対する勘定科目構造と勘定の詳細レベルはお互いのシステムに直接関連している。
- 作業の予算金額と数量は、一般会計システムの別々の元帳に保管される。予算元帳タイプはユーザー定義可能。

作業原価システムと一般会計システムにおける勘定科目構造は次のとおりです。

### 原価コード構造



原価コードは、作業内の特定のタスクを識別します。原価タイプは、材料費や労務費など、各活動における特定の費用を識別します。

### 参照

- 一般会計システムにおける勘定科目表については『一般会計』ガイドの「勘定科目表の計画」

## 見出しと明細勘定科目

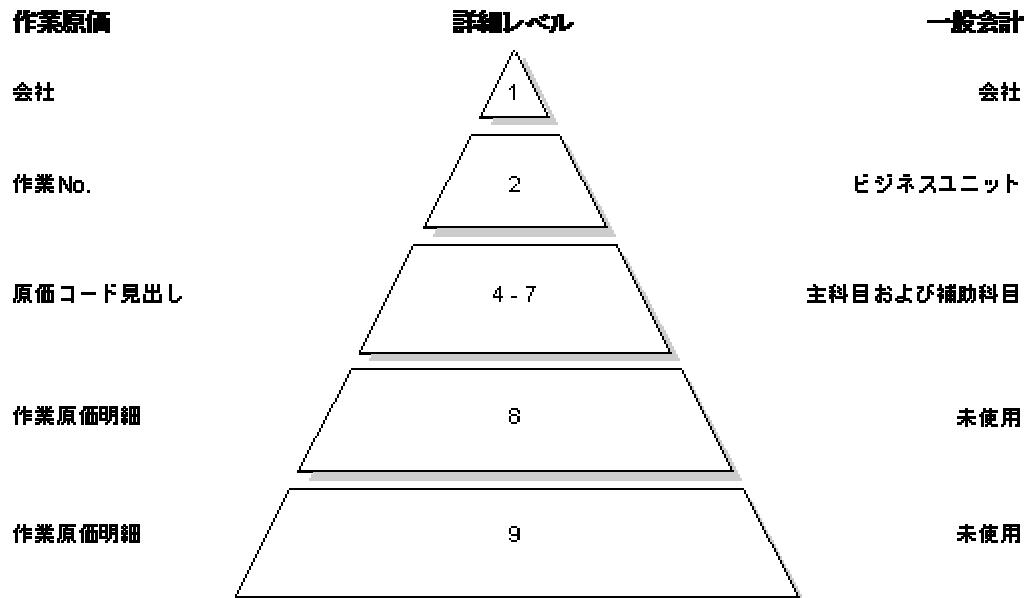
原価コード構造内に見出し勘定科目と明細勘定科目を作成して、さまざまなレベルで作業原価の集計情報を表示することができます。見出し勘定科目とは、対応する明細勘定科目を集計する勘定科目のことです。

作業番号と原価コードだけの作業原価勘定科目は、見出し勘定になります。明細勘定科目は、作業番号、原価コード、原価タイプで定義されます。見出し勘定を使用して、関連する明細勘定科目をグループ分けすることができます。また、主要原価コード見出しを使用して、詳細レベルに応じて関連する原価コード見出しをグループ分けすることもできます。

## 詳細レベル

作業原価システムの各勘定科目に詳細レベルを割り当てて、作業用に設定する原価コード構造に関連する勘定科目の階層を設定します。詳細レベルに従って、総勘定元帳の集計勘定科目と明細勘定科目が識別され、フォームやレポートの合計値に使用する勘定科目を管理できます。詳細レベルは1～9まであり、1が最上位のレベルで、9が最も詳細なレベルになります。

次の図は、作業原価システムと一般会計システムにおける詳細レベルを比較しています。



通常、詳細レベルは次のように使われます。

**レベル 1** 作業原価システムおよび一般会計システム: 会社用

**レベル 2** 作業原価システム: 作業用、一般会計システム: ビジネスユニット用

**レベル 4～7** 作業原価システム: 原価コード見出し用、一般会計システム: 主科目および補助科目用。作業原価システムでは、原価コード見出し(原価タイプを持たない)はレベル 4 から 7 です。このレベルの勘定科目は、総勘定元帳の勘定科目の詳細レベルとは関係ありません。見出し勘定科目にそれほど多くのレベルが必要ない場合は、詳細レベルをスキップできます。

**レベル 8 と 9** 作業原価システム: 原価コードと原価タイプ用。このレベルは、作業原価明細にのみ使用してください。

### 注:

レベル 8 と 9 は作業原価システム用です。詳細レベル 8 と 9 を一般会計システムで使用する場合、作業原価コードのあるレベルでの財務レポート作成は行わないでください。

作業原価システムでは、必ずしもすべての詳細レベルを使用する必要はありません。統一的な運用をしている限り、レベルをスキップすることもできます。

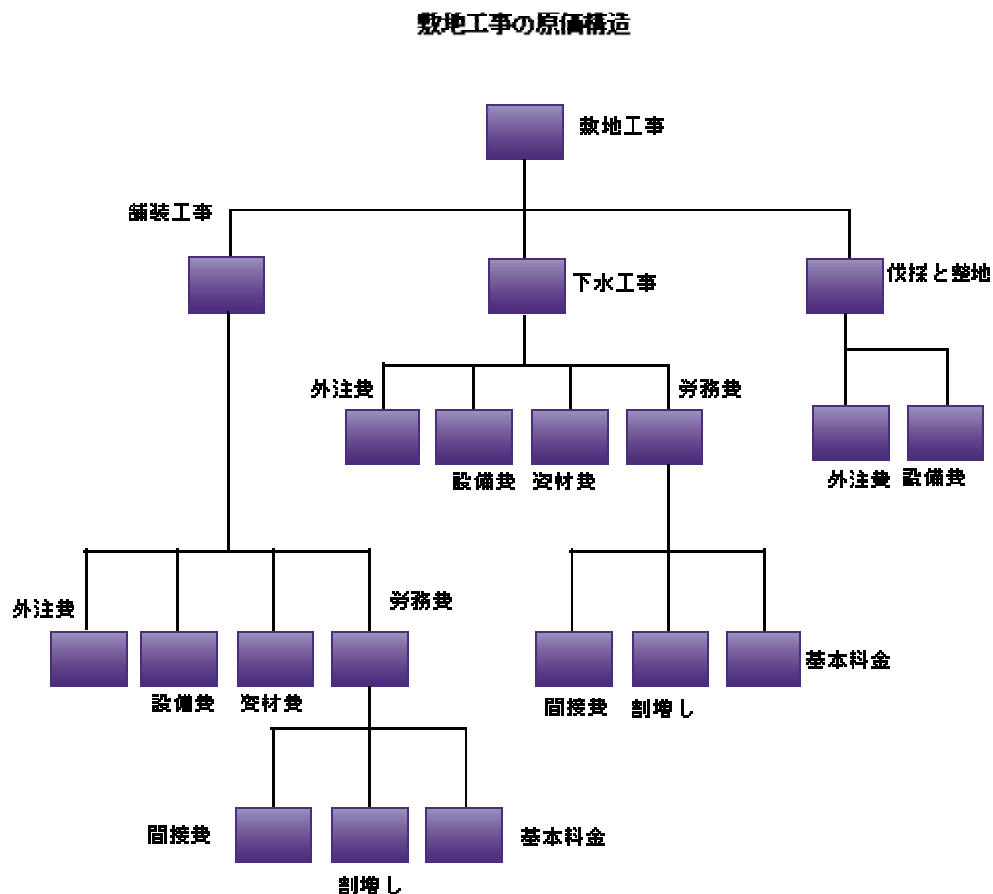
## 例：原価コード構造

大規模な地方空港の建設を請け負う契約を結びました。空港はプロジェクトで、中央ターミナル・ビルの建設、自動荷物システム、空港アクセス道路など関連する従属プロジェクトは個別の作業です。各作業に関連する原価コード構造を設定する必要があります。

たとえば、中央ターミナルの建設作業を次のような工事に分け、各工事をさらに細かいタスク・レベルに分けるとします。

- 敷地工事
- 電気工事
- コンクリート工事

次の図は、敷地工事に関する細かな作業項目を示しています。



勘定科目に組み込む原価コード構造を決め、次に作業番号、原価コード、原価タイプを割り当てます。

次の図は、番号割当ての一例です。

#### 作業番号

プロジェクト	作業 No.
中央ターミナル	5001

#### 原価コード

作業項目とタスク	原価コード	詳細レベル(LOD)
敷地工事	02000	3
伐採と整地	02200	4
下水工事	02600	4
舗装工事	02800	4

#### 原価タイプ

特定勘定科目	原価タイプ	詳細レベル(LOD)
労務費	1340	8
通常	1341	9
割増し	1342	9
間接費	1343	9
資材費	1350	8
設備費	1355	8
外注費	1360	8

次に、敷地工事の作業項目に関する原価コード構造を次のように設定します。

勘定科目 No.	記述	詳細レベル(LOD)
5000	地方空港プロジェクト	1
5001	中央ターミナル	3
5001.02000	敷地工事	4
5001.02200	伐採と整地	5
5001.02200.1355	設備費	8
5001.02200.1360	外注費	8
5001.02600	下水工事	4
5001.02600.1340	労務費	8
5001.02600.1341	通常	9
5001.02600.1342	割増し	9
5001.02600.1343	間接費	9
5001.02600.1350	資材費	8
5001.02600.1355	設備費	8
5001.02600.1360	外注費	8
5001.02800	舗装工事	4
5001.02800.1340	労務費	8
5001.02800.1341	通常	9
5001.02800.1342	割増し	9
5001.02800.1343	間接費	9
5001.02800.1350	資材費	8
5001.02800.1355	設備費	8
5001.02800.1360	外注費	8

## 原価コード構造テーブル

作業原価システムは、次のテーブルを一般会計システムと共有しています。

ビジネスユニット・マスター (F0006)	作業マスター情報を保管します。
勘定科目マスター(F0901)	原価コード構造の勘定科目情報を保管します。
勘定残高(F0902)	原価コード構造の各勘定科目と関連する元帳の勘定残高明細を保管します。
取引明細(F0911)	金額や数量の修正などの取引履歴が記録されており、勘定残高の改訂情報をトラッキングできます。

## 原価コード構造の作成

---

原価コード構造は、各作業に対して作成してください。原価コード構造は、作業に適用される勘定科目のリストで、これを使用して関連作業の情報を管理します。簡単に原価コード構造を作成するには、既存の原価コード構造をコピーして、その情報を新しい作業に合わせて修正します。既存の作業または作業タイプから勘定科目情報をコピーすると、コピー先の作業にない勘定科目のみがコピーされます。既存の勘定科目情報は上書きされません。

次のいずれかの方法を用いて、作業用の原価コード構造を作成します。

- 勘定科目表の原価コード構造を作業にコピーする。勘定科目表とは、特定の作業タイプ用に系統立てられた原価コードと原価タイプの一覧のことです。
- 勘定科目表タイプまたは既存作業から作業を選択し、新しい作業にコピーする。
- モデル作業の原価コード構造を新しい作業にコピーする。モデル作業は、作業マスター・レコードを作成する時に指定します。
- モデル作業から特定の勘定科目を選択し、新しい作業にコピーする。
- 既存作業の原価コード構造を新しい作業にコピーする。
- 必要な勘定科目を1つずつ追加して、新しい原価コード構造を作成する。

コピー元の作業に関連予算情報がある場合は、新しい勘定科目にその予算情報をコピーできます。

原価コード構造情報は、勘定科目マスター(F0901)に保管されます。

### はじめる前に

- 作業用のマスター・レコードを作成します。『作業原価』ガイドの「作業マスター・レコードの作成」を参照してください。

### 参照

『作業原価』ガイドで次のトピックを参照してください。

- 作業原価コード構造の作成については「原価コード構造の管理」
- 「原価コード構造の改訂」

## 勘定科目表からのコピー

勘定科目表タイプとは、定義する原価コードと原価タイプの一覧のことです。複数の作業タイプがある場合は、各作業タイプに対して複数の勘定科目表タイプを設定できます。勘定科目表タイプを設定して、作業に勘定科目情報をコピーすることにより、勘定科目構造に一貫性を持たせることができます。勘定科目表タイプには予算情報は含まれません。

勘定科目表タイプ、選択した勘定科目、勘定科目範囲などを作業にコピーして原価コード構造を作成できます。新しい作業用に原価コード構造を作成したら、〈当初予算〉フォームを使用して、作業に合わせて勘定科目情報を変更できます。

### はじめる前に

- 勘定科目表タイプおよびモデル作業を設定します。『作業原価』ガイドの「作業原価コード構造の設定」を参照してください。

### ▶ 勘定科目表タイプから情報をコピーするには

〈作業および予算の設定〉メニュー(G5111)から、〈選択したマスター・コードのコピー〉を選択します。

1. 〈原価コード構造の処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 勘定科目表タイプを選択します。
3. [ロー]メニューから、[科目表を作業にコピー]を選択します。

PeopleSoft.

原価コードのコピー

OK キャンセル ツール

コピー元

科目表タイプ AE

コピー先

作業 5100

原価コード範囲

原価コード開始 原価タイプ開始

原価コード終了 原価タイプ終了

詳細レベル 9

4. 〈原価コードのコピー〉で、次のフィールドに値を入力します。
  - 作業
5. 次のいずれか 1 つを実行します。
 

勘定科目範囲をコピーするには、次のフィールドに値を入力します(任意)。

  - 原価コード:開始
  - 原価コード:終了
  - 原価タイプ:開始
  - 原価タイプ:終了

選択した勘定科目をコピーするには、次のフィールドの 1 つまたは両方に値を入力します。

  - 原価コード:開始
  - 原価タイプ:開始

勘定科目表全体をコピーするには、これらのフィールドをブランクにします。
6. 必要に応じて次のフィールドの値を変更します。
  - 詳細レベル
7. [OK]をクリックします。
8. 〈コピーの確認〉フォームで、[OK]をクリックします。
9. 〈追加された行数〉フォームで、作業にコピーされた勘定科目の行数を確認してから[キャンセル]をクリックします。
 

勘定科目がまったくコピーされていない場合は、選択した勘定科目タイプに対して勘定科目表が設定されていません。この場合、次のいずれかの処理を実行します。

  - 勘定科目表タイプに対して勘定科目表を設定してから作業に情報をコピーする。
  - 別の勘定科目表タイプを選択して、そこから勘定科目情報をコピーする

## フィールド記述

記述 作業	用語解説
	会社の中で費用をトラッキングする単位を表す英数字のコード。組織の部署や課などの部門の他にも、倉庫、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。ビジネスユニットを伝票、会社、個人などに割り当てることにより、さまざまなレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別に未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの支払/入金予定を把握することができます。ビジネスユニットにセキュリティを設定することにより、ビジネスユニットに関する情報を、特定のユーザーからしか照会できないようにできます。
原価コード:開始	勘定科目範囲で最初の補助科目を示します。これらの勘定科目によって配賦基準が決定されます。指定した範囲(0000～9999 など)の勘定科目に転記された金額のみが配賦対象となります。



<b>原価コード:終了</b>	勘定科目範囲で最後の補助科目を示します。これらの勘定科目によって配賦基準が決定されます。指定した範囲(0000～9999 など)の勘定科目に転記された金額のみが配賦対象となります。
<b>原価タイプ:開始</b>	配賦元の勘定科目範囲の開始主科目です。この範囲内の勘定科目に転記済みの金額のみ配賦されます。
<b>原価タイプ:終了 詳細レベル</b>	<p>勘定科目の範囲で終了主科目を示します。</p> <p>総勘定元帳における勘定科目の集計/詳細を識別し、フォームおよびレポート上での合計を制御する値。詳細レベルには次の特徴があります。有効な値は 1 から 9 まで(9 が最も詳細)。レベル 1 は会社用に、レベル 2 は作業(ビジネスユニット)用に予約済み。</p> <p>作業原価システムでは、原価タイプのないレベル 3 から 7 の原価コード見出しを割り当てることができます。このレベルの勘定科目は、総勘定元帳の勘定科目の詳細レベルとは関係ありません。原価コードと原価タイプの両方を持つ原価タイプ勘定の詳細レベルは 8 または 9 です。このレベルの勘定科目は、総勘定元帳の勘定科目の詳細レベルと直接関係があります。</p> <p>注:詳細レベル 8 と 9 の勘定科目は、作業原価詳細用に予約することをお勧めします。</p> <p>詳細レベルは、それ以下のレベルの関連勘定科目の集計です。たとえば、詳細レベル 3 の勘定科目は詳細レベル 4 の勘定科目の集計です。すべての詳細レベルを使用する必要はありません。統一的な運用をしている限り、レベルをスキップすることもできます。</p>

## 処理オプション: 作業原価コード構造(P51091)

### 表示タブ

1. 原価タイプに使用するデフォルトの文字数(5 文字まで)

原価タイプの開始部分(6 桁の主科目)に使用するデフォルトの文字(5 文字まで指定可能)を指定します。残りの文字は自動的に表示されます。これにより、開始部分の文字が同じ場合に、重複を避けることができます。

### 処理タブ

1. 予算金額元帳タイプ

更新する予算金額元帳タイプを指定します。ブランクにすると、JA が更新されます(デフォルト)。予算数量元帳タイプは、1 文字目は予算金額元帳タイプと同じで、元帳タイプは JU となります。

### バージョン・タブ

1. 作業原価選択ボタン

---

1 = 選択されたマスター・コード(デフォルト)をコピーする

2 = 勘定科目表タイプの設定

[選択]ボタンをクリックしたときに実行するプログラムを指定します。レコードを選択して[選択]ボタンをクリックするか、そのレコードをダブルクリックすると、ここで指定したプログラムが起動されます。有効な値は次のとおりです。

1 選択したマスター・コードのコピー(デフォルト)

2 勘定科目表タイプの設定

## 2. 複数原価コードの設定バージョン(P51092)

ブランク = ZJDE0001

〈複数原価コード作業の作成〉プログラム(R51092)のバージョンを指定します。このフィールドをブランクにすると、バージョン XJDE0001 が使用されます。

---

## 既存作業からのコピー

新しい作業用に作成する勘定科目と類似した勘定科目を持つ作業がある場合、その作業から新しい作業または作業タイプに原価コード構造の一部または全部をコピーできます。新しい作業用に原価コード構造を作成して、作業に合わせて勘定科目情報を変更できます。

既存の作業から原価コード構造情報をコピーする場合、関連する現行年度の予算情報も新しい作業または作業タイプにコピーできます。既存作業と関連する予算情報をコピーするには、勘定科目を作業や作業タイプにコピーする時に一緒に予算情報もコピーする必要があります。既存の予算情報は次のいずれかの方法でコピーできます。

### 改訂予算のコピー

既存作業の改訂予算をコピーします。当初予算、期間残高、繰越残高は、既存作業の現在の勘定科目情報と同じになります。

### 当初予算のコピー

既存作業の当初予算を新しい作業にコピーします。

### 改訂予算の当初予算へのコピー

当初予算と改訂予算集計が使用され、当初予算、期間残高、繰越残高が合計されます。計算結果が新しい勘定科目の当初予算になります。

次の条件が満たされる場合は、現行年度の予算をコピーできます。

- コピー元の作業に現行年度予算がある
- 〈作業原価コード構造〉プログラムの処理オプションに、コピー元の予算元帳タイプが含まれている
- 元帳タイプ・マスターで、年度締めの際に予算を繰越すように予算元帳が設定されている

年度締めの際に、予算元帳の金額を次年度に繰り越す場合は、ユーザー定義コード・テーブル(09/LT)に元帳を設定してください。予算元帳も変更する必要があります。

既存作業の原価コード構造を勘定科目表タイプにコピーすることもできます。勘定科目表タイプに含まれるのは勘定科目情報のみになります。予算情報は含まれません。

#### ▶ 既存作業から情報をコピーするには

---

〈作業および予算の設定〉メニュー(G5111)から、〈類似作業のコピー〉を選択します。

1. 〈作業マスターの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
  - 作業名
  - 会社
  - 作業タイプ
2. 情報をコピーするコピー元の作業を選択します。
3. [ロー]メニューから[勘定科目の追加]を選択し、次のオプションの1つを選択して〈原価コードのコピー〉フォームにアクセスします。
  - 作業から作業へのコピー
  - 作業を勘定科目表へコピー
  - 作業を作業タイプにコピー

選択したオプションによって予算情報をコピーできるかどうかが決まります。

4. 〈原価コードのコピー〉フォームの[コピー元]領域で、次のフィールドに値を入力します。
  - 作業

このフィールドは、情報のコピー元となる既存作業に対応しています。作業番号は変更できません。
5. [コピー先]領域で、次のフィールドの1つに値を入力します。
  - 科目表タイプ
  - 作業
  - 作業タイプ

選択したメニュー・オプションに従って、上記のフィールドのうち1つがフォームに表示されます。これは、原価コード情報のコピー先となる勘定科目タイプまたは作業、作業タイプを指定するフィールドです。

6. 次のいずれかのオプションを選択してください。
  - 原価コード:開始
  - 原価コード:終了
  - 原価タイプ:開始
  - 原価タイプ:終了

選択した勘定科目をコピーするには、次のフィールドの 1 つまたは両方に値を入力します。

- 原価コード:開始
- 原価タイプ:開始

原価コード構造をすべてコピーする場合は、このフィールドをブランクにします。

7. 必要に応じて次のフィールドの値を変更します。

- 詳細レベル

8. 予算情報をコピーするには、次のオプションをクリックします。

- 関連作業予算をコピーしますか

このオプションは、原価コード構造情報を作業または作業タイプにコピーする場合のみ使用できます。このオプションを有効にすると、フォームに[予算のコピー]領域が表示されます。

PeopleSoft

原価コードのコピー

OK キャンセル ツール

コピー元

作業 JIB

コピー先

作業タイプ

原価コード範囲

原価コード開始 原価タイプ開始

原価コード終了 原価タイプ終了

詳細レベル 9

☒ 関連作業予算をコピーしますか

予算のコピー

予算元帳 JA JU

☒ 改訂予算をコピーする

☐ 当初予算をコピーする

☐ 改訂予算を当初予算にコピーする

9. 〈原価コードのコピー〉フォームの[予算のコピー]領域で、次のオプションの 1 つを選択します。

- 改訂予算をコピーする
- 当初予算をコピーする
- 改訂予算を当初予算にコピーする

10. [OK]をクリックします。

11. 〈コピーの確認〉フォームで[OK]をクリックします。

12. 〈追加された行数〉フォームで、コピーされた勘定科目と予算の行数を確認してから[キャンセル]をクリックします。

#### 参照

- 『作業原価』ガイドの「作業原価用元帳タイプの処理」

## 新しい原価コード構造の作成

勘定科目の数が少ない場合、〈当初予算〉フォームを使用して勘定科目を個別に追加できます。既存の作業の勘定科目表タイプや勘定科目情報をコピーして新しい作業用の勘定科目表を作成する方が効率的です。コピーした勘定科目は新しい作業に合わせて変更できます。

#### 参照

『作業原価』ガイドで次のトピックを参照してください。

- 勘定科目を個別に追加する方法については「単一勘定科目の追加」
- 既存情報を使って新規作業用に原価コード構造を作成する方法については「勘定科目表タイプからのコピー」と「既存作業からのコピー」

## 原価コード構造の改訂

---

原価コード構造は一度作成した後でも、その内容を変更できます。原価コード構造の変更は、勘定科目に原価や数量情報を適用する前に行ってください。新規勘定科目を追加したり、既存勘定科目の変更、勘定科目の削除などが可能です。また、同じ作業内の指定した勘定科目範囲をコピーして、勘定科目を追加することもできます。勘定科目と予算情報を同時にコピーして新しい作業の原価コード構造を作成する場合は、勘定科目情報を変更する前に予算情報を削除してください。

改訂した勘定科目情報は、勘定科目マスター(F0901)に保管されます。

---

#### 注意:

原価がすでに適用されている原価コード構造を改訂する場合は、システムの整合性を維持するために〈標準勘定科目の一括更新(F0902/F0911)〉プログラムを実行してください。

---

#### 参照

- 『一般会計』ガイドの「取引明細テーブルおよび勘定残高テーブルの更新」

## 勘定科目の追加

作業に勘定科目を追加するには、次のステップを実行します。たくさんの勘定科目を追加する場合は、最初に勘定科目表を設定して勘定科目情報を新規作業にコピーするか、既存の作業から勘定科目情報をコピーします。コピーした後で、新しい作業に合うように勘定科目情報を変更します。

▶ 勘定科目を追加するには

〈作業および予算の設定〉メニュー(G5111)から、〈勘定科目マスター順序〉を選択します。

1. 〈作業マスターの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
  - 作業名
  - 会社
  - 作業タイプ
2. 勘定科目を追加する作業を選択します。
3. [ロー]メニューから[勘定科目マスター順序]を選択します。

PeopleSoft®

当初予算/勘定科目マスター順序

OK 検索 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

表示 追加選択

元帳タイプ JA JU 元帳日付 03/11/05 US

作業 No. 5100 Potomac Hotel 詳細レベル 9

作業転記編集 補助元帳 \*

レコード 1 - 10 グリッドのカスタマイズ

	原価コード	原価タイプ	記述	単位	評価レベル	転記編集	計算方法	当初数量	当初金額	第3勘定科目No.	代替原価コード	代替原価タイプ
<input checked="" type="checkbox"/>	01000		GENERAL REQUIRE		3	N	N					
<input type="checkbox"/>	02000		SITE WORK		3	N	N					
<input type="checkbox"/>	02200		Earthwork	CY	4	B	N					
<input type="checkbox"/>	02200	1340	Labor	MH	8	N	N					
<input type="checkbox"/>	02200	1341	Regular	MH	9	D		3,000.00	50,000.00			
<input type="checkbox"/>	02200	1342	Overtime	MH	9	D		1,800.00	15,000.00			
<input type="checkbox"/>	02200	1343	Burden		9	D			10,000.00			
<input type="checkbox"/>	02200	1350	Materials	EA	8	P			750,000.00			
<input type="checkbox"/>	02200	1355	Equipment	HR	8	D		1,000.00	25,000.00			
<input type="checkbox"/>	02200	1360	Subcontracting	LS	8	B			150,000.00			

4. 〈当初予算/勘定マスター順序〉で、次のフィールドに値を入力して検討する勘定科目を識別します。
  - 元帳日付
  - 詳細レベル
  - 補助元帳
5. 検討する勘定科目をさらに細かく識別するには、[追加選択]タブをクリックします。

6. 次の任意フィールドに値を入力し、[検索]をクリックします。
  - スキップ元原価コード
  - スキップ先原価コード
  - スキップ元原価タイプ
  - スキップ先原価タイプ
7. グリッドの最後の空白行で、必要に応じて新規勘定科目情報をフィールドに入力します。
8. [OK]をクリックします。

#### フィールド記述

記述	用語解説
スキップ元原価コード	勘定科目コードの中で、敷地工事、土木工事、舗装、造園などの作業ステップ、フェーズ、または作業タイプを識別する部分。総勘定元帳でいう補助科目に該当します。 注：総勘定元帳でいう補助科目は任意ですが、作業原価の勘定科目では原価コードは必須です。
スキップ先原価コード	勘定科目コードの中で、敷地工事、土木工事、舗装、造園などの作業ステップ、フェーズ、または作業タイプを識別する部分。総勘定元帳でいう補助科目に該当します。 注：総勘定元帳でいう補助科目は任意ですが、作業原価の勘定科目では原価コードは必須です。
スキップ元原価タイプ	勘定科目コードの中で、原価コード(労務費、材料費、設備費など)内の原価カテゴリを識別する部分。たとえば、労務費という原価カテゴリを通常時間、割増時間、労務間接費などのサブカテゴリに分類できます。原価タイプは、総勘定元帳でいう主科目に該当します。 注：主科目は原価タイプ勘定には必須ですが、原価コード見出しには使用しません。
スキップ先原価タイプ	勘定科目コードの中で、原価コード(労務費、材料費、設備費など)内の原価カテゴリを識別する部分。たとえば、労務費という原価カテゴリを通常時間、割増時間、労務間接費などのサブカテゴリに分類できます。原価タイプは、総勘定元帳でいう主科目に該当します。 注：主科目は原価タイプ勘定には必須ですが、原価コード見出しには使用しません。

#### 勘定科目の削除

作業関連の勘定科目は、不要な場合には削除できますが、勘定科目に関連する取引が存在する場合、つまり、取引明細テーブル(F0911)に情報が存在する場合には削除できません。勘定科目取引を無効にして、その情報が使用されないようしても、勘定科目と関連情報は作業レコードに残るため、勘定科目を削除することはできません。

#### はじめる前に

- 関連する予算情報がある勘定科目を削除する場合は、最初に予算情報を削除します。『作業原価』ガイドの「予算の削除」を参照してください。

▶ 勘定科目を削除するには

---

〈作業および予算の設定〉メニュー(G5111)から、〈勘定科目マスター順序〉を選択します。

1. 〈作業マスターの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
  - 作業名
  - 会社
  - 作業タイプ
2. 勘定科目を削除する作業を選択します。
3. [ロー]メニューから、[勘定科目マスター順序]を選択します。
4. 〈当初予算/勘定マスター順序〉で、次のフィールドに値を入力して検討する勘定科目を識別します。
  - 元帳日付
  - 詳細レベル
  - 補助元帳
5. 検討する勘定科目をさらに細かく識別するには、[追加選択]タブをクリックして次のフィールドに値を入力します。
  - スキップ元原価タイプ
  - スキップ先原価タイプ
  - スキップ元原価コード
  - スキップ先原価コード
6. [検索]をクリックします。
7. 削除する勘定科目を選択して[削除]をクリックします。
8. [OK]をクリックして、削除を確認します。
9. 〈当初予算/勘定マスター順序〉で[OK]をクリックします。

レコードを更新するために、情報を削除した後で[OK]をクリックしてください。
10. 作業が削除されたことを確認するために、[検索]をクリックします。

削除された勘定科目は表示されません。



## 勘定科目の改訂

通常、新しい作業用の原価コード構造は、別のソースから勘定科目情報をコピーして作成します。コピーした勘定科目情報を、新しい作業の要件に合わせて変更します。

### ▶ 勘定科目を改訂するには

---

〈作業および予算の設定〉メニュー(G5111)から、〈勘定科目マスター順序〉を選択します。

1. 〈作業マスターの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
  - 作業名
  - 会社
  - 作業タイプ
2. 勘定科目情報を改訂する作業を選択します。
3. [ロー]メニューから、[勘定科目マスター順序]を選択します。
4. 〈当初予算/勘定マスター順序〉で、次のフィールドに値を入力して検討する勘定科目を識別します。
  - 元帳日付
  - 詳細レベル
  - 補助元帳
5. 検討する勘定科目をさらに細かく識別するには、[追加選択]タブをクリックして次のフィールドに値を入力します。
  - スキップ元原価タイプ
  - スキップ先原価タイプ
  - スキップ元原価コード
  - スキップ先原価コード
6. [検索]をクリックします。
7. 勘定科目情報を改訂して、[OK]をクリックします。
8. 〈当初予算/勘定マスター順序〉フォームのグリッドに変更する勘定科目のフィールドがない場合は、その勘定科目のローを選択します。
9. [ロー]メニューから、[単一勘定科目]を選択します。

PeopleSoft®

単一勘定科目の改訂

OK キャンセル フォーム ツール

勘定科目コード 5100.01000 GENERAL REQUIREMENTS

勘定科目の改訂 追加 カテゴリコード 1-10 カテゴリコード 11-20 カテゴリコード 21-23

ビジネスユニット/主科目/補助科目 5100 01000

勘定科目名 GENERAL REQUIREMENTS

詳細レベル 3

転記編集 N Non-posting

予算パターン

モデル勘定科目/集計フラグ Non-Model/Consolidation

通貨コード

略式ID 00058712

10. 〈単一勘定科目の改訂〉で次の情報を入力します。

- ビジネスユニット/主科目/補助科目
- 勘定科目名
- 勘定科目詳細レベル
- 転記編集コード
- 予算パターン
- 通貨コード

11. [追加]タブをクリックして、次の情報を入力します。

- 計量単位
- 自由形式(第 3 勘定科目 No.)
- 代替主科目/補助科目
- 請求対象

12. [カテゴリ・コード]タブをクリックして、必要なカテゴリ・コードを入力します。

13. [OK]をクリックします。

## フィールド記述

記述	用語解説																						
ビジネスユニット/主科目/補助科目	<p>会社の中で費用をトラッキングする単位を表す英数字のコード。組織の部署や課などの部門の他にも、倉庫、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。ビジネスユニットを伝票、会社、個人などに割り当てることにより、さまざまなレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別に未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの支払/入金予定を把握することができます。ビジネスユニットにセキュリティを設定することにより、ビジネスユニットに関する情報を、特定のユーザーからしか照会できないようにできます。</p>																						
転記編集コード	<p>総勘定元帳への転記と残高の更新方法を定める勘定科目マスター(F0901)のコード。有効な値は次のとおりです。</p> <p>ブランク = すべての転記可。同じ勘定科目でも補助元帳によって異なる残高レコードを更新します(補助元帳は必須ではありません)。</p> <p>B = B または J で始まる予算元帳タイプの取引のみ転記可</p> <p>I = 非活動勘定(転記不可)</p> <p>L = すべての取引で補助元帳と補助元帳タイプ必須。同じ勘定科目でも補助元帳によって異なる残高レコードを更新します。補助元帳と補助元帳タイプは取引明細テーブル(F0911)と勘定残高テーブル(F0902)に保存されます。補助元帳別にレポートを印刷するにはこのコードを使用してください。</p> <p>M = 自動作成取引のみ(転記プログラムによって仕訳が作成されます)</p> <p>N = 非転記勘定(転記および勘定残高の更新は不可)ただし作業原価システムでは予算数量を転記することができます。</p> <p>S = すべての取引で補助元帳と補助元帳タイプの入力必須。各取引を補助元帳別に集計して転記します。補助元帳の明細は取引明細テーブルに保存されます。予算入力プログラムでは使用できません。</p> <p>U = すべての取引で数量必須</p> <p>X = すべての取引で補助元帳と補助元帳タイプをブランクにする。このコードを設定した勘定科目には補助元帳を入力できません。</p>																						
予算パターン	<p>予算パターンを区別する3文字の固有なコード。このコードを使って各会計期間の予算額が計算されます。</p> <p>例)</p> <p>DNS = 年次予算を月別にしない(このコードは変更できません)</p> <p>ブランク = 年次予算を月別にする(ユーザーが変更しない限りこの設定)</p> <p>*** ブランクを示す</p> <p>SUM 下に示す比率で配賦する</p> <p>WIN 下に示す比率で配賦する</p> <p>SUM (夏)</p> <table> <tr><td>1 月</td><td>0%</td></tr> <tr><td>2 月</td><td>2%</td></tr> <tr><td>....</td><td>48%</td></tr> <tr><td>....</td><td>50%</td></tr> <tr><td>合計</td><td>100%</td></tr> </table> <p>WIN (冬)</p> <table> <tr><td>1 月</td><td>30%</td></tr> <tr><td>2 月</td><td>30%</td></tr> <tr><td>....</td><td>0%</td></tr> <tr><td>....</td><td>0%</td></tr> <tr><td>12 月</td><td>40%</td></tr> <tr><td>合計</td><td>100%</td></tr> </table>	1 月	0%	2 月	2%	....	48%	....	50%	合計	100%	1 月	30%	2 月	30%	....	0%	....	0%	12 月	40%	合計	100%
1 月	0%																						
2 月	2%																						
....	48%																						
....	50%																						
合計	100%																						
1 月	30%																						
2 月	30%																						
....	0%																						
....	0%																						
12 月	40%																						
合計	100%																						

<b>通貨コード</b>	取引通貨を識別するコード。  --- フォーム固有 --- 勘定科目で使用する通貨を指定するコード。このフィールドの通貨コードで、勘定科目は通貨勘定として指定されます。通常、通貨勘定は銀行勘定になります。 ほとんどの勘定科目で、どの通貨の取引も受け入れるようにする場合は、通貨コードを指定しません。銀行勘定などの勘定科目で特定の通貨の取引のみを処理するように設定するには、通貨コードを指定します。
<b>計量単位</b>	金額や数量について計量単位を識別するユーザー定義コード(00/UM)。たとえば、バレル、箱、立方メートル、リットル、時間などがあります。
<b>自由形式(第 3 勘定科目 No.)</b>	第 3 勘定科目コードは 25 文字までの自由形式コードで、次のような目的で使 用します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 移行前の旧勘定科目コードを使用する</li> <li>・ 年度途中の勘定科目コード変更に対応する</li> <li>・ 法定レポートなどで異なる勘定科目体系を使用する</li> </ul> ビジネスユニット内だけでなくシステム全体で重複しないようにしてください。 この第 3 勘定科目コードと標準の勘定科目コード(ビジネスユニット、主科目、補助科目)の関連はありません。
<b>代替主科目/補助科目</b>	法定勘定科目表、親会社の要求事項、サードパーティのコーディング等の要件に応じるために使用される代替主科目コード。
<b>請求対象</b>	請求可能な勘定科目かどうかを示すコード。有効なコードは次のとおりです。 Y = 請求可能 N = 請求不可 1 = 請求書作成にのみ使用可能 2 = 収益計上にのみ使用可能 4 = 費用としてのみ使用可能 注: 1、2、4 はサービス請求システムにのみ関連しています。

## 参照

- 『一般会計』ガイドの「勘定科目の改訂」

## 同じ作業の指定原価コード範囲のコピー

同じ作業で指定した勘定科目範囲をコピーして新しい勘定科目を追加できます。同じ作業で勘定科目範囲を指定してコピーする場合、原価コードと対応する情報を入力します。原価タイプと記述を入力し、その情報を新しい原価コードに追加します。

次のような原価コードをまとめてコピーすると便利です。

原価コード	原価タイプ	記述	詳細レベル	計量単位
02200		伐採と整地	4	EA
02200	1340	労務費	8	HR
02200	1341	通常労務費	9	HR

原価コード	原価タイプ	記述	詳細レベル	計量単位
02600		下水工事	4	EA
02600	1340	労務費	8	HR
02600	1341	通常労務費	9	HR

選択した原価コードの勘定科目マスター(F0901)の情報がすべて新しい原価コードにコピーされます。新しい原価コード番号を入力してください。既存の勘定科目範囲に関連予算情報がある場合は、その予算情報もコピーできます。

新しい勘定科目範囲がまだコピーされていない場合のみ、予算情報をコピーできます。[開始]フィールドと[終了]フィールドの情報は同じにする必要があります。このフィールドは作業から作業へ、または勘定科目表から勘定科目表へコピーする場合にのみ使用してください。

#### ▶ 同じ作業内の指定原価コード範囲をコピーするには

〈作業および予算の設定〉メニュー(G5111)から、〈類似作業のコピー〉を選択します。

1. 〈作業マスター〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
  - 作業名
  - 会社
  - 作業タイプ
2. 作業を選択します。
3. [ロー]メニューから、[勘定科目の追加] - [作業から作業へコピー]を選択します。
4. 〈原価コードのコピー〉フォームで、コピー元領域とコピー先領域の次のフィールドに値を入力します。

- 作業

同じ作業内の情報をコピーするため、これら 2 つのフィールドの作業番号は同じになります。

5. 次のいずれか 1 つを実行します。
  - 関連予算なしで原価コードをコピーするには、[原価コード範囲]領域の次のフィールドに値を入力します。
  - 原価コード:開始
  - 原価コード:終了
  - 原価タイプ:開始
  - 原価タイプ:終了
  - 詳細レベル
  - 関連予算と一緒に原価コードをコピーするには、[関連作業予算をコピーしますか]オプションをクリックします。

フォームに[予算のコピー]領域が表示されます。

PeopleSoft®

原価コードのコピー

OK キャンセル ツール

コピー元

作業  🔍

コピー先

作業タイプ

原価コード範囲

原価コード開始	<input type="text"/>	原価タイプ開始	<input type="text"/>
原価コード終了	<input type="text"/>	原価タイプ終了	<input type="text"/>
詳細レベル	<input type="text" value="9"/>		

☒ 関連作業予算をコピーしますか

予算のコピー

予算元帳

☒ 改訂予算をコピーする  
☐ 当初予算をコピーする  
☐ 改訂予算を当初予算にコピーする

6. 関連予算をコピーする場合は、次のオプションのうち 1 つをクリックします。
  - 改訂予算をコピーする
  - 当初予算をコピーする
  - 改訂予算を当初予算にコピーする
7. [OK]をクリックします。
8. 〈コピーの確認〉フォームで[OK]をクリックします。
9. 〈追加された行数〉フォームで、コピーされた勘定科目と予算の行数を確認してから[キャンセル]をクリックします。

## 代替順序の割当て

---

原価コード構造は、通常、原価コードの英数字の順に表示されます。ただし、別の順序を選択して、原価コード構造を並べ替えて表示することもできます。次のような場合に代替順序を使用します。

- 作業の特定の領域を識別する
- 監督官庁の指定する原価コード構造ガイドラインに従う
- 親会社の規定に従う
- サードパーティの規定に従う

ユーザー定義カテゴリ・コードを使用して代替順序を割り当て、カテゴリ・コードを基準にして原価コード構造を表示できます。また、原価コード構造の各勘定科目に対して代替原価コード番号を入力することもできます。

次のようにして、原価コード構造用の代替順序を使用できます。

- 作成した原価コード構造の各行に、代替順序カテゴリ・コードと代替順序原価コード番号を手入力で割り当てる
- 新しい原価コード構造を作成する時に、代替順序カテゴリ・コードを自動的に割り当てる
- 作業用の原価コード構造の作成後、原価コード構造全体に対して代替順序カテゴリ・コードを割り当てる

### 参照

『作業原価』ガイドで次のトピックを参照してください。

- 原価コード構造の作成については「原価コード構造の作成」
- 代替順序カテゴリ・コードの割当て方法については「追加作業情報の入力」

## 代替順序の理解

勘定科目を系統立てて、レポート作成がしやすくするために、原価コードを割り当てることができます。たとえば、作業の各側面の特定の情報を意味するコードを勘定科目コードの一部として割り当てます。原価コード構造を表示する際は、この埋込みコードを基にソートできます。各行項目に手入力で順序を割り当てて、原価コード構造を並べ替えることもできます。

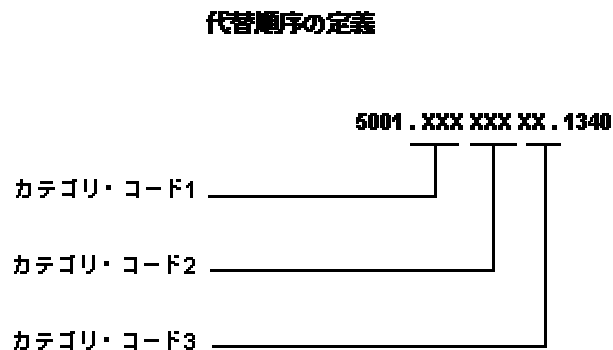
### 例：代替順序による表示

次のような基準に基づいて、8桁の原価コード構造を作成するとします。

- 最初の3文字は、作業の中の特定の作業項目を示す
- 次の3文字は作業項目の中の特定のタスクのタイプを示す
- 最後の2文字は、作業が行われる物理的な場所を示す

カテゴリ・コードを定義して、それにより原価コード構造を並べ替えることができます。最初の3桁の勘定科目レベルのカテゴリ・コードを使用して、代替順序を定義できます。

次の図は、この構造を示しています。



カテゴリ・コードは、原価コードの特定の位置を示します。それぞれのコードの意味と対応するように、割当てを行います。次に、カテゴリ・コードを基準にして原価コードを並べ替えて表示します。

また、原価コード構造の各勘定科目に対して代替原価コード番号を手入力で割り当てることもできます。代替コード番号は、原価コードの意味やカテゴリ・コードに関係なく割り当てることができます。

原価コードの最高 3 つの位置を使用して、代替順序カテゴリ・コードを定義できます。指定した位置の英数字、次に残りの文字の英数字と原価タイプを基準にして原価コード情報の順序が決められます。

代替順序カテゴリ・コードに指定する文字は、原価コード・フィールドの正しい位置にくるようにしてください。つまり、カテゴリ・コードは 1、2、3 の順に指定できますが、順序を変更して 1、3、2 の順に指定することはできません。カテゴリ・コードの最後のフィールドがブランクの場合は“+”を入力します。たとえば、7、8、+というように指定します。

数字とアルファベット順に並んだ次の勘定科目を例にとります。

#### 標準の表示順序

6001.BBB34505.1234

6001.EEE45604.1234

6002.CCC56703.1234

6003.AAA12302.1234

6003.DDD23402.1235



カテゴリ・コードを前記の図のように定義したとします。勘定科目に次のような代替原価コード番号を割り当てることができます。

通常の勘定科目コード	代替原価コード
6001.BBB34505.1234	1001
6001.EEE45604.1234	1002
6002.CCC56703.1234	1004
6003.AAA12302.1234	1003
6003.DDD23402.1235	1000

代替原価コード番号には、すべての文字および数字が使用できます。

このような設定を行うことにより、原価コード構造をカテゴリ・コードや代替原価コード番号を基準にして表示できます。次の例は、勘定科目コードを代替順序を使用して表示した結果です。

代替原価コード番号	カテゴリ・コード 1	カテゴリ・コード 2	カテゴリ・コード 3
6003.DDD23402.1235	6003.AAA12302.1234	6003.AAA12302.1234	6003.AAA12302.1234
6001.BBB34505.1234	6001.BBB34505.1234	6003.DDD23402.1235	6003.DDD23402.1235
6001.EEE45604.1234	6002.CCC56703.1234	6001.BBB34505.1234	6002.CCC56703.1234
6003.AAA12302.1234	6003.DDD23402.1235	6001.EEE45604.1234	6001.EEE45604.1234
6002.CCC56703.1234	6001.EEE45604.1234	6002.CCC56703.1234	6001.BBB34505.1234

---

#### 注:

代替順序は表示とレポート作成にのみ使用します。原価コード構造が正しく機能するように、作業原価システムで原価コード構造を設定してください。

---

## 代替順序の手入力割当て

各勘定科目に事前定義済みの代替順序カテゴリ・コードまたは代替原価コード番号を割り当てることにより、一度作成した原価コード構造の各行に代替順序を割り当てることができます。

#### はじめる前に

- 最初に代替順序カテゴリ・コードを割り当てます。『作業原価』ガイドの「追加作業情報の入力」を参照してください。

## ▶ 代替順序を手入力で割り当てるには

---

〈作業および予算の設定〉メニュー(G5111)から、〈勘定科目マスター順序〉を選択します。

1. 〈作業マスターの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
  - 作業名
  - 会社
  - 作業タイプ
2. 作業を選択します。
3. [ロー]メニューから、[勘定科目マスター順序]を選択します。
4. 〈当初予算/勘定マスター順序〉で、次のフィールドに値を入力して検討する勘定科目を識別します。
  - 元帳日付
  - 詳細レベル
  - 補助元帳
5. 検討する勘定科目をさらに細かく識別するには、[追加選択]タブをクリックして次のフィールドに値を入力します。
  - スキップ元原価コード
  - スキップ先原価コード
  - スキップ元原価タイプ
  - スキップ先原価タイプ
6. [検索]をクリックします。
7. 勘定科目に代替順序を割り当てるには、次のうち 1 つまたは複数のフィールドに値を入力します。
  - 請求項目
  - 代替コード
  - 地域コード
  - 場所コード
8. [OK]をクリックします。

## フィールド記述

記述	用語解説
代替原価タイプ	法定勘定科目表、親会社の要求事項、サードパーティのコーディング等の要件に応じるために使用される代替主科目コード。
請求項目	カテゴリ・コード 1 は勘定科目マスター(F0901)と関連しています。これは任意勘定科目コードのマッピングと、選択した勘定科目の印刷に使用するユーザー定義コード(09/01)です。
地域コード	カテゴリ・コード 2 は勘定科目マスター(F0901)と関連しています。これは任意勘定科目コードのマッピングと、選択した勘定科目の印刷に使用するユーザー定義コード(09/02)です。
場所コード	カテゴリ・コード 3 は勘定科目マスター(F0901)と関連しています。これは任意勘定科目コードのマッピングと、選択した勘定科目の印刷に使用するユーザー定義コード(09/03)です。

## 代替順序の原価コード構造への割当て

原価コード構造の作成後、原価コード構造に代替順序を自動割当てできます。代替順序は、代替順序カテゴリ・コードならどれでも基準にすることができます。

### 参照

- 原価コード構造全体へのカテゴリ・コードの自動割当ての詳細については『作業原価』ガイドの「カテゴリ・コード情報の更新」

## 原価コード構造の設定

原価コード構造の作成後、各作業内のタスクに対して原価コード・スケジュールを設定できます。原価コード・スケジュールを使用して、各タスクを時系列的に並べることができます。作業の中には時系列的に行うことが必要なものと、同時進行が可能なものがあります。たとえば、大規模な空港建設の請負契約をしたと仮定します。この場合、空港建設がプロジェクトで、中央ターミナル・ビルの建設、自動手荷物システム、空港アクセス道路などが個別の作業となります。

中央ターミナル・ビルの作業は、次のような作業項目に分けられます。

- 敷地工事
- コンクリート工事
- 石工工事
- 溶接工事
- 耐熱および耐湿工事
- 電気工事

各作業項目が正しい順序で行われるように、中央ターミナル・ビルの作業項目スケジュールを設定する必要があります。たとえば、敷地工事は一番最初に行う必要があるため、スケジュール時にコンクリート工事より前に設定する必要があります。

作業スケジュールを作成する際、各作業項目について予定開始日付と予定完了日付を入力します。作業を進める中で実際開始日付と実際完了日付を入力し、スケジュール情報を更新します。

原価コード・スケジュールには、開始予定日付と終了予定日付が含まれます。作業を進める中で、実際の開始日付と完了日付を入力します。

勘定科目カテゴリ・コード情報の一部は、必要に応じて変更できます。これらのカテゴリ・コードは一般会計システムと関連しており、レポートの集計ロジックを設定するのに使用できます。勘定科目カテゴリ・コードは、第2 勘定科目表の勘定科目とともに使用できます。

原価コード・スケジュール情報は、勘定科目マスター(F0901)と原価コード・スケジュール・テーブル(F51901)に保存されます。

### はじめる前に

- 勘定科目カテゴリ・コードを設定します。『作業原価』ガイドの「作業原価用ユーザー定義コードの理解」を参照してください。

### ▶ 原価コード・スケジュールを設定するには

---

〈作業および予算の設定〉メニュー(G5111)から、〈原価コード・スケジュール〉を選択します。

1. 〈作業マスター〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
  - 作業名
  - 会社
  - 作業タイプ
2. 作業を選択します。
3. [ロー]メニューから、[コード・スケジュール]を選択します。

PeopleSoft®

原価コード・スケジュールの改訂

OK 検索 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

表示 追加選択

作業No. 5100 Potomac Hotel 詳細レベル 8

レコード 1 - 10 グリッドのカスタマイズ

	原価コード	原価タイプ	記述	詳細レベル	予定開始日	実績開始日	予定完了日	実績完了日	スケジュールNo.	単位	転記編集
<input checked="" type="checkbox"/>	01000		GENERAL REQUIREMENTS	3							N
<input type="checkbox"/>	02000		SITE WORK	3							N
<input type="checkbox"/>	02200		Earthwork	4	06/10/05	06/15/05	07/31/05	08/02/05		CY	B
<input checked="" type="checkbox"/>	02200	1340	Labor	8						MH	N
<input type="checkbox"/>	02200	1341	Regular	9						MH	
<input checked="" type="checkbox"/>	02200	1342	Overtime	9						MH	
<input type="checkbox"/>	02200	1343	Burden	9							
<input checked="" type="checkbox"/>	02200	1350	Materials	8						EA	
<input type="checkbox"/>	02200	1355	Equipment	8						HR	
<input checked="" type="checkbox"/>	02200	1360	Subcontracting	8						LS	

4. 〈原価コード・スケジュールの改訂〉で、次のフィールドに値を入力して検討する勘定科目を識別します。
  - 詳細レベル
5. 検討する勘定科目をさらに細かく識別するには、[追加選択]タブをクリックして次のフィールドに値を入力します。
  - スキップ元原価コード:
  - スキップ先原価コード:
  - スキップ元原価タイプ:
  - スキップ先原価タイプ:
6. [検索]をクリックします。
7. 計画情報を入力するには、各勘定科目について次のフィールドに値を入力します。
  - 予定開始日
  - 予定完了日
8. 実績情報を入力するには、実績情報を入手した時点で各勘定科目について次のフィールドに値を入力します。
  - 実績開始日
  - 実績完了日

9. 作業原価システム以外のスケジュール済みタスクと勘定科目を関連付けるには、次のフィールドに値を入力します。

- スケジュール No.

10. [OK]をクリックします。

#### フィールド記述

記述	用語解説
スケジュール No.	作業原価システム以外でスケジュールされている項目または作業を指定するコード。スケジュールされているタスクと作業原価を相互参照できます。

### 処理オプション: 原価コード・スケジュール(P51901)

#### デフォルト・タブ

##### 1. デフォルト表示する原価コードの範囲

###### 開始原価コード

表示する科目範囲の開始原価コード(補助科目)を指定します。blankにした場合、すべての勘定科目が表示されます

###### 終了原価コード

表示する科目範囲の終了原価コード(補助科目)を指定します。blankにした場合、すべての勘定科目が表示されます。

##### 2. デフォルト表示する原価タイプの範囲

###### 開始原価タイプ

表示する科目範囲の開始原価タイプ(主科目)を指定します。blankにした場合、すべての勘定科目が表示されます。

###### 終了原価タイプ

表示する科目範囲の終了原価タイプ(主科目)を指定します。blankにした場合、すべての勘定科目が表示されます。

##### 3. 表示する勘定科目 詳細レベル

印刷する勘定科目の詳細レベル(値 3 から 9 まで)の指定に使用します。blankにした場合、デフォルト値の 9 が使用されます。

## 処理タブ

---

### 1. 日付範囲を超えた場合

ブランク = エラー

1 = 警告

実際/予定開始日付が終了日付より後の日付の場合、エラー・メッセージと警告のどちらを表示するかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク エラー・メッセージを表示する

1 警告を表示する

## 作業予算

作業マスター・レコードと原価コード構造を作成した後、作業の予算情報を入力します。予算が決まった時点で、各勘定科目にその金額や数量を入力します。

予算には次の2種類があります。

- 当初予算
- 改訂予算

当初予算とは、プロジェクトや作業の開始時点で設定された金額や数量などのことです。まず、当初予算として各勘定科目に予算情報を手入力します。既存の作業や作業タイプから原価コード構造をコピーする場合は、既存の予算情報も新しい作業の当初予算としてコピーできます。

当初予算は変更が可能です。当初予算の変更は、プロジェクトや作業のどの時点でも可能です。勘定科目構造と一緒に予算情報をコピーした場合は、新しい作業用に予算情報の変更が必要な場合があります。当初予算情報を変更した場合、監査証跡は残りません。

予算の変更オーダーにより予算を変更する場合は、改訂予算を作成することになります。予算変更オーダーでは、当初予算は残したまま、作業についての予算情報が更新されます。処理オプションを設定することにより、予算改訂の際に対応する仕訳を作成することもできます。

次に、原価コード構造に入力する予算情報の例を示します。原価コード構造は勘定科目コードと勘定科目名から成り立っています。予算情報の入力には、予算数量、予算金額とともに計量単位(UM)が必要です。

勘定科目コード	記述	計量単位	予算数量	予算金額
5001.02000	敷地工事			
5001.02200	伐採と整地	CY	241	
5001.02200.1355	設備費	HR	180	4,750.00
5001.02200.1360	外注費	LS	1	215,000.00
5001.02600	下水工事			
5001.02600.1340	労務費	MH	610	15,000.00
5001.02600.1341	通常			
5001.02600.1342	割増し			
5001.02600.1343	間接費			
5001.02600.1350	資材費	LF	6,900	313,950.00
5001.02600.1355	設備費	HR	200	5,100.00
5001.02600.1360	外注費	LS	1	165,000.00



5001.02800	舗装工事			
5001.02800.1340	労務費	MH	1,200	21,600.00
5001.02800.1341	通常			
5001.02800.1342	割増し			
5001.02800.1343	間接費			
5001.02800.1350	資材費			15,000.00
5001.02800.1355	設備費	HR	800	20,000.00
5001.02800.1360	外注費			550,000.00

数量の単位としては、計量が可能なすべての単位を使用できます。計量単位(UM)は、計量方法を示すユーザー定義コードです。使用する計量単位は、ユーザー定義コードで設定しておく必要があります。

前述の例では、計量単位は予算数量の計量単位を示します。この例では、次のような計量単位をユーザー定義コードに設定しておきます。

- CY =立方ヤード
- HR =時間数
- LS =一時金、一括
- MH =労務時間
- LF =フィート

この例では、舗装工事の予算を延べ時間で 1,200 時間と見積っています。1 時間あたりの労務費が 1,800 円と分かっている場合は、その勘定科目の予算金額として 2,160,000 円を入力することもできます。

#### はじめる前に

- 計量単位をユーザー定義コードとして設定してください。『作業原価』ガイドの「作業原価用ユーザー定義コードの理解」を参照してください。

## 当初予算の設定

---

当初予算情報は、作業の各勘定科目と関連する金額や数量などからなります。勘定科目表タイプから原価コード構造をコピーした場合は、当初予算情報を手入力する必要があります。同じような作業や作業タイプから原価コード構造をコピーする場合は、既存の予算情報を新しい作業の当初予算として一緒にコピーすることができます。新しい作業の勘定科目と関連する当初予算情報は、コピーの後で必要に応じて変更してください。

勘定科目と関連する取引がない場合は、当初予算情報を削除できます。当初予算が変更されないように、予算情報をロックできます。ロックはいつでも解除できます。予算は作業（ビジネスユニット）レベルでのみロックできます。

当初予算情報は、勘定残高テーブル(F0902)の[BORG(当初予算)]フィールドに保管されます。当初予算情報を変更すると、[BORG]フィールドの金額と数量が更新されます。当初予算の変更についての監査証跡は作成されません。

〈当初予算〉プログラム(P510212)の処理オプションにアクセスするには、〈アプリケーション・バージョン(対話型)〉プログラム(P983051)を使用する必要があります。

### 参照

- 『OneWorld 基本操作』ガイドの「対話型バージョンの処理」

## 当初予算の入力と変更

予算の改訂を入力するまでは、すべての予算情報は当初予算として扱われます。

当初予算情報の入力や変更には、〈当初予算/勘定マスター順序〉フォームを使用してください。トラッキングやレポート作成のために、追加の元帳タイプを定義することもできます。

処理オプションで次の事項を設定してください。

- 表示する原価コード勘定科目とデータ入力フィールドの制限
- 指定した入力値の照合
- 指定した元帳タイプの更新
- 実行する作業バージョンの管理
- 入力された単位や単位当たりの金額を基にした当初予算金額の自動計算

### はじめる前に

- 元帳タイプ・マスター(F0025)に追加の元帳タイプを設定します。『作業原価』ガイドの「作業原価用元帳タイプの処理」を参照してください。

▶ 当初予算を入力または変更するには

〈作業および予算の設定〉メニュー(G5111)から、〈当初予算〉を選択します。

当初予算の単価情報を入力するには、〈作業および予算の設定〉メニュー(G5111)から〈単位レート予算入力〉を選択します。

1. 〈作業マスターの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。

- 作業名
- 会社
- 作業タイプ

2. 作業を選択します。

3. [ロー]メニューから、[作業予算] - [当初予算]を選択します。

原価コード	原価タイプ	記述	単位	詳細レベル	転記方法	計算方法	当初数量	当初金額	第3勘定科目No.	代替原価コード	代替原価タイプ
01000		GENERAL REQUIRE		3	N	N					
02000		SITE WORK		3	N	N					
02200		Earthwork	CY	4	B	N					
02200	1340	Labor	MH	8	N	N					
02200	1341	Regular	MH	9		D	3,000.00	50,000.00			
02200	1342	Overtime	MH	9		D	1,800.00	15,000.00			
02200	1343	Burden		9		D		10,000.00			
02200	1350	Materials	EA	8		P		750,000.00			
02200	1355	Equipment	HR	8		D	1,000.00	25,000.00			
02200	1360	Subcontracting	LS	8		B		150,000.00			

4. 〈当初予算/勘定マスター順序〉で、次のフィールドに値を入力して検討する勘定科目を識別します。

- 元帳日付
- 詳細レベル
- 補助元帳

5. 検討する勘定科目をさらに細かく識別するには、[追加選択]タブをクリックして次のフィールドに値を入力します。
  - スキップ元原価コード
  - スキップ先原価コード
  - スキップ元原価タイプ
  - スキップ先原価タイプ
6. [検索]をクリックします。
7. 勘定科目に関する当初予算情報を入力するには、次のフィールドのうち 1 つ、または両方に値を入力します。
  - 当初数量
  - 当初金額
8. 主科目と補助科目の情報を入力するには、次の任意フィールドに値を入力します。
  - 代替原価タイプ
  - 代替コード
9. 必要に応じてその他の勘定科目情報を変更し、[OK]をクリックします。
10. 作業の予算合計を計算するには、〈当初予算/勘定マスター順序〉の[フォーム]メニューから[作業予算合計]を選択します。

## フィールド記述

記述	用語解説
当初数量	<p>計算方法と処理オプションの設定によって、このフォームに表示されるフィールドが決まります。</p> <p>有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>o +/-</li></ul> <p>実績。このフィールドはどの計算方法でも表示され、実績数量(AU)元帳に対する増分変更額を示します。実績合計数量はシステムにより計算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>o 実績合計</li></ul> <p>このフィールドはどの計算方法でも表示され、実績数量(AU)元帳の合計値を示します。+/- 実績数量はシステムにより計算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>o 強制+/-数量</li></ul> <p>このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制数量(FU)元帳の増分値を示します。強制数量はシステムにより計算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>o 強制合計数量</li></ul> <p>このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制数量(FU)元帳の新しい合計値を示します。+/- 強制数量はシステムにより計算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>o 完了率</li></ul> <p>このフィールドは方法 F、G、O、P、S の場合に表示され、完了率(F%)元帳の新しい合計値を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>o 完了見積数量</li></ul> <p>このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値と[完了時見積金額]フィールド、[単位金額(レート)]フィールドの値が[実績数量]フィールドと[実績金額]フィールドに加算され、見積合計(見積最終値)が算出されます。見積最終金額(HA)元帳と見積最終数量(HU)元帳はシステムにより更新されます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>o 見積合計数量</li></ul> <p>このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値は見積最終値になります。見積最終金額(HA)元帳と見積最終数量(HU)元帳はシステムにより更新されます。</p>

<b>当初金額</b>	<p>フォームに表示するフィールドを決めるための計算方法と処理オプションの設定方法を示す値。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 強制+/-金額。このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制金額(FA)元帳の増分値を示します。強制金額はシステムにより計算されます。</li> <li>○ 強制合計金額。このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制金額(FA)元帳の新しい合計値を示します。+/-強制金額はシステムにより計算されます。</li> <li>○ 完了率。このフィールドは方法 F、G、O、P、S の場合に表示され、完了率(F%)元帳の新しい合計値を示します。</li> <li>○ 完了見積金額。このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値と[完了見積数量]フィールド、[単位レート]フィールドの値が[実績金額]フィールドと[実績数量]フィールドに加算され、見積合計(見積最終値)が算出されます。HA(最終予測金額)元帳と HU(最終予測数量)元帳が更新されます。</li> <li>○ 見積合計金額。このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値は見積最終値になります。見積最終金額(HA)元帳と見積最終数量(HU)元帳はシステムにより更新されます。</li> </ul>
-------------	---

## 予算の削除

取引が発生していない作業の予算情報は、削除することができます。取引明細テーブル(F0911)に作業と関連する情報がある場合は、勘定科目や関連する予算情報を削除することはできません。ただし、勘定科目情報が使われないように、勘定科目を使用不可にすることはできます。

### ▶ 予算を削除するには

〈作業および予算の設定〉メニュー(G5111)から、〈当初予算〉を選択します。

1. 〈作業マスターの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
  - 作業名
  - 会社
  - 作業タイプ
2. 削除する予算のある作業を選択します。
3. [ロー]メニューから、[作業予算] - [当初予算]を選択します。
4. 〈当初予算/勘定マスター順序〉で、削除する予算がある勘定科目を選択します。
5. [ロー]メニューから、[予算削除]を選択します。

選択した予算情報が削除された〈当初予算/勘定マスター順序〉が表示されます。

## 予算のロックとロック解除

誤って変更されることがないように、当初予算をロックできます。権限のあるユーザーであれば、いつでも当初予算をロックしたりロックを解除したりできます。

### ▶ 予算をロック/ロック解除するには

---

〈作業および予算の設定〉メニュー(G5111)から〈作業原価マスターの改訂〉を選択します。

1. 〈作業マスターの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
  - 作業名
  - 会社
  - 作業タイプ
2. 作業を選んで、[選択]をクリックします。
3. 〈作業マスターの改訂〉で[追加明細]タブをクリックし、次のフィールドに値を入力して予算をロック/ロック解除します。
  - 転記編集

予算のロックを解除する場合は、[転記編集]フィールドがブランクになっていることを確認してください。

### フィールド記述

記述	用語解説
転記編集	作業(ビジネスユニット)に関する取引の総勘定元帳への転記を制御するコード。有効な値は次のとおりです。 ブランク = 転記可 K = 転記可。ただし当初予算はロックされるため、予算を変更するには変更オーダーの入力が必要。 N = 転記不可。開始前の作業や終了した作業に使用します。 P = 転記不可。作業の除去は可能です。

---

## 処理オプション: 当初予算(P510121)

### 表示タブ

この処理オプションは、表示する原価コードおよび原価タイプの範囲およびセキュリティを制御します。

1. 表示する原価コード範囲を入力してください。

#### 開始原価コード

表示する最初の原価コード(補助科目)勘定を指定します。このフィールドをブランクにすると、すべて勘定科目が表示されます。

---

## 終了原価コード

表示する終了原価コード(補助科目)勘定を指定します。このフィールドを空白にすると、すべて勘定科目が表示されます。

2. 表示する原価タイプ範囲を入力してください。

## 開始原価タイプ

表示する開始原価タイプ(主科目)を指定します。

## 終了原価タイプ

表示する終了原価タイプ(主科目)を指定します。

## 3. 勘定科目の範囲制限

空白 = 原価コードおよび原価タイプの範囲外を許可する

1 = 原価コードおよび原価タイプの範囲内に制限する

セキュリティの一部として、原価コードと原価タイプを変更を制限するために使用します。有効な値は次のとおりです。

空白 = 原価コードと原価タイプの範囲外の勘定科目の使用可(デフォルト)

1 = 勘定科目範囲を原価コードおよび原価タイプ範囲に限定

## 4. 非活動勘定科目の表示

空白 = 表示しない

1 = 表示する

使用していない勘定科目を表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

空白 = 表示しない

1 = 表示する

## 5. 原価タイプの 開始文字 (1-5)

原価タイプの開始部分(6桁の主科目)に使用するデフォルトの文字(5文字まで指定可能)を指定します。残りの文字は自動的に表示されます。これにより、開始部分の文字が同じ場合に、重複を避けることができます。



## 編集タブ

勘定科目の妥当性チェックおよびセキュリティを設定します。

---

### 1. 勘定科目マスターの変更

blank = 全フィールドの編集を許可する

1 = フィールドの編集を許可しない

2 = 原価コードおよび原価タイプの編集を許可しない

勘定科目マスターで変更可能なフィールドを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = すべてのフィールドの変更可能

1 = 勘定科目マスターフィールドの変更不可

2 = 原価コードと原価タイプの変更不可

### 2. 従業員補償の変更

blank = 変更を許可する

1 = 変更を許可しない

労災保険コードフィールドを変更できるかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = 労災保険コードフィールドの変更可

1 = 労災保険コードフィールドの変更不可

### 3. 勘定科目カテゴリ・コードの編集

blank = 勘定科目カテゴリ・コードを編集する

1 = 勘定科目カテゴリ・コードを編集しない

勘定科目カテゴリコード(1-3)と各カテゴリコードに対して定義されたユーザー定義コードを照合するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = 照合する

1 = 照合しない

### 4. 科目表タイプとの照合

blank = 変更/追加時に科目表タイプと照合しない

1 = 変更/追加時に科目表タイプと照合する

特定の勘定科目表に対する変更と追加について指定します。科目表タイプ処理オプションを使用して、照合時の基準とする科目表タイプを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = 変更と追加を勘定科目表と照合しない

---

---

1 = 変更と追加を指定した勘定科目表と照合する

## 5. 科目表タイプ

照合の基準とする勘定科目表タイプを指定します。この処理オプションは、科目表タイプ照合処理オプションで入力された科目表タイプと照合して、変更や追加を管理する場合に使用します。デフォルトはブランクの勘定科目表タイプです。

## 6. 科目表の詳細レベル

勘定科目表タイプと照合する時の最下位の詳細レベルを指定します。科目表タイプ処理オプションを使用して、照合時の基準とする科目表タイプを指定します。

## 7. 原価コード範囲

### 開始原価コード

照合時の基準とする勘定科目範囲の開始原価コード(補助科目)を指定します。科目表タイプ処理オプションを使用して、照合時の基準とする科目表タイプを指定します。

### 終了原価コード

照合時の基準とする勘定科目範囲の終了原価コード(補助科目)を指定します。科目表タイプ処理オプションを使用して、照合時の基準とする科目表タイプを指定します。

## 8. 原価タイプ範囲

### 開始原価コード

照合時の基準とする勘定科目範囲の開始原価コード(主科目)を指定します。科目表タイプ処理オプションを使用して、照合時の基準とする科目表タイプを指定します。

### 終了原価コード

照合時の基準とする勘定科目範囲の終了原価コード(主科目)を指定します。科目表タイプ処理オプションを使用して、照合時の基準とする科目表タイプを指定します。

---

## 処理タブ

予算を処理するときのオプションを指定します。

---

## 1. 予算金額元帳タイプ

---

---

更新する予算金額元帳タイプを指定します。ブランクにすると、JA が更新されます(デフォルト)。  
予算数量元帳タイプは、1 文字目は予算金額元帳タイプと同じで、元帳タイプは JU となります。

## 2. 予算入力フィールドの表示

ブランク = 予算入力フィールドを表示する

1 = 予算入力フィールドを表示しない

予算入力フィールドを表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク = 表示する

1 = 表示しない

## 3. 予算更新

ブランク = 今年および将来年を更新

1 = 今年のみ更新

2 = すべての年を更新

予算の更新オプションを指定します。オプション 2 とブランクを使用する場合は、F0902 レコード  
が必要です。有効な値は次のとおりです。

ブランク = 現行年度と将来年度を更新

1 = 現行年度のみ更新

2 = すべての年度を更新

## 4. 予算単位レートフォーマット

ブランク = 予算金額レートフォーマット

1 = 予算単位レートフォーマット

予算を数量で表示するか金額で表示するかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク = 予算金額で表示

1 = 予算数量で表示

## バージョン・タブ

次の処理オプションでは、実行するアプリケーション・バージョンを指定します。

---

### 1. 予算改訂(P510171)のバージョン

使用する予算改訂(P510171)のバージョンを指定します。blankにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

### 2. 作業から作業へのコピー(P51091)のバージョン

使用する作業から作業へのコピー(P51091)のバージョンを指定します。blankにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

### 3. 単一勘定科目の改訂 (P0901)

〈単一勘定科目の改訂〉プログラム(P0901)のバージョンを指定します。このフィールドをblankにすると、ZJDE0001 が使用されます。

---

## 予算改訂の入力

---

予算改訂を入力して、予算情報を変更できます。予算改訂を使用することで、当初予算情報はそのままにして、勘定残高テーブル (F0902)の予算を更新できます。予算改訂は金額または数量で入力してください。

予算改訂の作成には、〈作業予算の改訂〉フォームを使用します。予算改訂は予算変更オーダーとも言います。レポート作成とトラッキングに使用できるように、元帳タイプを指定します。

予算の改訂は増分値または累計値として入力できます。増分値または累計値として単価を入力し、数量を掛けて予算金額を算出することもできます。金額は、数量に単価を掛けた値になります。数量と単価を入力すると、金額が自動計算されます。金額と単価を入力すると、数量が自動計算されます。

このプログラムの処理オプションにアクセスするには、〈アプリケーション・バージョン(対話型)〉プログラム(P983051)を使用する必要があります。

処理オプションで、〈作業予算の改訂〉フォームに表示されるデータ入力フィールドと、システムの処理を指定できます。処理オプションを設定して、表示する改訂予算のタイプを指定できます。たとえば、次のような情報を表示できます。

- 数量、単価、金額
- 数量と金額
- 金額
- 数量と単価

処理オプションで、次のいずれかの監査証跡オプションを設定してください。

- 各予算改訂に対して監査証跡を作成する。入力した期間の監査証跡が作成されます。
- 期間別に各勘定科目の改訂予算総額レコードを作成する。
- 予算変更についての監査証跡を作成しない。

たとえば、当初予算額が 1,500,000 円となっていたところに、改訂予算 100,000 円を 5 回に分けて入力したとします。

各改訂予算に対して監査証跡レコードを作成すると、次の処理が実行されます。

- 1,500,000 円の当初予算レコードは F0902 に保管される
- 勘定科目の改訂予算金額 2,000,000 円が更新される
- その期間に入力された各 100,000 円の改訂予算が保管される

期間別に監査証跡レコードを作成する場合は、次の処理が実行されます。

- 1,500,000 円の当初予算レコードは F0902 に保管される
- F0902 の対象期間の改訂予算金額が 2,000,000 円に更新される
- その期間の改訂予算合計 500,000 円についての監査証跡レコードが保管される

監査証跡レコードを作成しない場合は、次の処理が実行されます。

- 当初予算金額 1,500,000 円が F0902 の[当初予算]フィールドに保管される
- 勘定科目の改訂予算金額 2,000,000 円が更新される

監査証跡を作成しない場合は、勘定科目に加えられた個々の変更は記録されません。

数量と金額は、処理オプションで指定した元帳とともに F0902 に保管されます。

---

**注意:**

複数の取引明細テーブル(F0911)レコードを作成していない場合は、〈取引明細の再転記〉プログラム(R099102)は実行しないでください。エラーが発生する可能性があります。

---

### はじめる前に

- 元帳タイプ・マスター(F0025)に追加の元帳タイプを設定します。『作業原価』ガイドの「作業原価用元帳タイプの処理」を参照してください。ユーザー定義コード(09/LT)に追加の元帳タイプを設定します。『作業原価』ガイドの「作業原価用ユーザー定義コードの理解」を参照してください。

---

### ▶ 予算改訂を入力するには

〈作業および予算の設定〉メニュー(G5111)から、〈作業予算の改訂〉を選択します。

別の元帳と関連する予算改訂を作成する場合は、〈作業および予算の設定〉メニュー(G5111)から〈既存数量〉または〈その他の管理情報〉を選択します。

1. 〈作業マスターの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
  - 作業名
  - 作業タイプ
  - 会社
2. 作業を選択します。
3. [ロー]メニューから、[作業予算] - [予算の改訂]を選択します。

PeopleSoft®

作業予算の改訂

OK 検索 キャンセル フォーム ロー ツール

表示 追加選択

元帳タイプ JA JU 日付/期間 03/03/31 B1

作業 No. 5100 Potomac Hotel 詳細レベル 9

作業転記編集 補助元帳 \*

レコード 1 - 10 グリッドのカスタマイズ

	原価コード	原価タイプ	記述	M C	現行数量	現行金額	数量	金額	累計数量	累計金額	詳細	P E
<input checked="" type="radio"/>	5510	WIP Offset-Contract Bill	N								6	
<input type="radio"/>	5520	Percent of Cost Adjustr	D								6	
<input type="radio"/>	6335	WIP Offset-Material Co	N								8	
<input type="radio"/>	6380	WIP Offset-Recognized	N								8	
<input type="radio"/>	6998	WIP Offset-Job Loss Pr	N								8	
<input type="radio"/>	8115	Regular Pay	D								7	
<input type="radio"/>	8116	Overtime Pay	D								7	
<input type="radio"/>	8118	Miscellaneous Pay	D								7	
<input type="radio"/>	8135	FICA/Medicare	D								7	
<input type="radio"/>	8136	401K Contribution	D								7	

4. 〈作業予算の改訂〉で、次のフィールドに値を入力して検討する勘定科目を識別します。

- 日付/期間
- 詳細レベル
- 補助元帳
- 元帳タイプ

[日付/期間]フィールドをブランクにした場合は、作業のある現在の期間と日付が使われます。会計期間を入力すると、自動的に元帳日付が入力されます。

5. 検討する勘定科目をさらに細かく識別するには、[追加選択]タブをクリックします。

6. 必要に応じて次の任意フィールドに値を入力します。

- スキップ元原価コード:
- スキップ先原価コード:
- スキップ元原価タイプ:
- スキップ先原価タイプ:

7. 次の日付範囲のうち 1 つを選択し、[検索]をクリックします。

- 期間累計
- 開始日以降
- 年累計

[現行金額]カラムに改訂予算残高が表示されます。この数字は、行項目ごとの当初予算額に予算改訂額を加算/減算した値です。

8. 勘定科目に予算改訂情報を入力するには、次のフィールドのいずれかに値を入力します。

- +/-数量
- +/-単位原価
- +/-金額
- 累計数量
- 累計金額

〈作業予算の改訂〉フォームの表示フィールドは、処理オプションの設定によって変わります。

9. 必要に応じて次の勘定科目情報を変更し、[OK]をクリックします。

- 参照 2
- 説明

10. 作業の予算合計を計算するには、[フォーム]メニューから[作業予算合計]を選択します。

#### 参照

- 取引明細の再転記については『一般会計』ガイドの「取引明細の再転記」



## フィールド記述

記述	用語解説
+/-数量	<p>計算方法と処理オプションの設定によって、このフォームに表示されるフィールドが決まります。</p> <p>有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ +/-           <p>実績。このフィールドはどの計算方法でも表示され、実績数量(AU)元帳に対する増分変更額を示します。実績合計数量はシステムにより計算されます。</p> </li> <li>○ 実績合計           <p>このフィールドはどの計算方法でも表示され、実績数量(AU)元帳の合計値を示します。+/- 実績数量はシステムにより計算されます。</p> </li> <li>○ 強制+/-数量           <p>このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制数量(FU)元帳の増分値を示します。強制数量はシステムにより計算されます。</p> </li> <li>○ 強制合計数量           <p>このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制数量(FU)元帳の新しい合計値を示します。+/- 強制数量はシステムにより計算されます。</p> </li> <li>○ 完了率           <p>このフィールドは方法 F、G、O、P、S の場合に表示され、完了率(F%)元帳の新しい合計値を示します。</p> </li> <li>○ 完了見積数量           <p>このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値と[完了時見積金額]フィールド、[単位金額(レート)]フィールドの値が[実績数量]フィールドと[実績金額]フィールドに加算され、見積合計(見積最終値)が算出されます。見積最終金額(HA)元帳と見積最終数量(HU)元帳はシステムにより更新されます。</p> </li> <li>○ 見積合計数量           <p>このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値は見積最終値になります。見積最終金額(HA)元帳と見積最終数量(HU)元帳はシステムにより更新されます。</p> </li> </ul>
+/-単位原価	<p>仕入先から購入した時点の 1 つの品目の単位原価。運賃、税金、割引、また品目入荷時に記録した実際単位原価を修正する可能性のあるその他の要素は除外します。</p>

<b>+/-金額</b>	<p>フォームに表示するフィールドを決めるための計算方法と処理オプションの設定方法を示す値。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 強制+/-金額。このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制金額(FA)元帳の増分値を示します。強制金額はシステムにより計算されます。</li> <li>○ 強制合計金額。このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制金額(FA)元帳の新しい合計値を示します。+/-強制金額はシステムにより計算されます。</li> <li>○ 完了率。このフィールドは方法 F、G、O、P、S の場合に表示され、完了率(F%)元帳の新しい合計値を示します。</li> <li>○ 完了見積金額。このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値と[完了見積数量]フィールド、[単位レート]フィールドの値が[実績金額]フィールドと[実績数量]フィールドに加算され、見積合計(見積最終値)が算出されます。HA(最終予測金額)元帳と HU(最終予測数量)元帳が更新されます。</li> <li>○ 見積合計金額。このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値は見積最終値になります。見積最終金額(HA)元帳と見積最終数量(HU)元帳はシステムにより更新されます。</li> </ul>
<b>累計金額</b>	<p>フォームに表示するフィールドを決めるための計算方法と処理オプションの設定方法を示す値。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 強制+/-金額。このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制金額(FA)元帳の増分値を示します。強制金額はシステムにより計算されます。</li> <li>○ 強制合計金額。このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制金額(FA)元帳の新しい合計値を示します。+/-強制金額はシステムにより計算されます。</li> <li>○ 完了率。このフィールドは方法 F、G、O、P、S の場合に表示され、完了率(F%)元帳の新しい合計値を示します。</li> <li>○ 完了見積金額。このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値と[完了見積数量]フィールド、[単位レート]フィールドの値が[実績金額]フィールドと[実績数量]フィールドに加算され、見積合計(見積最終値)が算出されます。HA(最終予測金額)元帳と HU(最終予測数量)元帳が更新されます。</li> <li>○ 見積合計金額。このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値は見積最終値になります。見積最終金額(HA)元帳と見積最終数量(HU)元帳はシステムにより更新されます。</li> </ul>

<b>累計数量</b>	<p>計算方法と処理オプションの設定によって、このフォームに表示されるフィールドが決まります。</p> <p>有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ +/- 実績。このフィールドはどの計算方法でも表示され、実績数量(AU)元帳に対する増分変更額を示します。実績合計数量はシステムにより計算されます。</li> <li>○ 実績合計 このフィールドはどの計算方法でも表示され、実績数量(AU)元帳の合計値を示します。+/- 実績数量はシステムにより計算されます。</li> <li>○ 強制+/-数量 このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制数量(FU)元帳の増分値を示します。強制数量はシステムにより計算されます。</li> <li>○ 強制合計数量 このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制数量(FU)元帳の新しい合計値を示します。+/- 強制数量はシステムにより計算されます。</li> <li>○ 完了率 このフィールドは方法 F、G、O、P、S の場合に表示され、完了率(F%)元帳の新しい合計値を示します。</li> <li>○ 完了見積数量 このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値と[完了時見積金額]フィールド、[単位金額(レート)]フィールドの値が[実績数量]フィールドと[実績金額]フィールドに加算され、見積合計(見積最終値)が算出されます。見積最終金額(HA)元帳と見積最終数量(HU)元帳はシステムにより更新されます。</li> <li>○ 見積合計数量 このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値は見積最終値になります。見積最終金額(HA)元帳と見積最終数量(HU)元帳はシステムにより更新されます。</li> </ul>
<b>参照 2</b>	<p>資産、仕入先番号、伝票番号などの特定の取引の監査証跡を提供する番号。</p>

## 処理オプション: 作業予算の改訂(P510171)

### 表示タブ

#### 1. デフォルト表示する原価コード範囲

原価コードの範囲開始

表示する科目範囲の開始原価コード(補助科目)を指定します。ブランクにした場合、すべての勘定科目が表示されます

原価コードの範囲終了

---

表示する科目範囲の終了原価コード(補助科目)を指定します。blankにした場合、すべての勘定科目が表示されます。

## 2. デフォルト表示する原価タイプ範囲

### 原価タイプの範囲開始

表示する科目範囲の開始原価タイプ(主科目)を指定します。blankにした場合、すべての勘定科目が表示されます。

### 原価タイプの範囲終了

表示する科目範囲の終了原価タイプ(主科目)を指定します。blankにした場合、すべての勘定科目が表示されます。

## 3. 勘定範囲を原価コードと原価タイプの範囲内に制限する

blank = 制限しない

1 = 制限する

セキュリティの一部として、原価コードと原価タイプを変更を制限するために使用します。有効な値は次のとおりです。

blank = 原価コードと原価タイプの範囲外の勘定科目の使用可(デフォルト)

1 = 勘定科目範囲を原価コードおよび原価タイプ範囲に限定

## 4. 計算方法

表示する計算方法を指定します。この処理オプションをblankにすると、すべての方法が表示されます。

## 5. 詳細レベル

表示する詳細レベルのうち最も詳細な詳細レベル(3 から 9)の値を指定します。blankにした場合、デフォルト値の 9 が使用されます。

## 6. 予算カラムに表示する項目

---

- 
- ブランク = 数量と金額  
1 = 数量、単価、金額  
2 = 数量と単価  
3 = 金額のみ

表示する予算のフォーマットを指定します。有効な値は次のとおりです。

- ブランク 数量と金額カラムだけ表示する（デフォルト）
- 1 予算数量レート形式で表示する
  - 2 数量カラムと単位原価カラムだけを表示する
  - 3 金額カラムだけを表示する

#### 7. 表示する予算変更フィールド

- ブランク = すべての入力フィールド
- 1 = 変更+/-フィールドのみ
  - 2 = 変更累計フィールドのみ

表示する予算変更額フィールドを指定します。有効な値は次のとおりです。

- ブランク すべての入力フィールドを表示する
- 1 +/- (増減) フィールドを表示する
  - 2 合計 (累計) フィールドを表示する

---

## 処理タブ

---

#### 1. 予算金額元帳タイプ

更新する金額元帳タイプを指定します。ブランクの場合、元帳タイプ JA が更新されます。予算数量元帳タイプは、金額元帳タイプによって自動的に決まります。たとえば、金額元帳タイプ JA に対応する予算数量元帳タイプはJUとなります。

#### 2. 元帳日付のチェック

- ブランク = 行う  
1 = 行わない

---

作業原価システムで元帳日付のチェックを行うかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

- blank チェックを行う  
1 チェックを行わない

### 3. 伝票タイプ

作成した仕訳入力に割り当てる伝票タイプを指定します。この処理オプションをblankにすると、伝票タイプ JE が割り当てられます。

### 4. 予算監査証跡の記録

- blank = 期間別に記録する  
1 = 変更ごとに記録する  
2 = 記録しない

作業原価予算の監査証跡の作成方法を指定します。有効な値は次のとおりです。

- blank 期間ごとに作成する  
1 変更ごとに作成する  
2 作成しない

### 5. 参照番号

作成された監査証跡レコードの更新する参照番号を指定します。

### 6. 変更仕訳の摘要

監査証跡レコードに書き込む摘要を指定します。blankにした場合、Job Cost JE が使用されます。

---

---

## 作業原価照会

作業中の進捗状況に関わらず、作業やプロジェクトについての情報を参照できます。次のような場合に作業情報を参照できます。

- 予測予算と実際原価とを比較して、潜在的な問題を早め明確化する
- 外注契約の進行状況や資材のコミットメント状況をモニタリングする
- 予算の過少見積りなどのエラーを発見する
- プロジェクトや作業に関連するその他の問題を見つけたりトラッキングする

問題が見つかったら、必要に応じてプロジェクトや作業の情報を修正します。

作業原価システムでは、原価コード構造の各レベルで情報を検討して、必要に応じてスケジュールと予算を変更することができます。外注についての勘定科目の原価も検討できます。実際原価がコミットメント金額よりも大きい場合は、実際原価に合わせてコミットメント金額を修正できます。

---

## 作業状況照会の処理

作業の進行中にいつでも、作業についての情報を参照できます。プロジェクトに関連する情報を表示すると、プロジェクトに属する各作業の情報も併せて検討できます。

プロジェクトまたは作業を検討するには、その作業番号を知る必要があります。まず〈作業マスターの処理〉フォームでプロジェクトや作業を検索し、そこから〈作業状況の照会〉を表示して作業状況を検討します。作業名、会社、または作業タイプ別にプロジェクトや作業を検索できます。

次の作業関連情報を検討してください。

- 実績金額および数量
- 予算および引当情報
- 最終予測金額および数量
- 完了率情報
- 予実差異

各勘定科目の元帳や補助元帳の情報を検討できます。また、同じ作業内の勘定科目(複数可)情報の進捗状況を検討して、入力することができます。

## ユーザー定義カラム別作業情報の検討

特定の作業関連情報を検討する場合は、カラムを設定して必要な情報が表示されるよう定義できます。ビジネス・ニーズに合わせてユーザー定義カラムを変更できます。次のタスクには、〈作業状況照会-ユーザー定義カラム〉プログラム(P512000)を使用してください。

- 必要な勘定残高が計算されるようにユーザー定義カラムを設定する
- 検討する原価コード、原価タイプ、カテゴリ・コードの範囲を選択する
- 原価コード、カテゴリ・コード、代替原価コードを使って原価コード構造を並べ替える

- 次のいずれかと関連する複数作業についての勘定科目情報と勘定残高を検討する
  - 単一のプロジェクト
  - 単一の会社
  - 単一のオーナー住所
  - 単一の契約タイプ
  - 単一の状況
  - 単一の作業タイプ

6つのアクティビティ・オプションの中から、表示する情報タイプを選択します。たとえば、詳細レベル5の予測超過金額と関連する情報だけを表示することが可能です。

詳細レベル3から8を使用している場合、処理オプションを使用して残高ゼロの見出し勘定科目を表示したり非表示にしたりできます。残高ゼロの見出し勘定科目を非表示にすると処理が高速化され、システム・パフォーマンスが向上します。

## カラム・バージョン

〈作業状況照会-ユーザー定義カラム〉プログラム(P512000)を使用して、重要情報のカラムが表示されるように設定し、その設定を保存できます。次のリストは、使用可能なオプションについての概要です。

- 開始/終了日付範囲を使用してデータをフィルタする
- 指定した日付から終了日付までの取引を表示する
- 次のいずれかの組合せの場合に未転記の取引を表示する
  - 終了日付前日数カラム、およびブランクの転記コード
  - 期間終了/開始日付なし、およびブランクの元帳転記コード
- ビジネスカテゴリ・コードを使用してプロジェクトをフィルタする
- 勘定科目カテゴリ・コードを使用して作業をフィルタする
- カラム・バージョンに表示される内容を印刷する
- カラム・バージョンで設定する作業マスターおよび勘定科目マスター・カテゴリ・コードを保存する

カラム・バージョンを作成および編集するのに、次のオプションが使用できます。

- 新しいカラム・バージョンを保存するには、〈作業状況照会〉で[フォーム]メニューから[カラムの保存]を選択します。カラム・バージョンは、名前を付けて保存できます。名前を付けない場合は、ユーザーIDで保存されます。名前をブランクにすることはできません。カラム・バージョンはユーザー時変更(F98950)に保管されます。
- 既存バージョンのカラムを変更するには、〈作業状況照会〉の[カラム]タブでカラムを変更し、[フォーム]メニューから[カラムの保存]を選択します。バージョン名は変更する必要はありません。
- カラム・バージョンが変更されるのを防ぐために、処理オプションを使ってカラム・バージョンをロックすることができます。



- カラム・バージョンを削除するには、〈作業原価セットアップ〉メニュー(G5141)で〈カラム・バージョン - ユーザー一時変更〉を選択します。〈ユーザー一時変更の処理〉で[アプリケーション]フィールドにプログラム ID(たとえば P512000)、[タイプ]フィールドに"JC"を入力して[検索]をクリックします。削除するバージョンを選択して、[削除]をクリックします。

---

**注:**

カラム・バージョンをコピーするのに〈ユーザー一時変更の改訂〉プログラム(P98950)のコピー機能を使用しないでください。〈ユーザー一時変更の改訂〉プログラムを使用してコピーしたカラム・バージョンは、〈作業状況照会 - ユーザー定義カラム〉プログラムで認識されません。

---

**▶ ユーザー定義カラム別に作業情報を検討するには**

---

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈作業原価照会〉メニュー(G5112)から、〈作業原価照会-ユーザー定義カラム〉を選択します。

〈コスト照会およびレポート〉メニュー(G1312)から、〈作業状況の照会〉を選択します。

1. 〈作業状況照会〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 作業
- カラム・バージョン

勘定科目およびカラムは、選択したバージョンの設定に従って表示されます。

2. 勘定科目情報を検討して必要な変更を加えます。
3. 勘定科目についての特定の情報を検討するには、勘定科目を選択して、[ロー]メニューから次のいずれかを選択します。
  - 取引明細情報を検討するには、[一般会計] - [取引明細]
  - 勘定残高情報を検討するには、[一般会計] - [勘定残高]
  - 当初予算情報を検討するには、[予算] - [当初予算]
  - 予算改訂情報を検討するには、[予算] - [予算の改訂]
  - 勘定科目についての進捗状況を検討するには、[進捗状況の入力] - [勘定科目]
  - 作業についての進捗状況を検討するには、[進捗状況の入力] - [作業]
  - 引当情報を検討するには、[コミットメント照会]
  - 勘定科目の変更要求情報を検討するには、[勘定科目照会]
  - 改訂予算を元帳タイプ別に表示するには、[元帳別予算]
  - 添付を検討するには、[添付]

4. その他の作業情報を検討するには、[フォーム]メニューから次のオプションのいずれかを選択します。
  - 外注情報を検討するには、[外注契約]
  - 変更要求情報を検討するには、[変更管理]
  - 作業オーダーのスケジュール情報を検討するには、[作業オーダー] - [作業オーダー・スケジュール・ワークベンチ]
  - 作業オーダーの原価情報を検討するには、[作業オーダー] - [作業別作業オーダー原価]
  - 親作業オーダー情報を検討するには、[作業オーダー] - [親作業オーダーの照会]
  - 作業に関連する従業員の労務費を入力するには、[給与/人事] - [従業員別時間入力]
  - 利益認識(計算)情報を検討するには、[利益認識]
5. カラムを新しいカラム・バージョンとして保存するには、[カラムの保存]
6. <作業状況の照会>に戻るには[取消]をクリックします。

#### 参照

- 『作業原価』ガイドの「作業状況照会の設定」

#### フィールド記述

記述	用語解説
開始日付/期間	<p>この入力フィールドは、現行会計年度内の期間または特定の日付を指定します。</p> <p>選択した会社の現行会計年度の期間を指定するには、1 から 14 までの数字の 1 つを入力してください。たとえば、10 を入力すると、現行年の期間 10 を意味します。</p> <p>日付を指定するには、会社の会計日付パターンを使用してください。たとえば、99/01/01 と入力すると、会計日付 1999 年 1 月 1 日を意味します。</p>
開始日以降	<p>フォームに表示される合計のタイプを指定する値。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>C 累計(年累計)。</li> <li>I 開始日以降累計(作業累計)。このコードを使用する場合、予測原価には予算、引当、実績原価がすべて含まれます。</li> <li>P 期間(会計期間累計)。</li> </ul>
オーナー住所 No.	請求書と売掛金取引の転記先住所番号
契約タイプ	契約タイプを識別するユーザー定義コード(51/CT)

順序コード	表示される勘定科目の順序を指定するコード。有効な値は次のとおりです。
	<p>ブランク 作業、原価コード、原価タイプ(ビジネスユニット、補助科目、主科目)</p> <p>A 代替原価コード</p> <p>C 原価コード、原価タイプ(補助科目、主科目)</p> <p>O 作業、原価タイプ、原価コード(ビジネスユニット、主科目、補助科目)</p> <p>T 原価タイプ、原価コード(主科目、補助科目)</p> <p>1 勘定科目カテゴリ・コード 01</p> <p>2 勘定科目カテゴリ・コード 02</p> <p>3 勘定科目カテゴリ・コード 03</p>
	<p>順序コード・フィールドでは、カテゴリ・コード、代替原価コード、プロジェクト順序の関連フィールドにコードの範囲を入力できるかどうかも指定します。</p>
活動オプション	<p>特定の条件を満たす勘定科目情報が表示されるようにします。このフィールドは、前または現在の処理状況を基準にして、勘定科目マスター(F0901)と勘定残高(F0902)の情報を含めるか、除外するかを決定します。条件の記述は、勘定科目情報の左上に表示されます。</p>
	<p>注：フォームには、条件を満たす明細勘定科目に関連する見出し勘定科目が表示されます。関連する見出し勘定科目は、フィールドの条件を満たさなくても表示されます。</p>
開始日以降累積日数	<p>[終了日付/期間]フィールドの日付までの日数を示します。このフィールドは、会計期間の終了日と週の終わりが一致しないため調整が必要な場合に使用します。このフィールドの値は実績金額と実績数量(元帳タイプ AA と AU)にのみ影響します。</p>
	<p>注：[終了日前日数]フィールドは、コード 10、30、50 を含む計算式をもつカラムにだけ影響します。その他のフィールドには影響しません。</p>
転記済み	<p>各取引の総勘定元帳への転記状況を示すコード。有効なコードは次のとおりです。</p> <p>ブランク = 未転記</p> <p>D = 転記済み</p> <p>P = 転記済みまたは転記中。取引のタイプによってコード P の意味は異なります。取引明細テーブル(F0911)では転記済みであることを示します。それ以外の取引の場合は転記時にエラーが発生して転記されなかったことを示します。</p> <p>M = モデル仕訳</p>
カラム・バージョン	<p>バージョンとは、ユーザーが定義した仕様の組合せです。この仕様により、アプリケーションやレポートの実行方法が制御されます。一連のユーザー定義の処理オプション値、データ選択オプション、およびデータ順序オプションをグループ化して保存するのに使用します。対話形式のバージョンは、アプリケーション(通常はメニュー選択)と関連付けられています。バッチ・バージョンは、バッチ・ジョブやレポートに関連するバージョンです。バッチ処理を実行するには、バージョンを選択する必要があります。</p>

## 処理オプション: 作業状況照会-ユーザー定義カラム(P512000)

### デフォルト・タブ

これらの処理オプションを使用して、勘定科目順序の入力、デフォルト原価コード範囲、指定した勘定科目範囲外の入力の制限、〈作業状況の照会カラム・バージョン〉の変更や追加の定義、許可、制限などを設定します。

---

#### 1. 勘定科目順序

ブランク = ジョブ、原価コード、原価タイプ

A = 代替原価コード、原価タイプ

C = 原価コード、原価タイプ、ジョブ

O = ジョブ、原価タイプ、原価コード

T = 原価タイプ、原価コード、ジョブ

1 = 勘定科目カテゴリコード 1

2 = 勘定科目カテゴリコード 2

3 = 勘定科目カテゴリ 3

勘定科目の順序表示を指定します。順序コードを入力して、表示する勘定科目の順序を指定します。勘定科目順序コードは、コードの入力に、カテゴリコード、代替原価コード、プロジェクト順序を使用できるかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 作業、原価コード、原価タイプ(デフォルト)

A 代替原価コード、原価タイプ

C 原価コード、原価タイプ、作業

O 作業、原価タイプ、原価コード

T 原価タイプ、原価コード、作業

1 勘定科目カテゴリコード 1

2 勘定科目カテゴリコード 2

3 勘定科目カテゴリコード 3

#### 2. デフォルト原価コード範囲

##### 開始原価コード

最初に表示する勘定科目原価コード(補助)勘定の指定に使用します。すべての勘定科目が表示されるようにするには、このフィールドをブランクにしてください。

##### 終了原価コード

表示する勘定科目範囲の終了原価コード(補助)勘定の指定に使用

---

---

します。すべての勘定科目が表示されるようにするには、このフィールドをブランクにしてください。

### 3. デフォルト原価タイプ範囲

#### 開始原価タイプ

表示する勘定科目範囲の開始原価タイプ(主科目)の指定に使用します。

#### 終了原価タイプ

表示する勘定科目範囲の終了原価タイプ(主科目)の指定に使用します。

### 4. デフォルト会社番号

### 5. 原価コードと原価タイプ範囲以外の勘定科目の変更を許可する

ブランク = 許可する

1 = 許可しない

セキュリティの一部として、原価コードと原価タイプを変更を制限するために使用します。

有効な値は次の通りです。

ブランク 原価コードと原価タイプの範囲外の勘定科目範囲の使用可  
(デフォルト値)

1 勘定科目範囲を原価コードおよび原価タイプ範囲に限定

### 6. カラム・バージョンの指定

カラムのバージョンを入力します。フィールドの横にあるビジュアルアシストをクリックすると、有効な値が表示されます。

ブランクにすると、指定されたユーザーカラムから値が取得され、〈ユーザー一時変更〉プログラム(P98950)の指定ユーザーID に保存されます。新しいユーザーID のバージョンは、そのユーザーID でしか使用できず、ビジュアルアシストでは表示されません。

---

〈ユーザー一時変更〉プログラムでは、カラムバージョンの取得にコピー機能を使用しないでください。〈作業状況の照会〉プログラムでは、〈ユーザー一時変更〉からコピーされたカラムバージョンは認識されません。

注:〈作業状況の照会〉プログラム(P512000)のカラムバージョンを照会するには、〈ユーザー一時変更〉プログラム(P98950)で、アプリケーションが〈作業状況の照会〉と同じものを照会し、[タイプ]フィールドに“JC”と入力します。

## 7. カラム・バージョンへの変更/追加

ブランク = 禁止する

1 = 許可する

カラムバージョンの変更と追加を制限するために使用します。

有効な値は次の通りです。

ブランク カラムバージョンの変更と追加を制限(デフォルト値)

1 カラムバージョンの変更と追加可能

## 8. 見出し勘定科目の表示

ブランク = 表示する

1 = 表示しない

金額がゼロの見出し勘定科目を表示するかどうかを指定します。これは、詳細レベル 3～8 の勘定科目に適用されます。有効な値は次のとおりです。

ブランク 見出し勘定科目を表示する(デフォルト)

1 見出し勘定科目を表示しない

2 残高ゼロの勘定科目は表示しない

## 9. 残高ゼロの勘定科目の表示

ブランク = 表示する

1 = 表示しない

ゼロ勘定を表示するかどうかを指定します。この処理オプションをブランクにすると、ゼロ勘定は表示されません。有効な値は次のとおりです。

---

---

ブランク 表示しない

1 表示する

---

## 処理タブ

---

### 1. 取引明細照会タイプ

元帳タイプ 1

ブランク = AA

[ロー]メニューから〈取引明細照会〉プログラム(P09200)へアクセスする場合、元帳タイプ 1 の値を指定します。ブランクの場合、元帳タイプ AA が使用されます。

元帳タイプ 2

[ロー]メニューから〈取引明細照会〉プログラム(P09200)へアクセスした場合、元帳タイプ 2 の値を指定します。ブランクにした場合、元帳タイプ 2 もブランクになります。元帳タイプ 2 は、元帳タイプ 1 の値として AA、CA、XA、YA、または ZA が設定されている場合のみ有効です。元帳タイプ 2 の有効値は、AA、CA、XA、YQ、または ZA です。

---

## バージョン・エグジット・タブ

この処理オプションでは、〈勘定科目進捗状況入力〉、〈作業進捗状況入力〉、〈当初予算〉、〈予算改訂〉、〈スケジュール・ワークベンチ〉、〈選択ボタン〉についてのバージョン・エグジットを入力します。入力するバージョンによって、アプリケーションに使用するデータ選択の組合せと処理オプションが識別されます。各処理オプションのバージョンが存在する必要があります。J.D. Edwards バージョンは XJDE または ZJDE で始まります。

---

### 1. 勘定進捗の入力(P510211)

ブランク = ZJDE0001

関連エグジットに使用する〈勘定進捗状況の入力〉バージョンを入力、識別します。作業状況の照会-進捗状況の入力フォーム(P510211)はこの処理オプションと連結しています。このアプリケーションにアクセスするには、作業を選択してローをクリックし、[ロー]メニューから[勘定科目]を選択してください。デフォルトのバージョンは ZJDE0001 です。

### 2. 作業進捗の入力(P510212)

---

---

ブランク = ZJDE0001

関連エグジットを選択したときに実行する〈作業進捗状況の入力〉プログラムのバージョンを指定します。〈作業状況の照会〉の〈作業別進捗状況〉フォーム(P510212)はこの処理オプションと関連しています。このアプリケーションにアクセスするには、作業を選択してローをクリックし、[ロー]メニューから[作業]を選択してください。デフォルトのバージョンは ZJDE0001 です。

### 3. 当初予算(P510121)

ブランク = ZJDE0001

関連エグジットに使用する当初の予算バージョンを入力、識別します。作業状況の照会-当初予算／勘定マスター順序フォーム(P510121)はこの処理オプションと連結しています。このアプリケーションにアクセスするには、作業を選択してローをクリックし、[ロー]メニューから[当初予算]を選択してください。デフォルトのバージョンは ZJDE0001 です。

### 4. 予算の改訂(P510171)

ブランク = ZJDE0001

関連エグジットに使用する〈予算改訂〉バージョンを入力、識別します。作業状況の照会-作業予算の改訂フォーム (P510171)はこの処理オプションと連結しています。このアプリケーションにアクセスするには、作業を選択し、ローをクリックして、[ロー]メニューから[予算の改訂]を選択してください。デフォルトのバージョンは ZJDE0001 です。

### 5. スケジューリング・ワークベンチ(P48201)

ブランク = ZJDE0001

関連エグジットに使用する〈作業オーダー・スケジュール・ワークベンチ〉のバージョンを入力、識別します。作業状況の照会-ワークベンチの処理フォーム (P48201)はこの処理オプションと連結しています。このアプリケーションにアクセスするには、作業を選択してローをクリックし、[ロー]メニューから[WO SCH(作業オーダー・スケジュール)ワークベンチ]を選択してください。デフォルトのバージョンは ZJDE0001 です。

### 6. 取引明細照会バージョン(P09200)

ブランク = ZJDE0001

---



---

ロー・エグジットから〈取引明細照会〉プログラム(P09200)へアクセスする際に使用するバージョンを指定します。デフォルトのバージョンは ZJDE0001 です。

## 7. [選択]ボタン・エグジット

blank = 勘定進捗の入力

1 = 作業進捗の入力

2 = 取引明細の照会

ローを選択して[選択]ボタンをクリックするか、ローをダブルクリックした時にアクセスするアプリケーションを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 勘定別進捗状況の入力（デフォルト）

1 作業別進捗状況の入力

2 取引明細照会

---

## 基本作業情報の検討

作業の実際原価、予算原価、引当済み原価、最終予測原価を検討できます。〈作業状況照会の処理-基本〉フォームを使用して、作業用に検討する勘定科目情報を設定します。処理オプションを使用して、デフォルトの原価コードや原価タイプ範囲の変更を不可にしたり、デフォルトのエグジットを一時変更することができます。また、〈作業状況照会-基本〉フォームに次のうち指定したフィールドが表示されるように処理オプションで設定することもできます。

- 原価コードと原価タイプ
- 勘定科目名
- 計量単位
- 詳細レベル
- 計算方法
- 改訂予算金額(〈元帳タイプ・マスターの設定〉プログラム(P0025)で改訂予算として記録されたすべての金額元帳)
- 改訂予算数量(〈元帳タイプ・マスターの設定〉プログラムで改訂予算として記録されたすべての数量元帳)
- 改訂予算金額(JA 元帳)
- 改訂予算数量(JU 元帳)
- 実績金額(AA 元帳)
- 実績数量(AU 元帳)
- 当初予算金額(JA 元帳- BORG フィールドのみ)

- 当初予算数量(JU 元帳- BORG フィールドのみ)
- コミットメント合計金額(PA 元帳 + AA 元帳)
- 引当合計数量(PU 元帳 + AU 元帳)
- コミットメント金額(PA 元帳)
- 未処理引当数量(PU 元帳)
- 最終予測金額(HA 元帳)
- 最終予測数量(HU 元帳)
- 当初予算金額(すべての金額元帳- BORG フィールドのみ -〈元帳タイプ・マスターの設定〉プログラムで改訂予算として記録されたもの)
- 当初予算数量(すべての数量元帳- BORG フィールドのみ -〈元帳タイプ・マスターの設定〉プログラムで改訂予算として記録されたもの)
- 完了率(F%元帳。値がゼロでない場合は、AA 元帳÷HA 元帳、または AU 元帳÷HU 元帳)
- 予算差異金額(JA 元帳- AA 元帳)
- 予算差異数量(JU 元帳- AU 元帳)
- 最終予測差異金額(HA 元帳- JA 元帳)
- 最終予測差異数量(HU 元帳- JU 元帳)

〈作業状況照会-基本〉フォームに表示するフィールド数が少ないほど、より速く作業情報を取り込むことができます。

#### ▶ 基本作業情報を検討するには

---

〈作業原価照会〉メニュー(G5112)から、〈作業状況照会-基本〉を選択します。

1. 〈作業状況照会 - 基本〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 作業 No.
- 期間/日付
- 詳細レベル
- 補助元帳

元帳日付には期間の最終日付を入力してください。期間を入力すると、デフォルト値として元帳日付が入力されます。

2. 〈作業状況照会 - 基本〉に表示する勘定科目をさらに細かく識別するには、[追加選択]タブをクリックして次のフィールドに値を入力します。

- 開始原価コード:
- 終了原価コード:
- 開始原価タイプ:
- 終了原価タイプ:

3. [終了日付]領域で、次のオプションのうち1つを選んで、合計の表示方法を指定します。
  - 開始日以降
  - 累計
  - 期間
4. [検索]をクリックします。
5. 勘定科目情報を検討します。
6. 勘定科目についての特定の情報を検討するには、勘定科目を選択して、[ロー]メニューから次のいずれかを選択します。
  - 取引明細情報を検討するには、[取引明細]
  - 勘定残高を検討するには、[補助元帳別勘定残高]
  - 進捗状況を検討するには、[進捗状況の入力] - [勘定科目]
  - 添付を検討するには、[添付]
7. <作業状況照会>でその他の作業情報を検討するには、[フォーム]メニューから次のオプションのいずれかを選択します。
  - 作業の進捗状況を検討するには、[進捗状況の入力] - [作業]
  - オーダー情報を検討するには、[契約/購買オーダー] - [外注契約]
  - コミットメント情報を検討するには、[契約/購買オーダー] - [コミットメント照会]
  - 変更要求情報を検討するには、[変更管理]
  - 作業オーダーのスケジュール情報を検討するには、[作業オーダー] - [作業オーダー・スケジュール・ワークベンチ]
  - 作業オーダーの原価情報を検討するには、[作業オーダー] - [作業別作業オーダー原価]
  - 親作業オーダー情報を検討するには、[作業オーダー] - [親作業オーダーの照会]
  - 作業に関連する従業員の労務費を入力するには、[給与/人事] - [従業員別時間入力]
  - 利益認識(計算)情報を検討するには、[利益認識]
  - 当初予算情報を検討するには、[予算] - [当初予算]
  - 予算改訂情報を検討するには、[予算] - [予算の改訂]

## 処理オプション:<作業状況照会 - 基本>プログラム(P512100)

### 表示タブ

#### 1. 原価コードのデフォルト範囲

##### 開始原価コード

表示する科目範囲の開始原価コード(補助科目)を指定します。空白にした場合、すべての勘定科目が表示されます

---

#### 終了原価コード

表示する科目範囲の終了原価コード(補助科目)を指定します。blankにした場合、すべての勘定科目が表示されます。

#### 2. 原価タイプのデフォルト範囲

##### 開始原価タイプ

表示する科目範囲の開始原価タイプ(主科目)を指定します。blankにした場合、すべての勘定科目が表示されます。

##### 終了原価タイプ

表示する科目範囲の終了原価タイプ(主科目)を指定します。blankにした場合、すべての勘定科目が表示されます。

#### 3. 原価コードと原価タイプの範囲外の勘定科目の変更許可

blank = 許可する

1 = 禁止する

セキュリティの一部として、原価コードと原価タイプを変更を制限するために使用します。有効な値は次のとおりです。

blank = 原価コードと原価タイプの範囲外の勘定科目の使用可(デフォルト)

1 = 勘定科目範囲を原価コードおよび原価タイプ範囲に限定

#### 4. AA 元帳

blank = 表示しない

1 = 表示する

実績金額元帳タイプを表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 実績金額を表示しない(デフォルト)

1 実績金額を表示する

---

## 5. AU 元帳

ブランク = 表示しない

1 = 表示する

実績数量元帳タイプを表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 実績数量を表示しない(デフォルト)

1 実績数量を表示する

## 6. JA 元帳 – 当初予算金額(BORG)の表示

ブランク = 表示しない

1 = 表示する

当初予算金額元帳タイプを表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 当初予算金額を表示しない

1 当初予算金額を表示する

## 7. JA 元帳 – 改訂予算金額の表示

ブランク = 表示しない

1 = 表示する

改訂予算金額元帳タイプを表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 改訂予算金額を表示しない(デフォルト)

1 改訂予算金額を表示する

## 8. JA 元帳 – 当初予算金額(BORG)の表示

ブランク = 表示しない

1 = 表示する

当初予算数量元帳タイプを表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

---

---

ブランク 当初予算数量を表示しない(デフォルト)

1 当初予算数量を表示する

#### 9. JU 元帳 - 改訂予算数量

ブランク = 表示しない

1 = 表示する

改訂予算数量元帳タイプを表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 改訂予算数量を表示しない(デフォルト)

1 改訂予算数量を表示する

#### 10. コミットメント合計(PA 元帳 + AA 元帳)の表示

ブランク = 表示しない

1 = 表示する

コミット金額(PA 元帳)と実際金額(AA 元帳)を表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク コミット金額合計を表示しない(デフォルト)

1 コミット金額合計を表示する

#### 11. PA 元帳 - コミットメント未消化額の表示

ブランク = 表示しない

1 = 表示する

コミット金額(PA 元帳)を表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 未処理のコミット金額を表示しない(デフォルト)

1 未処理のコミット金額合計を表示する

#### 12. コミットメント数量合計(PU 元帳 + AU 元帳)

ブランク = 表示しない

---

---

1 = 表示する

コミット数量(PU 元帳)と実績数量(AU 元帳)の合計を表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク コミット数量合計を表示しない(デフォルト)

1 コミット数量合計を表示する

### 13. PU 元帳 - コミットメント未消化数量

ブランク = 表示しない

1 = 表示する

コミット数量(PA 元帳)を表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 未処理のコミット数量を表示しない(デフォルト)

1 未処理のコミット数量を表示する

### 14. HA 元帳 - 最終予測金額の表示

ブランク = 表示しない

1 = 表示する

最終予測金額(HA 元帳)を表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 表示しない(デフォルト)

1 表示する

### 15. HU 元帳 - 最終予測数量の表示

ブランク = 表示しない

1 = 表示する

最終予測数量(HU 元帳)を表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 表示しない(デフォルト)

1 表示する

---

---

16. 改訂予算金額元帳 - 当初予算金額(BORG)の表示

ブランク = 表示しない

1 = 表示する

当初予算金額元帳タイプを表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 当初予算金額を表示しない

1 当初予算金額を表示する

17. 改訂予算金額元帳 - 改訂予算金額の表示

ブランク = 表示しない

1 = 表示する

改訂予算金額元帳タイプを表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 改訂予算金額を表示しない(デフォルト)

1 改訂予算金額を表示する

18. 改訂予算数量元帳 - 当初予算数量の表示

ブランク = 表示しない

1 = 表示する

当初予算数量元帳タイプを表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 当初予算数量を表示しない(デフォルト)

1 当初予算数量を表示する

19. 改訂予算数量元帳 - 改訂予算数量の表示

ブランク = 表示しない

1 = 表示する

改訂予算数量元帳タイプを表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

---



---

ブランク 改訂予算数量を表示しない(デフォルト)

1 改訂予算数量を表示する

## 20. F%元帳 - 完了率の表示

ブランク = 表示しない

1 = 表示する

作業完了率(F%元帳)を表示するかどうかを指定します。これがゼロの場合は、実績金額(AA)を最終予測金額(HA 元帳)で割った値が表示されます。有効な値は次のとおりです。

ブランク 作業完了率を表示しない(デフォルト)

1 作業完了率を表示する

## 21. 予算差異金額(JA 元帳-AA 元帳)の表示

ブランク = 表示しない

1 = 表示する

作業予算金額(JA 元帳)と実績金額(AA 元帳)の差異を表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 予算差異金額を表示しない(デフォルト)

1 予算差異金額を表示する

## 22. 予算差異数量(JU 元帳-AU 元帳)の表示

ブランク = 表示しない

1 = 表示する

作業予算数量(JU 元帳)と実績数量(AU 元帳)の差異を表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 予算差異数量を表示しない(デフォルト)

1 予算差異数量を表示する

## 23. 最終予測金額差異(HA 元帳-JA 元帳)の表示

---

blank = 表示しない

1 = 表示する

最終予測金額(HA 元帳)と作業予算金額(JA 元帳)の差額を表示するかどうかを指定します。  
有効な値は次のとおりです。

blank 表示しない(デフォルト)

1 表示する

#### 24. 最終予測数量差異(HU 元帳-JU 元帳)の表示

blank = 表示しない

1 = 表示する

最終予測数量(HU 元帳)と作業予算数量(JA 元帳)の差異を表示するかどうかを指定します。  
有効な値は次のとおりです。

blank 最終予測数量の差異を表示しない(デフォルト)

1 最終予測数量の差異を表示する

---

### バージョン・タブ

---

#### 1. 作業進捗の入力(P510212)のバージョン

〈進捗の入力〉プログラム(P510212)のバージョンを指定します。この処理オプションをblankにすると、ZJDE0001 が使用されます。

#### 2. 予算の改訂(P510171)のバージョン

〈作業予算の改訂〉プログラム(P510171)のバージョンを指定します。 blankにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

#### 3. 勘定進捗の入力(P510211)のバージョン

〈勘定科目進捗状況入力〉プログラム(P510211)のバージョンを指定します。この処理オプションをblankにすると、ZJDE0001 が使用されます。

---

---

#### 4. [選択]ボタン・エグジット

blank = 勘定進捗の入力

1 = 作業進捗の入力

2 = 勘定元帳の照会

ローを選択して[選択]ボタンをクリックするか、ローをダブルクリックした時にアクセスするアプリケーションを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 勘定別進捗状況の入力（デフォルト）

1 作業別進捗状況の入力

2 取引明細照会

---

## 買掛管理情報の検討

〈作業別買掛金照会〉プログラム(P04220)は、買掛金取引実績を検討するのに使用します。買掛金取引実績は、作業別、仕入先別に、または両方を一度に検討できます。また、買掛金取引実績情報を集計と明細のどちらの形式で表示するかをオプションで選択できます。

この情報は、買掛金元帳テーブル(F0411)に保管されています。

### ▶ 伝票情報を検討するには

〈作業原価照会〉メニュー(G5112)から、〈作業別買掛金照会〉を選択します。

1. 〈作業別買掛金照会の処理〉で、次のフィールドに値を入力します。

- ビジネスユニット
- 仕入先
- 通貨コード

2. 集計伝票情報を検討するには、次のオプションをクリックします。

- 集計

このオプションを選択しない場合は、詳しい伝票情報がフォームに表示されます。

3. [検索]をクリックします。

4. 伝票情報を検討します。

5. 伝票の支払実績を検討するには、伝票を選択します。

6. [ロー]メニューから、[支払照会]を選択します。

7. 〈支払項目別支払履歴〉で支払実績を検討します。

## 参照

『買掛管理』ガイドの次のトピックを参照してください。

- 〈支払項目別支払履歴〉フォームの使用方法については、「未転記支払金額の改訂」
- 伝票取引については、「支払処理」

## フィールド記述

記述	用語解説
仕入先	住所録レコードを識別するユーザー定義の名前または番号。詳細住所や税 ID など、住所番号(AN8)以外の値を入力した場合、住所録固定情報で定義した記号を前につける必要があります。詳細住所番号でレコードを検索すると、住所番号フィールドに住所番号が表示されます。 たとえば、住所番号 1001(J.D. Edwards)の詳細住所番号を JDEDWARDS と設定して、住所録固定情報で詳細住所番号を区別する記号をアスタリスクと定義した場合、このフィールドに"*JDEDWARDS"と入力して検索すると住所番号 1001 が表示されます。
通貨コード	取引通貨を識別するコード。
集計	伝票の表示形式を指定するオプション。有効な値は次のとおりです。  オン 集計形式(1 件の伝票に複数の支払項目がある場合、1 行に集計)  オフ 明細形式(すべての支払項目を表示)

---

## 作業原価レポート

作業原価システムでは、作業原価情報の検討、管理に役立つ各種のレポートが提供されています。

管理者向けの集計レポートを使用すると、次の情報が参照できます。

- 選択した作業に対する日付基準の勘定残高情報作業別または原価コード別に検討したり、作業時間や資材消費数量などの情報を検討したりできます。
- 作業に関連する請負契約の明細
- 一定期間での特定の勘定科目に関連する日付基準情報の分析

システム内のすべての作業や、設定した勘定科目表タイプを表示するレポートを作成できます。また、特定の作業に関する勘定科目を表示するレポートも作成できます。

---

## 作業原価集計レポートの印刷

作業原価集計レポートを使用すると、次の情報が参照できます。

- 選択した作業に対する日付基準の勘定残高情報作業別または原価コード別に検討したり、資材消費数量などの情報を検討したりできます。
- 一定期間での特定の勘定科目に関連する日付基準情報の分析

情報は、原価コード別や作業別、または作業時間あるいは資材消費などの明細情報別で参照できます。

## マスター作業原価レポートの印刷

〈作業原価レポート〉メニュー(G5113)から、〈マスター作業原価レポート〉を選択します。

特定作業の指定した日付時点での勘定残高を検討するには、〈マスター作業原価〉レポート(R51412)を使用します。処理オプションを使って、レポートに表示される情報を指定します。〈マスター作業原価〉レポートには次のような明細情報が含まれます。

- 改訂予算
- 実績
- 実績(累計値)
- 完成率(見積変更時)
- 完了率
- 最終予測原価
- 未完成工事高(残存単価/率)
- 予測差異
- 原価コード
- 原価タイプ
- 計算方法

## 処理オプション: マスター作業原価レポート(R51412)

### 編集タブ

この処理オプションでは、基準日の入力や特定の補助元帳の情報をレポートに表示するかどうかの指定、レポートの補助元帳タイプの指定などができます。

---

#### 1. 基準日

レポートの基準となる日付を指定します。この日付がブランクの場合は、作業の会社の現行財務報告日付を基準としてレポートが作成されます。

#### 2. 補助元帳

レポート作成の対象となる補助元帳を指定します。補助元帳を入力する場合は、補助元帳タイプも指定してください。ワイルドカード(\*)を使用すると、すべての補助元帳を指定できます。

#### 3. 補助元帳タイプ

レポートに使用する特定の補助元帳タイプの指定に使用します。補助元帳タイプを入力する場合は、補助元帳も指定してください。補助元帳タイプは、ユーザー定義コード(00/ST)で設定されている必要があります。

#### 4. デフォルト表示する原価コード範囲

原価コードの範囲開始

最初に表示する勘定科目原価コード(補助)勘定の指定に使用します。すべての勘定科目が表示されるようにするには、このフィールドをブランクにしてください。

原価コードの範囲終了

表示する勘定科目範囲の終了原価コード(補助)勘定の指定に使用します。すべての勘定科目が表示されるようにするには、このフィールドをブランクにしてください。

#### 5. デフォルト表示する原価タイプ範囲

原価タイプの範囲開始

---

---

表示する勘定科目範囲の開始原価タイプ(主科目)の指定に使用します。

原価タイプの範囲終了

表示する勘定科目範囲の終了原価タイプ(主科目)の指定に使用します。

---

## 印刷タブ

この処理オプションでは、勘定科目詳細レベル、作業現場住所情報、作業ごとの改ページ、原価コードと原価タイプの印刷、金額ゼロを印刷するかどうか、作業数量の印刷仕様などを入力することができます。

---

### 1. 勘定科目詳細レベル

印刷する勘定科目の詳細レベル(値 3 から 9 まで)の指定に使用します。ブランクにした場合、デフォルト値の 9 が使用されます。

### 2. 作業現場住所情報

ブランク = 印刷しない

1 = 印刷する

レポート見出しに作業現場住所と人名録情報を印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 印刷しない

1 印刷する

### 3. 作業ごとに改ページする

ブランク = 改ページしない

1 = 改ページする

レポートを印刷する際に、各作業で改ページするかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

---

---

ブランク 作業別に改ページしない

1 作業別に改ページする

#### 4. 原価コードと原価タイプの印刷

ブランク = 印刷しない

1 = 印刷する

原価コードと原価タイプを印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 印刷しない

1 印刷する

#### 5. 残高ゼロの勘定科目の印刷

ブランク = 印刷する

1 = 印刷しない

レポートに金額がゼロの明細勘定を印刷するかどうかを指定します。これは、詳細レベル別に決められます。有効な値は次のとおりです。

ブランク 金額がゼロの勘定科目を印刷する

1 金額がゼロの勘定科目を印刷しない

#### 6. 単位数の印刷

ブランク = 印刷しない

1 = 印刷する

改訂予算数量、実績数量、引当済み数量を印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク レポートに数量を印刷しない

1 レポートに数量を印刷する



## バージョン・タブ

この処理オプションでは、〈単位原価分析〉レポートと〈原価タイプ集計〉レポートのバージョンを入力することができます。

---

### 1. 〈単位原価分析〉レポートのバージョン (R514121)

印刷する単価分析レポート(R514121)のバージョンを指定します。  
ブランクの場合は、レポートは実行されません。

### 2. 〈原価タイプ集計〉レポートのバージョン (R514122)

印刷する原価タイプ集計レポート(R514122)のバージョンを指定します。ブランクの場合は、レポートは実行されません。

---

## 原価タイプ別集計レポートの印刷

〈作業原価レポート〉メニュー(G5113)から、〈原価タイプ別集計〉を選択します。

〈原価タイプ別集計〉レポート(R514122)により、特定の作業に対する日付基準の勘定残高情報が原価タイプ別に提供されます。レポートには次のような情報が含まれます。

- 改訂予算
- 実績
- 実績(累計値)
- 工事完成率
- 最終予測
- 未完成工事高(残存単価/率)
- 予測差異
- 原価タイプ

### 処理オプション: 原価タイプ別集計(R514122)

## デフォルト・タブ

---

### 1. 基準日

レポートの基準となる日付を指定します。この日付がブランクの場合は、作業の会社の現行財務報告日付を基準としてレポートが作成されます。

---

---

## 2. 補助元帳

レポート作成の対象となる補助元帳を指定します。補助元帳を入力する場合は、補助元帳タイプも指定してください。ワイルドカード(\*)を使用すると、すべての補助元帳を指定できます。

## 3. 補助元帳タイプ

レポートに使用する特定の補助元帳タイプの指定に使用します。補助元帳タイプを入力する場合は、補助元帳も指定してください。補助元帳タイプは、ユーザー定義コード(00/ST)で設定されている必要があります。

---

## 印刷タブ

---

### 1. 作業現場住所と人名録情報の印刷

ブランク = 印刷する

1 = 印刷しない

レポート見出しに作業現場住所と人名録情報を印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 印刷しない

1 印刷する

### 2. 残高ゼロの勘定科目の印刷

ブランク = 印刷する

1 = 印刷しない

レポートに金額がゼロの明細勘定を印刷するかどうかを指定します。これは、詳細レベル別に決められます。有効な値は次のとおりです。

ブランク 金額がゼロの勘定科目を印刷する

1 金額がゼロの勘定科目を印刷しない

## 単価分析レポートの印刷

〈作業原価レポート〉メニュー(G5113)から、〈単位原価分析〉を選択します。

〈単価分析〉レポート(R514121)により、特定の作業に対する日付基準の勘定残高情報が提供されます。レポートには次のような情報が含まれます。

- 改訂予算
- 実績
- 実績(累計値)
- 単位
- 予算数量
- 改訂予算
- 予算金額/数量(予定消費数量)
- 実績数量
- 実績金額
- 実績金額/数量(実績消費数量)
- 数量/金額差異
- 完了率
- 最終予測
- 予測差異
- 計算方法
- 原価コード
- 原価タイプ

### 処理オプション: 単位原価分析(R514121)

#### デフォルト・タブ

---

##### 1. 基準日

レポートの基準となる日付を指定します。この日付がブランクの場合は、作業の会社の現行財務報告日付を基準としてレポートが作成されます。

##### 2. 補助元帳

レポート作成の対象となる補助元帳を指定します。補助元帳を入力する場合は、補助元帳タイプも指定してください。ワイルドカード(\*)を使用すると、すべての補助元帳を指定できます。

---

---

### 3. 補助元帳タイプ

レポートに使用する特定の補助元帳タイプを指定します。補助元帳タイプを入力する場合は、補助元帳も指定してください。補助元帳タイプは、ユーザー定義コード(00/ST)で設定されている必要があります。

### 4. 勘定詳細レベル

印刷する勘定科目の詳細レベル(値 3 から 9 まで)の指定に使用します。ブランクにした場合、デフォルト値の 9 が使用されます。

---

## 印刷タブ

---

### 1. 作業ごとに改ページする

ブランク = 改ページしない

1 = 改ページする

レポートを印刷する際に、各作業で改ページするかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 作業別に改ページしない

1 作業別に改ページする

### 2. レポート見出しに作業現場住所と人名録情報を印刷する

ブランク = 印刷しない

1 = 印刷する

レポート見出しに作業現場住所と人名録情報を印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 印刷しない

1 印刷する

### 3. [原価コード]と[原価タイプ]の印刷

ブランク = 印刷しない

1 = 印刷する

---

---

原価コードと原価タイプを印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 印刷しない  
1 印刷する

#### 4. 残高ゼロの勘定科目の印刷

ブランク = 印刷する  
1 = 印刷しない

レポートに金額がゼロの明細勘定を印刷するかどうかを指定します。これは、詳細レベル別に決められます。有効な値は次のとおりです。

ブランク 金額がゼロの勘定科目を印刷する  
1 金額がゼロの勘定科目を印刷しない

---

### 処理タブ

---

#### 1. 計算に使用する数量

ブランク = 原価タイプ数量  
1 = 原価コード見出し数量

単位原価計算に入力する単位を指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 原価タイプ  
1 原価コード見出し

---

### バージョン・タブ

---

#### 1. 原価タイプの集計(R514122)のバージョン

印刷する原価タイプ集計レポート(R514122)のバージョンを指定します。ブランクの場合は、レポートは実行されません。

---

## 作業状況照会情報レポートの印刷

〈作業原価レポート〉メニュー(G5113)から、〈作業状況照会の印刷〉を選択します。

〈作業状況照会の印刷〉プログラム(R512000P)は、作業状況照会ユーザー定義カラム情報を検討するのに使用します。このレポートを印刷するには、カラム定義を設定して、それらのカラムをカラム・バージョンとして保存する必要があります。このレポートは、〈作業状況照会-ユーザー定義カラム〉フォームにある最初の 8 つのカラム情報のみから構成されます。このレポートを印刷するには、〈作業原価レポート〉メニュー(G5113)から選択するか、または〈作業状況照会-ユーザー定義カラム〉フォームから直接実行します。

〈作業状況照会-ユーザー定義カラム〉フォームから印刷する場合、最初の 8 つのカラムが印刷されます。メニューからレポートを作成すると、プロンプトが表示され、バージョン番号を入力するよう求められます。

### 処理オプション:〈作業状況照会の印刷〉プログラム(P512000P)

#### 表示タブ

---

##### 1. カラム・バージョン

注:カラム・バージョンは必須です。レポートに印刷されるのは、最初の 8 カラムまでです。

カラムのバージョンを入力します。フィールドの横にあるビジュアルアシストをクリックすると、有効な値が表示されます。

空白にすると、指定されたユーザーカラムから値が取得され、〈ユーザー一時変更〉プログラム(P98950)の指定ユーザーID に保存されます。新しいユーザーID のバージョンは、そのユーザーID でしか使用できず、ビジュアルアシストでは表示されません。

〈ユーザー一時変更〉プログラムでは、カラムバージョンの取得にコピー機能を使用しないでください。〈作業状況の照会〉プログラムでは、〈ユーザー一時変更〉からコピーされたカラムバージョンは認識されません。

注:〈作業状況の照会〉プログラム(P512000)のカラムバージョンを照会するには、〈ユーザー一時変更〉プログラム(P98950)で、アプリケーションが〈作業状況の照会〉と同じものを照会し、[タイプ]フィールドに"JC"と入力します。

##### 2. 日付範囲

開始期間/日付

[開始期間/日付]フィールドの日付を指定します。このオプションを空白にした場合は、[勘定残高タイプ]フィールドの値がデフォルトとして使用されます。

注:ここに値を指定する場合は、[勘定残高タイプ]フィールドには何も指定しないでください。両方を指定すると、レポートがエラーになります。

---

## 終了期間／日付

終了期間／日付を指定します。これは必須フィールドです。ブランクにすると、エラーになります。

### 3. 勘定残高の種類

1 = 開始日以降累計(デフォルト)

2 = 年累計

3 = 期間

レポートに表示する勘定残高タイプを指定します。有効な値は次のとおりです。

1 開始日以降累計(デフォルト)

2 年累計

3 期間

注:[開始期間/日付]に値を指定済みの場合は、[勘定残高タイプ]フィールドには何も指定しないでください。両方を指定すると、レポートがエラーになります。

### 4. 勘定科目詳細レベル

印刷する勘定科目の詳細レベル(LOD 値 3 から 9 まで)を指定します。ブランクおよび 3 から 9 まで以外の値を入力した場合は、値に 9 が使用されます。

### 5. 勘定科目コードの順序

ブランク = 作業、原価コード、原価タイプ

A = 代替原価コード、原価タイプ

C = 原価コード、原価タイプ、作業

O = 作業、原価タイプ、原価コード

T = 原価タイプ、原価コード、作業

1 = 勘定カテゴリ・コード 1

2 = 勘定カテゴリ・コード 2

3 = 勘定カテゴリ・コード 3

勘定科目の順序表示を指定します。順序コードを入力して、表示する勘定科目の順序を指定します。勘定科目順序コードは、コードの入力に、カテゴリコード、代替原価コード、プロジェクト順序を使用できるかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 作業、原価コード、原価タイプ(デフォルト)

---

A	代替原価コード、原価タイプ
C	原価コード、原価タイプ、作業
O	作業、原価タイプ、原価コード
T	原価タイプ、原価コード、作業
1	勘定科目カテゴリコード 1
2	勘定科目カテゴリコード 2
3	勘定科目カテゴリコード 3

---

## 期間別傾向分析レポートの印刷

〈作業原価レポート〉メニュー(G5113)から、〈期間別傾向分析〉を選択します。

期間を指定して、選択した勘定科目の作業原価情報を、〈期間別傾向分析〉レポート(R51430)で検討できます。

このレポートでは、基準日と日数を指定できます。週次のレポートのデフォルト期間日数は 7 日です。プログラムにより基準日は期間日数の終了日と見なされ、期間日数を使ってそれ以前の日付が計算されます。

処理オプションを使って、期間情報の比較用に異なる比率を計算させることができます。

期間別傾向分析レポートには、次のような明細情報が含まれます。

- 予算金額/数量(予定消費数量)
- 指定期間内の実績金額および数量
- 期間平均
- 作業金額(累計)および数量(累計)
- 工事完成率/工事完成率(見積変更時)
- 未完成工事高(残存金額/数量)
- 最終予測金額および数量
- 予測差異(金額および数量)

## 処理オプション: 期間別傾向分析(R51430)

### デフォルト・タブ

---

#### 1. 基準日

レポートの基準となる日付を指定します。この日付がblankの場合は、作業の会社の現行財務報告日付を基準としてレポートが作成されます。

---



---

## 2. 開始日付

間隔日数を指定します。このフィールドを空白にすると、7 日間の間隔日数が使用されます。

---

## 印刷タブ

---

### 1. 明細金額と見出し数量の比率

空白 = 印刷しない

1 = 印刷する

レポートに明細金額と見出し数量の割合を表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

空白 表示しない(デフォルト)

1 表示する

### 2. 明細数量と見出し数量の比率

空白 = 印刷しない

1 = 印刷する

レポートに明細数量と見出し数量の割合を表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

空白 表示しない(デフォルト)

1 表示する

### 3. 見出し数量と明細数量の比率

空白 = 印刷しない

1 = 印刷する

レポートに見出し数量と明細数量の割合を表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

空白 表示しない(デフォルト)

1 表示する

---

---

#### 4. 期間実際パーセント

ブランク = 印刷しない

1 = 印刷する

レポートに期間実際パーセント( $(\text{間隔実際金額} / \text{最終予測金額}) * 100$ )を表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 表示しない(デフォルト)

1 表示する

#### 5. 作業以降実際パーセント

ブランク = 印刷しない

1 = 印刷する

レポートに作業累計実際パーセント( $(\text{作業日以降間隔累計額} / \text{最終予測金額}) * 100$ )を表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 表示しない(デフォルト)

1 表示する

#### 6. 現行期間の損益

ブランク = 印刷しない

1 = 印刷する

レポートに現行期間の損益額増減を含めるかどうかを指定します。この値は、間隔内での最終予測金額(HA 元帳)の変更額により表示されます。有効な値は次のとおりです。

ブランク 含めない(デフォルト)

1 含める

#### 7. 残高ゼロの場合に比率を印刷する

ブランク = 印刷する

1 = 印刷しない

---

レポート上の金額または数量がゼロの勘定科目の割合金額を表示するかどうかを指定します。  
有効な値は次のとおりです。

ブランク 表示する(デフォルト)

1 表示しない

---

## 作業および勘定科目設定レポートの印刷

このレポートを作成すると、次の項目すべての情報を表示できます。

- システム内の作業
- 特定の作業に関連する勘定科目
- 設定した勘定科目表タイプ

### 作業マスター・リスト・レポートの印刷

〈作業原価レポート〉メニュー(G5113)から、〈作業マスター・リスト〉を選択します。

〈作業マスター・リスト〉レポート(R51006P)を使用すると、システムにあるすべての作業を検討できます。このレポートでは、集計バージョンまたは明細バージョンのいずれかを選択できます。いずれもビジネスユニット・マスター(F0006)のデータが使用されます。

### 作業勘定マスター・リスト・レポートの印刷

〈作業原価レポート〉メニュー(G5113)から、〈作業勘定マスター・リスト〉を選択します。

〈作業勘定マスター・リスト〉レポート(R510901)を使用すると、特定の作業に関するすべての勘定科目を検討できます。このレポートの5つのバージョンは、勘定科目マスター(F0901)の情報を再編成して表示します。

### 科目表タイプ・レポートの印刷

〈作業原価レポート〉メニュー(G5113)から、〈科目表タイプ・レポート〉を選択します。

設定されているすべての勘定科目表タイプを検討するには、〈勘定科目表タイプ・レポート〉(R51091P)を使用します。

## 明細レポートの印刷

---

明細レポートを印刷すると、次の情報を検討できます。

- 特定の作業に関する集計および明細情報
- 勘定科目別の取引明細情報

## 取引分析レポートの印刷

〈作業原価レポート〉メニュー(G5113)から、〈取引分析〉を選択します。

〈取引分析〉レポート(R51425B)を使用すると、勘定科目別の取引明細情報を検討できます。このレポートには、次のような情報が含まれます。

- 作業番号
- 記述
- 原価コード
- 原価タイプ
- 元帳日付
- 伝票番号およびタイプ
- 仕入先番号
- 請求書番号
- 購買オーダー番号
- 金額および数量
- 仕訳入力明細

## 処理オプション:取引分析(R51425B)

### デフォルト・タブ

---

#### 1. 元帳タイプ

レポートに表示する元帳タイプを指定します。ブランクにした場合、すべての元帳タイプが表示されます。

#### 2. 日付範囲の指定

##### 開始日付

レポートに品目を含める開始日付を指定します。このフィールドをブランクにすると、システム日付までのすべての取引が含まれます。

---

---

## 終了日付

レポートに品目を含める終了日付を指定します。このフィールドをblankにすると、システム日付までのすべての取引が含まれます。

## 3. 伝票タイプ

レポートに表示する伝票タイプを指定します。blankにした場合、すべての伝票タイプが表示されます。

## 4. 補助元帳

レポート作成の対象となる補助元帳を指定します。補助元帳を入力する場合は、補助元帳タイプも指定してください。ワイルドカード(\*)を使用すると、すべての補助元帳を指定できます。

## 5. 補助元帳タイプ

レポートに使用する特定の補助元帳タイプを指定します。補助元帳タイプを入力する場合は、補助元帳も指定してください。補助元帳タイプは、ユーザー定義コード(00/ST)で設定されている必要があります。

---

## 印刷タブ

---

### 1. 補助元帳/補助元帳タイプの印刷

blank = 印刷しない

1 = 印刷する

レポートに補助元帳および補助元帳タイプ・カラムを表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 表示しない(デフォルト)

1 表示する

### 2. 印刷する取引タイプ

blank = すべて

1 = 転記済みの取引のみ

---

---

2 = 未転記の取引のみ

レポートに含める取引タイプを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク すべての取引を含める(デフォルト)

1 転記済みの取引のみ含める

2 未転記の取引のみ含める

### 3. 繰越残高の印刷

ブランク = 印刷する

1 = 印刷しない

繰越残高を印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 印刷しない(デフォルト)

1 印刷する

### 4. 仕入先

ブランク = 印刷しない

1 = 印刷する

レポートに仕入先名を含めるかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 含めない

1 含める

---

## 作業別の詳細レポートの印刷

〈作業原価レポート〉メニュー(G5113)から、〈作業別の詳細〉を選択します。

〈作業別詳細〉レポート(R51420)を使用すると、作業の明細情報を検討できます。レポートには次のような情報が含まれます。

- 原価コード
- 原価タイプ
- 伝票タイプ
- 伝票 No.
- 元帳日付
- 予算数量
- 予算金額
- 年累計数量
- 年累計金額

### 処理オプション: 作業別詳細(R51420)

#### デフォルト・タブ

この処理オプションでは、基準日の入力や特定の補助元帳の情報をレポートに表示するかどうかの指定、レポートの補助元帳タイプの指定などができます。

---

#### 1. 基準日

作業明細をレポートする日付を指定します。このフィールドをブランクにすると、会社の現行財務報告日付に基づいて基準日が指定されます。

#### 2. 補助元帳

レポート作成の対象となる補助元帳を指定します。補助元帳を入力する場合は、補助元帳タイプも指定してください。ワイルドカード(\*)を使用すると、すべての補助元帳を指定できます。

#### 3. 補助元帳タイプ

レポートに使用する特定の補助元帳タイプを指定します。補助元帳タイプを入力する場合は、補助元帳も指定してください。補助元帳タイプは、ユーザー定義コード(00/ST)で設定されている必要があります。

---

## 印刷タブ

この処理オプションでは、作業の原価コード、原価タイプ、補助元帳タイプ、原価コードと原価タイプの集計、金額明細および勘定明細、コミットメントおよび住所情報などを設定できます。

---

### 1. 原価コードのデフォルト範囲

#### 開始原価コード

レポートに表示する勘定科目範囲の開始補助科目コードを指定します。開始原価コードには、終了原価コードと同じかそれより小さいコードを使用してください。開始原価コードを入力する場合は終了原価コードも入力してください。

#### 終了原価タイプ

レポートに表示する勘定科目範囲の終了補助科目コードを指定します。終了原価コードには、開始原価コードと同じかそれより大きいコードを使用してください。終了原価コードを入力する場合は開始原価コードも入力してください。

### 2. 原価タイプのデフォルト範囲

#### 原価タイプの範囲開始

レポートに表示する勘定科目範囲の開始主科目コードを指定します。開始原価タイプには、終了原価タイプと同じかそれより小さいコードを使用してください。開始原価タイプを入力する場合は、終了原価タイプも入力してください。

#### 原価タイプの範囲終了

レポートに表示する勘定科目範囲の終了主科目コードを指定します。終了原価タイプには、開始原価タイプと同じかそれより大きいコードを使用してください。終了原価タイプを入力する場合は、開始原価タイプも入力してください。

### 3. 補助元帳/補助元帳タイプの印刷

ブランク = 印刷しない

1 = 印刷する

レポートに補助元帳および補助元帳タイプ・カラムを表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 表示しない(デフォルト)

1 表示する

---



---

#### 4. 原価タイプ/原価コード集計の印刷

blank = 印刷しない

1 = 印刷する

各作業の集計を、原価タイプおよび原価コード別に表示するかどうかを指定します。各作業の原価タイプ別および原価コード別集計は、個別ページの明細情報の前に表示されます。有効な値は次のとおりです。

blank 表示しない(デフォルト)

1 表示する

#### 5. 明細金額の印刷

blank = 期首残高なしで現行期間

1 = 現行期間および期首残高

2 = 開始日以降累計

3 = 現行期間のみ

4 = 年累計および期首残高

レポートに表示する金額と数量の詳細レベルを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 年累計金額と数量を表示し、期首残高は表示しない

1 現行期間の金額と数量および期首残高と数量を表示する

2 開始日以降累計金額と数量を表示する

3 現行期間の金額と数量のみ印刷する

4 年累計金額、数量と期首残高を印刷する

#### 6. 勘定科目詳細の印刷

blank = すべて

1 = 予算金額のある勘定科目のみ

2 = 現行期間の実績金額のある勘定科目のみ

3 = 現行期間の実績金額があり、予算金額のない勘定科目のみ

レポートに表示する勘定科目の詳細を指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = すべての勘定科目を表示する(デフォルト)

1 = 予算金額/数量のない勘定科目のみ表示する

2 = 現行期間の実績金額/数量のある勘定科目のみを表示する

3 = 現行期間の実績金額/数量はあるが、予算金額/数量のない勘定科目のみを表示する

---

## 7. コミットメント/契約の印刷

blank = 印刷しない

1 = 印刷する

レポートにコミットメントまたは契約単位数と金額のカラムを印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = 印刷しない(デフォルト)

1 = 印刷する

## 8. コミットメント行に仕入先名を印刷する

blank = 印刷しない

1 = 印刷する

変更オーダー・コミットメント明細行に仕入先名を含めるかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = 含めない(デフォルト)

1 = 含める

## 9. 作業住所および人名録の印刷

blank = 印刷しない

1 = 印刷する

各作業の見出しに作業現場住所と人名録情報を印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = 含めない(デフォルト)

1 = 含める

## 10. 印刷する取引の種類

blank = 転記済み取引のみ

1 = 転記済み取引と未転記取引の両方

レポートに未転記の取引と転記済み取引の両方を記載するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

---

ブランク = 未転記取引を記載しない(デフォルト)

1 = 転記済み取引と未転記取引の両方を記載する

#### 11. 記述および参照行の印刷

ブランク = 記述および参照行は印刷する

1 = 記述および参照行は印刷しない

レポート明細に取引記述および参照行を含めるかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク = 含める(デフォルト)

1 = 含めない

---

### 補助元帳別の作業詳細レポートの印刷

〈作業原価レポート〉メニュー(G5113)から、〈補助元帳別の作業詳細〉を選択します。

作業の明細を補助元帳別に検討するには、〈補助元帳別作業詳細〉レポート(R51530)を使用します。レポートには次のような情報が含まれます。

- 補助元帳
- 原価コード
- 原価タイプ
- 伝票日付
- 伝票 No.
- 伝票タイプ
- 請求書 No.
- 支払 No.
- 契約番号
- 記述
- 金額

## 処理オプション:補助元帳別作業詳細(R51530)

### デフォルト・タブ

この処理オプションにより、レポートで基準とする日付を指定できます。

---

#### 1. 基準日

レポートの基準となる終了日付を指定します。この日付がblankの場合、会社 00000 の財務報告日付が終了日付として使用されます。会社 00000 の財務報告日付が入力されていない場合は、システム日付が使用されます。

---

### 印刷タブ

この処理オプションにより、印刷しない見出しを指定できます。

---

#### 1. 明細行の前の見出しの省略

blank = すべての見出しを印刷

1 = 合計の見出しを印刷しない

レポートの明細行の前に住所番号、補助元帳、補助元帳タイプ用の見出しを印刷するかどうかを指定します。作業、会社、補助元帳タイプ、補助元帳、および住所番号別に集計値が印刷されます。会社と作業タイトルは、レポートの各ページの最上部に記載されます。スペースを節約する場合、住所番号、補助元帳、補助元帳タイプのタイトルは省略できます。有効な値は次のとおりです。

blank = 明細行の前にすべての合計見出しを印刷する(デフォルト)

1 = 明細行の前に合計見出しを印刷しない

---

## 予算改訂の詳細レポートの印刷

〈作業原価レポート〉メニュー(G5113)から、〈予算改訂の詳細〉を選択します。

〈予算改訂の詳細〉レポート(R51540)を使用すると、作業予算に対するすべての追加、変更を検討できます。レポートには次のような情報が含まれます。

- 原価コード
- 原価タイプ
- 記述
- 当初予算見積

- 当期予算変更額
- 累計見積変更額
- 改訂予算見積

## 処理オプション: 予算改訂の詳細(R51540)

### デフォルト・タブ

この処理オプションでは、レポートの基準にする締切日付と、レポートに反映させる原価の追加元帳タイプが必要かどうかを指定できます。

---

#### 1. 基準日

レポートの基準となる終了日付を指定します。blankにすると、会社 00000 の財務報告日付が終了日付として使用されます。会社 00000 の財務報告日付が入力されていない場合は、システム日付が使用されます。

#### 2. 元帳タイプ

レポートに使用する特定の元帳タイプを入力します。blankの場合は、すべての予算元帳タイプが累計されます。

---

### 印刷タブ

この処理オプションにより、印刷する最も詳細なレベルと、印刷しない詳細レベルを指定できます。

---

#### 1. 印刷する最も詳細な勘定科目レベル

印刷する勘定科目の詳細レベル(LOD 値 3 から 9 まで)を指定します。blankおよび 3 から 9 まで以外の値を入力した場合は、値に 9 が使用されます。

#### 2. 印刷しない詳細レベル

印刷しない勘定科目の詳細レベル(LOD)を 3 から 9 の値で指定します。この詳細レベル以上のレベルの勘定科目は、すべての金額が 0 の場合印刷されません。この処理オプションをblankにすると、すべての勘定科目が表示されます。

---

## 補足データ・レポートの印刷

---

補足データ・レポートを作成して、特定の作業に関する補足情報を参照できます。また、データ・タイプ別に補足情報を表示するようなレポートも作成できます。

### 作業別補足データ・レポートの印刷

〈作業原価レポート〉メニュー(G5113)から、〈作業別補足データ〉を選択します。

〈作業別補足データ〉レポート(R00650)を使用すると、特定の作業に関するすべての補足情報を検討できます。

### データ・タイプ別補足データ・レポートの印刷

〈作業原価レポート〉メニュー(G5113)から、〈データ・タイプ別補足データ〉を選択します。

〈データ・タイプ別補足データ〉レポート(R00640)を使用すると、データ・タイプに関するすべての補足情報を検討できます。

### 処理オプション: 作業別補足データ(R00650)およびデータ・タイプ別補足データ(R00640)

---

#### 汎用テキスト

レポートにテキスト情報を印刷しない場合、“1”を入力してください。ブランク(デフォルト)の場合、テキストが印刷されます。

#### 汎用テキスト・オプション

##### 補助データベース

印刷するレコードの補足データベース・コードを入力してください。ブランク(デフォルト)の場合、ビジネスユニットの補足データベース・コード BU のレコードが印刷されます。

#### 補足データベース・コード

---

---

## 作業進捗状況

作業マスター・レコードを作成し、原価コード構造の設定、スケジュールの定義、各勘定科目の予算設定を終えると、作業の進捗状況がトラッキングできます。入力した情報に基づいて、作業全体の完了率や最終予測値、数量が計算されます。

予算見積と実績値の間に差異が生じている作業箇所を明確にし、必要な是正措置を講じることができます。作業に関係する利益計算を行う場合、完了率と最終予測値が使用されます。

各原価コードに割り当てられた計算方法に従って、最終予測値が計算されます。原価コードに計算方法を入力していない場合は、計算方法 D が使われます。この計算方法は、各勘定の完了率と最終予測値および数量の計算に使われます。作業原価システムには、多くの計算方法が用意されており、この中から選択して使用できます。計算方法の変更はいつでも可能です。

作業進捗状況をトラッキングするには、ワークシートを作成すると、見積完了率や作業に関連する金額や数量などを作業現場で記入できます。このワークシートの値をシステムに入力して、最終予測値を計算します。作業進捗状況は、勘定科目別または作業別に表示できます。レポートを作成して作業の進捗状況を検討することもできます。

---

### 注:

作業の改訂予算に追加の予算元帳タイプが必要な場合は、ユーザー定義の元帳タイプを作成できます。元帳タイプ・マスター(F0025)に追加の元帳タイプを設定する必要があります。ユーザー定義コード(09/LT)にも、追加の元帳タイプを定義してください。これらのテーブルの予算元帳は、いずれも最終予測値の計算に使用されます。

---

### 参照

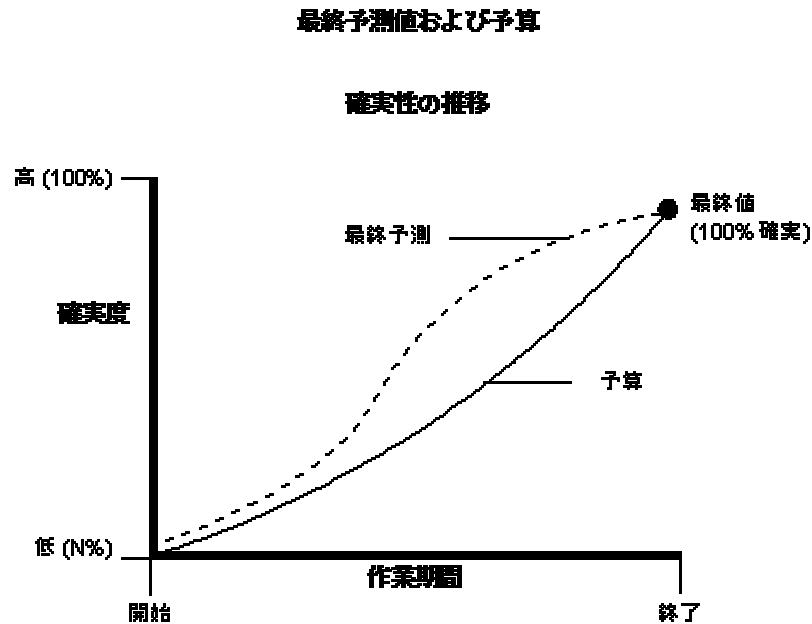
『作業原価』ガイドの次のトピックを参照してください。

- 作業進捗状況を決定するのに必要な FA 元帳および F%元帳の設定については、「作業原価用元帳タイプの処理」
- 「作業原価用ユーザー定義コードの理解」

## 確実性の推移

作業を開始する時に、作業の完了時点における総費用や収益などを見積ります。この見積りを基準にして予算を設定します。ただし、作業の途中で最終予測が変更されることがあるため、変更に応じて予算を調整する必要があります。作業の完成に近づくほど、最終予測はより正確になります。最終予測値は、作業の終了時点で 100% 確実なものとなります。最終予算と最終値は一致することが理想的です。

次の図は作業の最終予測値と予算との関係を示しています。



このグラフは、作業の全過程における実績値と予算を基にした、最終予測値と予算の確実性を示しています。

最終予測値は、作業変更の必要性を判断する基準となります。最終予測値と予算の差異を発見する時期が早いほど、問題点の把握とその修正が容易になります。最終予測値が変更になった場合は、それに合わせて予算を調整します。作業の終了時には、最終予測値、実績最終値、最終予算はすべて同じになります。



## 計算方法の理解

作業進捗状況を計算するために、上記の各計算方法を適時選択します。ビジネス・ニーズに合った計算方法を原価コードに割り当ててください。各原価コードに対して、異なる計算方法を割り当てることができます。原価コードに割り当てられた計算方法は、作業中いつでも変更できます。

### 注意:

計算方法は作業原価システムで重要な役割を果たします。計算方法と関連しているユーザー定義コードは変更しないでください。

まず次のテーブルを使用して、各原価コードに対して適切な計算方法を選択してから、特定のビジネス・ニーズに最も適した方法を選択してください。

計算方法の選択テーブル																	
	A	B	C	D	E	F	G	I	N	O	P	Q	R	S	T	U	V
どのような勘定科目か																	
• 収益勘定科目					Y		Y										Y
• 見出し勘定科目	Y												Y		Y		
• 明細勘定科目		Y	Y					Y								Y	
• 見出しおよび明細勘定科目				Y	Y	Y	Y		Y	Y	Y	Y		Y			Y
勘定科目が予算にどのように影響する																	
• 見出し(率)の変更が明細(最終予測)に反映される													Y				
• 予算が実績に合わせて強制変更される	Y																
最も重要な最終予測決定要因は何か																	
• 契約/購買オーダー		Y															
• 数量-単位レート										Y				Y		Y	
• 見積残			Y							Y	Y			Y			
見出し勘定から計算用に取り込まれる明細勘定情報は何か																	
• 完了率			Y														
• 単位/数量レート																Y	
進捗状況の入力は必須ではない				Y													Y
システムによる最適方法の選択を許可するか										Y				Y			
明細情報を使って合計する														Y			
集計に勘定科目を含める								Y									
予測は必要ない								Y	Y								

計算方法によって、更新される元帳タイプが異なります。次のテーブルは、各計算方法を選択した場合に使用できる元帳タイプを示します。

計算方法別の使用可能な元帳タイプ																		
元帳タイプ	A	B	C	D	E	F	G	I	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	
AU – 実績数量	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	
F% – 作業完了率						Y	Y			Y	Y			Y				
FA – 予算金額強制						Y	Y			Y				Y				
FU – 予算数量強制	Y					Y	Y			Y		Y	Y	Y	Y			
RA – 残存単価(率)																Y		
HU – 最終予測数量 (BORG のみ)					Y													
HA – 最終予測金額(BORG のみ)					Y													

#### 注:

HA(最終予測金額)元帳とHU(最終予測数量)元帳が自動更新されます。入力する値は計算方法によって異なります。

計算方法によっては、強制的に予測値をシステム計算値よりも大きく、または小さくなるように指定できます。この指定はシステム計算値との差額を入力することにより行います。たとえば、予算金額に影響が出るような作業変更オーダーが予想される場合、その金額分を考慮して、最終予測値を強制的に予算額より大きく、または小さくできます。

### 方法 A(勘定金額-強制)

方法 A は、下位勘定科目と見出し勘定科目が共通の原価コードを使用している場合に用います。この場合、見出し勘定とその下位勘定の実績値に等しい金額に、改訂予算の額が強制変更されます。予算差異調整額が IA/IU 元帳に保管されます。方法 A では実績数量、最終予測数量、および最終予測数量の差異を入力します。この計算方法を選択すると、次の計算式が適用されます。

- 勘定科目の改訂予算値 = 原価コード範囲にあるすべての勘定科目のうち同じ勘定科目の実績値
- 見出し勘定科目では、強制(方法 F)と同様にして最終予測値が計算される。金額はデフォルト(方法 D)と同様の方法で計算されます。
- 明細勘定科目では、対応する計算方法で最終予測値が確定される。

## 方法 B(買取りまたは固定価格契約)

方法 B は、契約や購買オーダー(在庫以外)と関係する明細勘定に対して使用されます。この方法は明細レベルでのみ使用してください。方法 B では実績数量(時間)を使用します。この計算方法を選択すると、次の計算式が適用されます。

- 最終予測値 = 実績値 + コミットメント未消化値
- コミットメント未消化額+実績=ゼロの場合は、改訂予算=最終予測値

## 方法 C(見出し勘定完了率)

方法 C は明細勘定に使用します。完了率は見出し勘定科目レベルで確定されます。方法 C では各明細勘定科目の完了率情報を管理する必要はありません。方法 C は明細レベルでのみ使用してください。方法 C では実績数量、完了率、最終予測値、または最終予測値の差異(金額および数量)を入力します。この計算方法を選択すると、次の計算式が適用されます。

- 見出し勘定科目には方法 P(F%へ入力)または Q(数量から計算)を使用する
- 見出し勘定科目の完了率が 100%の場合は、最終予測=実績
- 見出し勘定科目の完了率が 100%未満で次の条件を満たす場合
  - 完了率がゼロおよび規定完了率より大きい場合、最終予測値=実績値÷完了率(金額または数量)
  - 完了率が規定完了率またはゼロより小さい場合、最終予測値はデフォルト(方法 D)と同じ方法で計算されます。

## 方法 D(デフォルト)

方法 D は、見出し勘定と明細勘定の両方に使用します。勘定科目を作成する際に明細行ごとの計算方法を指定しないと、このデフォルトの計算方法が使われます。方法 D では実績数量を入力することができます。この計算方法を選択すると、最終予測値(金額/数量)が次の値の大きいほうと等しくなります。

- 改訂予算値
- 実績値 + コミットメント未消化値

## 方法 E(見積残)

方法 E は、作業完了時の見積実績金額または数量が確定できる場合、見出し勘定または明細勘定に使用します。方法 E は費用および収益勘定にも使用できます。この計算方法を使用すると、次の計算が適用されます。

- 見積残を入力するまでは、最終予測値は方法 G と同様に改訂予算の値に等しくなります。
- 見積残を入力すると、その値が実績累積値に追加され、最終予測値が計算されます。この新しい最終予測値により、正味転記額フィールドではなく、HA(最終予測金額)元帳と HU(最終予測数量)元帳の勘定残高テーブル(F0902)にある当初予算(BORG)フィールドが更新されます。次に新しい見積残または完了時見積の値を入力するまで、最終予測値は変更されません。

---

### 注:

作業が更新されると、〈作業別進捗状況の入力〉プログラム(P510212)および(勘定科目別進捗状況の入力)プログラム(P510211)の見積残の値が自動計算されます。改訂予算値を最終予測値として使用すると、[見積残]フィールドの値が計算されます。[見積残]フィールドをクリアせずに[OK]ボタンを押すと、[見積残]フィールドの値は手入力した場合と同じ扱いとなり、最終予測値が改訂予算で更新されなくなります。

---

## 方法 F(強制)

見出し勘定科目と明細勘定科目に最終予測値または予測差異(金額および数量)を手作業で入力する場合は、方法 F を使用します。完了率は入力できますが、それを予測値の計算に使用することはできません。また、実績数量を入力することもできます。この計算方法を使用すると、次の計算が適用されます。

- 予測差異を入力しない場合、または最終予測値を入力しない場合は、方法 D(デフォルト)と同じ方法で最終予測情報が計算されます。
- 予測差異値または最終予測値を入力した場合、最終予測値は予測差異に改訂予算を加えたものになります。実績値が新しい最終予測値よりも大きくなる場合は、最終予測値は実績値と同じ値になります。

予測差異値は FA 元帳または FU 元帳に保管されます。次に新しい予測差異を入力するまで、最終予測値は変更されません。

## 方法 G(予算デフォルト-強制)

方法 G は収益勘定に使用します。次の点を除き、方法 G は方法 F と同じになります。

- 最終予測値がマイナスになることがある
- 最終予測値が実績値よりも小さくなることもある
- 予測差異または最終予測値による予測値を入力しない場合、最終予測値は改訂予算値と等しくなる

## 方法 I(組込み)

方法 I は、明細勘定の金額を見出し勘定またはより上位レベルの明細勘定に集計する場合に使用します。この場合、同じ原価コード内の明細勘定を使用してください。これらの勘定科目の最終予測および完了率(金額)は計算されませんが、実績数量を入力することはできます。この方法を使用する際は、見出し勘定または明細勘定について方法 S の制限を順守してください。

詳しくは、「方法 S(集計)」を参照してください。

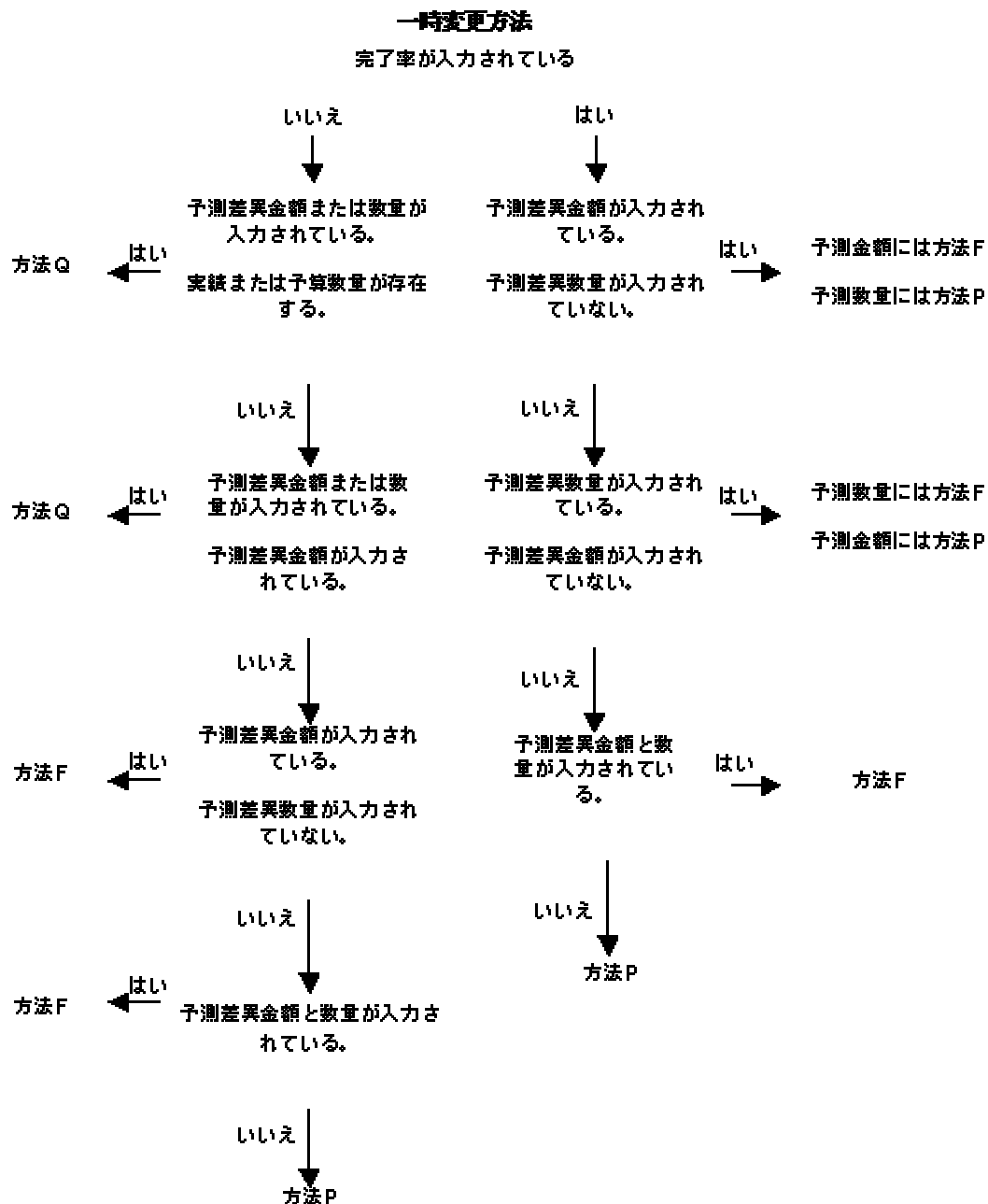
## 方法 N(予測なし)

方法 N は、最終予測を計算しない勘定科目に使用します。最終予測を計算しない場合にこの方法を使用すると、見出しレベルで予算を作成する際に重複する最終予測値が作成されることにより発生するエラーを防ぐことができます。方法 N では実績数量を入力できます。また、見出しレベルでも詳細レベルでもこの方法を使用できます。

## 方法 O(一時変更)

見出し勘定科目と明細勘定科目に最終予測値、予測差異(金額および数量)、または完了率を手作業で入力する場合は、方法 O を使用します。また、実績数量を入力することもできます。入力するデータ(実績数量や完了率など)によって、方法 O は方法 D、F、P、Q などと同じように機能します。

次の図は、使用する計算方法を確定する流れを示しています。



## 方法 P(完了率)

方法 P は、最終予測値を推定するために完了率を入力する見出し勘定と明細勘定に対して使用します。方法 P では実績数量と完了率を入力します。この計算方法を選択すると次のような結果になります。

- 完了率が規定率よりも小さい場合、または、完了率を入力していない場合は、方法 P は方法 D(デフォルト)と同様に機能する
- 完了率が規定率より大きい場合、実績値または完了率=最終予測値

勘定科目に計算方法 P を割り当てると、〈進捗状況の入力〉フォームで入力した勘定科目の完了率と〈作業マスターの改訂〉フォームで入力した作業規定値の完了率が比較されます。

たとえば、計算方法 P を使った勘定科目に対して、作業規定完了率を 20%と定義すると、勘定科目の作業完了率が 20%以上になったところでその勘定科目の実績値をもとに最終予測値が計算されます。完了率が 20%未満の場合は、その勘定科目の改訂予算の値が使われます。

## 方法 Q(数量)

方法 Q は、進捗状況が数量のみによって計算される見出し勘定と明細勘定に使用します。最終予測数量、予測差異数量、および実績数量を入力できます。この計算方法を選択すると次の条件が適用されます。

最終予測数量は、方法 F(強制)を使用した場合と同じように計算されます。

最終予測金額は完了率により決まります。完了率は次のように計算されます。

- $(\text{実績数量} / \text{最終予測数量}) \times 100$

この計算は完了率(F%)元帳に保管されません。

完了率が 100 かどうかに応じて、次のように計算されます。

### 完了率が 100 の場合

- 完了率が 100 で実績数量がゼロでない場合、最終予測金額=実績金額
- 完了率が 100 で実績数量がゼロの場合、最終予測金額=改訂予算額

### 完了率が 100 未満の場合

- 完了率が 100 未満で規定完了率より大きく、実績金額と完了率がゼロでない場合、最終予測金額=実績金額/完了率
- 完了率が 100 未満で改訂予算値と実績金額がゼロでない場合、最終予測金額=最終予測数量×改訂予算単位レート
- 完了率が 100 未満で実績値がゼロでない場合、最終予測金額=最終予測数量×実績単位レート
- 完了率が 100 未満で、これまでの条件が当てはまらない場合、方法 D(デフォルト)と同じ方法で最終予測金額が計算される

## 方法 R(収益-契約単価)

方法 R は、見出し勘定に対して適用され、オーダー数に応じて契約業者に支払いが行われる場合に使用されます。見出しレベルで最終予測数量を変更する場合、数量変更の比率が計算されて明細勘定科目の予算値に適用されます。予算差異調整額が IA/IU 元帳に保管されます。方法 R では実績数量、最終予測数量、および最終予測数量の差異を入力します。この計算方法を選択すると、次の計算式が適用されます。

- 最終予測数量変更の比率が見出しレベルで計算され、関連する明細勘定の予算値(金額、数量、または両方)に自動的に適用される。
- 見出し勘定科目では、方法 F(強制)と同じ方法で最終予測値が計算される。金額は方法 D(デフォルト)と同じ方法で計算される。
- 明細勘定科目では、対応する計算方法を使って最終予測値が確定される。

---

### 注:

見出し勘定科目の最終予測数量が変更になる場合、変更率がプラスの値であることが確認されます。値がプラスでない場合、見出し勘定科目の最終予測数量は変更されず、変更率はゼロとなります。

作業の改訂予算に追加の予算元帳タイプが必要な場合は、ユーザー定義の元帳タイプを作成することができます。追加する元帳タイプを元帳タイプ・マスター(F0025)に追加してください。〈作業原価元帳タイプ規則〉フォームで、[改訂予算元帳]オプションを選択する必要があります。『作業原価』ガイドの「作業原価用元帳タイプの処理」を参照してください。UDC(09/LT)にもその元帳タイプを追加する必要があります。『作業原価』ガイドの「作業原価用ユーザー定義コードの理解」を参照してください。

---

最終予測値の計算には、元帳タイプ・マスターと UDC テーブル(09/LT)の予算元帳が使われます。

## 方法 S(集計)

方法 S は、方法 S の対象となる勘定科目よりも下位の詳細レベルに位置する勘定科目で、方法 I を適用する勘定科目の金額を集計する場合に使用されます。この場合、実績金額、コミット済み金額、予算割当済みの金額のみ集計されます。数量やその他の情報は集計されません。この方法は、次の基準を満たす勘定科目に使用できます。

- 勘定科目(集計先)は見出し勘定か明細勘定のいずれかになる
- 勘定科目は、方法 I を使用してまとめ、集計する関連の勘定科目よりも上位の詳細レベルにある
- 勘定科目(集計先)および集計対象となる勘定科目は同じ原価コード内にある

一時変更方法(方法 D)を使って、集計済み勘定残高の最終予測値が計算されます(方法 S)。



次の例は、方法 S と方法 I の関係を示しています。方法 I を使用した詳細レベル 9 の勘定科目は、方法 S を使用する詳細レベル 8 の関連勘定科目に集計されます。

勘定科目 No.	詳細レベル	方式
50(会社)	1	
501(作業)	2	
501.02000	3	D
501.02200	4	D
501.02200.1340	8	S
501.02200.1341	9	I
501.02200.1342	9	I
501.02200.1343	9	I
501.02600	4	D
501.02600.1340	8	S
501.02600.1341	9	I
501.02600.1342	9	I
501.02600.1343	9	I

---

**注:**

方法 S と方法 I の併用は最低限にすることをお勧めします。勘定科目の集計処理には大量のシステム・リソースが必要となるため、この処理が不可欠な場合にのみ行うようにしてください。これらの方法を併用して勘定科目表全体を設定すると、システムのパフォーマンスが大幅に低下します。

たとえば、方法 I を使った 15 の勘定科目が、方法 S を使った 1 つの勘定科目に集計されるとします。15 の勘定科目のうち 1 つの勘定科目に変更があった場合でも、その都度システムは勘定残高テーブル(F0902)レコードにアクセスする必要があります。1 つの勘定科目の原価が転記されると、F0902 の作業原価予測ビジネス関数(X51013)により AA、PA、HA、FA、F%元帳およびすべての改訂予算元帳の残高が集計勘定科目から取り込まれます。次に F0902 作業原価予測ビジネス関数により、AA と PA 元帳から残高が、また方法 I を使用しているすべての改訂予算元帳の 15 の勘定科目の残高が取り込まれます。この例を計算式としてまとめると次のようになります。

(6 元帳 + (3 元帳 × 15 勘定科目)) = F0902 から 51 回の取りこみ

---

## 方法 T(合計)

方法 T は見出し勘定にのみ使用します。方法 T では、最終予測数量、最終予測差異数量、および実績数量を入力できます。この計算方法を使用すると、次の規則が適用されます。

- 最終予測差異数量がゼロの場合、最終予測数量は方法 D(デフォルト)と同じ方法で計算される
- 最終予測差異数量がゼロでない場合は次の計算が適用される
  - 最終予測数量=改訂予算+最終予測数量の差異
  - 最終予測金額=改訂予算金額

詳細レベルの小計がレポートや照会に表示される場合、小計行の計算方法には方法 T を割り当てます。

## 方法 U(残存単価/率)

進捗状況の入力を完了するのに残額を計算する必要がある場合は、明細勘定科目に対して方法 U を使用します。残額の計算は、関連する見出し勘定の残量と単位レートに基づいて行われます。残存単位レートと実績数量を入力できます。方法 U では次の値が計算されます。

最終予測金額は次のように計算されます。

- 最終予測値=残額+実績金額。
  - 残存単位レートがゼロでない場合、残額=残量×残存単位レート。
  - 残存単位レートがゼロの場合、予算単位レートと実際単位レートのいずれか大きいほうの値を使用する。
  - 残額=残量×予算単価レートまたは実際単価レート。
  - 残額の予算単価レートまたは実際単価レートがゼロの場合、方法 D(デフォルト)を使用する。
- 実績金額+コミットメント金額が最終予測金額より大きい場合、コミットメント合計額=最終予測値。

最終予測数量は次のように計算されます。

- 実績数量がゼロでなく、実際単位レートがゼロでない場合、最終予測数量=最終予測金額÷実際単価レート。
- 実績数量がゼロでなく、実際単位レートがゼロの場合、最終予測数量=0。
- 実績数量がゼロの場合、最終予測数量は方法 D(デフォルト)を使って計算される。

## 方法 V(収益-絶対値)

方法 V は、収益勘定のように貸方金額を持つ見出し勘定と明細勘定に使用します。この方法では、最終予測値がマイナス値になることがあります。また、実績数量を入力することもできます。この計算方法を使用すると、最終予測値(金額/数量)は次の中で最大の値の実値(プラスまたはマイナス)と等しくなります。

- 改訂予算の絶対値
- 実績値にコミットメント未消化額を加算した絶対値
- 実績値の絶対値

## 作業進捗状況の処理

---

入力した情報に基づいて、作業全体の完了率や最終予測原価が計算されます。最終予測値を使用して、予算見積と実績値の間に差異が生じている作業箇所を明確にし、必要な是正措置を講じることができます。作業の利益計算には、完了率と最終予測値を使用します。

ワークシートを作成して作業現場に持参すると、作業進捗状況の情報の更新に役立ちます。ワークシートには、完了率の見積り、作業に関連する金額や数量などを記入できます。その後、これらの情報をシステムに入力して最終予測値を計算します。

作業進捗状況の入力には 2 つの方法があります。単一の勘定科目に入力する方法と、同じ作業内の複数の勘定科目に入力する方法です。作業進捗状況が業務要件と合わない場合は、計算方法を変更してもう一度計算し直すことができます。

## 現場進捗状況レポートの作成

〈進捗状況の入力/報告〉メニュー(G5121)から、〈現場進捗状況レポート〉を選択します。

最終予測金額を計算するには、最初に作業の各タスクの進捗状況を見積る必要があります。

〈現場進捗状況〉レポート(R51432B)には、最終予測金額と数量、またはプロジェクトの予測差異(金額と数量)が表示されます。作業の各タスクの予算金額と数量、実績金額と数量も表示されます。

〈現場進捗状況〉レポートをワークシートとして使用する場合は、処理オプションを設定してデータ入力フィールドが表示されるようにします。ワークシートを作業現場に持参して値を記入してから、作業原価システムに入力できます。

### 処理オプション: 現場進捗レポート(R51432B)

#### デフォルト・タブ

---

##### 1. 基準日

レポートの基準となる日付を指定します。この日付がブランクの場合は、作業の会社の現行財務報告日付を基準としてレポートが作成されます。

---

---

## 2. 補助元帳

レポート作成の対象となる補助元帳を指定します。補助元帳を入力する場合は、補助元帳タイプも指定してください。ワイルドカード(\*)を使用すると、すべての補助元帳を指定できます。

## 3. 補助元帳タイプ

レポートに使用する特定の補助元帳タイプを指定します。補助元帳タイプを入力する場合は、補助元帳も指定してください。補助元帳タイプは、ユーザー定義コード(00/ST)で設定されている必要があります。

## 4. 勘定詳細レベル

印刷する勘定科目の詳細レベル(値 3 から 9 まで)の指定に使用します。ブランクにした場合、デフォルト値の 9 が使用されます。

## 5. 下線を表示するフィールド

ブランク = すべてのフィールド

1 = 計算方法により決まる入力フィールド

レポートに下線を印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク    すべてのフィールドに下線を印刷する(デフォルト)

1            計算方法に基づいて入力フィールドに下線を印刷する

---

## 作業進捗状況の入力

各原価コードの作業進捗状況を入力、変更するには〈進捗状況の入力〉フォームを使用します。〈進捗状況の入力〉フォームに表示されるデータ入力フィールドは、勘定科目に割り当てられた計算方法によって変わります。勘定科目の計算方法を変更するには、〈進捗状況の入力〉フォームを使用してください。計算方法によって、フォームに表示されるフィールドだけでなく勘定科目の完了率や最終予測原価、数量も変わります。

同一の作業に関連付けられた複数の勘定科目に作業進捗状況を入力するには、〈作業別進捗状況の入力〉プログラムを使用します。

〈進捗状況入力〉と〈作業別進捗状況の入力〉では、処理オプションを使用して、表示する予算入力フィールドのタイプ、計算方法変更の可否、監査証跡の作成、〈当初予算〉プログラム(P510121)または〈予算の改訂〉プログラム(P510171)の実行バージョンなどを指定できます。

さらに、AAI 項目 JC01-99 を使用して、行項目と関連する値が売掛管理や給与計算などの他のシステムの影響を受ける場合に、[実績数量]フィールドなどが上書きされないように設定できます。

完了率や最終予測値を計算する前に、進捗状況についての入力データを検討してください。作業進捗状況を検討するには、〈作業状況照会の処理〉フォームを使用できます。

これらのプログラムの処理オプションにアクセスするには、〈アプリケーション・バージョン(対話型)〉プログラム(P983051)を使用する必要があります。

## 参照

『作業原価』ガイドで次のトピックを参照してください。

- 「計算方法の理解」
- 別の計算方法を使用する場合、あるいは最終予測値に誤りがあると考えられる場合に予測値を再計算する方法については「作業原価予測の再計算」
- 処理オプションで予算元帳が定義されている場合の予算の変更については「予算改訂の入力」
- 「AAI(自動仕訳)の定義」

『基本操作』ガイドで次のトピックを参照してください。

- 「対話型バージョンの処理」

## ▶ 勘定科目の作業進捗状況を入力するには

---

〈進捗状況の入力/報告〉メニュー(G5121)から、〈勘定別進捗状況入力〉を選択します。

1. 〈作業状況の照会〉で、検討する勘定科目を識別します。
2. 勘定科目を選択します。
3. [ロー]メニューから、[進捗状況の入力] - [勘定科目]を選択します。
4. 〈進捗状況の入力〉で、次のフィールドに値を入力します(任意)。
  - 参照 No.
  - 記述
5. 勘定科目の計算方法を変更する場合は、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
  - 計算計算方法を変更すると、データ入力フィールドが変更されることがあります。
6. 次の進捗状況入力フィールドに値を入力します。
  - 完了%
  - 強制 +/-
  - 強制合計

- 実績合計
- 最終予測
- 実績 +/-

データ入力に使用できる進捗状況の入力フィールドは、勘定科目に割り当てた計算方法によって変わります。

7. 進捗状況の入力についての情報を保存するには[OK]をクリックします。
8. 作業用のすべての勘定科目の進行状況入力情報を検討するには、[キャンセル]をクリックして〈作業状況照会〉に戻ります。

## 参照

『作業原価』ガイドで次のトピックを参照してください。

- 勘定科目の定義については「ユーザー定義カラム別作業情報の検討」
- 「カラム・バージョン」

## フィールド記述

記述 参照 No.	用語解説
	資産、仕入先番号、伝票番号などの特定の取引の監査証跡を提供する番号。
	<p>--- フォーム固有 ---</p> <p>現場進捗状況変更のグループと関連させるために入力可能な番号。この番号は処理オプションで制御することができます。</p>
記述	記述、備考、説明、名称、または住所。
計算	勘定科目の完了率、見積最終原価、数量の計算に使用される計算方式。ユーザー定義コード(51/MC)で定義されています。
	<p>--- フォーム固有 ---</p> <p>計算方法の変更が可能かどうか制御します。この計算方式によりフォームに表示されるフィールドが決まります。</p>

---

**完了%**

フォームに表示するフィールドを決めるための計算方法と処理オプションの設定方法を示す値。有効な値は次のとおりです。

- 強制+/-金額。このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制金額(FA)元帳の増分値を示します。強制金額はシステムにより計算されます。

- 強制合計金額。このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制金額(FA)元帳の新しい合計値を示します。+/-強制金額はシステムにより計算されます。

- 完了率。このフィールドは方法 F、G、O、P、S の場合に表示され、完了率(F%)元帳の新しい合計値を示します。

- 完了見積金額。このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値と[完了見積数量]フィールド、[単位レート]フィールドの値が[実績金額]フィールドと[実績数量]フィールドに加算され、見積合計(見積最終値)が算出されます。HA(最終予測金額)元帳と HU(最終予測数量)元帳が更新されます。

- 見積合計金額。このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値は見積最終値になります。見積最終金額(HA)元帳と見積最終数量(HU)元帳はシステムにより更新されます。

---

---

**強制 +/-**

計算方法と処理オプションの設定によって、このフォームに表示されるフィールドが決まります。  
有効な値は次のとおりです。

○ +/-

実績。このフィールドはどの計算方法でも表示され、実績数量(AU)元帳に対する増分変更額を示します。実績合計数量はシステムにより計算されます。

○ 実績合計

このフィールドはどの計算方法でも表示され、実績数量(AU)元帳の合計値を示します。+/- 実績数量はシステムにより計算されます。

○ 強制+/-数量

このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制数量(FU)元帳の増分値を示します。強制数量はシステムにより計算されます。

○ 強制合計数量

このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制数量(FU)元帳の新しい合計値を示します。+/- 強制数量はシステムにより計算されます。

○ 完了率

このフィールドは方法 F、G、O、P、S の場合に表示され、完了率(F%)元帳の新しい合計値を示します。

○ 完了見積数量

このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値と[完了時見積金額]フィールド、[単位金額(レート)]フィールドの値が[実績数量]フィールドと[実績金額]フィールドに加算され、見積合計(見積最終値)が算出されます。見積最終金額(HA)元帳と見積最終数量(HU)元帳はシステムにより更新されます。

○ 見積合計数量

このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値は見積最終値になります。見積最終金額(HA)元帳と見積最終数量(HU)元帳はシステムにより更新されます。

---



---

**強制合計**

フォームに表示するフィールドを決めるための計算方法と処理オプションの設定方法を示す値。有効な値は次のとおりです。

- 強制+/-金額。このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制金額(FA)元帳の増分値を示します。強制金額はシステムにより計算されます。

- 強制合計金額。このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制金額(FA)元帳の新しい合計値を示します。+/-強制金額はシステムにより計算されます。

- 完了率。このフィールドは方法 F、G、O、P、S の場合に表示され、完了率(F%)元帳の新しい合計値を示します。

- 完了見積金額。このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値と[完了見積数量]フィールド、[単位レート]フィールドの値が[実績金額]フィールドと[実績数量]フィールドに加算され、見積合計(見積最終値)が算出されます。HA(最終予測金額)元帳と HU(最終予測数量)元帳が更新されます。

- 見積合計金額。このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値は見積最終値になります。見積最終金額(HA)元帳と見積最終数量(HU)元帳はシステムにより更新されます。

---

---

**実績合計**

計算方法と処理オプションの設定によって、このフォームに表示されるフィールドが決まります。

有効な値は次のとおりです。

- +/-

実績。このフィールドはどの計算方法でも表示され、実績数量(AU)元帳に対する増分変更額を示します。実績合計数量はシステムにより計算されます。

- 実績合計

このフィールドはどの計算方法でも表示され、実績数量(AU)元帳の合計値を示します。+/- 実績数量はシステムにより計算されます。

- 強制+/-数量

このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制数量(FU)元帳の増分値を示します。強制数量はシステムにより計算されます。

- 強制合計数量

このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制数量(FU)元帳の新しい合計値を示します。+/- 強制数量はシステムにより計算されます。

- 完了率

このフィールドは方法 F、G、O、P、S の場合に表示され、完了率(F%)元帳の新しい合計値を示します。

- 完了見積数量

このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値と[完了時見積金額]フィールド、[単位金額(レート)]フィールドの値が[実績数量]フィールドと[実績金額]フィールドに加算され、見積合計(見積最終値)が算出されます。見積最終金額(HA)元帳と見積最終数量(HU)元帳はシステムにより更新されます。

- 見積合計数量

このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値は見積最終値になります。見積最終金額(HA)元帳と見積最終数量(HU)元帳はシステムにより更新されます。

---

---

**最終予測**

計算方法と処理オプションの設定によって、このフォームに表示されるフィールドが決まります。

有効な値は次のとおりです。

- +/-

実績。このフィールドはどの計算方法でも表示され、実績数量(AU)元帳に対する増分変更額を示します。実績合計数量はシステムにより計算されます。

- 実績合計

このフィールドはどの計算方法でも表示され、実績数量(AU)元帳の合計値を示します。+/- 実績数量はシステムにより計算されます。

- 強制+/-数量

このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制数量(FU)元帳の増分値を示します。強制数量はシステムにより計算されます。

- 強制合計数量

このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制数量(FU)元帳の新しい合計値を示します。+/- 強制数量はシステムにより計算されます。

- 完了率

このフィールドは方法 F、G、O、P、S の場合に表示され、完了率(F%)元帳の新しい合計値を示します。

- 完了見積数量

このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値と[完了時見積金額]フィールド、[単位金額(レート)]フィールドの値が[実績数量]フィールドと[実績金額]フィールドに加算され、見積合計(見積最終値)が算出されます。見積最終金額(HA)元帳と見積最終数量(HU)元帳はシステムにより更新されます。

- 見積合計数量

このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値は見積最終値になります。見積最終金額(HA)元帳と見積最終数量(HU)元帳はシステムにより更新されます。

---

---

**実績 +/-**

計算方法と処理オプションの設定によって、このフォームに表示されるフィールドが決まります。  
有効な値は次のとおりです。

○ +/-

実績。このフィールドはどの計算方法でも表示され、実績数量(AU)元帳に対する増分変更額を示します。実績合計数量はシステムにより計算されます。

○ 実績合計

このフィールドはどの計算方法でも表示され、実績数量(AU)元帳の合計値を示します。+/- 実績数量はシステムにより計算されます。

○ 強制+/-数量

このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制数量(FU)元帳の増分値を示します。強制数量はシステムにより計算されます。

○ 強制合計数量

このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制数量(FU)元帳の新しい合計値を示します。+/- 強制数量はシステムにより計算されます。

○ 完了率

このフィールドは方法 F、G、O、P、S の場合に表示され、完了率(F%)元帳の新しい合計値を示します。

○ 完了見積数量

このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値と[完了時見積金額]フィールド、[単位金額(レート)]フィールドの値が[実績数量]フィールドと[実績金額]フィールドに加算され、見積合計(見積最終値)が算出されます。見積最終金額(HA)元帳と見積最終数量(HU)元帳はシステムにより更新されます。

○ 見積合計数量

このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値は見積最終値になります。見積最終金額(HA)元帳と見積最終数量(HU)元帳はシステムにより更新されます。

---

**処理オプション: 作業原価進捗状況入力(P510211)****表示タブ**

---

**1. 表示する予算変更フィールド**

ブランク = すべての入力フィールド

1 = 変更+/-フィールドのみ

2 = 変更累計フィールドのみ

表示する予算変更額フィールドを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク    すべての入力フィールドを表示する

---

- 
- |   |                     |
|---|---------------------|
| 1 | +/- (増減) フィールドを表示する |
| 2 | 合計 (累計) フィールドを表示する  |
- 

## 処理タブ

---

### 1. 元帳日付のチェック

blank = チェックする  
1 = チェックしない

作業原価システムで元帳日付のチェックを行うかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank    チェックを行う  
1        チェックを行わない

### 2. 計算方法の変更許可

blank = 許可する  
1 = 許可しない

計算方法フィールドの値の変更を許可するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank    許可する  
1        許可しない

### 3. 予算監査証跡の記録

blank = 期間別に記録する  
1 = 変更ごとに記録する  
2 = 記録しない

作業原価予算の監査証跡の作成方法を指定します。有効な値は次のとおりです。

blank    期間ごとに作成する  
1        変更ごとに作成する

---

#### 4. 参照番号

作成された監査証跡レコードの更新する参照番号を指定します。

#### 5. 監査証跡の摘要

作成された監査証跡レコードに書き込む記述を指定します。ブランクにした場合、現場進捗入力の内容が書き込まれます。

---

### バージョン・タブ

---

#### 1. 当初予算の入力(P510121)のバージョン

〈当初予算の入力〉プログラム(P510121)のバージョンを指定します。ブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

#### 2. 作業予算の改訂(P510171)のバージョン

〈作業予算の改訂〉プログラム(P510171)のバージョンを指定します。ブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

---

### ▶ 作業進捗状況を入力するには

---

〈進捗状況の入力/報告〉メニュー(G5121)から、〈作業別進捗状況の入力〉を選択します。

1. 〈作業状況照会〉で、検討する勘定科目を検索します。
2. 勘定科目を選択します。
3. [ロー]メニューから、[進捗状況の入力] - [作業]を選択します。
4. 〈作業別進捗状況の入力〉で、次のフィールドに値を入力して勘定科目を識別します。
  - カラムバージョン
  - 日付/期間
  - 詳細レベル

- 補助元帳
  - 計算方式
5. 勘定科目をさらに細かく識別するには、[追加選択]タブをクリックして次のフィールドに値を入力します。
- 原価コード
  - 原価タイプ
6. 勘定科目をさらに細かく識別するには、[カラム]タブをクリックして次のフィールドに値を入力します。
- 改訂予算金額
  - 改訂予算数量
  - コミットメント未消化金額
  - コミットメント未消化数量
  - 実績数量
  - 実績 +/- 数量
  - 実績金額
  - 最終予測金額
  - 最終予測数量
  - 最終予測単位レート
7. 勘定科目をさらに細かく識別するには、[追加カラム]タブをクリックして次のフィールドに値を入力します。
- 見積残金額
  - 完了時見積金額
  - 強制 +/- 数量
  - 強制合計数量
  - 完了見積数量
  - 完了時見積数量
  - 完了パーセント
  - 強制 +/- 単位レート
  - 強制合計単位レート
  - 見積残単位レート
  - 完了時見積り単位レート
  - 残存単位金額

8. 勘定科目をさらに細かく定義するには、[予算改訂]タブをクリックして次のフィールドに値を入力します。
  - 予算改訂金額の入力
  - 予算改訂数量の入力
  - 予算改訂 +/- 金額の入力
  - 予算改訂 +/- 数量の入力
9. [検索]をクリックします。
10. グリッドで、更新する勘定科目に対して次のフィールドに値を入力します。
  - 計算方式
  - 参照 2
  - 摘要
11. [OK]をクリックします。

## 参照

『作業原価』ガイドで次のトピックを参照してください。

- 勘定科目の定義については「ユーザー定義カラム別作業情報の検討」
- 「カラム・バージョン」

## フィールド記述

記述	用語解説
カラムバージョン	ユーザー定義入力カラムを定義するのに使用される作業進捗状況の入力フォーマット名。
日付/期間	<p>この入力フィールドは、現行会計年度内の期間または特定の日付を指定します。</p> <p>選択した会社の現行会計年度の期間を指定するには、1 から 14 までの数字の 1 つを入力してください。たとえば、10 を入力すると、現行年の期間 10 を意味します。</p> <p>日付を指定するには、会社の会計日付パターンを使用してください。たとえば、99/01/01 と入力すると、会計日付 1999 年 1 月 1 日を意味します。</p>
計算方式	勘定科目の完了率、見積最終原価、数量の計算に使用される計算方式。ユーザー定義コード(51/MC)で定義されています。



## 処理オプション: 作業別進捗状況の入力(P510212)

### 表示タブ

---

#### 1. 表示する原価コードのデフォルト範囲

##### 原価コードの範囲開始

表示する科目範囲の開始原価コード(補助科目)を指定します。ブランクにした場合、すべての勘定科目が表示されます

##### 原価コードの範囲終了

表示する科目範囲の終了原価コード(補助科目)を指定します。ブランクにした場合、すべての勘定科目が表示されます。

#### 2. 表示する原価タイプのデフォルト範囲

##### 原価タイプの範囲開始

表示する科目範囲の開始原価タイプ(主科目)を指定します。ブランクにした場合、すべての勘定科目が表示されます。

##### 原価タイプの範囲終了

表示する科目範囲の終了原価タイプ(主科目)を指定します。ブランクにした場合、すべての勘定科目が表示されます。

#### 3. 原価コードと原価タイプの範囲外の勘定科目へのアクセス許可

ブランク = 許可する

1 = 許可しない

セキュリティの一部として、原価コードと原価タイプを変更を制限するために使用します。有効な値は次のとおりです。

ブランク = 原価コードと原価タイプの範囲外の勘定科目の使用可(デフォルト)

1 = 勘定科目範囲を原価コードおよび原価タイプ範囲に限定

#### 4. 計算方法の変更許可

---

---

ブランク = 許可する

1 = 許可しない

計算方法フィールドの値の変更を許可するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 許可する

1 許可しない

## 5. カラム・バージョン

カラム・バージョンを指定します。検索ボタンをクリックすると、有効な値の一覧が表示されます。この処理オプションをブランクにすると、選択したユーザー・カラムが〈ユーザー一時変更の改訂〉プログラム(P98950)のユーザーID に保存されます。新しいユーザーID のバージョンは、ユーザー本人しか使用できず、検索フィールドには表示されません。カラム・バージョンをコピーするのに〈ユーザー一時変更の改訂〉プログラムは使用しないでください。〈ユーザー一時変更の改訂〉プログラムからコピーされたカラム・バージョンは、〈作業別進捗状況の入力〉プログラムでは認識されません。

注: 〈ユーザー一時変更の改訂〉プログラム(P98950)で〈作業別進捗状況の入力〉のカラム・バージョンを検索するには、[アプリケーション]フィールドに“P510121”、また[タイプ]フィールドに“JC”と入力してください。

---

## 処理タブ

---

### 1. 元帳タイプ

更新する金額元帳タイプを指定します。ブランクの場合、元帳タイプ JA が更新されます。予算数量元帳タイプは、金額元帳タイプによって自動的に決まります。たとえば、金額元帳タイプ JA に対応する予算数量元帳タイプはJUとなります。

### 2. 元帳日付のチェック

ブランク = チェックする

1 = チェックしない

作業原価システムで元帳日付のチェックを行うかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

---

- 
- ブランク チェックを行う  
1 チェックを行わない

### 3. 予算監査証跡の記録

- ブランク = 期間別に記録する  
1 = 変更ごとに記録する  
2 = 記録しない

作業原価予算の監査証跡の作成方法を指定します。有効な値は次のとおりです。

- ブランク 期間ごとに作成する  
1 変更ごとに作成する  
2 作成しない

### 4. 参照番号

作成された監査証跡レコードの更新する参照番号を指定します。

### 5. 変更仕訳の摘要

作成された監査証跡レコードに書き込む記述を指定します。ブランクにした場合、現場進捗入力の内容が書き込まれます。

### 6. カラム・バージョンの変更許可

- ブランク = 許可しない  
1 = 許可する

カラムバージョンの変更と追加を制限するために使用します。

有効な値は次の通りです。

- ブランク カラムバージョンの変更と追加を制限(デフォルト値)  
1 カラムバージョンの変更と追加可能

## バージョン・タブ

---

### 1. 当初予算(P510121)のバージョン

〈当初予算の入力〉プログラム(P510121)のバージョンを指定します。blankにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

### 2. 予算の改訂(P510171)のバージョン

〈作業予算の改訂〉プログラム(P510171)のバージョンを指定します。 blankにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

---

---

## 利益計算

作業の各進捗点において、作業の利益を見積るための利益計算(認識)を行うことができます。利益の計算にあたり、システムは費用発生額および収益に対する調整を行うための仕訳を作業完了率に基づいて作成し、各作業の利益を計算します。計算された利益見積額は、純利益または純損失のいずれかになります。ここでいう利益計算とは貸借対照表から損益計算書へ残高を移すことを指します。

利益を計算する場合、財務レポート作成のために見積利益を計上するための仕訳を作成できます。見積利益の計算は、実際の利益を作業の完了率で調整して行われます。また、貸借対照表の未成工事科目を損益計算書科目に振り替えることもできます。

利益計算は、作業の請求状況とは無関係に行うことができます。たとえば、完了した作業分を請求する前でも、作業利益を計算して計上することができます。

利益計算の主な目的は次のとおりです。

- 損益計算書に作業累計収益と費用を記録する
- 貸借対照表の未成工事支出金を損益計算書科目に振り替える
- 請求超過金額および請求不足金額を記録する
- 保管資材および未払費用(原価)に対する単一またはグループ作業の調整を入力する
- 予測損失に対する引当金を記録する

---

## 作業利益の見積り

作業利益を計算するには、〈利益計算〉プログラム(R51800)を実行します。計算された利益が正しくない場合は、そのバージョンを削除し、必要な作業情報を変更してからプログラムをもう一度実行します。

見積利益は次のような基準で計算されます。

- 完了率は各作業の現在の原価または収益(AA 元帳)を最終予測(HA 元帳)で割って計算される。
- 実現収益および実現原価は、最終予測金額×完了率で計算される。
- 作業の完了率は 100%より大きくはならない。計算された完了率が 100%を超える場合、利益の計算には 100%が使われます。
- 差異は実績金額から実現金額を引いて計算される。

完了率が一定値に達するまで作業の利益を計算しないように設定できます。この金額は利益計算の規定値と呼ばれます。勘定科目の利益計算における規定値の扱いは次のようになります。

- 完了率が規定値よりも小さい場合は、実現作業累計利益をゼロとして記録する。
- 完了率が原価に基づいている場合は、実現収益は実現原価と同じになるように変更される。完了率が収益を基準にしている場合は、実現原価は実現収益と同じになるように変更されます。
- 規定値に達したら、繰延利益は即座に計算されるか、または残りの各作業期間の比率に応じて計算される。

## 完了率の入力

完了率は、作業の利益を計算する前に入力できます。作業の完了率は手入力するか、または F% 元帳を一時変更しないことにより、実績額および最終予測金額を使用して完了率が計算されるように指定します。

作業マスター・レコードを作成すると、次の勘定科目が勘定科目マスター(F0902)に作成され、完了率情報が F% 元帳に保管されます。

- 作業番号.ブランク原価コード.ブランク原価タイプ

補助元帳別に利益を計算する場合は、各作業に対応する各補助元帳に完了率を入力してください。この場合、最終予測金額は HA 元帳には保管されません。

完了率は指定する計算方法を基に算出されます。

### ▶ 完了率を入力するには

---

〈利益認識〉メニュー(G5122)から、〈完了率の更新〉を選択します。

1. 〈作業マスターの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
  - 作業名
  - 会社
  - 作業タイプ
2. 作業を選択します。
3. [ロー]メニューから、[完了%の更新]を選択します。

PeopleSoft®

完了パーセントを更新する

OK 検索 キャンセル ロー ツール

会社 00050 Project Management Comps 期日付 6/30/2005

カテゴリコード01 補助元帳

作業No. 5100 Potomac Hotel

作業タイプ

☐ 未完了作業  
☒ すべての作業

レコード 1 - 10 グリッドのカスタマイズ

	作業 No.	記述	作業 タイプ	転記 編集	完了 %	
<input checked="" type="checkbox"/>	5100	Potomac Hotel	JB			<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	5200	Drill Press	JB			
<input type="checkbox"/>	5300	Cooler/Freezer	ET			
<input type="checkbox"/>	5350	Wet and Wily Wilderness Ride	JB			
<input type="checkbox"/>	5351	Baseball Ballpark	JB			
<input type="checkbox"/>	5352	Light Rail Construction	JB			
<input type="checkbox"/>	5400	Highway Contractor	JB			
<input type="checkbox"/>	5500	An Engineering Group	JB			
<input type="checkbox"/>	5600	Land Development Company	PJ			
<input type="checkbox"/>	6100	Protective Services	JB			

4. 〈完了率の更新〉で、次のフィールドに作業情報を入力して[OK]をクリックします。

- 完了%

#### 参照

- 作業の完了率計算については、『作業原価』ガイドの「計算方法の理解」

## フィールド記述

記述	用語解説
完了%	<p>フォームに表示するフィールドを決めるための計算方法と処理オプションの設定方法を示す値。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 強制+/-金額。このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制金額(FA)元帳の増分値を示します。強制金額はシステムにより計算されます。</li><li>○ 強制合計金額。このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制金額(FA)元帳の新しい合計値を示します。+/-強制金額はシステムにより計算されます。</li><li>○ 完了率。このフィールドは方法 F、G、O、P、S の場合に表示され、完了率(F%)元帳の新しい合計値を示します。</li><li>○ 完了見積金額。このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値と[完了見積数量]フィールド、[単位レート]フィールドの値が[実績金額]フィールドと[実績数量]フィールドに加算され、見積合計(見積最終値)が算出されます。HA(最終予測金額)元帳と HU(最終予測数量)元帳が更新されます。</li><li>○ 見積合計金額。このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値は見積最終値になります。見積最終金額(HA)元帳と見積最終数量(HU)元帳はシステムにより更新されます。</li></ul>

## 利益計算データの作成

〈利益計算/計上〉メニュー(G5122)から、〈利益計算〉を選択します。

作業の完了率を入力後に、〈利益計算〉プログラム(R51800)を実行して作業利益の見積りを出すことができます。利益は、HA 元帳の最終予測原価と最終予測収益にそれぞれ完了率を乗算して計算されます。

利益情報の見積りでは、作業の見積利益累計、最終予測利益、最終予測収益、最終予測原価および勘定明細が計算されます。見積利益は、財務レポートの作成目的に合わせて、期間、四半期累計、年累計、作業累計別に計算できます。

利益計算は、作業の請求状況とは無関係に行うことができます。完了した作業分を請求する前でも、作業利益を計算して計上することができます。

最終予測金額の計算は、次のいずれかによります。

- 作業の完了率から直接計算する
- 作業進捗状況の計算の際に作成した予測金額に基づいて計算する(AA 元帳金額÷HA 元帳金額)

最終予測金額は、HA 元帳の残高を基にするか、または実績金額を完了率で割って計算されます。最終予測収益は、いつも HA 元帳から計算されます。

利益は、プロジェクト・レベル、作業レベル、補助元帳レベルで計算できます。調整が必要な場合は、締め後の期間についての利益情報を再作成することもできます。



〈利益計算の作成〉プログラムにより次の数値が計算されます。

- 完了率
- 実現原価および実現収益
- 差異

## 処理オプション:利益計算(R51800)

### 処理タブ

利益計算を行うときのオプションを指定します。

---

#### 1. 実行モード

ブランク = テスト・モード

1 = 最終モード

プログラムの実行モードを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク

テストモードで実行する(デフォルト)。最終モードで実行する前に、まずテスト・モードで実行して、その結果を確認してください。テスト・モードで実行した場合、利益計算情報の更新は行われません。

1

最終モードで実行する。この場合、利益計算情報が更新されます。

#### 2. 期間終了日

利益を計算する期間の終了日付を指定します。有効な日付を入力してください。

#### 3. 前四半期の終了日

前回の四半期の終了日付を指定します。この日付には、既存の利益計算履歴レコードが必要です。前回の四半期の有効な終了日付を入力しない場合は、現行四半期の実現金額が発生作業累計金額に設定されます。

#### 4. 会社

---

利益を計算する会社の番号を指定します。会社固定情報テーブル(F0010)に存在し、完全な貸借

---

対照表がある会社番号を使用してください。

## 5. 集計のレベル

- 1 = プロジェクト
- 2 = 作業
- 3 = 補助元帳

財務データを保存する時の集計レベルを指定します。有効な値は次のとおりです。

- 1 プロジェクト・レベル
- 2 作業レベル(デフォルト)
- 3 補助元帳レベル

## 6. 規定値

利益計上の規定値(%)を指定します。例えば、10%の場合は 10 と入力してください。

## 7. 繰延利益の認識方法

- 1 = 繰延利益を一括して計上する
- 2 = 繰延利益を作業/プロジェクトの期間に配分する

繰延利益の認識方法を指定します。有効な値は次のとおりです。

- 1 = 繰延利益を一括して計上する(デフォルト)
- 2 = 繰延利益を作業/プロジェクトの期間に配分する

## 8. 最終予測原価

- ブランク = HA 元帳
- 1 = F%元帳

見積最終原価の計算に使用する元帳を指定します。有効な値は次のとおりです。

- ブランク = HA 元帳に保存された最終見積原価を累計する
- 1 = 原価コードと原価タイプがブランクになった F%元帳の完了率をもとに最終原価を見積もる

---

## 9. 利益認識方法

- 1 = 原価のパーセント
- 2 = 収益のパーセント
- 3 = 原価または収益(利益の低い方)のパーセント

個々のプロジェクト、作業、補助元帳にロードする利益の計算方法を指定します。有効な値は次のとおりです。

- 1 = 原価のパーセント(デフォルト)
- 2 = 収益のパーセント
- 3 = 原価または収益(利益額の低い方)のパーセント

---

## バージョン・タブ

実行するレポートのバージョンを指定します。

---

### 1. 管理者向け集計レポート(R51443)のバージョン

使用する管理者向け集計レポート(R51443)のバージョンを指定します。このレポートが必要ない場合は、ブランクにしてください。

---

## 計算バージョンの削除

〈利益計算/計上〉メニュー(G5122)から、〈利益計算バージョンの削除〉を選択します。

〈利益計算〉プログラム(R51800)で計算された利益が正しくない場合、同じ会計期間内であればそのレコードを削除してからもう一度作成し直すことができます。計算バージョンから仕訳が作成されている場合や、計算バージョンが仕訳の実績情報として更新されている場合は、計算バージョンは削除できません。

削除を実行すると、利益計算テーブル(F5144)から情報が削除されます。

### 処理オプション: 利益計算バージョンの削除(R51810)

#### 処理タブ

---

##### 1. 利益計算プログラムのバージョン

---

---

除去する〈利益計算〉プログラム(R51800)のバージョンを指定します。バージョンと作業の両方を除去できます。

## 2. 除去する作業

除去する〈利益計算〉プログラム(R51800)のバージョンを指定します。バージョンと作業の両方を除去できます。

---

## 利益計算作業状況レポートの印刷

〈利益計算/計上〉メニュー(G5122)から、〈利益計算作業状況〉を選択します。

〈利益計算作業状況〉レポート(R51445)を印刷して、各作業の原価、収益、総利益情報を検討します。有効日付を指定します。このレポートには次の情報が作業別に印刷されます。

- 完了時の予測値
- 年累計
- 前期残高
- 現行期間残高

## 処理オプション:利益計算作業状況(R51445)

### 選択タブ

---

#### 1. 有効日付

レポートの基準となる有効日付を指定します。この処理オプションがブランクの場合、会社 00000 の財務報告期間の終了日付が有効日付として使用されます。会社 00000 の財務報告日付が指定されていない場合、エラーが表示されます。

---

## 見積利益の改訂

---

利益情報の見積りでは、作業の見積利益累計、最終予測利益、最終予測収益、最終予測原価および勘定明細が計算されます。必要に応じて、利益情報を変更します。見積利益は、財務レポートにも使用できます。

見積利益が現状を反映していない場合は、次のうち必要な情報を変更します。

- 利益計算方法
- 未払費用(原価)または繰延費用(原価)
- 最終予測金額
- 完了率の規定値

単一またはグループ作業の調整後は〈利益計算〉プログラム(R51800)を再実行しないでください。

正しい見積利益が計算されたら、見積利益をロックして権限のないユーザーによって変更されないようにします。ロックされた情報を変更するには、最初にロックを解除する必要があります。解除ができるのは、ロックした担当者のみです。

誤計算した見積利益を削除するには、〈利益計算バージョンの削除〉プログラム(R51810)を実行してください。

---

### 注:

利益計算情報が実績データになっている場合は改訂できません。利益計算情報が実績データかどうかを調べるには、〈利益計上バージョンの処理〉フォームを使用します。作業の[バージョン]フィールドがブランクの場合は、仕訳が既に作成されており、利益計算情報は実績データであることを意味します。

---

## 単一作業に関する見積利益の改訂

〈グループ作業の調整〉または〈単一作業の調整〉を使用して、最終予測収益、最終予測原価、最終予測利益を変更します。利益の見積りに関連する予算や実績、またはコミットメントを改訂する場合は、最初のデータに戻って変更してください。改訂を行った場合は、前回のバージョンを削除してから〈利益計算〉プログラム(R51800)を再度実行してください。

### ▶ 単一作業に関する見積利益を改訂するには

---

〈利益計算/計上〉メニュー(G5122)から、〈単一作業の調整〉を選択します。

1. 〈利益計上バージョンの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
  - バージョン
  - 有効日付
  - 作業 No.

2. [バージョン]フィールドに値が入っている作業を選択します。
3. 単一作業についての情報を検討するには、[ロー]メニューから[単一作業]を選択します。

PeopleSoft®

単一作業の調整

OK キャンセル フォーム ツール

バージョン:  有効日付: 05/31/05

作業No.: 5100 Potomac Hotel 補助元帳:

利益率(%):  完了率入力: ☐ 見越(繰延):

認識方法: 1 Percent of cost (Cost to Cost) 繰延方法: 1 Recognize all profit in 1st PP

	収益	原価	利益	%
最終予測金額	4,570,000.00	4,259,500.00	310,500.00	6.79
実績累計	<input type="text"/>	5,000.00	5,000.00-	<input type="text"/>
完了率		0.12		
残存	4,570,000.00	4,254,500.00	315,500.00	6.90
改訂予算	4,570,000.00	4,259,500.00	310,500.00	6.79
現行期間	5,364.48	5,000.00	364.48	6.79
年累計	5,364.48	5,000.00	364.48	6.79
作業累計	5,364.48	5,000.00	364.48	6.79
未実現	4,564,635.52	4,254,500.00	310,135.52	6.79
請求不足		5,364.48		

4. 〈単一作業の調整〉で、次のうち該当するオプションをクリックします。
  - 利益率(%)
  - 見越(繰延)
  - 計算方法
  - 繰延方法
5. 最終予測値を変更するには、[最終予測金額]フィールドに必要な値を入力します。
  - 収益
  - 原価
  - 利益

最終予測収益か最終予測原価、あるいはその両方を変更できます。変更した値を基に、最終予測利益が再計算されます。

最終予測利益を入力する場合は、最終予測利益か最終予測原価のいずれかはブランクにして、システムによって計算されるようにしてください。

6. 作業の完了率情報を変更するには、[完了率入力]オプションを選択し、必要な完了率フィールドに値を入力します。

- 収益
- 原価
- 利益

[完了率入力]オプションを選択すると、詳細域の[最終予測金額]フィールドは[完了率]に変わります。[完了率入力]オプションの選択を解除すると、グリッドの[完了率]フィールドは[最終予測金額]に戻ります。

収益か原価のパーセント、あるいはその両方を変更できます。変更した値を基に、最終予測利益が再計算されます。

最終予測利益をパーセントで入力した場合は、最終予測収益か最終予測原価をブランクにして、システムにより計算されるようにしてください。

7. 見積利益をロック/ロック解除するには、[フォーム]メニューから[ロック/ロック解除]を選択します。

見積利益がロックされている場合は、フィールドに値を入力できません。ロックの解除は、利益情報をロックした担当者のみが実行できます。

8. <バージョンのロック/アンロック>で[OK]をクリックします。
9. 作業の予算情報を検討するには、<単一作業の調整>で[フォーム]メニューから[予算情報]を選択します。
10. 作業の勘定科目情報を検討するには、<単一作業の調整>で[フォーム]メニューから[作業状況照会]を選択します。
11. 四半期の累計を検討するには、<単一作業の調整>で[フォーム]メニューから[四半期累計]を選択します。
12. 作業の添付を検討するには、<単一作業の調整>で[フォーム]メニューから[添付]を選択します。

## フィールド記述

記述	用語解説
利益率(%)	作業における実際原価が、利益の計算に対して有効になる完了レベル。作業の完了率がこの規定値(%)を下回る場合には、利益計算は繰り延べられません。完了率がこの規定値以上である場合は、利益が計算されます。繰り延べられた利益全体を現行期間に対して計上するか、作業の期間に比例させて計上することが可能です。次のいずれかを使用して規定値(%)を指定してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>◦ &lt;利益認識&gt;プログラムの処理オプション</li><li>◦ &lt;単一作業調整&gt;フォームの[利益%]フィールド</li></ul>

<b>見越(繰延)</b>	<p>作業原価に対して未払費用または繰延費用を加減計算する場合に指定するコード。繰延費用とは、入荷しているがまだ作業現場で使用されていない保管資材の値です。プラスの金額をこのフィールドに入力した場合は、未払費用として作業原価(累計額)にその金額が加算されます。マイナスの金額をこのフィールドに入力した場合は、見越原価として作業原価(累計額)からその金額が減算されます。利益計算処理では、この金額はゼロに初期設定されています。</p> <p>注: AAI 項目 JCSMI および JCSTMJ は繰延費用勘定を識別します。AAI 項目 JCAPC および JCAPO は未払費用勘定を識別します。</p>
<b>計算方法</b>	<p>実現利益(作業累計利益)の計算方法を指定するコード。利益計算に原価と請求(収益)のどちらを使用するかを指定します。有効な値は次のとおりです。</p> <p>1 = 原価率(原価対原価)  2 = 収益率  3 = 完了率を原価/収益のうち少ない方に掛ける。</p> <p>完了率は、実現利益の作業累計額のうち少ない方に率を適用します。  注: 実現利益(作業累計利益)が原価と収益のどちらも同じ場合は、方法1を使用します。</p>
<b>繰延方法</b>	<p>作業の完了率のパーセントが利益計算の規定値を下回っていた時の繰延利益を計上する方法を指定します。有効な値は次のとおりです。</p> <p>1 = 完了率が規定値以上になった最初の期間で、それまでのすべての利益を計上します。  2 = 完了率が規定値以上である最初の期間で始まる作業期間全体に対して均一に利益を計上します。利益合計は次のように計算されます。  <math display="block">[(完了\% - 規定値\%) \div (1 - 規定値\%)] \times 見 積 最 終 利 益</math></p>
<b>収益</b>	<p>ある作業の収益勘定に対応する予算変更の合計額。収益は、作業原価勘定の勘定残高テーブル(F0902)にある現行年度レコードを使用して計算されます。繰越残高と現行会計期間までの各会計期間の正味転記額がレコードに合算されます。関連する元帳の元帳タイプはユーザー定義コード 51/RB および 51/RU です。</p> <p>注: AAI 項目の JCCAXX によって、収益勘定の範囲が指定されます。</p>
<b>原価</b>	<p>見積金額元帳 HA の作業に対応するすべての原価勘定の当初予算額。この金額は、すべての原価勘定に対応する勘定残高テーブル(F0902)の当年度残高レコードの[当初予算]フィールド(BORG)の合計額です。</p> <p>注: AAI 項目の JCSTXX によって、原価勘定とみなされる勘定科目が決まります。</p>

## 処理オプション: 利益計算マスター(P5144)

### バージョン・タブ

#### 1. 作業状況照会(P512000)のバージョン

〈作業状況の照会〉プログラム(P5121000)のバージョンを指定します。空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。



---

## 2. [選択]ボタン・エグジット

1 = グループ作業の調整

2 = 単一作業の調整

[選択]ボタンをクリックしたときに実行するアプリケーションを指定します。フォームのグリッドでレコード行を選んで[選択]ボタンをクリックするか、レコード行をダブルクリックすれば、指定したアプリケーションを実行できます。有効な値は次のとおりです。

1 グループ作業の調整(デフォルト)

2 単一作業の調整

---

## 複数作業に関する見積利益の改訂

〈グループ作業の調整〉または〈単一作業の調整〉を使用して、最終予測収益、最終予測原価、最終予測利益を変更します。利益の見積りに関連する予算や実績、またはコミットメントを改訂する場合は、最初のデータに戻って変更してください。改訂を行った場合は、前回のバージョンを削除してから〈利益計算〉プログラム(R51800)を再度実行してください。

### ▶ 複数作業に関する見積利益を検討するには

---

〈利益計算/計上〉メニュー(G5122)から、〈グループ作業の調整〉を選択します。

1. 〈利益計上バージョンの処理〉で、[フォーム]メニューから[グループ作業]を選択します。

PeopleSoft®

グループ作業の調整

OK 検索 キャンセル ロー ツール

バージョン  有効日

作業No.  ☐ 完了率の入力

グリッドのカスタマイズ

	作業No.	作業名	バージョン	有効日付	規定%	繰延方法	認識方法	最終予測収益	最終予測原価
<input checked="" type="radio"/>	5100	Potomac Hotel		05/31/05		1	1	4,570,000.00	4,259,500.00
<input type="radio"/>	5200	Drill Press		05/31/05		1	1		3,825.00
<input type="radio"/>	1620	Birmingham Steel - Memp XJDE0001		06/30/05		1	1	12,300,000.00	11,025,200.00
<input type="radio"/>	29001	Heavy Highway Constructi XJDE0001		06/30/05		1	1	640,000.00	410,169.00

2. <グループ作業の調整>で、グリッドの次のカラムをドラッグすることにより詳細情報を並べ替えることができます。
  - バージョン
  - 有効日付
  - 発生作業累計
  - 年累計
  - 発生現行四半期
  - 発生現行期間
3. 複数作業に関する見積利益は、次のように検討できます。
  - 見積方法を変更して、見積利益を変更するには、[バージョン]フィールドに値が入力されている作業を選択し、次のうち必要なフィールドに値を入力します。
  - 認識方法
  - 規定%
  - 繰延方法
  - 見越/繰延額
  - 最終金額についての情報を使用して、見積利益を変更するには、[バージョン]フィールドに値が入力されている作業を選択し、次のうち必要なフィールドに値を入力します。
  - 最終予測収益
  - 最終予測原価

- 最終予測利益
- 最終予測収益か最終予測原価、あるいはその両方を変更できます。変更した値を基に、最終予測利益が再計算されます。
- 最終予測利益を入力する場合は、最終予測利益か最終予測原価のいずれかは空白にして、システムによって計算されるようにしてください。
- 完了率情報を変更するには、[完了率の入力]オプションを選択します。[バージョン]フィールドに値が入力されている作業を選択し、次のうち必要なフィールドに値を入力します。
- 最終予測収益%
- 最終予測原価%
- 最終予測利益%

[完了率入力]オプションを選択すると、詳細域の[最終予測金額]フィールドは[完了率]に変わります。[完了率入力]オプションの選択を解除すると、グリッドの[完了率]フィールドは[最終予測金額]に戻ります。

収益か原価のパーセント、あるいはその両方を変更できます。変更した値を基に、最終予測利益が再計算されます。

最終予測利益をパーセントで入力した場合は、最終予測収益か最終予測原価を空白にして、システムにより計算されるようにしてください。

- 作業の利益情報をロック/ロック解除するには、次のフィールドに値を入力します。
- ユーザーロック

見積利益がロックされている場合は、フィールドに値を入力できません。ロックの解除は、利益情報をロックした担当者のみが実行できます。

#### 4. [OK] をクリックします。

- 単一作業についての見積情報を検討するには、作業を選択して[ロー]メニューから[単一作業]を選択します。
- 単一作業についての予算情報を検討するには、作業を選択して[ロー]メニューから[予算]を選択します。
- 作業の勘定科目を検討するには、作業を選択して[ロー]メニューから[作業状況の照会]を選択します。
- 作業の添付情報を検討するには、作業を選択して[ロー]メニューから[添付]を選択します。

## フィールド記述

記述	用語解説
規定%	<p>作業における実際原価が、利益の計算に対して有効になる完了レベル。作業の完了率がこの規定値(%)を下回る場合には、利益計算は繰り延べられません。完了率がこの規定値以上である場合は、利益が計算されます。繰り延べられた利益全体を現行期間に対して計上するか、作業の期間に比例させて計上することが可能です。次のいずれかを使用して規定値(%)を指定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 〈利益認識〉プログラムの処理オプション</li> <li>◦ 〈単一作業調整〉フォームの[利益%]フィールド</li> </ul>
繰延方法	<p>作業の完了率のパーセントが利益計算の規定値を下回っていた時の繰延利益を計上する方法を指定します。有効な値は次のとおりです。</p> <p>1 = 完了率が規定値以上になった最初の期間で、それまでのすべての利益を計上します。</p> <p>2 = 完了率が規定値以上である最初の期間で始まる作業期間全体に対して均一に利益を計上します。利益合計は次のように計算されます。</p> $[(完了\% - 規定値\%) \div (1 - 規定値\%)] \times 見 積 最 終 利 益$
見越/繰延額	<p>フォームに表示するフィールドを決めるための計算方法と処理オプションの設定方法を示す値。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 強制+/-金額。このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制金額(FA)元帳の増分値を示します。強制金額はシステムにより計算されます。</li> <li>◦ 強制合計金額。このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制金額(FA)元帳の新しい合計値を示します。+/-強制金額はシステムにより計算されます。</li> <li>◦ 完了率。このフィールドは方法 F、G、O、P、S の場合に表示され、完了率(F%)元帳の新しい合計値を示します。</li> <li>◦ 完了見積金額。このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値と[完了見積数量]フィールド、[単位レート]フィールドの値が[実績金額]フィールドと[実績数量]フィールドに加算され、見積合計(見積最終値)が算出されます。HA(最終予測金額)元帳とHU(最終予測数量)元帳が更新されます。</li> <li>◦ 見積合計金額。このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値は見積最終値になります。見積最終金額(HA)元帳と見積最終数量(HU)元帳はシステムにより更新されます。</li> </ul>

---

**最終予測収益**

フォームに表示するフィールドを決めるための計算方法と処理オプションの設定方法を示す値。有効な値は次のとおりです。

- 強制+/-金額。このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制金額(FA)元帳の増分値を示します。強制金額はシステムにより計算されます。

- 強制合計金額。このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制金額(FA)元帳の新しい合計値を示します。+/-強制金額はシステムにより計算されます。

- 完了率。このフィールドは方法 F、G、O、P、S の場合に表示され、完了率(F%)元帳の新しい合計値を示します。

- 完了見積金額。このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値と[完了見積数量]フィールド、[単位レート]フィールドの値が[実績金額]フィールドと[実績数量]フィールドに加算され、見積合計(見積最終値)が算出されます。HA(最終予測金額)元帳と HU(最終予測数量)元帳が更新されます。

- 見積合計金額。このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値は見積最終値になります。見積最終金額(HA)元帳と見積最終数量(HU)元帳はシステムにより更新されます。

**最終予測利益**

フォームに表示するフィールドを決めるための計算方法と処理オプションの設定方法を示す値。有効な値は次のとおりです。

- 強制+/-金額。このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制金額(FA)元帳の増分値を示します。強制金額はシステムにより計算されます。

- 強制合計金額。このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制金額(FA)元帳の新しい合計値を示します。+/-強制金額はシステムにより計算されます。

- 完了率。このフィールドは方法 F、G、O、P、S の場合に表示され、完了率(F%)元帳の新しい合計値を示します。

- 完了見積金額。このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値と[完了見積数量]フィールド、[単位レート]フィールドの値が[実績金額]フィールドと[実績数量]フィールドに加算され、見積合計(見積最終値)が算出されます。HA(最終予測金額)元帳と HU(最終予測数量)元帳が更新されます。

- 見積合計金額。このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値は見積最終値になります。見積最終金額(HA)元帳と見積最終数量(HU)元帳はシステムにより更新されます。

---

<b>最終予測原価</b>	<p>作業の原価勘定科目用の勘定残高テーブル(F0902)の最終予測金額(元帳タイプ HA)。作業開始時点では、〈利益計算ファイルの作成〉プログラム(R51800)を実行して算出される最終予測原価とこの値が一致します。この値は、プログラム実行後に手入力で変更できます。</p> <p>パーセントの値を入力すると金額が自動計算されます。完了率のパーセントを入力する場合は、数字の前か後にパーセント記号(%)を入力してください。たとえば、20 パーセントは "%20"または"20%"と入力します。</p> <p>注: AAI 項目の JOSTXX によって、原価勘定の範囲が指定されます。</p>
<b>最終予測利益%</b>	<p>フォームに表示するフィールドを決めるための計算方法と処理オプションの設定方法を示す値。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 強制+/-金額。このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制金額(FA)元帳の増分値を示します。強制金額はシステムにより計算されます。</li> <li>○ 強制合計金額。このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制金額(FA)元帳の新しい合計値を示します。+/-強制金額はシステムにより計算されます。</li> <li>○ 完了率。このフィールドは方法 F、G、O、P、S の場合に表示され、完了率(F%)元帳の新しい合計値を示します。</li> <li>○ 完了見積金額。このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値と[完了見積数量]フィールド、[単位レート]フィールドの値が[実績金額]フィールドと[実績数量]フィールドに加算され、見積合計(見積最終値)が算出されます。HA(最終予測金額)元帳と HU(最終予測数量)元帳が更新されます。</li> <li>○ 見積合計金額。このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値は見積最終値になります。見積最終金額(HA)元帳と見積最終数量(HU)元帳はシステムにより更新されます。</li> </ul>

---

**最終予測原価%**

フォームに表示するフィールドを決めるための計算方法と処理オプションの設定方法を示す値。有効な値は次のとおりです。

- 強制+/-金額。このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制金額(FA)元帳の増分値を示します。強制金額はシステムにより計算されます。
  - 強制合計金額。このフィールドは方法 F、G、O、Q、S の場合に表示され、強制金額(FA)元帳の新しい合計値を示します。+/-強制金額はシステムにより計算されます。
  - 完了率。このフィールドは方法 F、G、O、P、S の場合に表示され、完了率(F%)元帳の新しい合計値を示します。
  - 完了見積金額。このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値と[完了見積数量]フィールド、[単位レート]フィールドの値が[実績金額]フィールドと[実績数量]フィールドに加算され、見積合計(見積最終値)が算出されます。HA(最終予測金額)元帳と HU(最終予測数量)元帳が更新されます。
  - 見積合計金額。このフィールドは方法 E の場合のみ表示されます。このフィールドの値は見積最終値になります。見積最終金額(HA)元帳と見積最終数量(HU)元帳はシステムにより更新されます。
- 

## 利益計上仕訳の理解

---

利益計算の最終ステップは、利益を確定するための仕訳の作成です。〈仕訳の作成〉プログラム(R51444)により、処理する各利益計算レコードに対して仕訳が作成されます。

取引明細テーブル(F0911)用の仕訳が作成されます。この処理により、伝票タイプ“JE”(仕訳)のバッチ伝票が作成されます。

仕訳タイプには、未成工事支出金のように貸借対照表から損益計算書に振り替えられる収益および費用についての仕訳が含まれます。この情報に対する翌期間の逆仕訳は行われません。

別のタイプの仕訳には、過少および超過請求、または原価差異、繰延原価、買掛金、最終予測損失の計算が含まれます。この情報は、翌期間に逆仕訳されます。

仕訳の作成後、利益計算レコードは実績データとなり、バージョンがブランクになります。実績利益計算レコードは変更できません。仕訳を変更するには、勘定残高テーブル(F0902)に転記してから〈利益計算〉プログラム(R51800)を実行して同じ期間の利益を再計算してください。このような場合、当初の情報に対する変更額を記載した仕訳が作成されます。

各仕訳には、ビジネスユニット、主科目、補助科目など勘定科目コードの構成要素についての記述とシステムによる検索順序が含まれます。勘定科目要素と順序情報は、2 カラム形式で表示されます。左のカラムは、勘定科目コードの構成要素についてです。右カラムは、特定の勘定科目要素の有効値を識別するための順序を示します。

## 収益および費用-損益計算書

損益計算書(IS)と貸借対照表(BS)用の AAI によって、貸借対照表の未成工事支出金(WIP)が損益計算書の完成工事原価に、そして対応する完成工事高が収益勘定に振り替えられます。

次の一覧で、勘定科目コードの要素(左)と、その有効値を検索するための順序(右)を示します。

ビジネスユニット	1. 〈仕訳の作成〉プログラム(R51444)の処理オプション 2. IS AAI 3. 利益計算テーブル(F5144)の現行バージョン
主科目	IS AAI
補助科目	IS AAI
補助元帳	1. 処理オプション 2. IS AAI
補助元帳タイプ	1. 処理オプション 2. IS AAI

別のビジネスユニット・タイプを基準にして収益および費用を認識する場合は、IS の代わりに使用する AAI が UDC(51/IS)を使って検索されます。指定した AAI が見つからない場合は、AAI 項目 ISxxxx が使われます。

特定の費用または収益を別の勘定に記録する場合は、ISxxxx と BSxxxx を定義してください。XXXX は、未成工事勘定主科目の最初の 4 桁です。ISxxxx が設定されていない場合は、AAI 項目 IS の主科目が使われます。BSxxxx が設定されていない場合は、AAI 項目 BS の主科目が使われます。

AAI 項目 IS と BS は、当初入力の主科目原価タイプが AAI 項目 GLG2 と GLG5 で指定された範囲内に入る場合のみ設定してください。これらのデータ項目は一般会計システムで定義されます。

## 収益および費用-貸借対照表の未成工事支出金

ビジネスユニット	利益計算テーブル(F5144)の現行バージョン
主科目	BS シリーズ(AAI)
補助科目	BS シリーズ(AAI)
補助元帳	利益計算テーブル(F5144)の現行バージョン
補助元帳タイプ	利益計算テーブル(F5144)の現行バージョン

この勘定は翌月に逆仕訳されません。



### 超過請求

実績収益が作業の実現累計収益よりも大きい場合は、超過請求を意味します。この場合、(借)未実現収益勘定、(貸)収益勘定(超過請求収益など)という仕訳が作成されます。

原価の比率を使用している場合は、超過請求金額が作成されます。収益の比率を使用している場合は、原価が調整されます。

### 借方

ビジネスユニット	1. 処理オプション 2. JCCOUA (AAI) 3. 利益計算テーブル(F5144)の現行バージョン
主科目	JCCOUA (AAI)
補助科目	JCCOUA (AAI)
補助元帳	1. 処理オプション 2. 利益計算テーブル(F5144)の現行バージョン
補助元帳タイプ	1. 処理オプション 2. 利益計算テーブル(F5144)の現行バージョン

収益の比率を使用する場合、借方用の AAI 項目は JCBOUA です。

### 貸方

ビジネスユニット	1. JCBE (AAI) 2. 利益計算テーブル(F5144)の現行バージョン
主科目	JCBE (AAI)
補助科目	JCBE (AAI)
補助元帳	ブランク
補助元帳タイプ	ブランク

### 過少請求

実績収益が作業の実現累計収益よりも小さい場合は、過少請求を意味します。収益勘定(過少請求収益など)に対して仕分けが作成されます。未実現収益勘定科目に対しては相殺借方も作成されます。

原価の比率を使用している場合は、過少請求額が計算されます。収益の比率を使用している場合は、原価が調整されます。

## 借方

ビジネスユニット	1. JCCE (AAI) 2. 利益計算テーブル(F5144)の現行バージョン
主科目	JCCE (AAI)
補助科目	JCCE (AAI)
補助元帳	フランク
補助元帳タイプ	フランク

## 貸方

ビジネスユニット	1. 処理オプション 2. JCCOUA (AAI) 3. 利益計算テーブル(F5144)の現行バージョン
主科目	JCCOUA (AAI)
補助科目	JCCOUA (AAI)
補助元帳	1. 処理オプション 2. 利益計算テーブル(F5144)の現行バージョン
補助元帳タイプ	1. 処理オプション 2. 利益計算テーブル(F5144)の現行バージョン

収益の比率を使用している場合、貸方用 AAI 項目は JCBOUA です。

## 損失引当金

最終予測損益が損失となる場合は、その損失は発生した期間に記録されます。使用する利益計算方法に従って、費用および収益が調整されます。損失引当金に対する相殺仕訳は、AAI 項目 BSLOSS で指定された勘定に作成されます。AAI 項目 BSLOSS を指定しない場合は、JCBE が使用されます。

### 借方

ビジネスユニット	1. 処理オプション
	2. JCLOSS (AAI)
	3. 利益計算テーブル(F5144)の現行バージョン
主科目	JCLOSS (AAI)
補助科目	JCLOSS (AAI)
補助元帳	1. 処理オプション
	2. 利益計算テーブル(F5144)の現行バージョン
補助元帳タイプ	1. 処理オプション
	2. 利益計算テーブル(F5144)の現行バージョン

### 貸方

ビジネスユニット	1. BSLOSS (AAI)
	2. JCBE (AAI)
	3. 利益計算テーブル(F5144)の現行バージョン
主科目	1. BSLOSS (AAI)
	2. JCBE (AAI)
補助科目	1. BSLOSS (AAI)
	2. JCBE (AAI)
補助元帳	ブランク
補助元帳タイプ	ブランク

## 未払費用

〈グループ作業の調整〉フォームおよび〈単一作業の調整〉フォームの[見越/繰延]フィールドの値がマイナスである場合、それは作業原価(累計額)から減算される繰延原価を示します。未払費用(原価)の記録には、AAI 項目 JCAPO(相手科目)および JCAPC(未払費用)が使用されます。

## 借方

ビジネスユニット	1. JCAPC (AAI)
	2. 利益計算テーブル(F5144)の現行バージョン
主科目	JCAPC (AAI)
補助科目	JCAPC (AAI)
補助元帳	利益計算テーブル(F5144)の現行バージョン
補助元帳タイプ	利益計算テーブル(F5144)の現行バージョン

未払費用(原価)を貸借対照表から損益計算書に振り替えるには、AAI 項目の IS シリーズと BS シリーズが使用されます。これらの仕訳は翌月に逆仕訳されます。

AAI 項目 JCAPC で定義された勘定科目コードが貸借対照表にある場合は、AAI 項目 IS と BS の仕訳が作成されます。

## 貸方

ビジネスユニット	1. JCAPO (AAI)
	2. 利益計算テーブル(F5144)の現行バージョン
主科目	JCAPO (AAI)
補助科目	JCAPO (AAI)
補助元帳	ブランク
補助元帳タイプ	ブランク

## 繰延費用

〈グループ作業の調整〉フォームおよび〈単一作業の調整〉フォームの[見越/繰延]フィールドの値が正である場合、それは繰延費用(原価)または保管資材を示します。繰延費用(原価)の記録には、AAI 項目 JCSMI と CSMJ が使用されます。

## 借方

ビジネスユニット	1. JCSMI (AAI)
	2. 利益計算テーブル(F5144)の現行バージョン
主科目	JCSMI (AAI)
補助科目	JCSMI (AAI)
補助元帳	ブランク
補助元帳タイプ	ブランク

AAI 項目 JCSMI で定義された勘定科目コードが貸借対照表にある場合は、AAI 項目 IS と BS の仕訳が作成されます。

## 貸方

ビジネスユニット	1. JCSMJ (AAI)
	2. 利益計算テーブル(F5144)の現行バージョン
主科目	JCSMJ (AAI)
補助科目	JCSMJ (AAI)
補助元帳	利益計算テーブル(F5144)の現行バージョン
補助元帳タイプ	利益計算テーブル(F5144)の現行バージョン

### 最終予測原価に対する変更

最終予測原価用に定義する勘定科目の計算方法はすべて F(強制)または G(予算デフォルト-強制)にしてください。

ビジネスユニット	利益計算テーブル(F5144)の現行バージョン
主科目	JCPFC (AAI)
補助科目	JCPFC (AAI)
補助元帳	利益計算テーブル(F5144)の現行バージョン
補助元帳タイプ	利益計算テーブル(F5144)の現行バージョン

### 最終予測収益に対する変更

最終予測原価の変更と同じソースが最終予測収益にも適用されます。ただし、AAI 項目は JCPFR が使用されます。

収益用に定義する勘定科目の計算方法はすべて F(強制)または G(予算デフォルト-強制)にしてください。

### 最終予測利益に対する変更

最終予測原価の変更と同じソースが最終予測利益にも適用されます。ただし、AAI 項目は JCPFP が使用されます。

最終予測利益用に定義する勘定科目の計算方法はすべて F(強制)または G(予算デフォルト-強制)にしてください。

---

#### 注:

これらの仕訳は FA 元帳への入力のためのため、相手科目は存在しません。

---

## 利益計上仕訳の処理

---

〈利益計算〉プログラム(R51800)を実行すると、利益計算レコードが作成されます。このレコードには、超過請求と過少請求情報、収益と費用情報、見積金額などが含まれます。〈仕訳の作成〉プログラム(R51444)により、処理する各利益計算レコードに対して仕訳が作成されます。利益計算情報の作成と改訂後、利益計上仕訳を作成して勘定残高テーブル(F0902)に転記できます。

#### 参照

- 『一般会計』ガイドの「仕訳の入力」

## 利益計上仕訳の作成

〈利益認識〉メニュー(G5122)から、〈仕訳の作成〉を選択します。

利益計算情報の作成と改訂後、〈仕訳の作成〉プログラム(R51444)を使用して利益計算仕訳を作成して勘定残高テーブル(F0902)に転記できます。〈利益計算〉プログラム(R51800)で計算された利益を計上するための仕訳を作成すると、未転記バッチが作成されます。

---

### 注:

仕訳の作成後、利益計算レコードは実績データとなり、バージョンがblankになります。実績データとなった利益計算レコードは変更できません。仕訳を変更するには、勘定残高テーブル(F0902)に転記してから、〈利益計算〉プログラムを実行して同じ期間の利益を再計算し、必要な変更を加えます。その後、新しい仕訳を作成してください。このような場合、当初の情報に対する変更額を記載した仕訳が作成されます。

---

## 処理オプション:利益計算の仕訳作成(R51444)

### 処理タブ

---

#### 1. 最終予測変更仕訳の作成

blank = 作成しない

1 = 作成する

最終予測(原価、収益、利益)に対する変更の監査証跡(仕訳)を作成するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 作成しない(デフォルト)

1 作成する

#### 2. 元帳タイプ

最終予測の変更に対する仕訳を作成する際に使用する元帳タイプを指定します。blankにした場合、元帳タイプ FA が使用されます。

注: 元帳タイプ FA を使用する場合は、計算方法として F または G を使用しないと最終予測金額が正しく計算されません。

#### 3. 勘定科目の一時変更

---

---

## 作業(ビジネスユニット)

損益計算書に原価、収益、超過/過小請求の仕訳を作成する際に、勘定科目を一時変更するのに使用する作業を指定します。

注: 入力した作業番号、補助元帳、補助元帳タイプは、AAI(ISXXXX、JCCOUA、JCBOUA、JCLOSS)で設定した値を一時変更します。

## 補助元帳

損益計算書に原価、収益、超過/過小請求の仕訳を作成する際に、勘定科目を一時変更するのに使用する補助元帳を指定します。

注: 入力した作業番号、補助元帳、補助元帳タイプは、AAI(ISXXXX、JCCOUA、JCBOUA、JCLOSS)で設定した値を一時変更します。

## 補助元帳タイプ

損益計算書に原価、収益、超過/過小請求の仕訳を作成する際に、勘定科目を一時変更するのに使用する補助元帳タイプを指定します。

注: 入力した作業番号、補助元帳、補助元帳タイプは、AAI(ISXXXX、JCCOUA、JCBOUA、JCLOSS)で設定した値を一時変更します。

---

## 仕訳の検討

仕訳の作成後、作成した仕訳を勘定残高テーブル(F0902)に転記する前に内容を確認してください。

仕訳を検討する際、バッチ・タイプ、番号、日付、ユーザーID の状況などに基づいてバッチを一覧表示することができます。たとえば、転記状況が一時保留のバッチすべてを検討するとします。

---

### 注:

バッチ検討のセキュリティ機能が有効になっている場合、入力されたバッチがすべて表示されない場合もあります。その代わりに、検討と承認に対する権限が与えられているバッチのみが表示されます。

---

バッチ・リストを検討した後、特定の仕訳バッチ内にある取引明細にアクセスできます。たとえば、1つのバッチ内にある仕訳の数を検討できます。特定の仕訳を選択して検討することもできます。



未転記の仕訳は、摘要と勘定科目や金額などの明細行を変更できます。次のフィールドの値を変更できます。

- 伝票タイプ
- 伝票 No.
- 伝票会社
- 元帳日付
- 通貨コード
- 元帳タイプ

検討プログラムによって、次のテーブルの情報が表示されて更新されます。

- バッチ制御(F0011)
- 取引明細(F0911)

バッチ制御を使用すると、予想合計と入力合計の差が表示されます。伝票件数の差異と合計金額の差額が表示されます。バッチ制御を設定しない場合は、ゼロから実際の入力件数および金額が差し引かれて、マイナスで表示されます。

#### ▶ バッチ一覧を表示するには

---

〈利益認識〉メニュー(G5122)から、〈仕訳の検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
  - バッチ No./タイプ
2. 表示するバッチ情報を絞り込むには、次のオプションのうち 1 つを選択して[検索]をクリックします。
  - すべてのバッチ
  - 転記済みバッチ
  - 未転記バッチ
  - 保留
3. 仕訳バッチの一覧を検討します。

#### フィールド記述

記述	用語解説
バッチ No./タイプ	複数のトランザクションを 1 つのグループとして処理するための番号。バッチを作成する際、バッチ番号は自動採番により割り当てることも手入力することもできます。

---

## ▶ 仕訳明細を検討し改訂するには

---

〈利益認識〉メニュー(G5122)から、〈仕訳の検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
  - バッチ No./タイプ
2. 表示するバッチ情報を定義するには、次のオプションのうち 1 つを選択して[検索]をクリックします。
  - すべてのバッチ
  - 転記済みバッチ
  - 未転記バッチ
  - 保留
3. 仕訳詳細を改訂するには、次のような方法があります。
  - バッチの転記を承認するには、バッチを選んで[ロー]メニューから[バッチ承認]を選択します。
  - バッチ見出し情報を作成または変更するには、バッチを選んで[ロー]メニューから[改訂]を選択します。
  - 仕訳のタイプ別にバッチを検討するには、バッチを選んで[ロー]メニューから[バッチの検討]を選択して、次のいずれかを選択します。
    - 仕訳の検討
    - 伝票の検討
    - 支払の検討
    - 請求書の検討
    - 入金の検討
    - 手形の受取
    - 自動入金
  - 元帳転記レポートを作成するには、バッチを選択して[ロー]メニューから[バッチ別の転記]を選択します。
  - サブシステム別元帳転記を検討するには、バッチを選択して[ロー]メニューから[サブシステム転記]を選択します。
  - 新しいバッチ見出し情報を検討するには、[フォーム]メニューから[作成]を選択します。
  - バージョン番号別の転記一覧を作成するには、[フォーム]メニューから[バージョン別転記]を選択します。

- 取引情報を検討するには、[フォーム]メニューから[取引入力]を選択し、次のいずれかを選択します。

仕訳入力

伝票入力

入金入力

請求書入力

- 組織と設定情報を検討するには、[フォーム]メニューから[各種設定]を選択し、次のオプションの1つを選択します。

会社

ビジネスユニット

勘定科目

期間パターン

元帳タイプ

AAI(自動仕訳)

UDC

- 固定情報を検討するには、[フォーム]メニューから[各種設定] - [システム・セットアップ]を選び、次のいずれかを選択します。

一般会計固定情報

買掛管理固定情報

売掛管理固定情報

住所録固定情報

固定資産固定情報

作業原価固定情報

## 処理オプション: バッチの処理(P0011)

---

バッチ・タイプ

1. 表示するバッチ・タイプ

バッチ・タイプ

---

### 参照

- 『一般会計』ガイドの「仕訳の処理」

## 取引の転記

多通貨取引を入力、検討、承認した後、総勘定元帳に転記します。仕訳、請求書、伝票など、会計上のすべての取引は、取引を入力したサブシステムとの整合性を保ち、常に最新の状態を反映させるために、勘定残高テーブル(F0902)および固定資産の場合は固定資産残高テーブル(F1202)に転記する必要があります。

---

**注:**

固定資産 AAI 項目 FX の範囲内にあるすべての仕訳は固定資産残高テーブル(F1202)に転記して、設備/工場管理システムに最新の取引レコードを反映させる必要があります。

---

転記プログラムを実行すると次の処理が行われます。

- 未転記の取引を選択して確認する。
- 買掛金/売掛金勘定と税勘定の自動仕訳を作成する。
- 取引の勘定残高テーブル(F0902: 固定資産の場合は F1202)に転記する。
- 元帳テーブル(売掛金元帳/F03B11、取引明細/F0911、および買掛金元帳/F0411)において転記された取引に印を付ける。
- エラーになった取引に関するワークフロー・メッセージを従業員ワーク・センターに送信する。
- 転記レポートやエラー・レポートを印刷する。

転記プログラムは複雑なタスクを大量に実行します。J.D. Edwards では、このプログラムをカスタマイズしないことをお勧めします。

## 処理オプション: 転記レポート(R09801)

### 印刷タブ

---

#### 1. 勘定科目コード形式

ブランク = デフォルト勘定科目コード形式

1 = 第 3 勘定科目

2 = 略式 ID

転記レポートに勘定科目を印刷する形式を指定します。

#### 2. エラー・メッセージの印刷

ブランク = 印刷しない

1 = 印刷する

転記レポートにエラー・メッセージを印刷するかどうかを指定します。この処理オプションをブランクにすると、エラーが検出された場合はワークセンターにエラー・メッセージが書き込まれます。有効な値は次のとおりです。

ブランク

---

---

印刷しない

1

印刷する

---

## バージョン・タブ

---

### 1. 詳細再換算バージョン

〈詳細再換算〉プログラム(R11411)のバージョンを入力してください(ZJDE0001 など)。ブランクの場合、詳細再換算仕訳は作成されません。

仕訳を作成するために実行する〈詳細再換算〉プログラム(R11411)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、詳細再換算仕訳は作成されません。

### 2. 固定資産転記バージョン

実行する〈固定資産転記〉プログラム(R12800)のバージョンを入力してください(ZJDE0001 など)。ブランクの場合、固定資産仕訳は作成されません。

固定資産レコードを作成するために実行する〈固定資産転記〉プログラム(R12800)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、このプログラムは実行されず、固定資産レコードは作成されません。

### 3. 52 期間転記バージョン

実行する〈52 期間転記〉プログラム(R098011)のバージョンを入力してください(ZJDE0001 など)。ブランクの場合、52 期間仕訳は作成されません。

勘定残高テーブルと 52 期間会計勘定残高テーブルを更新する〈52 期間転記〉プログラム(R098011)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、〈52 期間転記〉プログラムは実行されず、テーブルも更新されません。

---

## 編集タブ

---

### 1. 取引の更新

ブランク = 編集なし

1 = 取引を更新する

---

---

取引明細テーブル(F0911)のみ転記レコードの略式 ID、会社、会計年度、期間、西暦上 2 桁、四半期を更新します。カスタム・プログラムによって取引明細テーブルにレコードが作成され、これらのフィールドが正しい値に更新されていない場合は、これらのフィールドを更新する必要があります。

略式 ID および会社フィールドは、取引明細テーブルにある未転記レコードの勘定科目コード・フィールドの値を使って更新されます。

会計年度、期間、西暦上 2 桁の各フィールドは、同じく取引明細テーブルの未転記レコードの元帳日付フィールドの値を使って更新されます。

取引明細テーブルの未転記レコードの四半期フィールドはブランクに更新されます。

---

## 税タブ

---

### 1. 税テーブルの更新

ブランク = 更新しない

1 = 付加価値税または使用税のみ更新

2 = すべての税額を更新

税情報を入力した取引を転記する場合に税テーブル(F0018)を更新するか、更新する場合はどのように更新するかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク

更新しない

1

税目コードが V、VT、V+、U、UT の場合のみ税テーブルを更新する。

2

税額が入力されている場合は常に税テーブルを更新する。税目コードが E(免税)の場合は税テーブルは更新されません。

3

税目コードが E の場合も含め、すべての税目コードに対して税テーブルを更新する。

### 2. 付加価値税割引の更新

---

---

ブランク = 調整なし

1 = 付加価値税のみ更新

2 = 付加価値税、合計価格、課税対象額を更新

実際に割引が発生した場合に税額フィールドを調整するかどうか、調整する場合はどのフィールドを調整するかを指定します。税目コードがVの取引に対してのみ税額フィールドが調整されます。

(注)この処理オプションを使用するには、税規則で次のオプションをオンにする必要があります。

- ・ 割引を含む総額に対して税額を計算
- ・ 税込み総額に対する割引

有効な値は次のとおりです。

ブランク = 調整しない

1 = 税額フィールド(STAM)のみ更新する

2 = 税額(STAM)、課税対象額(ATXA)、合計価格(AEXP)の各フィールドを更新する

割引が発生した場合、次のアルゴリズムを使って税額、課税対象額、総額(合計価格)の調整計算が行われます。

- ・ 総額(合計価格)に対する調整 = 割引実施額
- ・ 課税対象額に対する調整 = (課税対象額/総額) × 割引実施額
- ・ 税額に対する調整 = (税額/総額) × 割引実施額

例として、次のような場合を説明します。

税率 = 25%

割引実施額 = 1,250 円

総額(合計価格) = 125,000 円

課税対象額 = 100,000 円

税額 = 25,000 円

調整アルゴリズムを使って、次のように調整金額が計算されます。

- ・ 総額に対する調整 = 1,250 円
- ・ 課税対象額に対する調整 = 1,000 円
- ・ 税額に対する調整 = 250 円

調整金額は、当初の金額から調整後金額を引いて計算されます。

- ・ 調整後総額:  $125,000 - 1,250 = 123,750$  円
- ・ 調整後課税対象額:  $100,000 - 1,000 = 99,000$  円
- ・ 調整後税額:  $25,000 - 250 = 24,750$  円

### 3. 付加価値税入金の更新

ブランク = 調整しない

1 = 付加価値税のみ更新

2 = 付加価値税、合計価格、課税対象額を更新

---

入金処理で少額消込が発生した場合に税額フィールドを調整するかどうか、調整する場合はど

---

のフィールドを調整するかを指定します。税目コードがVの取引に対してのみ税額フィールドが調整されます。有効な値は次のとおりです。

ブランク = 調整しない

1 = 税額フィールド(STAM)のみ更新する

2 = 税額(STAM)、課税対象額(ATXA)、合計価格(AEXP)の各フィールドを更新する

少額消込が発生した場合、次のアルゴリズムを使って税額、課税対象額、総額(合計価格)の調整計算が行われます。

- ・ 総額(合計価格)に対する調整 = 少額消込金額
- ・ 課税対象額に対する調整 = (課税対象額/総額) × 少額消込金額
- ・ 税額に対する調整 = (税額/総額) × 少額消込金額

次のような場合を例にあげて説明します。

税率 = 25%

少額消込金額 = 1,250 円

総額(合計価格) = 125,000 円

課税対象額 = 100,000 円

税額 = 25,000 円

調整アルゴリズムを使って、次のように調整金額が計算されます。

- ・ 総額に対する調整 = 1,250 円
- ・ 課税対象額に対する調整 = 1,000 円
- ・ 税額に対する調整 = 250 円

調整金額は、当初の金額から調整後金額を引いて計算されます。

- ・ 調整後総額:  $125,000 - 1,250 = 123,750$  円
- ・ 調整後課税対象額:  $100,000 - 1,000 = 99,000$  円
- ・ 調整後税額:  $25,000 - 250 = 24,750$  円

---

## 処理タブ

---

### 1. 親品目時間の展開

ブランク = 展開しない

1 = 展開する

親資産の時間入力の子資産まで展開するかどうかを指定します。この処理オプションに“1”を入力した場合、転記プログラム(R09801)を実行すると親資産の子レコードに対しても時間レコードが作成されます。親資産と同じ時間単位および子資産の単価を使って該当するコードの計算が行われます。この処理オプションはバッチ・タイプ T のレコードにのみ適用されます。有効な値は次のとおりです。

ブランク = 展開しない

1 = 展開する

---



---

## 現金主義タブ

---

### 1. 数量元帳タイプ

ブランク = ZU

ZU 以外を使用する場合は、ユーザー定義コード 09/LT に設定されている有効な値を入力してください。

現金主義会計仕訳で使用する数量元帳タイプを指定します。ユーザー定義コード(09/LT)から有効な元帳タイプを選択してください。ブランクにした場合、デフォルトの元帳タイプ(ZU)が使用されます。

---

### 参照

- 『一般会計』ガイドの「仕訳の転記」

---

## 管理者向け集計レポートの作成

---

〈利益認識〉メニュー(G5122)から、〈管理者向け集計レポート〉を選択します。

〈管理者向け集計レポート〉(R51443)を作成して、プロジェクトや作業、作業内の補助元帳などに関連する利益情報を検討、管理することができます。〈管理者向け集計〉レポートは次の 2 つのフォーマットで作成できます。処理オプションで使用するフォーマットを指定してください。

- レポート
- ワークシート

ワークシートに数値を記入してからシステムに入力できます。

## 処理オプション: 管理者向け集計レポート(R51443)

### 印刷タブ

---

#### 1. 合計計算

- 1 = 有効日付ごとに合計し、総合計
- 2 = バージョン番号ごとに合計し、総合計
- 3 = 有効日付とバージョン番号ごとに合計し、総合計

レポートに含める合計の計算方法を指定します。有効な値は次のとおりです。

- 1 = 有効日付ごとに合計し、総合計
- 2 = バージョン番号ごとに合計し、総合計
- 3 = 有効日付とバージョン番号ごとに合計し、総合計(デフォルト)

#### 2. ワークシート形式で印刷する

- ブランク = しない
- 1 = する

レポートをワークシート形式で印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

- ブランク    ワークシート形式で印刷しない
- 1            ワークシート形式で印刷する

#### 3. 印刷する収益

- ブランク = 現行期間の収益
- 1 = 四半期の収益

レポートに印刷する金額の種類を指定します。有効な値は次のとおりです。

- ブランク    現行期間の発生金額(デフォルト)
- 1            四半期の発生金額

## 作業の開始または終了

---

作業が完了し、関連情報の転記がすべて終了したら、作業を終了してください。

### ▶ 作業を開始/終了するには

---

〈利益計算/計上〉メニュー(G5122)から、〈作業の開始/終了(作業マスター)〉を選択します。

1. 〈作業マスター〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
  - 作業名
  - 会社
  - 作業タイプ
2. 作業を選択します。
3. [ロー]メニューから、[作業マスター情報] - [作業の改訂]を選択します。
4. 〈作業マスターの改訂〉で、[追加明細]タブをクリックして次のフィールドを空白にするか、値を“K”に変更して作業を開始にするか、値を“N”に変更して作業を終了します。
  - 転記編集
5. [OK]をクリックします。

### フィールド記述

記述	用語解説
作業名	ユーザー定義名称または備考。
会社	特定の企業、組織、団体などを識別するコード。会社コードが会社固定情報テーブル(F0010)に設定され、完全な貸借対照表を持つ財務報告対象を指定する必要があります。このレベルでは、会社間取引を持つことができます。  注：日付や AAI などのデフォルト値に会社 00000 を使用できます。取引入力には会社 00000 を使用できません。
作業タイプ 転記編集	ビジネスユニットの分類を指定するユーザー定義コード(00/MC)。 作業(ビジネスユニット)に関する取引の総勘定元帳への転記を制御するコード。有効な値は次のとおりです。 空白 = 転記可 K = 転記可。ただし当初予算はロックされるため、予算を変更するには変更オーダーの入力が必要。 N = 転記不可。開始前の作業や終了した作業に使用します。 P = 転記不可。作業の除去は可能です。

---

---

## 分割融資の実行

建設プロジェクトへのローンは、コストの発生に応じてプロジェクトの進捗中に行われることがあります。この分割融資は分割融資の実行として知られています。金融機関から融資または与信限度を受ける場合は、分割融資の実行処理を実行します。分割融資の実行処理は、指定期間に発生する適格原価に基づいてローンを受け取る場合に使用します。

適格原価とはローン契約で規定した原価のことです。発生した適格原価に応じて、支払を受けることができます。ただし受取額は融資上限額を超えることはできません。指定期間中に発生した適格原価は、分割融資の実行レポートを作成して算出します。

たとえば、敷地工事、コンクリート打ち、煉瓦積みなど多数の作業項目を明確化し作業を設定したとします。各作業項目は更にさまざまなタスクに細分化されます。敷地工事の作業項目に関連するタスクとしては、次のようなものが考えられます。

- 整地
- 下水工事
- 舗装

この作業向けの分割融資の実行は 25 億円で、そのうち敷地工事の作業項目向けは 3 億円とします。敷地工事タスクの適格原価がそれぞれ 1 億円ずつあるとします。

レポート期間末に、敷地工事の作業項目に関する適格原価の分割融資の実行処理を実行します。分割融資の実行レポートに表示されるこの期間の適格原価は次のとおりです。

- 整地タスクに 25,000,000 円
- 下水工事に 9,500,000 円
- 舗装タスクに 5,500,000 円

金融機関にこのレポートを提出して、この期間の融資金額として 40,000,000 円を申請します。

分割融資の実行レポートの作成後であっても、融資元金融機関に提出する明細レポートを改訂することができます。

### はじめる前に

- AAI(自動仕訳)を設定して、分割融資額の計算基準になる適格原価を識別します。『作業原価』ガイドの「作業原価用 AAI(自動仕訳)の定義」を参照してください。

---

## 分割融資情報の作成

分割融資の実行に関する情報を作成して、作業に関して一定期間に発生した原価を識別します。この情報を金融機関に提出して、分割融資を申請します。

作業原価を検討するには、分割融資の実行レポートをテスト・モードで実行します。レポートをテスト・モードで実行すると、分割融資情報の作成に使用される情報が表示されます。表示された情報がレポートの要件に合っていない場合は、DW AAI の変更、データ選択の変更、または逆仕訳を行い、再度テストモードでレポートを実行します。テスト・モードで作成した分割融資の実行レポートが承認された後で、分割融資の実行レポートを最終モードを実行し、必要な改訂を行った後で、融資元金融機関に提出します。

分割融資の実行レポートの作成には、次の 2 つの方法があります。

- 作業別に独立の分割融資の実行番号を自動的に割り当てる方法。たとえば作業が 3 つある場合、各作業には次のように同じ番号が付けられます。
  - 作業 5001、分割融資の実行 1
  - 作業 5002、分割融資の実行 1
  - 作業 5003、分割融資の実行 1
- システム 51 の自動採番機能を使用して分割融資の実行番号を自動的に割り当てる方法。たとえば、作業が 3 つある場合、各作業には次のとおりユニークな番号が付けられます。
  - 作業 5001、分割融資の実行 1
  - 作業 5002、分割融資の実行 2
  - 作業 5003、分割融資の実行 3

分割融資の実行レポートでは、作業原価を認識する他にも、次の項目を表示できます。

- 指定期間の勘定取引
- 営業外(特別)取引
- 複数の元帳タイプ

---

**注:**

既存の分割融資の実行取引がある勘定の会社番号または勘定科目コードを変更する場合は、〈BU/OBJ/SUB/CO F0901>F51911 更新〉プログラム(R51806)を実行する必要があります。このプログラムを実行すると、分割融資の実行情報は正しい勘定科目コードに割り当てられるようになります。

---

## はじめる前に

- 作業を分割融資の実行番号に割り当てる場合、その作業を分割融資の実行と関連づけます。〈システム 51 用自動採番〉プログラムについては、『作業原価』ガイドの「分割融資実行自動採番の設定」を参照してください。

## 分割融資の実行レポートのテスト・モードによる作成

〈分割融資実行およびレポート〉メニュー(G5123)から、〈分割融資実行の作成〉を選択します。

金融機関から適格原価の払戻しを受けるのに必要な証明として、分割融資の実行レポートを作成します。〈分割融資の実行の作成〉プログラム(R51500)では、次の情報を使用して分割融資の実行レポートが作成されます。

- 分割融資の実行レポート・マスター(F51911)に保管されている、前回の分割融資実行の対象にならなかったレコード。
- AAI の DW 範囲内にある取引明細テーブル (F0911)のレコード。AAI 分割融資額の計算に使用する勘定範囲は DW01-DW02 から DW48-DW50 までです。
- 総勘定元帳日付

各種元帳、元帳上の支払取引、指定日付の取引は、分割融資の実行レポートの対象とすることができます。処理オプションの設定によって、〈分割融資実行レコードの作成〉プログラムでテスト・モードまたは最終モードでレポートを作成できます。システム上の情報が正しいことを確認するため、レポートをテスト・モードで作成することをお勧めします。テスト・モードを選択すると、〈分割融資実行レコードの作成〉プログラムにより取引明細テーブル(F0911)と分割融資の実行レポート・マスター(F51911)の適格取引すべてを表示したレポートが作成されます。テスト・レポートに表示されたデータが正しくない場合は、DW AAI またはデータ選択を変更するか、逆仕訳を行うことにより情報を修正することができます。

処理オプションの設定とデータ選択情報の入力、分割融資の実行レポートを作成する場合に非常に重要です。テスト・モードで実行した場合の〈分割融資実行レコードの作成〉レポートには、次のような特徴があります。

- テスト・モードで分割融資の実行レポートを作成した場合、分割融資の実行番号は表示されません。
- 〈分割融資実行レコードの作成〉プログラムでは、分割融資実行レポート・マスター(F51911)と取引明細テーブル(F0911)の適格レコードが使われます。分割融資の実行レポート・マスターの適格レコードは、分割融資の実行日付がブランクで、分割融資の実行状況がブランクで、分割融資の実行番号がブランクのレコードです。取引明細テーブルの適格レコードは、勘定科目範囲が DW01-DW02 から DW48-DW50 の AAI 範囲にあるレコードです。
- 〈分割融資実行レコードの作成〉プログラムでは、処理するレコードの識別に入力した日付範囲が使われます。終了日付を開始日付より前にするとエラー・メッセージが表示されます。〈分割融資実行レコードの作成〉プログラムでは、取引明細テーブル(F0911)の BORG レコードは使用されません。
- デフォルトの元帳タイプはありません。元帳タイプは 5 つまで定義できます。定義した元帳タイプは元帳タイプ・マスター(F0025)および UDC(09/LT)と照合されます。
- 〈分割融資実行レコードの作成〉レポートの対象を支払済み取引だけにするか、支払済み取引と未払取引の両方を含めるかが指定可能。支払済み取引のみのレポートを選択すると、バッチ・タイプが V、M、W、または K の取引明細テーブル (F0911)の取引が使われます。
- 取引明細テーブル(F0911)と分割融資実行レポート・マスター(F51911)の適格レコードすべてが、テスト・モードの分割融資の実行レポートで作業別に小計されます。

## 分割融資の実行レポートの最終案の作成

〈分割融資実行およびレポート〉メニュー(G5123)から、〈分割融資実行の作成〉を選択します。

テスト・モードで作成した〈分割融資実行レコードの作成〉レポートの承認後、〈分割融資の実行の作成〉プログラム(R51500)を最終モードで実行して、分割融資の実行レポートの最終案(最終分割融資の実行レポート)を作成します。〈分割融資実行レコードの作成〉レポートを最終モードで作成後であっても、すでに作成した最終レポートの分割融資実行金額を手入力で変更したり、新しい分割融資の実行金額を追加したり、分割融資の実行状況を変更して、融資元金融機関に提出する明細レポートを作成できます。

最終モードで実行した〈分割融資実行レコードの生成〉レポートには、次のような特徴があります。

- 最終モードで実行した場合には、〈分割融資実行レコードの生成〉レポートに最終分割融資の実行番号が表示される。自動採番の方法として分割融資実行自動採番とシステム 51 自動採番のどちらを使用するかは、処理オプションで設定します。

- 〈分割融資実行レコードの生成〉プログラムで分割融資実行自動採番を設定し、作業が既に定義されている場合は、そのレポートの作業に対する分割融資実行自動採番が使われます。その後、作業原価分割融資実行自動採番テーブル(F51002)の「次の番号」の値が 1 加算されます。
- 〈分割融資実行レコードの生成〉プログラムで分割融資の実行自動採番を設定し、作業が定義されていない場合は、分割融資の実行番号が 1 のレコードが作成されます。この新規作成レコードは、作業原価分割融資実行自動採番テーブル(F51002)に追加されます。
- 〈分割融資実行レコードの生成〉プログラムでシステム 51 の自動採番を設定した場合、レポートにはシステム 51 の自動採番が使われます。バッチ終了後に、システム 51 の「次の番号」の値が 1 加算されます。
- 取引明細テーブル(F0911)から取得したレコードに基づいて、〈分割融資実行レコードの生成〉プログラムにより分割融資の実行レポート・マスター(F51911)にレコードが作成されます。
- テスト・モードでの分割融資の実行レポートの検討および変更後、〈分割融資実行レコードの生成〉プログラムにより分割融資の実行レポート・マスター(F51911)が更新されます。

#### はじめる前に

- 〈分割融資実行レコードの生成〉レポートをテスト・モードで作成します。最終モードでレポートを作成する前に、分割融資の実行情報に必要な変更を加えます。

#### 参照

- 〈分割融資実行レコードの生成〉レポート情報の変更については『作業原価』ガイドの「分割融資の実行の処理」

## 処理オプション: 分割融資実行レコードの生成(R51500)

### 処理タブ

---

#### 1. 実行モード

ブランク = テスト・モード

1 = 最終モード

プログラムの実行モードを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク

テストモードで実行する(デフォルト)。最終モードで実行する前に、まずテスト・モードで実行して、その結果を確認してください。テスト・モードで実行した場合、利益計算情報の更新は行われません。

1

最終モードで実行する。この場合、利益計算情報が更新されます。

#### 2. 日付範囲

---

---

開始日付

分割融資実行レコードを処理する開始日付を指定します。

終了日付

分割融資実行レコードを処理する終了日付を指定します。

### 3. 元帳タイプ

元帳タイプ 1

分割融資の実行に含める元帳タイプを指定します。元帳タイプは 5 つまで指定できます。

元帳タイプ 2

分割融資の実行に含める元帳タイプを指定します。元帳タイプは 5 つまで指定できます。

元帳タイプ 3

分割融資の実行に含める元帳タイプを指定します。元帳タイプは 5 つまで指定できます。

元帳タイプ 4

分割融資の実行に含める元帳タイプを指定します。元帳タイプは 5 つまで指定できます。

元帳タイプ 5

分割融資の実行に含める元帳タイプを指定します。元帳タイプは 5 つまで指定できます。

### 4. 分割融資の実行番号の自動採番方法

ブランク = 分割融資の実行自動採番

1 = 作業原価システムの自動採番

次の分割融資の実行番号として使用する番号を指定します。作業レコードが存在しない場合に分割融資実行自動採番を使用すると、作業レコードが挿入されます。有効な値は次のとおりです。

ブランク 分割融資実行自動採番を使用する(デフォルト)

1 システム 51、自動採番の 3 行目を使用する



---

## 5. レポートに含める分割融資の実行取引

ブランク = すべて

1 = 支払済み取引のみ

レポートにどの取引を含めるかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 分割融資実行のすべての取引(デフォルト)

1 分割融資実行のうち全額支払済みの取引(バッチ・タイプ V、W、M、K)

注: 分割融資の実行金額は当初取引金額で、支払金額ではありません。

---

## 分割融資実行の処理

---

金融機関に提出する分割融資の実行の明細レポートは、〈分割融資実行レコードの生成〉レポートの最終案(最終モードで実行した分割融資の実行レポート)の作成後、〈分割融資実行の処理〉フォームを使用して分割融資の実行情報を検討、改訂してから作成します。グリッド行の状況および情報の変更、およびグリッド行の分割を手作業で行うことができます。また、分割融資レコード全体の状況を自動的に変更するように設定することもできます。

はじめる前に

- 〈分割融資実行レコードの生成〉レポートを最終モードで作成します。『作業原価』ガイドの「〈分割融資実行レコードの生成〉レポートの最終モードでの実行」を参照してください。

## 分割融資実行明細情報の変更

〈分割融資実行レコードの生成〉レポートを融資元に提出する前に、分割融資実行明細情報を変更できます。次のような処理が可能です。

- 分割融資実行金額の変更
- 明細行の状況の変更
- 新規分割融資実行の明細行の追加
- 分割融資実行への記述情報の追加

各分割融資実行のロー状況をさまざまな状況コード(ローが最終状況でありその情報をレポートに含める、分割融資実行からローを削除する、ローを保留にする、すべての分割融資実行から特定のローを除外する)に変更することができます。

分割融資実行金額を変更しても当初金額を参照することができます。分割融資実行の明細情報の変更は、分割融資実行記述テーブル(F51911EX)に保管されます。分割融資実行金額を変更した場合、当初金額はまだ取引明細テーブル(F0911)に存在します。新しい金額は分割融資実行・レポート・マスター(F51911)に反映され、変更した記述は分割融資実行記述テーブル(F51911EX)に保管されます。

▶ 分割融資実行明細情報を変更するには

〈分割融資実行およびレポート〉メニュー(G5123)から、〈分割融資実行の改訂〉を選択します。

1. 〈分割融資実行の処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。

- 作業 No.

2. グリッド行を選択します。

3. [ロー]メニューから、[分割融資実行の改訂]を選択します。

PeopleSoft®

建設ローンの改訂

OK 検索 削除 キャンセル ロー ツール

作業No. 5100 ローン状況コード \*

建設ローン No. 1 原価コードタイプ \*

Potomac Hotel 補助元帳タイプ \*

レコード 1 - 10

作業No.	建設ローンNo.	建設ローン日付	ローン状況	記述	元帳日付	建設ローン金額	当初金額	原価コード	原価タイプ	補助元帳
5100	1	12/31/05	1	Manual audit adjustment	07/01/05	750.00	750.00	02200	1341	
5100	1	12/31/05	1	Manual audit adjustment	07/01/05	8,125.00	8,125.00	02600	1341	
5100	1	12/31/05	1	Manual audit adjustment	07/01/05	237.10	237.10	02200	1343	
5100	1	12/31/05	1	Manual audit adjustment	07/01/05	1,125.00	1,125.00	02600	1355	
5100	1	12/31/05	1	Manual audit adjustment	07/01/05	547.00	547.00	02200	1360	
5100	1	12/31/05	1	Labor for Potomac Hotel	06/30/05	5,362.50	5,362.50	02200	1341	
5100	1	12/31/05	1	Labor for Potomac Hotel	06/30/05	1,650.00	1,650.00	02200	1342	
5100	1	12/31/05	1	Labor for Potomac Hotel	06/30/05	9,000.00	9,000.00	02600	1341	
5100	1	12/31/05	1	Labor for Potomac Hotel	06/30/05	600.00	600.00	02600	1342	
5100	1	12/31/05	1	Labor for Potomac Hotel	06/30/05	14,025.00	14,025.00	02800	1341	

4. 〈分割融資実行の改訂〉で、次のフィールドに値を入力して分割融資実行の明細情報を検討します。

- 作業 No.
- 分割融資の実行 No.

5. 表示する明細情報を絞り込むには、次の任意フィールドに値を入力します。

- 分割融資実行状況コード
- 原価コード/タイプ
- 補助元帳/タイプ

6. [検索]をクリックします。

7. 既存分割融資実行の明細情報を変更するには、次のフィールドに値を入力します。

- 分割融資の実行 No.
- 分割融資の実行状況
- 記述
- 元帳日付
- 当初金額

[ローン状況]フィールドを空白に変更すると、[分割融資の実行 No.]と[分割融資の実行日付]フィールドが自動的に空白になることを警告するメッセージが表示されます。

空白の[分割融資の実行状況]フィールドを変更すると、[分割融資の実行 No.]と[分割融資の実行日付]の両方のフィールドに値の入力を指示するエラー・メッセージが表示されます。

8. 新規明細行を追加するには次のフィールドに値を入力します。

- 作業 No.
- 分割融資の実行 No.
- 分割融資の実行日付
- 分割融資の実行状況
- 記述
- 元帳日付
- 当初金額
- 原価コード
- 原価タイプ

明細行を追加する場合は、空白状況にはできません。デフォルトの分割融資の実行状況は 1 です。

9. 明細行を削除するには、グリッド行を選択して[削除]をクリックします。

10. 記述テキストを分割融資実行レコード行に追加するには、[ロー]メニューから[添付]を選択します。

11. <メディア・オブジェクト>で、[ファイル]メニューから[新規]を選び、次のうちいずれかを選択します。

- テキスト
- イメージ

12. テキストまたはイメージを添付します。

13. [ファイル]メニューから、[保存して終了]を選択します。

14. [OK]をクリックします。

## フィールド記述

記述	用語解説
分割融資の実行 No.	複数のトランザクションを1つのグループとして処理するための番号。バッチを作成する際、バッチ番号は自動採番により割り当てすることも手入力することもできます。
分割融資実行状況コード	取引明細テーブル(F0911)の分割融資実行レポートに関連する特定情報の現行状況。有効な値は次のとおりです。 ブランク = 情報は現行の分割融資実行の原価に含まれない 1 = 情報は現行の分割融資実行の原価に含まれる H = 情報は保留状態で、現行の分割融資実行の原価に含まれない X = 情報は現行の分割融資実行の原価から除外される
原価コード/タイプ	勘定科目コードの中で、敷地工事、土木工事、舗装、造園などの作業ステップ、フェーズ、または作業タイプを識別する部分。総勘定元帳でいう補助科目に該当します。 注：総勘定元帳でいう補助科目は任意ですが、作業原価の勘定科目では原価コードは必須です。
補助元帳/タイプ	総勘定元帳の勘定科目をさらに細かく分類して取引を記録するための補助区分コード。たとえば住所番号を入力して、従業員別に経費を把握することができます。このフィールドに入力する場合、補助元帳タイプも指定する必要があります。
元帳日付	取引を転記する会計期間を決定する日付。会社を設定した期間パターンで会計期間を定義してください。取引入力時に入力したこの元帳日付は、会社を設定された期間パターンと比較して正しい期間が取り込まれます。同時に日付の検証も行われます。
当初金額	関連する勘定科目番号の勘定残高に追加される金額を示す数字。貸方の金額は金額の前か後にマイナスの符号をつけて入力します。

## 分割融資実行の分割

分割融資実行の明細行は分割できます。分割融資実行の明細情報を分割すると、当初の明細行の伝票タイプは分割前のまま残されます。新しい分割行には伝票タイプ DR が使用されます。JE 行を除くすべてのキー情報が当初の行からコピーされます。変更可能な情報は金額と記述のみです。

分割融資実行の分割例は次のとおりです。

分割する当初グリッド行	分割	JE 123	5000 USD	仕訳行=6
分割後の新規グリッド行	変更	JE 123	3000 USD	仕訳行=6
	新規	DR 123	1000 USD	仕訳行=1
	新規	DR 123	1000 USD	仕訳行=2

分割した金額の合計は分割前の当初合計と一致する必要があります。

金額情報は分割融資実行・レポート・マスター(F51911)に保管されます。記述情報は分割融資実行記述テーブル(F51911EX)に保管されます。

▶ 分割融資実行情報を分割するには

〈分割融資実行およびレポート〉メニュー(G5123)から、〈分割融資実行の改訂〉を選択します。

1. 〈分割融資実行の処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
  - 作業 No.
2. グリッド行を選択します。
3. [ロー]メニューから、[分割融資実行の改訂]を選択します。
4. 〈分割融資実行の改訂〉で、次のフィールドに値を入力して分割融資実行の明細情報を検討します。
  - 作業 No.
  - 分割融資の実行 No.
5. 表示する明細情報を絞り込むには、次の任意フィールドに値を入力します。
  - 分割融資実行状況コード
  - 原価コード/タイプ
  - 補助元帳/タイプ
6. [検索]をクリックします。
7. 分割する詳細域のローを選択します。
8. [ロー]メニューから、[分割融資実行の分割]を選択します。

PeopleSoft

建設ローン入力の分割

OK キャンセル ツール

伝票No/タイプコード 3040 JE 00050

元帳日付 07/01/05

作業/原価コード/原価タイプ 5100 02200 1341

記述 Manual audit adjustment

当初金額 750.00

残金

グリッドのカスタマイズ

金額	記述
750.00	Manual audit adjustment

9. 〈分割融資実行入力の分割〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックすると、仕訳が分割されます。

- 当初金額
- 記述

分割した金額の合計は分割前の当初合計と一致する必要があります。

## 分割融資実行状況の変更

グリッド行を分割融資実行明細レポートに含めるか除外するかを示す状況を変更できる他、分割融資実行の状況も変更できます。分割融資実行の状況を変更すると、その分割融資実行のすべてのグリッド行が同じ分割融資実行状況に変更されます。〈分割融資の実行状況の更新〉フォームを使用して分割融資実行の状況を変更します。

分割融資実行の状況コードは次のとおりです。

**分割融資実行状況フィールドがブランクの場合** この分割融資実行の情報は明細レポートの対象にしないでください。

**分割融資実行状況フィールドが 1 の場合** この分割融資実行の明細情報をすべて明細レポートに含める

**分割融資実行状況フィールドが H の場合** この分割融資実行の明細情報はすべて保留状況にしてください。

**分割融資実行状況フィールドが X の場合** この分割融資実行の明細情報はすべて明細レポートから除外してください。

[分割融資の実行状況コード]フィールドの情報を削除すると、システムはこれをロー全体の情報の削除と理解します。[分割融資の実行 No.]と[分割融資の実行日付]の情報も自動的に削除されブランクになります。システムでは、[分割融資の実行 No.]フィールドと[分割融資の実行日付]フィールドが更新されブランクのフィールドになる旨の警告メッセージが表示されます。

分割融資の実行状況をブランクのフィールドから 1、H、または X に変更する場合は、新規分割融資の実行 NO.と分割融資の実行日付も加える必要があります。分割融資の実行状況を変更してその分割融資の実行が既存の分割融資の実行番号の対象になるようにすると、分割融資の実行はその分割融資の実行番号と分割融資の実行日付に更新されます。

分割融資実行状況情報は分割融資実行・レポート・マスター(F51911)に保管されます。

### ▶ 分割融資実行状況を変更するには

〈分割融資実行およびレポート〉メニュー(G5123)から、〈分割融資実行状況の更新〉を選択します。

1. 〈分割融資実行の処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
  - 作業 No.
2. グリッド行を選択します。
3. [ロー]メニューから、[分割融資実行状況の更新]を選択します。
4. 〈分割融資実行状況の更新〉で次のフィールドに値を入力します。
  - 分割融資実行状況コード

5. 次のオプションをクリックします。

- 更新

6. [OK]をクリックします。

状況を空白に変更すると警告メッセージが表示されます。[OK]をクリックして警告メッセージを確認します。

状況を空白から変更すると、新しい分割融資の実行番号および建分割融資の実行日付を要求するメッセージが表示されます。情報を入力し[OK]をクリックします。

#### 参照

- 分割融資実行で個々の勘定状況の更新フィールドを変更するには、『作業原価』ガイドの「分割融資実行明細情報の変更」

## 〈分割融資実行レコードの生成〉レポートの印刷

---

金融機関に提出する〈分割融資実行レコードの生成〉レポートを印刷して、発生した適格原価の支払を受けられるようにします。

適格原価とはローン契約で規定した原価のことです。発生した適格原価に応じて、支払を受けることができます。ただし受取額は融資上限額を超えることはできません。

〈分割融資実行レコードの生成〉レポートには次の項目も表示されます。

- 指定期間の勘定取引
- 営業外(特別)取引
- 複数の元帳タイプ

金融機関への提出用に作成する〈分割融資実行レコードの生成〉レポートは、分割融資実行明細レポートとはフォーマットが異なります。

レポートのフォーマットとして、次のうち 1 つを選択します。

<b>分割融資実行詳細</b>	選択した期間の勘定別取引情報を検討します。
<b>建設工事原価-明細</b>	選択した期間の勘定別原価明細情報を検討します。
<b>建設工事原価-集計</b>	選択した期間の勘定別集計原価情報を検討します。

---

#### 注:

[分割融資の実行状況]フィールドでは、分割融資実行のローが最終([建分割融資の実行状況]フィールドが 1)かどうか、現在の分割融資の実行にはない([分割融資の実行状況]フィールドが空白)かどうか、保留([分割融資の実行状況]フィールドが H)かどうか、または分割融資の実行から除外する([分割融資の実行状況]フィールドが X)かどうかを示されます。

---

## 分割融資実行明細レポートの印刷

〈分割融資実行およびレポート〉メニュー(G5123)から、〈分割融資実行明細レポート〉を選択します。

〈分割融資の実行明細〉レポートを印刷して、選択した期間の勘定別取引情報を検討します。

### 処理オプション: 分割融資実行明細レポート(R51510)

#### 処理タブ

---

##### 1. 印刷する分割融資の実行番号

印刷する分割融資の実行番号を指定します。

##### 2. 印刷する金額の種類

blank = 分割融資の実行明細金額のみ

1 = 実際明細金額と分割融資の実行明細金額

レポートに印刷する金額の種類を指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = 分割融資実行明細金額(F51911)だけを印刷する

1 = 実際明細金額(F0911)と分割融資実行明細金額(F51911)を印刷する

---

## 建設工事原価-明細の印刷

〈分割融資の実行およびレポート〉メニュー(G5123)から、〈建設工事原価-明細〉を選択します。

〈建設工事原価-明細〉レポートを印刷して、選択した期間の原価明細を検討します。

### 処理オプション: 建設工事原価-明細(R51520)

#### 印刷タブ

---

##### 1. 日付範囲

開始日付

レポートの現行期間として処理する日付範囲の開始日付を指定します。分割融資の実行日付がこの日付範囲と比較され、現行期間の原価が算出されます。

終了日付

---



---

レポートの現行期間として処理する日付範囲の終了日付を指定します。分割融資の実行日付がこの日付範囲と比較され、現行期間の原価が算出されます。

## 2. 合計行の前の行間

ブランク = 2 行

1 = 1 行

合計行の後の行間を指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク    ダブル・スペース(デフォルト)

1          シングル・スペース

## 3. 原価タイプ見出しの印刷

ブランク = 印刷しない

1 = 印刷する

原価タイプ見出しを印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク    印刷しない(デフォルト)

1          印刷する

---

## 建設工事原価-集計の印刷

〈分割融資の実行およびレポート〉メニュー(G5123)から、〈建設工事原価-集計〉を選択します。

〈建設工事原価-集計〉レポートを印刷して、選択した期間の集計済み原価情報を検討します。

### 処理オプション: 建設工事原価-集計(R51525)

#### 印刷タブ

---

##### 1. 日付範囲

開始日付

レポートの現行期間として処理する日付範囲の開始日付を指定します。

---

---

終了日付

レポートの現行期間として処理する日付範囲の終了日付を指定します。

## 2. 勘定科目詳細レベル

印刷する勘定科目の詳細レベル(LOD 値 3 から 9 まで)を指定します。blankおよび 3 から 9 まで以外の値を入力した場合は、値に 9 が使用されます。

印刷しない勘定科目詳細レベル(3 から 9 までが指定可能)

印刷しない勘定科目の詳細レベル(LOD)を 3 から 9 の値で指定します。この詳細レベル以上のレベルの勘定科目は、すべての金額が 0 の場合印刷されません。この処理オプションをblankにすると、すべての勘定科目が表示されます。

---

---

## 作業原価システム・セットアップ

作業原価を使用する前に、特定の情報を定義してビジネス・ニーズに応じたカスタマイズを行ってください。定義した情報に基づいて作業が処理されます。次の情報を設定してください。

<b>システム固定情報</b>	作業原価システム固定情報により、次のことが制御できます。 <ul style="list-style-type: none"><li>最終予測原価および数量の計算</li><li>最終予測原価および数量に対する変更の監査証跡</li><li>計算方法 A および R の関連予算情報に対する変更の監査証跡</li><li>調達管理システムまたは外注管理システムで買掛伝票を取引明細テーブル(F0911)に転記する際の、未処理コミットメントの自動リリース</li></ul>
<b>AAI(自動仕訳)</b>	AAI(自動仕訳)により、作業原価システムと一般会計システム間のインテグレーションが定義されます。
<b>自動採番</b>	自動採番を使用すると、〈分割融資実行レコードの生成〉レポートなどの固有の番号が必要な項目に番号を割り当てることができます。〈自動採番〉プログラムにより、これらの番号の割り当て方法が決まります。
<b>分割融資実行自動採番</b>	分割融資実行自動採番を使用すると、作業を分割融資実行自動採番に関連付けることができます。これらの作業に分割融資実行番号を指定します。
<b>ユーザー定義コード</b>	ユーザー定義コードは、業務要件に応じたカスタマイズが可能です。ユーザー定義コードは複数設定でき、たとえば次のようなコードがあります。 <ul style="list-style-type: none"><li>作業カテゴリ</li><li>元帳タイプ</li><li>勘定科目カテゴリ</li><li>計量単位</li><li>最終予測ビジネスユニット・タイプ</li><li>契約タイプ</li><li>原価コード・マスター勘定科目表タイプ</li><li>勘定科目表タイプ編集フィールド</li><li>照会元帳タイプ</li><li>利益計算仕訳</li></ul>
<b>元帳タイプ・マスター</b>	作業原価元帳を設定すると、年度締め処理の際に次年度に元帳金額を繰り越すことができます。また、改訂予算元帳タイプや、集計および除去のための元帳タイプを設定することも可能です。
<b>勘定科目表タイプ</b>	勘定科目表タイプおよびモデル作業を設定すると、標準原価コード構造を作成し、それを作業にコピーしてから各作業に合わせて修正することができます。

## 作業原価用ユーザー定義コードの理解

---

ユーザー定義コードを設定することにより、ビジネス環境に合わせて作業原価システムの多くのフィールドをカスタマイズすることができます。ユーザー定義コードを識別するには、システム・コード・リストおよびユーザー定義コード・リストから実行します。たとえば、51/TC はシステム・コード 51 (作業原価設定)、ユーザー定義コード TC (Chart Type: 勘定科目表タイプ) を表します。

特定のシステムやコード・タイプに関連したテーブルにユーザー定義コードが保管されます。これらのテーブルにより、システム内の個々のフィールドにどのコードが有効であるかが決まります。フィールドに使用できないコードを入力すると、エラー・メッセージが表示されます。たとえば[ビジネスユニット・タイプ]フィールドには、システム・コード 00 およびユーザー定義コード MC のテーブルにあるコードのみ入力することができます。すべてのユーザー定義コードのテーブルは、ユーザー定義コード・テーブル(F0005)に保管されます。

### 参照

- ユーザー定義コードの概要については『基本操作』ガイドの「ユーザー定義コード」

### ビジネスユニット・タイプ(作業タイプ)(00/MC)

ビジネスユニット・タイプ使用すると、同じビジネスユニット・タイプ・コードを持つレコードをまとめることができます。作業原価システムでは、ビジネスユニットを「作業タイプ」と呼ぶこともあります。両方の用語は同じ意味で使用されています。作業原価システムでは、作業タイプを使用して最終予測値を計算します。この場合、ビジネスユニット・タイプ(作業タイプ)コードは最終予測ビジネスユニット・タイプ (51/PF) に割り当てたコードと同じである必要があります。

### ビジネスユニット・カテゴリ・コード(00/01 - 00/30)

ビジネスユニット・カテゴリ・コードを使用すると、レポート作成に使用する各作業グループを識別することができます。

作業カテゴリ・コードに対する 10 のメニュー項目など、最高 30 までのさまざまなカテゴリ・コード・タイプを定義できます。コード・タイプ 01-20 ではコードは 3 文字、コード・タイプ 21-30 ではコードは 10 文字です。

作業カテゴリ・コードは、〈作業カテゴリ・コードの改訂〉フォームまたは〈会社別作業の改訂〉フォームから割り当てます。これらのコードはビジネスユニット・マスター・テーブル(F0006)に保管されます。すべての J.D. Edwards システムは、このテーブルを使用して同じビジネスユニット・カテゴリ・コードを共有します。

サービスおよび契約請求システムを使用している場合は、コード 11 および 12 が原価割増請求用になります。

### 勘定科目カテゴリ・コード(09/01-09/23)

勘定科目カテゴリ・コードを使用すると、レポート作成に使用する勘定科目グループを識別することができます。また、フォームやレポートで勘定科目の順序を変更する時にも勘定科目カテゴリを使用します。

勘定科目カテゴリ・コードに対する 4 つのメニュー項目など、最高 23 までのさまざまなコード・タイプを定義できます。コード・タイプ 01 - 20 では、コードは 3 文字です。コード・タイプ 21 - 23 では、コードは 10 文字となります。

次の方法を使用して、カテゴリ・コードを勘定科目に割り当てます。

- コード 01 - 08 は〈勘定科目表タイプの設定〉や〈当初予算〉などの勘定科目関連フォームから割り当てる。
- コード 01 - 20 は〈勘定科目カテゴリ・コード〉フォームから割り当てる。このフォームは一般会計システムの〈単一勘定科目の改訂〉メニューからアクセスします。
- コード 21 - 23 は〈原価コード・スケジュール〉フォームから割り当てる。これらのコードは、第 2 勘定科目表の勘定科目とともに使用できます。
- コード 01-03 は代替順序目的で割り当てる。

これらのコードは勘定科目マスター(F0901)に保管されます。このテーブルを使用する J.D. Edwards システムは、すべて同じ勘定科目カテゴリ・コードを共有します。

#### 計量単位(00/UM)

計量単位のユーザー定義コードを使用すると、勘定科目に関連するさまざまな単位タイプを認識できます。コードは 2 文字です。たとえば、立方フィートは“CF”、立方ヤードは“CY”、平方フィートは“SF”と定義することができます。勘定科目の計量単位は、〈勘定科目表タイプの設定〉や〈当初予算〉などの勘定科目関連フォームから割り当てます。

#### 契約タイプ(51/CT)

契約タイプのユーザー定義コードを使用すると、作業に関連している契約タイプを識別できます。契約タイプ・コードは、サービス請求システムを使用する場合のみ定義します。コードは 4 文字までで、情報およびレポート作成目的のみに使用します。

契約タイプは〈作業原価マスターの改訂〉フォームから作業に割り当てます。

コード“FF”は、固定料金または固定価格の契約に関連します。

#### コミットメント伝票タイプ(40/CT)

コミットメント伝票タイプは、購買の伝票タイプ(OP や OS)を表すユーザー定義コードです。勘定残高 (F0902)の PA 元帳および PU 元帳でコミットメントをトラッキングする場合は、コミットメント伝票タイプを使用します。

#### 最終予測ビジネスユニット・タイプ(51/PF)

最終予測ビジネスユニット・タイプのユーザー定義コードを使用すると、最終金額(元帳タイプ HA)および最終数量(元帳タイプ HU)を見積る作業を識別できます。このコードは、〈作業原価マスターの改訂〉または〈会社別作業の改訂〉から作業に割り当てるビジネスユニット・タイプと同じです。

最終予測値に対してビジネスユニット・タイプを定義していない場合、タイプが割り当てられているビジネスユニットには最終予測値は作成されません。

コードを有効にするためには、ビジネスユニット・タイプ・カテゴリ・コード (00/MC)の基本テーブルにもそのコードを定義する必要があります。

〈作業原価固定情報〉フォームの[作業原価予測]フィールドには、会社内の作業に対して最終予測金額および最終予測数量が入力できるよう設定する必要があります。

#### 原価コード・マスター勘定科目表タイプ(51/TC)

原価コード・マスター勘定科目表タイプのユーザー定義コードを使用すると、作業タイプのモデル勘定科目表、または作業内の原価コードの標準範囲を識別できます。

コードは 3 文字です。たとえば、道路や橋は“RAB”、小売店は“RET”と定義することができます。ブランクの勘定科目表タイプは通常、使用頻度の最も高いモデルに使用します。

勘定科目表タイプと関連するモデルは、〈勘定科目表タイプの設定〉フォームで設定します。モデル勘定科目表の使用は任意です。各作業タイプは 1 つのモデル作業を持つことができます。作業名は作業タイプと同じにすることをお勧めします。次のような場合があります。

- 作業名 = JB
- モデル作業 = M
- 作業タイプ = JB

## 参照

- 『作業原価』ガイドの「作業原価コード構造の設定」

## 勘定科目表タイプ編集フィールド(51/ED)

勘定科目表タイプ編集フィールドのユーザー定義コードを使用すると、作業のどのフィールドをモデル原価コード構造と比較して検証するかを指定できます。このコードは、勘定科目表タイプに関連する作業フィールドの一貫性を保つのに役立ちます。

作業と勘定科目表タイプで同じ勘定科目（原価コードおよび原価タイプ）を使用している場合、このテーブルにより、指定したフィールドの値が一致することが確認されます。

コードは最高 6 文字までです。データ項目名は、勘定科目表タイプ・マスター(F5109)のフィールドに使用します。たとえば、設備料金コードに“GJERC”、転記編集コードに“GJPEC”、計量単位には“GJUM”などを使用します。

原価コードの詳細レベルは作業の詳細レベルと同じであることが検証されます。ユーザー定義コード・テーブルでデータ項目 GJLDA(詳細レベル)を定義する必要があります。

〈当初予算〉プログラム(P510121)の処理オプションにより、フィールドが検証されるか、比較用の勘定科目表タイプを指定できるかどうかは制御されます。

## 計算式記述(51/FM)

計算式記述コードを使用すると、〈作業状況照会 - ユーザー定義カラム〉フォームの計算式で使用可能なコード記述を識別できます。各記述は、〈作業状況照会 - ユーザー定義カラム〉フォームに表示される金額や数量が取り込まれる、元帳タイプまたは元帳グループに関連しています。

このコード・タイプのコード値はハードコード化されているので、変更できません。ただし、記述は変更できます。

このユーザー定義コードにより、次のソースが識別されます。

- AA 元帳または AU 元帳からの実績金額
- JA 元帳または JU 元帳からの当初予算
- JA 元帳または JU 元帳からの改訂予算
- 予算金額および予算数量(元帳タイプ・マスター(F0025))に定義したすべての元帳からの当初予算の総額。改訂予算は、当初予算に何らかの変更分を加えたものです。
- 予算金額および予算数量(元帳タイプ・マスター(F0025))に定義したすべての元帳からの改訂予算の総額。

- PA 元帳または PU 元帳からの未処理コミットメント
- PA 元帳または PU 元帳の契約合計
- HA 元帳または HU 元帳の最終予測値
- FA 元帳または FU 元帳の予測差異
- 終了日付までの AA 元帳または AU 元帳の実績金額。これらの値は、〈作業状況照会-ユーザー定義カラム〉フォームの[終了日付/期間]フィールドおよび[日数]フィールドの入力内容により変化します。
- 各勘定科目の計算方法に基づいた完了率

計算式の記述は次のコードに関連します。

- 金額の有効コードは、1 から 10 および 61 です。
- 明細勘定レベルの数量では、有効コードは 21 から 30 です。
- 見出し勘定レベルの数量では、有効コードは 41 から 50 です。

#### 参照

- 〈作業状況照会〉プログラムでこのユーザー定義コードを使用する方法については、『作業原価』ガイドの「作業状況照会の設定」

#### 照会元帳タイプ(51/IL)

照会元帳タイプを使用して、〈作業状況照会 - ユーザー定義カラム〉フォームに表示可能な追加元帳を識別できます。〈照会カラムの定義〉フォームでは最高 10 までのその他の記述を表示することができ、次のコードを記述に自動的に割り当てることができます。

- 金額の有効コードは 11 から 20 です。
- 数量の有効コードは 31 から 40 です。
- 見出し勘定レベルの数量では、有効コードは 51 から 60 です。

[記述 2]フィールドの最初の 2 文字は、金額元帳タイプであることを表す必要があります。数量元帳タイプが存在する場合は、[記述 2]フィールドの 3 文字と 4 文字がそれを表す必要があります。

元帳タイプは大文字にする必要があります。

[特殊取扱コード]フィールドには次の値が含まれている必要があります。

- ブランク - 予算以外の元帳
- 1 - 予算元帳
- 2 - BORG フィールドの読み込み

#### 参照

- 〈作業状況照会〉プログラムでこの元帳タイプを使用する方法については、『作業原価』ガイドの「作業状況照会の設定」

## 損益計算書(IS)用利益仕訳(51/IS)

損益計算書(IS)用利益仕訳コード(UDC)を使用すると、さまざまな作業タイプに基づいた損益計算書の AAI(自動仕訳)を識別できます。これにより、作業タイプに従って収益および費用を認識することができますようになります。[コード]フィールドには、作業タイプ、または作業タイプと主科目(原価タイプ)の組合せが含まれます。[記述 2]フィールドには、ISXXXX AAI の代わりに勘定科目を識別するための関連 AAI が含まれます。

〈利益計算用仕訳の作成〉プログラム(R51444)を実行すると、次のようにして損益計算書の勘定科目が決められます。

- 作業タイプと原価タイプを組合せてテーブルをチェックする。正しい組合せが検索されない場合は、次のステップを実行する。
- 作業タイプに対するテーブルをチェックする。正しい作業タイプが検索されない場合は、次のステップを実行する。
- 損益計算書項目の標準 AAI である、IS AAI を参照する。

損益計算書の項目にお使いの IS AAI が特定されている場合は、このテーブルを設定する必要はありません。

## 作業原価システム固定情報の設定

---

作業原価システムの固定情報を設定して、次の機能を実行するかどうかを定義します。

- 最終予測原価および数量の計算
- 最終予測原価および数量に対する変更の監査証跡
- 計算方法 A および R に関連する予算情報に対する変更の管理
- 調達管理システムまたは外注管理システムで買掛伝票を取引明細テーブル(F0911)に転記する際の、未処理コミットメントの自動リリース

最終予測原価および数量とは、作業を完了するのに必要な、合計原価および数量の見積りです。最終予測原価を作成するためにシステムを設定すると、次の情報に基づいて、各勘定科目の最終原価や数量の見積りが行われます。

- 勘定科目の完了率
- 勘定科目に関する作業進捗状況
- 勘定科目に対する実際原価
- 予算値および引当値
- 作業進捗状況の計算時に選択する計算方法

予測監査証跡を使用すると、予測原価および数量の変更をトラッキングすることができます。予算監査証跡を使用すると、IA および IU 元帳の予算作成済み原価および数量に対する変更をトラッキングすることができます。

システムを設定して、未処理コミットメントから勘定科目に転記された支払金額を自動的に差し引くことができます。



コミットメント情報は、コミットメント合計金額またはコミットメント金額として参照できます。引当合計金額は、未処理引当金額すべてと、実績引当金額すべての合計です。未処理引当金額は、引当済み原価の合計です。

作業原価システムでは、外注管理システムおよび調達管理システムとシステム固定情報を共有しています。これらのシステム管理者と協力し、固定情報が同じく設定されていることを確認してください。作業原価システムと外注管理システムの固定情報は同じフォームで定義しますが、これにより会社固定情報-作業原価テーブル(F0026)も更新されます。

システム固定情報は、会社 0000 に対して設定してください。これにより、特定の固定情報が定義されていない会社のデフォルト固定情報が提供されます。処理時間を短縮するには、使用する頻度が最も高い固定情報を、デフォルトの会社固定情報として設定します。これにより、変更を加えるのは会社特定の固定情報を定義する時のみとすることができます。

---

**注:**

会社の作業に対して最終予測金額および数量を作成するには、[作業原価予測]オプションを選択して、予測を計算する最終予測ビジネスユニット・タイプ(51/PF)を定義する必要があります。

---

---

▶ **作業原価システム固定情報を設定するには**

---

〈作業原価セットアップ〉メニュー(G5141)から、〈作業原価固定情報〉を選択します。

1. 固定情報を設定する会社を表示するには、〈作業原価固定情報の処理〉で[検索]をクリックします。
2. 会社の固定情報を設定するには、[追加]をクリックします。

PeopleSoft. 作業原価固定情報

OK キャンセル ツール

会社 00050 Project Management Co.

**見積**

- ☒ 作業原価見積
- ☒ 見積監査証跡
- ☒ 予算監査証跡

**債務**

- ☒ コミットメント解除

コミットメント表示(将来使用) ☐

3. 〈作業原価固定情報〉で、次のフィールドに値を入力します。
  - 会社
4. 次のうち必要なオプションを選択します。
  - 作業原価予測
  - 予測監査証跡
  - 予算監査証跡
  - コミットメント解除
5. [OK]をクリックします。
6. 〈作業原価固定情報〉で[検索]をクリックして、新しいレコードを表示します。

#### フィールド記述

記述	用語解説
会社	<p>特定の企業、組織、団体などを識別するコード。会社コードが会社固定情報テーブル(F0010)に設定され、完全な貸借対照表を持つ財務報告対象を指定する必要があります。このレベルでは、会社間取引を持つことができます。</p> <p>注：日付や AAI などのデフォルト値に会社 00000 を使用できます。取引入力には会社 00000 を使用できません。</p>
予測監査証跡	<p>作業原価見積(元帳タイプ HA または HU)の変更に対して監査証跡レコード(F0911)が作成されるかどうかを制御します。有効な値は次のとおりです。</p> <p>Y = 作業原価見積の変更に対して監査証跡を作成する</p> <p>N = 監査レコードを作成しない</p>
予算監査証跡	<p>元帳タイプ 1A および 1U に保存される予算を変更した場合に取引明細テーブル(F0911)に監査証跡レコードを作成するかどうかを指定します。このレコードは元帳タイプ・マスター(F0025)に保管されます。この固定情報は A または R の計算方法にのみ関連します。有効な値は次のとおりです。</p> <p>Y 予算の変更に対して監査証跡を作成する</p> <p>N 予算の変更に対して監査証跡を作成しない</p>
コミットメント解除	<p>買掛伝票を総勘定元帳に転記する場合、システムが自動的に未処理のコミットメントをリリースするかどうかを指定します。これらの買掛伝票は非在庫品の購買オーダーおよび契約出来高払いに関連しています。有効な値は次のとおりです。</p> <p>Y = 未処理のコミットメントを自動的にリリースする</p> <p>N = 未処理のコミットメントを自動的にリリースしない</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>“Y”に設定すると出来高払い伝票の転記時に自動的にコミットメントがリリースされます。</p>

## 作業原価コード構造の設定

---

勘定科目表タイプを作成して、その勘定科目表タイプから作業に対して標準原価コード構造詳細をコピーすることができます。

勘定科目表タイプとはモデル原価コード構造のことです。勘定科目表タイプの勘定科目すべて、または選択範囲の勘定科目を作業にコピーできます。原価コード構造が標準モデルに基づいていれば、どんなタイプの作業に対しても勘定科目表タイプを設定することができます。

たとえば、10 階建てオフィス・ビルの建設を契約したと仮定します。この場合、オフィス・ビルがプロジェクトで、各階が個別の作業になります。さらに、各フロアが 3 種類の間取り図の 1 つに基づいていると仮定します。各間取り図に対しては、勘定科目表タイプを設定することができます。その後、各フロアに対して作業マスター・レコードを作成すると、該当する間取り図から各作業へ原価コード構造をコピーすることができます。

---

### 注:

使用頻度の最も高い原価コード構造情報に対しては、勘定科目表タイプをブランクに定義してください。

---

勘定科目表タイプを定義して使用コードを識別した後、各勘定科目表タイプにモデル原価コード構造情報を入力します。

### はじめる前に

- 原価コード・マスター勘定科目表タイプのユーザー定義テーブル(51/TC)にコードを設定します。『作業原価』ガイドの「作業原価用ユーザー定義コードの理解」を参照してください。

### ▶ モデル原価コード構造を入力するには

---

〈作業原価セットアップ〉メニュー(G5141)から、〈作業原価コード構造〉を選択します。

1. 〈原価コード構造の処理〉で[検索]をクリックします。
2. 勘定科目表タイプを選択します。
3. [ロー]メニューから、[科目表タイプ設定]を選択します。

PeopleSoft®

勘定科目表タイプの設定

OK 検索 削除 キャンセル フォーム ロー レポート ツール

科目表タイプ  Master Chart

スキップ先: 原価コード

スキップ先: 詳細レベル  9

レコード 1 - 10

グリッドのカスタマイズ

	原価 コード	原価 タイプ	記述	単位	詳細 レベル	転記 編集	計算 方法	労災 補償	請求 項目	エリア コード	場所 コード	フロア コード	代替 コード
<input checked="" type="checkbox"/>		5510	Contract Billings		8		D						
<input checked="" type="checkbox"/>		5520	Unbilled Revenue		8		D						
<input checked="" type="checkbox"/>		6335	Material Cost		8		D						
<input checked="" type="checkbox"/>		6380	Actual Revenue		8		D						
<input checked="" type="checkbox"/>	02000		SITE WORK		3	N	D						
<input checked="" type="checkbox"/>	02200		Earthwork		4	B	D						
<input checked="" type="checkbox"/>	02200	1340	Labor		8	N	N						
<input checked="" type="checkbox"/>	02200	1341	Regular		9		D		EXE	PKG	OTH		
<input checked="" type="checkbox"/>	02200	1342	Overtime		9		D		EXE	PKG	OTH		
<input checked="" type="checkbox"/>	02200	1343	Burden		9		D		EXE	PKG	OTH		

4. 〈勘定科目表タイプの設定〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。

- スキップ先: 原価コード
- スキップ先: 詳細レベル

5. 次のフィールドに値を入力し[OK]をクリックします。

- 原価コード
- 原価タイプ
- 記述
- 単位
- 詳細レベル
- 転記編集
- 計算方式
- 請求項目
- エリア・コード
- 場所コード
- 料金コード
- 請求可能

## フィールド記述

<b>記述</b> <b>原価コード</b>	<b>用語解説</b> 勘定科目コードの中で、敷地工事、土木工事、舗装、造園などの作業ステップ、フェーズ、または作業タイプを識別する部分。総勘定元帳という補助科目に該当します。 注：総勘定元帳という補助科目は任意ですが、作業原価の勘定科目では原価コードは必須です。
<b>原価タイプ</b>	勘定科目コードの中で、原価コード(労務費、材料費、設備費など)内の原価カテゴリを識別する部分。たとえば、労務費という原価カテゴリを通常時間、割増時間、労務間接費などのサブカテゴリに分類できます。原価タイプは、総勘定元帳という主科目に該当します。 注：主科目は原価タイプ勘定には必須ですが、原価コード見出しには使用しません。
<b>単位</b>	金額や数量について計量単位を識別するユーザー定義コード(00/UM)。たとえば、バレル、箱、立方メートル、リットル、時間などがあります。
<b>詳細レベル</b>	総勘定元帳における勘定科目の集計/詳細を識別し、フォームおよびレポート上での合計を制御する値。詳細レベルには次の特徴があります。有効な値は 1 から 9 まで(9 が最も詳細)。レベル 1 は会社用に、レベル 2 は作業(ビジネスユニット)用に予約済み。 作業原価システムでは、原価タイプのないレベル 3 から 7 の原価コード見出しを割り当てることができます。このレベルの勘定科目は、総勘定元帳の勘定科目の詳細レベルとは関係ありません。原価コードと原価タイプの両方を持つ原価タイプ勘定の詳細レベルは 8 または 9 です。このレベルの勘定科目は、総勘定元帳の勘定科目の詳細レベルと直接関係があります。 注：詳細レベル 8 と 9 の勘定科目は、作業原価詳細用に予約することをお勧めします。 詳細レベルは、それ以下のレベルの関連勘定科目の集計です。たとえば、詳細レベル 3 の勘定科目は詳細レベル 4 の勘定科目の集計です。すべての詳細レベルを使用する必要はありません。統一的な運用をしている限り、レベルをスキップすることもできます。
<b>転記編集</b>	総勘定元帳への転記と残高の更新方法を定める勘定科目マスター(F0901)のコード。有効な値は次のとおりです。 ブランク = すべての転記可。同じ勘定科目でも補助元帳によって異なる残高レコードを更新します(補助元帳は必須ではありません)。 B = B または J で始まる予算元帳タイプの取引のみ転記可 I = 非活動勘定(転記不可) L = すべての取引で補助元帳と補助元帳タイプ必須。同じ勘定科目でも補助元帳によって異なる残高レコードを更新します。補助元帳と補助元帳タイプは取引明細テーブル(F0911)と勘定残高テーブル(F0902)に保存されます。補助元帳別にレポートを印刷するにはこのコードを使用してください。 M = 自動作成取引のみ(転記プログラムによって仕訳が作成されます) N = 非転記勘定(転記および勘定残高の更新は不可)ただし作業原価システムでは予算数量を転記することができます。 S = すべての取引で補助元帳と補助元帳タイプの入力必須。各取引を補助元帳別に集計して転記します。補助元帳の明細は取引明細テーブルに保存されます。予算入力プログラムでは使用できません。 U = すべての取引で数量必須 X = すべての取引で補助元帳と補助元帳タイプをブランクにする。このコードを設定した勘定科目には補助元帳を入力できません。

<b>労災補償</b>	<p>勘定に対する労働者災害保証保険の保険料を識別します。これはユーザー定義コード(システム 00、タイプ W)で、労働者災害保証に対するレポートに関連します。</p> <p>注: 保険料が作業のタイプではなく労働者の作業分類に関連する場合は、このフィールドをブランクにしてください。この場合、従業員情報から保険料が取り込まれます。</p>
<b>料金コード</b>	<p>DY(日次)、MO(月次)、WK(週次)などの請求料金を示すユーザー定義コード(00/RC)。1つの設備に対して複数の請求料金を設定することができます。このフィールドがブランクの場合、次の順序で有効な請求料金が検索されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 勘定科目マスター(F0901)。このテーブルには最も詳しい料金情報が含まれます。1つの作業に対して複数の料金を適用することができます。たとえば、異なる作業条件に対してそれぞれ料金を設定できます。</li> <li>2. ビジネスユニット・マスター(F0006)。このテーブルの料金情報は、勘定科目マスターほど詳しくはありません。このテーブルに基づく場合、1つの作業に1つの料金のみ設定できます。</li> <li>3. 賃貸規則(F1302) - このテーブルには一番簡略な情報が含まれています。このテーブルの設定時に指定した検索基準に従って検索されます。</li> </ol>
<b>請求可能</b>	<p>請求可能な勘定科目かどうかを示すコード。有効なコードは次のとおりです。</p> <p>Y = 請求可能 N = 請求不可 1 = 請求書作成にのみ使用可能 2 = 収益計上にのみ使用可能 4 = 費用としてのみ使用可能</p> <p>注: 1、2、4 はサービス請求システムにのみ関連しています。</p>
<b>請求品目</b>	<p>カテゴリ・コード 1 は勘定科目マスター(F0901)と関連しています。これは任意勘定科目コードのマッピングと、選択した勘定科目の印刷に使用するユーザー定義コード(09/01)です。</p>
<b>地域コード</b>	<p>カテゴリ・コード 2 は勘定科目マスター(F0901)と関連しています。これは任意勘定科目コードのマッピングと、選択した勘定科目の印刷に使用するユーザー定義コード(09/02)です。</p>
<b>ロケーションコード</b>	<p>カテゴリ・コード 3 は勘定科目マスター(F0901)と関連しています。これは任意勘定科目コードのマッピングと、選択した勘定科目の印刷に使用するユーザー定義コード(09/03)です。</p>
<b>フロアコード</b>	<p>カテゴリ・コード 4 は勘定科目マスター(F0901)と関連しています。これは任意勘定科目コードのマッピングと、選択した勘定科目の印刷に使用するユーザー定義コード(09/04)です。</p>

▶ 原価コードを勘定科目表タイプからコピーするには

〈作業原価セットアップ〉メニュー(G5141)から、〈作業原価コード構造〉を選択します。

1. 〈原価コード構造の処理〉で[検索]をクリックします。
2. 勘定科目表タイプを選択します。
3. [ロー]メニューから、[科目表を科目表にコピー]を選択します。

PeopleSoft.

原価コードのコピー

OK キャンセル ツール

コピー元

科目表タイプ AE

コピー先

科目表タイプ ETO

原価コード範囲

原価コード開始 原価タイプ開始

原価コード終了 原価タイプ終了

詳細レベル 9

4. 〈原価コードのコピー〉の[コピー元]領域で、次のフィールドに値を入力します。

- 科目表タイプ

5. [コピー先]領域で次のフィールドに値を入力します。

- 科目表タイプ

同じ勘定科目表タイプ内で原価コードをコピーするには、[科目表タイプ]フィールドに同じ情報を入力してください。

6. 次のうち必要な任意フィールドに値を入力します。
  - 原価タイプ:開始
  - 原価タイプ:終了
  - 原価コード:開始
  - 原価コード:終了
  - 詳細レベル
7. [OK]をクリックします。
8. 〈コピーの確認〉フォームで[OK]をクリックします。

## 処理オプション: 作業原価コード構造(P51091)

### 表示タブ

---

1. 原価タイプに使用するデフォルトの文字数(5 文字まで)

原価タイプの開始部分(6桁の主科目)に使用するデフォルトの文字(5文字まで指定可能)を指定します。残りの文字は自動的に表示されます。これにより、開始部分の文字が同じ場合に、重複を避けることができます。

### 処理タブ

---

1. 予算金額元帳タイプ

更新する予算金額元帳タイプを指定します。ブランクにすると、JA が更新されます(デフォルト)。予算数量元帳タイプは、1文字目は予算金額元帳タイプと同じで、元帳タイプはJUとなります。

### バージョン・タブ

---

1. 作業原価選択ボタン

- 1 = 選択されたマスター・コード(デフォルト)をコピーする
- 2 = 勘定科目表タイプの設定

[選択]ボタンをクリックしたときに実行するプログラムを指定します。レコードを選択して[選択]ボタンをクリックするか、そのレコードをダブルクリックすると、ここで指定したプログラムが起動されます。有効な値は次のとおりです。

- 1 選択したマスター・コードのコピー(デフォルト)
- 2 勘定科目表タイプの設定



---

## 2. 複数原価コードの設定バージョン(P51092)

blank = ZJDE0001

〈複数原価コード作業の作成〉プログラム(R51092)のバージョンを指定します。このフィールドをblankにすると、バージョン XJDE0001 が使用されます。

---

## 複数原価コード構造の設定

---

同様の作業を大量に作成する必要がある場合は、複数の原価コード構造を1度に設定することができます。たとえば、1 か月ごとに 800 の新規作業を作成するとします。各作業には、複数の異なるモデル勘定科目表タイプからコピーする必要のある多数の原価コード構造が含まれています。〈作業原価複数原価コードの設定〉プログラム(P51092)を使用すると、この処理を簡略化できます。

〈複数原価コードの設定〉プログラムでは、勘定科目表の設定指示をバージョンとして保存できます。バージョンには、コピー元の勘定科目表タイプや勘定科目表原価コード、コピー先の作業番号、作業原価コード、記述などの情報が含まれます。原価コードの指定があるすべての勘定科目は、新しい作業原価コードにコピーされます。

バージョンは、複数原価コードの設定テーブル(F51092)に保管されています。〈作業原価複数原価コードの設定〉プログラムに複数の原価コード構造を設定したら、〈複数原価コード作業の作成〉プログラム(R51092)を実行します。このプログラムでは、バッチ処理を使って F51092 のデータをコピーまたは修正し、レコードを新規作業に保管します。

複数の原価コードは、既存の勘定科目表タイプからのみコピーできます。

設定したバージョンは、新規バージョンへコピーすることができます。新規バージョンで必要に応じて変更を加えます。

### はじめる前に

- コピー先およびコピー元の勘定科目表タイプを設定してください。既にシステムに存在する勘定科目表タイプを使用する必要があります。詳細については、『作業原価』ガイドの「作業原価コード構造の設定」を参照してください。
- ユーザー定義コード 51/VS で使用するバージョンを表すコードを設定してください。コードは〈複数原価コード・バージョン〉プログラムで 10 文字までの英数字で構成されるバージョン名として使用されます。ユーザー定義コードの設定については、『作業原価』ガイドの「作業原価用ユーザー定義コードの理解」を参照してください。

### 参照

- 原価コード構造の一般情報については、『作業原価』ガイドの「原価コード構造およびスケジュール」

## ▶ 複数原価コード構造を設定するには

〈作業および予算の設定〉メニュー(G5111)から、〈複数原価コードの設定〉を選択します。

1. 〈複数原価コード設定バージョンの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。

- バージョン名

新しいバージョン設定するには、[フォーム]メニューから[ユーザー定義コード]を選択します。

2. 使用するバージョンを選択して[選択]をクリックします。
3. 〈複数原価コードの設定〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 科目表タイプ
- 科目表原価コード
- 作業 No.
- 作業原価コード
- 記述

コピーする原価コードの数だけフィールドを入力します。

4. [OK]をクリックします。

### 技術的考慮事項

次のテーブルには〈複数原価コード設定バージョン詳細〉フォームで入力するフィールドが示されています。

フィールド名	説明
勘定科目表タイプ	コピー元の勘定科目表タイプ。ブランクの勘定科目表タイプをコピーするため、ブランクのままにしておくことができます。
勘定科目表原価コード	最初のカラムで選択した勘定科目表タイプからコピーするための原価コード。この原価コードに関連するすべての勘定科目は新しい作業にコピーされます。
作業 No.	選択した原価コードのコピー先となる作業番号。
作業原価コード	このフィールドを使用して、新しい作業へのコピー時に原価コード勘定科目を変更します。新しい勘定科目は、この番号を使用して作成されます。このフィールドをブランクにすると、新しい作業の原価コード番号に同じ番号が使用されます。たとえば、02200 をコピーして新しい勘定科目 04100 を作成する場合は、このフィールドに"04100"と入力します。このコード構造の一部となるすべての勘定科目が新しい作業 04100 にコピーされます。原価コードに 02200 を使い続ける場合は、このフィールドをブランクにしてください。
記述	コピーする原価コードの見出し勘定科目についての記述。このフィールドをブランクにすると、見出し記述がモデル勘定科目表から新しい作業へコピーされます。

## ▶ 原価コード設定バージョンをコピーするには

---

〈作業および予算の設定〉メニュー(G5111)から、〈複数原価コードの設定〉を選択します。

1. 〈複数原価コード設定バージョンの処理〉で[検索]をクリックします。
2. コピーするバージョンを選択して、[ロー]メニューから[バージョンのコピー]を選択します。
3. 〈複数原価コード設定バージョンのコピー〉で、次のフィールドに値を入力します。

- バージョン名

既存バージョンにコピーしてください。

4. [OK]をクリックします。

コピー先のバージョンに既に明細レコードが含まれている場合は、〈バージョンの上書き確認〉フォームが表示されます。[OK]をクリックすると、既存の明細レコードが新規バージョンの明細レコードで上書きされます。

## 複数原価コード構造の作成

---

〈作業および予算の設定〉メニュー(G5111)から、〈複数原価コード作業の作成〉を選択します。または、〈複数原価コード設定バージョンの処理〉フォームおよび〈複数原価コード設定バージョン詳細〉フォームの[レポート]メニューから〈複数原価コード作業の作成〉を選択することもできます。

複数原価コード構造用バージョンを設定したら、このバッチ・プログラムを実行して複数原価コード構造作成処理を完了します。このプログラムを最終モードで実行する場合、複数原価コード設定テーブル(F51092)のバージョン・データがコピーされて、勘定科目マスター(F0901)に記録されます。

プログラム処理を実行すると、次の情報を含む〈複数原価コード作業の作成〉レポートが生成されます。

- バージョン名
- 勘定科目表タイプ
- 勘定科目表原価コード
- 作業番号
- 作業原価コード
- 記述
- コピーされた勘定科目の数

## 処理オプション: 複数原価コード作業の作成(R51092)

### 処理タブ

プログラムの実行モードの指定と、バージョンを削除するかどうかの指定を行います。

---

#### 1. 実行モード

ブランク = テスト・モード

1 = 最終モード

このレポート・プログラムを実行するモードを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク = テスト・モードで実行する。

1 最終モードで実行する。

テスト・モードで実行した場合、勘定科目マスターにレコードは作成されません。最終モードで実行した場合、勘定科目マスター(F0901)にレコードが作成されます。コピーされる勘定科目数を確認するために、まずテスト・モードで実行してください。

#### 2. 複数原価コード設定バージョンの削除

ブランク = しない

1 = する

〈複数原価コード作業の作成〉レポート(R51092)で処理された複数原価コード設定テーブル(F51092)の選択バージョンを削除するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク バージョンを削除しない

1 バージョンを削除する

---

## 作業原価用 AAI(自動仕訳)の定義

AAI(自動仕訳)により、作業原価システム、外注管理システムおよび一般会計システム間のリンクが定義されます。

新しい AAI を定義する前に、まずシステムにある AAI を検討して、組み込む予定の AAI がまだ定義されていないことを確認してください。その後、新しい AAI を定義できます。

作業原価システムに関連する順序番号は、51 から始まります。

次の AAI のカテゴリは、作業原価システムと関連しています。

<b>利益計算 AAI</b>	これらの AAI は、利益計算を行う際の勘定科目の指定に使用します。
<b>作業進捗状況 AAI</b>	これらの AAI は、特定の勘定科目の実績値が作業進捗計算により更新されることを防ぐために使用します。
<b>分割融資実行レポート選択 AAI</b>	これらの AAI は、分割融資実行レポート作成に用いる建設原価用の勘定科目を指定するために使用します。
<b>予算残高元帳 AAI</b>	これらの AAI は、総勘定元帳の残高が常に差引ゼロになるように使用します。
<b>作業集計 AAI</b>	これらの AAI は、既存の勘定科目の詳細情報を単一集計勘定科目に集計するために使用します。

## 参照

- AAI の検討および改訂については『一般会計』ガイドの「AAI の処理」

## 利益計算 AAI

利益計算 AAI により、利益計算に対する仕訳の作成時に、使用する勘定科目が指定されます。次に利益計算 AAI について説明します。

<b>BS</b>	<p>未成工事支出金(WIP)の損益計算書への振替え時に相手科目を指定します。相殺金額は、この相殺資産勘定に転記されます。</p> <p>勘定科目は単一の勘定科目(BS)に集計するか、各勘定科目毎に個別に振り替えることができます(原価タイプ 1344 に対しては BS1344、原価タイプ 1380 に対しては BS1380 など)。項目番号に原価タイプを指定しない場合は自動的に BS が使用されます。</p> <p>作業を損益計算書に設定した場合は、この AAI は不要です。ただし、貸借対照表の作業については、AAI 項目 BS が少なくともデフォルト会社 00000 に定義されている必要があります。</p>
<b>IS</b>	<p>損益計算書に記載する収益科目および売上原価科目を指定します。未成工事支出金(WIP)がリリースされる際に、原価および請求に対する項目が作成されます。その後この AAI を使用して、これらの項目が貸借対照表から損益計算書勘定に振り替えられます。</p> <p>勘定科目は単一勘定科目(IS)に集計するか、各勘定科目毎に個別に振り替えることができます(原価タイプ 1344 に対しては IS1344、原価タイプ 1380 に対しては IS1380 など)。項目番号で原価タイプを指定しない場合は自動的に IS が使用されます。作業を損益計算書に設定した場合は、この AAI は不要です。</p>
<b>JCBE</b>	<p>超過請求用の勘定科目。超過請求とは、原価や見積収益を超える請求のことです。BSLOSS が未設定の場合、JCLOSS の貸方相殺に対して JCBE を使用することもできます。</p> <p>この勘定科目は通常、負債勘定です。金額は毎月逆仕訳されます。</p>
<b>JCCE</b>	<p>請求不足用の勘定科目。請求不足とは、原価や見積収益が請求を超えているということです。</p> <p>この勘定科目は通常、資産勘定です。金額は毎月逆仕訳されます。</p>
<b>JCBOUA</b>	<p>損益計算書に対して売上原価に関する調整を入力するための勘定科目を指定します。完了率が請求額に基づく場合、超過項目や不足項目はこの勘定科目に転記されます。</p>

この勘定科目は、JCBE および JCCE で指定した勘定科目の相手科目となります。金額は毎月逆仕訳されます。

JCCOUA	損益計算書に対して収益に関する調整を入力するための勘定科目を定義します。完了率が原価に基づく場合、損益データ項目はこの勘定科目に転記されます。  この勘定科目は、JCBE および JCCE で指定した勘定科目の相手科目となります。金額は毎月逆仕訳されます。
JCLOSS	損失引当金を入力する勘定科目が指定されます。このような項目は、作業に最終予測損失がある場合に作成されます。金額は毎月逆仕訳されます。
BSLOSS	損失引当金の相手科目を指定します。JCLOSS と関連する勘定科目に転記された項目に対しては、相殺勘定科目となります。金額は毎月逆仕訳されます。  この AAI の設定は必須ではありません。未設定の場合は JCCE が使用されます。
JCAPC	作業勘定科目の未払費用を入力する勘定科目を指定します。金額は翌月に自動的に逆仕訳されます。
JCSMJ	作業勘定科目の繰延費用を入力する勘定科目を指定します。一般的に、この AAI は保管資材に使用されます。金額はすべて、翌月に自動的に逆仕訳されます。
JCAPO	未払費用の相手科目を指定します。JCAPC と関連する勘定科目に転記された項目に対しては、相殺勘定科目となります。
JCSMI	繰延費用の相手科目を指定します。JCSMJ と関連する勘定科目に転記された項目に対しては、相殺勘定科目となります。
JCPFC	最終予測原価を調整するための勘定科目を指定します。この AAI には主科目が必須です。補助科目は任意であり、ビジネスユニットは使用されません。
JCPFP	最終予測利益を調整するための勘定科目を指定します。この AAI は通常、利益を勘定科目に転記して予算元帳を維持する場合にのみ設定します。  この AAI には主科目が必須です。補助科目は任意であり、ビジネスユニットは使用されません。
JCPFR	最終予測収益を調整するための勘定科目を指定します。この AAI には主科目が必須です。補助科目は任意であり、ビジネスユニットは使用されません。
JCCAxx – JCCAxx+1	収益勘定の範囲に対する開始主科目および終了主科目を指定します。利益計算には、JCCA01–JCCA02 から JCCA97–JCCA98 まで 49 の範囲を組み込むことができます。
JCSTxx – JCSTxx+1	原価勘定の範囲に対する開始主科目および終了主科目を指定します。利益計算には、JCST01–JCST02 から JCST97–JCST98 まで 49 の範囲を組み込むことができます。

### 作業進捗状況 AAI

作業進捗状況 AAI により、特定の勘定科目の実績数量が、関連する作業進捗状況入力プログラムで更新されるのを防ぐことができます。これらの AAI を使用することで、他の J.D. Edwards システムから実績数量が取り込まれる際に、数量を入力できないようにします。

**JCxx - JCxx+1** 労務費勘定科目の範囲に対する開始主科目および終了主科目を指定します。作業進捗状況 AAI には、JC01-JC02 から JC09-JC10 まで 5 つの範囲を含めることができます。

この AAI には主科目が必須です。補助科目は任意であり、ビジネスユニットは使用されません。

---

#### 注:

別の J.D. Edwards システムから自動転記された実際数量に対して、原価タイプの AAI 範囲を設定してください。

---

### 分割融資実行レポート選択 AAI

分割融資実行レポート選択 AAI により、分割融資実行レポートの対象となる建設費勘定が指定されます。分割融資実行レポートの実行時は、この他の勘定科目は処理されません。

**DWxx - DWxx+1** 対象となる 2 つの勘定科目範囲の開始主科目および終了主科目を指定します。分割融資実行レポート選択には、DW01 - DW02 から DW49 - DW50 までの範囲を含めることができます。

この AAI には主科目が必須です。補助科目は任意であり、ビジネスユニットは使用されません。

### 予算残高元帳 AAI

予算残高元帳 AAI により、〈連結進捗状況の入力〉フォームの勘定科目に対する貸借一致仕訳用の勘定科目が指定されます。

**FPBAL** UDC(09/LP)で定義した元帳の貸借を一致させるために使用する勘定科目を指定します。

### 作業集計 AAI

作業集計 AAI により、明細情報を単一の集計勘定科目に集計する既存勘定科目の範囲を指定します。[主科目]または[補助科目]フィールドのいずれかにあるアスタリスク(\*)により、勘定残高を維持するよう指定されます。

**SM01** この AAI により、各自の補助科目にある主科目すべてが集計されます。また、集計金額用に作成する主科目も指定します。

この AAI に対しては、ビジネスユニットや主科目、補助科目はすべて任意となります。

## 作業原価用元帳タイプの処理

---

作業原価システムではさまざまなタイプの元帳を使用して、数量のトラッキングや予算管理などを行うことができます。各元帳には会計規則を設定する必要があります。

### 作業原価用元帳タイプの理解

作業原価元帳を設定して、年度締めを実行する際に元帳金額を繰り越すことができます。また、改訂予算元帳タイプや、集計および除去のための元帳タイプを設定することも可能です。

#### 技術的考慮事項

- |                               |  |
|-------------------------------|--|
| <b>元帳タイプ・マスター・テーブル(F0025)</b> | 利益計算および最終予測金額を正確に算出するためには、作業原価で使用する元帳の通貨はすべて会社の通貨と同じである必要があります。  |
| <b>元帳タイプ命名規則</b>              | 数量元帳タイプに対応する金額元帳タイプを設定する場合は、両方の元帳タイプの最初の文字を同じにする必要があります。さらに、数量元帳タイプの2文字目はUである必要があります。たとえば、金額元帳タイプがSAの場合は、数量元帳タイプはSUとします。 |

#### 元帳タイプ(09/LT)

元帳タイプのユーザー定義コードを使用すると、取引明細テーブル(F0911)内の複数の元帳に明細情報を保管することができます。これらは、勘定残高テーブル(F0902)にあるデータをサポートする、元帳取引の監査証跡になります。

元帳タイプ・コードは、このテーブルに設定する必要があります。〈元帳タイプ・マスターの設定〉プログラム(P0025)は、元帳タイプが有効であるかどうかをUDC(09/LT)を基にチェックします。

#### 年度締め/配賦元帳タイプ(00/LT)

年度締め予算元帳タイプのユーザー定義コードにより、作業の締切りで使用される元帳を識別できます。

作業原価システムでは、予算金額は配賦されずに当初予算が次の会計年度に通常繰り越されます。元帳タイプの[記述 2]フィールドは、最初の文字が“R”(予算の繰越し)です。

コードを有効にするために、そのコードをUDC(09/LT)でも定義してください。

改訂予算に組み込まれていない予算元帳タイプは、この元帳タイプで定義してください。

#### 集計および締切元帳タイプ(51/LT)

集計および締切元帳タイプのユーザー定義コードにより、作業集計処理で使用される元帳を識別できます。コードを有効にするために、そのコードをUDC(09/LT)でも定義してください。

#### 参照

- 集計レコードについては『一般会計』ガイドの「取引明細レコードの集計」



## 作業原価元帳タイプ

作業原価システムのデータは、元帳タイプ別に勘定残高テーブル (F0902)に保管されます。取引明細テーブル(F0911)の元帳には、勘定残高テーブルの情報をサポートする、次のような金額および数量情報を含めることができます。

- 予算情報
- コミットメント情報
- 実績情報
- 現場の進捗状況情報
- 予測と見積り
- 最終予測情報

作業原価システムは、次のユーザー定義元帳タイプ(09/LT)を使用します。

AA/AU	実績金額(AA)および実績数量(AU)。
JA/JU	作業予算金額(JA)および作業予算数量(JU)。
PA/PU	購買オーダー契約金額(PA)および購買オーダー契約数量(PU)。これらの元帳タイプは購買オーダーと外注契約に関連します。
HA/HU	最終予測金額(HA)および最終予測数量(HU)。
FA/FU	現場進捗金額(FA)および現場進捗数量(FU)。作業原価予算と最終予測値との差異に関連します。
F%	作業完了率。作業勘定科目で作業の完了率を更新するために使用します。
IA/IU	作業原価予測予算金額(IA)および作業原価予測予算数量(IU)。これらは計算方法 R(収益 - 契約単価)と A(勘定金額 - 強制)に関連付けられています。
RA	残存単価。計算方法 U(残存単価)に関連しています。

## 作業原価用元帳タイプの設定

作業原価システムに対して元帳タイプを改訂する前に、どの元帳タイプが現在定義されているかについて検討してください。その後、元帳タイプは必要に応じて変更できます。

すべての作業原価予算元帳を設定して、当初予算を次年度に繰り越してください。

### ▶ 作業原価用元帳タイプを設定するには

〈作業原価セットアップ〉メニュー(G5141)から、〈元帳タイプ・マスターの設定〉を選択します。

1. 〈元帳タイプの処理〉で、改訂する元帳を選択します。
2. [ロー]メニューから、[作業原価元帳タイプ規則]を選択します。

3. 〈作業原価元帳タイプ規則〉で、次のオプションを選択して[OK]をクリックします。

- 予算元帳の改訂

改訂予算に元帳タイプ金額を含めるには、このオプションを選択します。

- 元帳タイプの集計

---

**注:**

作業の改訂予算に追加の予算元帳タイプが必要な場合は、ユーザー定義の元帳タイプを作成することができます。その後、これらの元帳タイプを設定してください。ユーザー定義コード(09/LT)に、追加の元帳タイプも定義してください。

---

これらのテーブルの予算元帳は、いずれも最終予測値の計算に使用されます。

**参照**

- 『一般会計』ガイドの「元帳タイプの設定」

**フィールド記述**

記述	用語解説
数量元帳タイプ	数量元帳は金額元帳と関連付けられています。関連している数量元帳と金額元帳の元帳タイプコードの1文字目は同じです(例:AAとAU)。数量元帳タイプコードの2文字目は“U”です(AZ(現金主義)元帳を除く)。AZ元帳に対応する数量元帳を入力しない場合、デフォルトのZU元帳を使って転記が行われます。正しい元帳タイプを指定してください。
当初予算の次年度繰越	年次締めプログラム実行時に次年度への予算の繰越が可能なことを示すフラグ
元帳タイプの集計	この元帳タイプに入力される取引が、〈取引集計〉プログラム(R09811)を使って集計できるかどうかを示すオプション。有効な値は次のとおりです。  オン 集計できる  オフ 集計できない
予算元帳の改訂	予算金額が変更可能な作業原価元帳であることを示すフラグ

---

## 分割融資実行自動採番の設定

---

〈分割融資実行自動採番〉プログラムを使用すると、作業を分割融資実行番号に手作業で関連付けることができます。分割融資実行情報の生成時に処理オプションを設定することにより、〈分割融資実行自動採番〉か、システム 51 の〈自動採番〉機能を使って「次の番号」を自動生成させるよう指示することができます。自動採番テーブルに作業を追加しない状態で分割融資実行自動採番を使用すると、〈分割融資実行の作成〉プログラムにより分割融資実行番号 1 が付いた作業が自動的に追加されます。

作業に関連した分割融資実行番号は、作業原価分割融資実行自動採番テーブル(F51002)に保管されます。

### 参照

- 『作業原価』ガイドの「作業原価用自動採番の設定」
- 『作業原価』ガイドの「分割融資実行の処理」

### ▶ 分割融資実行番号を設定するには

---

〈作業原価セットアップ〉メニュー(G5141)から、〈分割融資の実行自動採番〉を選択します。

1. 作業に対する既存の自動採番を表示するには、〈分割融資の実行自動採番〉で次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
  - TO 作業
2. 作業を分割融資実行自動採番に関連付けるには、次のフィールドに値を入力します。
  - 作業
  - 自動採番範囲 1
3. [OK]をクリックします。

### フィールド記述

記述 作業	用語解説 会社の中で費用をトラッキングする単位を表す英数字のコード。組織の部署や課などの部門の他にも、倉庫、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。ビジネスユニットを伝票、会社、個人などに割り当てることにより、さまざまなレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別に未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの支払/入金予定を把握することができます。ビジネスユニットにセキュリティを設定することにより、ビジネスユニットに関する情報を、特定のユーザーからしか照会できないようにできます。
自動採番範囲 1	システムによって自動的に割り当てられる番号。自動採番は伝票番号や請求書番号、仕訳番号、従業員番号、住所番号、契約番号など、さまざまな番号に使用できます。カスタム・プログラミングが提供されていないかぎり、すでに設定されている自動採番を使用する必要があります。

---

## 作業原価用の設定

---

自動採番を使用すると、システム作成の分割融資実行レポート、バッチ番号、伝票番号など、ユニークな番号が必要な項目に対して番号を割り当てることができます。〈自動採番〉プログラムにより、これらの番号の割当方法が決められます。

作業原価システムの自動採番はシステム 51 に保管されます。作業原価システムでは、次の目的で自動採番を使用します。

- 利益計算テーブルのリンク
- 分割融資実行番号の自動作成

作業原価システムでは、会社別または会社および会計年度別で選択した伝票に自動採番を割り当てることができます。

---

### 注:

自動採番は J.D. Edwards システムの中核です。自動採番を変更する前には、自動採番について完全に理解しておく必要があります。

---

分割融資実行情報を作成する際は、〈システム 51 自動採番〉機能、または〈分割融資実行自動採番〉機能を使用することができます。〈分割融資実行の作成〉プログラムの処理オプションで、〈システム 51 自動採番〉機能が使われるように設定できます。この処理オプションを設定しない場合は、〈分割融資実行自動採番〉が自動的に割り当てられます。

### 参照

- 『作業原価』ガイドの「分割融資実行自動採番の設定」

---

### ▶ システム 51 自動採番を設定するには

〈作業原価セットアップ〉メニュー(G5141)から、〈作業原価自動採番〉を選択します。

1. システム 51 に対する既存の自動採番を表示するには、〈自動採番の処理〉のグリッドでシステム 51 を選択します。
2. [ロー]メニューから、[自動採番の設定]を選択します。
3. 〈システム別自動採番の設定〉で、次の既存情報を検討します。

最初の 2 つのローは予約済みのローです。3 番目のローには分割融資実行レポート用の自動採番が含まれます。4 番目のローには利益計算に使用する自動採番が含まれます。

4. 空欄の行で次のフィールドに値を入力します。

- 用途
- 自動採番範囲 1
- チェックディジット

5. [OK]をクリックします。

## フィールド記述

記述	用語解説
自動採番範囲 1	システムによって自動的に割り当てられる番号。自動採番は伝票番号や請求書番号、仕訳番号、従業員番号、住所番号、契約番号など、さまざまな番号に使用できます。カスタム・プログラミングが提供されていないかぎり、すでに設定されている自動採番を使用する必要があります。
	--- フォーム固有 --- 会社/会計年度別の自動採番を設定していない会社に関しては、自動採番固定情報で選択した方法によって次のように結果が異なります。 ・ 方法 1 を使用している場合、会社/会計年度別自動採番が設定されていない各会社のレコードが作成され、すべての会社に対して 1 から番号が採番されます。 ・ 方法 2 を使用している場合、会社/会計年度別自動採番が設定されていない各会社に対しては〈システム別自動採番の設定〉フォームに表示されている「次の番号」が採番されます。
チェックディジット	自動採番された各番号の後に数字を追加するかどうかを指定します。たとえば、このオプションを選択して自動採番された番号が“2”の場合、“7”などのチェック・ディジットが追加され、最後の 2 桁が“27”になります。チェック・ディジットを使用して無作為に番号を増やすことで、置き換えられた番号の割当てを防ぐことができます。この例では、チェック・ディジットが選択されている間は、“72”は自動採番されません。 チェック・ディジットを追加するにはこのオプションを選択してください。

## 作業状況照会の設定

カラムやカラム・バージョンを設定すると、〈作業状況の照会〉フォームで作業状況の情報を表示することができます。カラム定義は必須ですが、カラム・バージョンは任意です。

カラムにより情報の表示方法が決まります。カラムを定義するには、表示される値の計算に使用する、特定の計算式を設定します。

1 つのバージョンに最高 30 までのカラムを保存できます。〈作業情報照会〉フォームを選択する際、[カラム・バージョン]フィールドにユーザー定義のバージョンを入力して、指定した形式で作業原価情報を表示させます。

〈勘定科目進捗状況入力〉フォームおよび〈作業進捗状況入力〉フォームにあるカラム・バージョンも使用されます。

ユーザー定義のカラム情報は、照会カラム・テーブル(F5192)に保管されます。

### 照会カラムの定義

情報を表示するには、〈作業状況の照会〉で使用するカラムを定義してください。カラムの定義時には、次の情報が指定できます。

- ・ カラム名
- ・ カラム見出し
- ・ カラムに表示される情報を計算するための計算式

照会カラムを定義する前に、元帳タイプや計算式を定義する必要はありません。

## 参照

『作業原価』ガイドで次のトピックを参照してください。

- 元帳タイプ(51/IL)については「作業原価用元帳タイプの処理」
- UDC(51/FM)については「作業原価用ユーザー定義コードの理解」
- 選択可能なカラムの設定については「作業状況照会の設定」

## 計算式

計算には 4 つの基本的な計算記号とカッコを使用します。有効な計算記号は次のとおりです。

+	加算
-	減算
*	乗算
/	除算
( )	左右のカッコ

### たとえば計算記号

次のリストに、計算式を作成するための、コードおよび計算記号の組合せ例を示します。

- 実績金額: 1
- 実際単価レート: 1/21
- コミットメント合計額: 1+6
- 単位レート差異: (1/21) - (5/25)

カラムが元帳の特定値 1 つと関連している場合、計算式は 1 つのコードのみで構成されます。

### ▶ カラム・バージョンを作成するには

〈作業原価照会〉メニュー(G5112)から、〈作業状況照会-ユーザー定義カラム〉を選択します。

1. 〈作業状況照会〉で、次の必須フィールドに値を入力します。

- 作業

---

#### 注:

[カラム・バージョン]フィールドはブランクにします。[カラム・バージョン]フィールドに入力すると、エラー・メッセージが表示されます。新しいバージョン名は別のフォームで入力します。

---

2. 次のフィールドに値を入力します(任意)。
  - 開始日付/期間
  - 勘定科目詳細レベル
  - 補助元帳
3. カラムに表示される勘定科目をさらに細かく識別するには、[追加選択]タブをクリックして次の任意フィールドに値を入力します。
  - スキップ開始原価コード
  - スキップ終了原価コード
  - スキップ開始原価タイプ
  - スキップ終了原価タイプ
4. [累計の種類]グループの次のオプションのうち 1 つを選択します。
  - 開始日以降
  - 累計
  - 期間
5. [詳細レベル 3-8]グループの次のオプションのうち 1 つを選択します。
  - 残高ゼロの勘定科目の表示
  - 見出し勘定科目の表示
  - 見出し記述の表示

このフィールドを選択すると、フォームのグリッドに[原価コード記述]フィールドが表示されます。
6. 勘定科目をさらに細かく識別するには、[プロジェクト]タブをクリックして次の任意フィールドに値を入力します。
  - オーナー住所 No.
  - 契約タイプ
  - 都道府県
  - 作業タイプ
7. 勘定科目をさらに細かく定義するには、[オプション]タブをクリックして次の任意フィールドに値を入力します。
  - スキップ開始カテゴリ・コード
  - スキップ終了カテゴリ・コード
  - スキップ開始代替原価コード

- スキップ終了代替原価コード
  - 順序コード
  - 活動オプション
  - 開始日以降累積日数
8. [転記コード(実績のみ)]領域で、オプションの1つを選択します。
  9. バージョンにカラムを定義するには、[カラム]タブまたは[追加カラム]タブをクリックします。

PeopleSoft. 作業状況照会

選択 検索 閉じる レポート フォーム ロー ツール

タブを選択: 追加選択

スキップ開始原価コード 00000000 スキップ開始原価タイプ \*

スキップ終了原価コード 99999999 スキップ終了原価タイプ \*

詳細レベル 3-8

☒ ゼロ勘定科目の表示 ☒ 見出し勘定科目の表示 ☐ 見出し記述の表示

累計の種類

☒ 開始日以降

☐ 累計

☐ 期間

レコード 1 - 10

原価コード	原価タイプ	記述	作業	作業記述	計量単位	計算方式	詳細レベル	転記
<input type="checkbox"/> 00065010	4322	Car Allowance - WVO 6501	00050	Project Management Company		D	7	
<input type="checkbox"/> 00065010	8720	Office Supp. Exp. - WVO	00050	Project Management Company		D	7	
<input type="checkbox"/> 01		General Conditions	00050	Project Management Company	*	D	3	N
<input type="checkbox"/> 01000		Parking Lot	00050	Project Management Company		D	6	B
<input type="checkbox"/> 01000		Mobilization	00050	Project Management Company	LS	T	4	N
<input type="checkbox"/> 01000	1340	Labor	00050	Project Management Company		D	7	N
<input type="checkbox"/> 01000	1340	Labor	00050	Project Management Company	HR	D	8	N
<input type="checkbox"/> 01000	1341	Regular Time	00050	Project Management Company		D	8	
<input type="checkbox"/> 01000	1341	Regular Time	00050	Project Management Company	HR	Q	9	
<input type="checkbox"/> 01000	1341	Regular Time	00050	Project Management Company		T	8	

10. 定義する各カラム・フィールドにカーソルを置いて、ビジュアルアシスト・ボタンをクリックします。
11. <作業状況照会カラムの検索/選択>フォームで、追加するカラムを選んで[選択]をクリックします。
12. ビジネスユニット・マスター(F0006)と関連するカテゴリ・コードを定義するには、[作業コード]タブをクリックし、次のうち必要なカテゴリ・コード・フィールドに値を入力します。
13. 勘定科目マスター(F0901)と関連するカテゴリ・コードを定義するには、[勘定科目 No.]タブをクリックし、必要なカテゴリ・コード・フィールドに値を入力します。
14. カラム・バージョンを保存するには、[フォーム]メニューから[カラムの保存]を選択します。
15. <カラム・バージョンの保存>で、[作業状況照会カラム・バージョン]フィールドにバージョン名を入力します。8文字までの名前が使えます。
16. [OK]をクリックします。



## ▶ 照会コラムを定義するには

〈作業原価セットアップ〉メニュー(G5141)から、〈照会コラムの定義〉を選択します。

1. 既存のユーザー定義コラムを検討するには、〈作業状況照会コラムの処理〉で[検索]をクリックします。
2. 新しいコラムを定義するには、[追加]をクリックします。

PeopleSoft. 照会コラムの定義

OK キャンセル ツール

コラム 表示

コラム名 AA  
記述 Actual Amount  
コラム見出し 1 Actual  
コラム見出し 2 Amount  
計算式 1

	記述	金額	数量	見出し 数量
<input checked="" type="radio"/>	Actual Values	1	21	41
<input checked="" type="radio"/>	JAJU Original Budget Values	2	22	42
<input checked="" type="radio"/>	JAJU Revised Budget Values	3	23	43
<input checked="" type="radio"/>	51/RB 51/RU Original Budget	4	24	44
<input checked="" type="radio"/>	51/RB 51/RU Revised Budget	5	25	45
<input checked="" type="radio"/>	Open Commitment Values	6	26	46
<input checked="" type="radio"/>	Total Contract Values	7	27	47
<input checked="" type="radio"/>	Projected Final Values	8	28	48
<input checked="" type="radio"/>	FAFU Projected Over/Under	9	29	49
<input checked="" type="radio"/>	Days Prior Actual Values	10	30	50

3. 〈照会コラムの定義〉で、[コラム]タブをクリックして次のフィールドに値を入力します。

- コラム名
- 記述
- コラム見出し 1
- コラム見出し 2
- 計算式

[コラム名]フィールドに値を入力して次のフィールドにカーソルを移動すると、このフォームのグリッドに値が表示されるため、[金額]コラムの値を使用して計算式を定義することができます。[金額]コラムで使用できない値を使用すると、エラー・メッセージが表示されます。

4. 桁の大きい値を使用する際に乗数を使用して入力値を小さくする場合は、[表示]タブをクリックします。

5. 次のフィールドに値を入力します。

- 乗数

〈作業状況照会〉フォームで作業情報を検討する際は、金額が元の桁数で表示されます。

6. [OK]をクリックします。

#### フィールド記述

記述	用語解説
カラム名	カラムを識別する英数字のコード。カラムは、品目の平均単価や前回購入時の原価などのパフォーマンス要素を表します。たとえば、特定品目の仕入先原価およびサービスを比較する際に、パフォーマンス要素は役立ちます。
記述	ユーザー定義名称または備考。
カラム見出し 1	作業状況照会画面のカラム見出しの最初の行。この行は、自動的にセンタリングされます。
カラム見出し 2	作業状況の照会画面の欄を記述する見出しの2番目の行。この行はカラムに対して自動的にセンタリングします。
計算式	<p>カラムの数量または金額の算出に使用する計算方法。計算式は、事前定義された値と演算子を組み合わせて入力できます。使用できる演算子は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>+ 加算</li><li>- 減算</li><li>* 乗算</li><li>/ 除算</li><li>( ) 左右のカッコ</li></ul> <p>たとえば、次の計算式を入力して「期日どおり」のパーセントを計算できます。</p> $20 / (20+21+22)$ <p>上記の計算式は、次の理由から期日どおりのパーセントと等しくなります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 20 は「期日どおり」の値</li><li>○ 21 は「期日前」の値</li><li>○ 22 は「期日後」の値</li></ul>
乗数	カラム(列)の金額または数量に掛ける係数。[計算式]フィールドの結果値にこの係数を掛けた値が〈作業状況照会〉フォームに表示されます。たとえば、極端に大きい数を千単位に減らしたい場合には、このフィールドに“.001"と入力してください。パーセントを整数で表示したい場合には、“100”と入力します。

## 作業状況照会カラム・バージョンの削除

---

〈ユーザー一時変更の処理〉フォームを使用して、〈作業状況照会〉フォームのカラム・バージョンを削除します。バージョンを削除するには、オブジェクト名を P512000、タイプを JC とする必要があります。

### ▶ 作業状況照会-ユーザー定義カラムのバージョンを削除するには

---

〈作業原価セットアップ〉メニュー(G5141)から、〈カラム・バージョン - ユーザー一時変更〉を選択します。

1. 〈ユーザー一時変更の処理〉で既存バージョンを表示するには、QBE の次のフィールドを入力して[検索]をクリックします。
  - アプリケーション  
〈作業状況照会〉のオブジェクト名、P512000。
  - バージョン ID  
カラム・バージョンの名前。
  - タイプ  
作業原価を表す「JC」。
2. 削除するレコードを選んで、[削除]をクリックします。
3. 〈削除の確認〉で[OK]をクリックします。

## 作業原価用補足データの設定

---

作業に対し、さまざまな補足情報を入力することができます。補足情報には、地面の状態から法律的な考慮事項に至るまで、作業の進行に影響するあらゆる情報が含まれます。補足情報を使用して、プロジェクトや作業の進行をトラッキング、検討およびレポートすることができます。補足情報を設定、管理するには、補足データ・タイプを定義して、各補足データ・タイプに該当する情報を入力します。補足データ・タイプは必要に応じていくつでも定義することができます。次の例を参考にしてください。

- たとえば、敷地工事で作業項目の詳細を検討したところ、伐採および整地工事が1ヵ月予定より遅れ、予算を10%超過していたとします。敷地工事の作業項目に関連する補足情報を検討し、作業の遅れの原因となった悪天候についての情報を検索します。これに応じて、敷地工事と関連作業項目の調整を行うことができます。
- また、プロジェクトの全作業の明細を検討した結果、コンクリート作業が予算を10%下回っていることを発見したとします。鉄筋の価格が予想より低かったということが、補足情報でわかります。これに応じて予算を調整できます。

### 参照

- 『住所録』ガイドの「補足データの理解」

## 作業原価用データ・タイプの追加

ユーザー定義コードを使ってデータを分類したいが既存のコード・タイプに使えるものがない場合は、データ・タイプを追加します。たとえば、地面の状態に関する作業を識別する必要がある場合は、ユーザー定義コード(55/ST)を作成してから GR という検索タイプ値を追加します。

適切なユーザー定義コードおよびユーザー定義コード・タイプを設定した後は、補足データの要件に合うような作業原価用の特定データ・タイプを追加できます。

### はじめる前に

- ユーザー定義コードおよびコード・タイプの追加および設定については『基本操作』ガイドの「ユーザー定義コード・タイプのカスタマイズ」を参照してください。

作業原価用にユーザー定義コードを追加や変更する場合は、ユーザー用に予約されているシステム・コード 55～59 を包含的に使用してください。

- データ・タイプを追加するシステムに補足データベース・コードを定義する必要があります。たとえば、作業原価システム用の補足データベース・コードは JC です。

補足データベース・コードを定義するには、〈作業原価セットアップ〉メニュー(G5141)の〈補足データ〉を右クリックして、[表示] - [処理オプション]を選択します。処理オプション・フォームの最初のフィールドに補足データベース・コードを入力して、[OK]をクリックします。

### ▶ 作業原価用データ・タイプを追加するには

---

〈作業原価セットアップ〉メニュー(G5141)から、〈補足データベースの設定〉を選択します。

1. 〈補足データベース設定の処理〉で、次のフィールドに“JC”を入力して[検索]をクリックします。
  - 補足 DB コード
2. ローを選んで、[ロー]メニューから[データ・タイプの処理]を選択します。
3. 〈データ・タイプの処理〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft®

データ・タイプの改訂

OK キャンセル フォーム ツール

SDBコード	JC	表示形式	C	表示順序	
データ・タイプ	DL	データ・クラス		検索タイプ	
記述	Daily Job Logs				
ユーザー定義コード見出しデータ検証					
ユーザー定義コード	Log Type				
システム・コード	55	UDCタイプ	DL		
備考見出しデータ検証					
備考1	Summary Description				
システム・コード		レコード・タイプ	Log Ty		
備考2	Entered by:				
システム・コード		レコード・タイプ			
備考3					
カラム見出し					
金額1					
金額2					
数量					
開始日付					
終了日付					
ユーザー日付					
ユーザー日数					
ユーザー住所					
ユーザー伝票					
ユーザー時間					

4. 作業原価用にデータ・タイプを追加するには、〈データ・タイプの改訂〉で次のフィールドに値を入力します。

- 表示形式

5. 表示モードに従って、次のうちいずれかを実行してください。

テキスト・データ・タイプ(表示モード N)の場合、次のフィールドに値を入力します。

- データ・タイプ
- 記述

コード・データ・タイプ(表示モード C)の場合、次のフィールドに値を入力します。

- データ・タイプ
- 記述
- 表示名
- システム・コード
- UDCタイプ
- 備考1
- 表示順序
- 検索タイプ
- データ・タイプ分類

- 金額 1
- 数量
- 開始日付
- 終了日付
- ユーザー日付
- ユーザー日数
- ユーザー住所
- ユーザー伝票

プログラム・データ・タイプ(表示モード P)の場合、次のフィールドに値を入力します。

- データ・タイプ
- 記述
- プログラム名
- フォーム名

[アプリケーション名]および[フォーム名]は、ビジュアルアシストを使用して使用可能な値が選択できます。これらの値は、指定するアプリケーションを実行して、[ヘルプ]メニューの[J.D. Edwards 情報]をクリックしても調べられます。

次のフィールドに値を入力します(任意)。

- バージョン ID
- 表示順序
- データ・タイプ分類
- 検索タイプ

6. [OK]をクリックします。

## フィールド記述

記述 表示形式	用語解説
	<p>データタイプの形式を指定するコード。補足データの表示形式を決定します。有効なコードは次のとおりです。</p> <p>C = コード形式。コード特定情報の入力フォームを表示します。ユーザー定義コード・テーブル(F0005)と関連している場合もあります。</p> <p>N = テキスト形式。説明テキストの入力フォームを表示します。</p> <p>P = プログラム・エグジット。[プログラム ID]フィールドで指定したプログラムを起動できます。</p> <p>M = メッセージ形式。コード特定情報の入力フォームを表示します。入力したコードを汎用メッセージ/レート・テーブル(F00191)の値と比較することができます。このコードは人事管理システムや会計システムでは使用されません。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>データタイプの設定に使用する必須フィールド。</p>

<b>データ・タイプ</b>	カテゴリ別にデータを分類するために、補足データに割り当てるコード。
<b>システム・コード</b>	システム・コードを示すユーザー定義コード(98/SY)
<b>UDC タイプ</b>	ユーザー定義コードを含むテーブルを示すコード。このテーブルは UDC (ユーザー定義コード) タイプともいいます。
<b>表示順序</b>	フォーム上のレコードグループを再順序付けするための数値。

--- フォーム固有 ---

データ・タイプの設定に使用する必須フィールド。既存のデータ・タイプを使用するか、1 文字または 2 文字のコードを入力して新しいデータ・タイプを作成することもできます。

--- フォーム固有 ---

データ・タイプに関連するユーザー定義コード用のシステム・コード。この値とタイプ・コード RT との組合せにより、データ・タイプを検証するコード・タイプ・テーブルが決まります。SY または RT がブランクの場合、データ・タイプは検証されません。たとえば、データ・タイプ「技能」として有効なコードは、システム 08/コード・タイプ SK に定義します。定義されていない技能コードをアプリケーションで入力すると、エラーになります。このフィールドは、データ・タイプがコード形式(C)の場合にのみ適用されます。

--- フォーム固有 ---

[レコードタイプ]フィールド(エイリアス RT)と[システムコード]フィールド(SY)の値をもとにして、[ユーザー定義コード]フィールド(GDC1)にユーザー定義コードテーブルが関連付けられます。〈一般記述の入力〉フォームの[ユーザー定義コード]フィールド(KY)に入力したデータは、ユーザー定義コードテーブルを使用して検証されます。たとえば、[システムコード]フィールド(SY)に“08”、[レコードタイプ]フィールド(RT)に“SK”と入力した場合、〈一般記述の入力〉フォームの[ユーザー定義コード]フィールド(KY)には、人事管理システム(08)の技能に関するユーザー定義コードテーブル(SK)に定義されている値を入力します。

[システムコード]フィールド(SY)と[レコードタイプ]フィールド(RT)をブランクにすると、〈一般記述の入力〉フォームに表示される[ユーザー定義コード]カラム(KY)のデータ入力フィールドには、どのようなデータでも入力できます。このフィールドは、補足データ・タイプをコード形式で設定する際に使用する任意フィールドです。

--- フォーム固有 ---

データタイプの設定に使用する任意フィールド。各データタイプの表示順序番号を指定します。データタイプは、ここで指定した順序で〈補足データの処理〉フォームに表示されます。

<b>データ・タイプ分類</b>	<p>中枢情報テーブルのデータタイプ・グループを識別するユーザー定義コード(00/CL)。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>データ・タイプの設定に使用する任意フィールド。使用する前に、ユーザー定義コード(00/CL)にデータ分類コードを設定してください。このフィールドは、情報の種類別にデータ・タイプ进行分类する場合に使用します。たとえば、テキスト形式とコード形式のデータ・タイプがあり、その両方が購入製品に関するものであった場合、両方のデータ・タイプに同じデータ分類コードを割り当てます。</p>
<b>検索タイプ</b>	<p>検索する住所録レコードのタイプを指定するユーザー定義コード(01/ST)</p> <p>E = 従業員 X = 元従業員 V = 仕入先 C = 顧客 P = 見込顧客 M = 郵送先一覧 TAX = 納税先</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>データ・タイプの設定に使用する任意フィールド。使用する前に、ユーザー定義コード(01/ST)に検索タイプを設定する必要があります。</p>
<b>開始日付</b>	<p>日付に関連した補足データカラムのタイトル。たとえば、教育データ・タイプとリンクする日付フィールドのカラム見出しとして「卒業」と付けることができます。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>[有効開始日付]フィールド(エイリアス GDC5)に入力したデータは、〈一般記述の入力〉フォームの詳細域にある[有効日付]フィールド(EFT)のカラム見出しに使用されます。補足データタイプをコード形式で設定する際に使用する任意フィールドです。</p>
<b>終了日付</b>	<p>日付に関連した補足データカラムの表示名。たとえば、レコードタイプが技能免許の日付フィールドには、「失効日付」というカラム表示名を付けることができます。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>[有効期限]フィールド(エイリアス GDC6)に入力したデータは、〈一般記述の入力〉フォームのグリッドにある[終了日付]フィールド(EFTE)のカラム名として使用されます。このフィールドは、補足データタイプをコード形式で設定する際に使用する任意フィールドです。</p>



ユーザー日付	<p>日付に関連した補足データカラムの表示名。たとえば、教育データタイプとリンクする日付フィールドに「卒業」というカラム名を付けることができます。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>ここに入力したテキストは、〈一般記述の入力〉フォームのグリッドにある[ユーザー定義日数]フィールド(DYUD)のカラム名として使用されます。このフィールドは、補足データタイプをコード形式で設定する際に使用する任意フィールドです。</p>
ユーザー日数	<p>[ユーザー定義日数]フィールド(エイリアス DYUD)に対する補足データカラム見出しの表示名。たとえば、スケジューリング・データタイプとリンクする日数フィールドには、「リードタイム」というカラム名を付けることができます。このカラムのデータは数値です。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>ここに入力したテキストは、〈一般記述の入力〉フォームのグリッドにある[ユーザー定義日数]フィールド(DYUD)のカラム名として使用されます。このフィールドは、補足データタイプをコード形式で設定する際に使用する任意フィールドです。</p>
ユーザー伝票	<p>伝票番号に関連した補足データ・カラムの表示名。たとえば、売掛金管理に使用する場合は「請求書 No.」というカラム名を付けることができます。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>[ユーザー伝票]フィールド(エイリアス GDC8)に入力したデータは、〈一般記述の入力〉フォームの詳細域にある[購買／受注オーダー番号]フィールド(RORN)のカラム見出しに使用されます。補足データタイプをコード形式で設定する際に使用する任意フィールドです。</p>
プログラム名	呼び出すプログラムの ID
フォーム名	<p>フォーム ID。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>プログラムの実行時に開くフォームの ID を指定します。フォーム ID を確認するには、フォームを表示して[ヘルプ]メニューから[J.D. Edwards 情報]を選択します。</p>
バージョン ID	<p>アプリケーションやレポートの実行方法の指定に使用するユーザー定義のスペックです。バージョンを使用することで、ユーザー定義の処理オプション値やデータ選択、順序オプションなどをグループ化して保存します。対話型バージョンは(通常、タスクレベルで)アプリケーションと関連付けられています。バッチバージョンはバッチ・プログラムまたはレポートと関連付けられています。バッチ・プログラムを実行する場合はバージョンを選択する必要があります。</p>

---

## 作業原価情報の更新

会社の規模の拡大や管理機構の変更などがあった場合、作業に関連する情報のトラッキング方法、レポート作成方法の変更が必要になることがあります。

---

## カテゴリ・コード情報の更新

〈上級および技術的操作〉メニュー(G5131)から、〈カテゴリ・コードの一括更新〉を選択します。

原価コード構造の作成後、特別なレポートを作成したり、またはカテゴリ・コードを管理する必要があることがあります。原価コード構造全体を、最初の 3 つの勘定科目マスター・カテゴリ・コードに自動割当てさせることができます。これを行うには、〈カテゴリ・コードの一括更新〉プログラム(R51807)を実行してください。代替順序は、3 つのカテゴリ・コードのいずれかに基づきます。

---

### 注:

エラーになる場合は、処理オプションが正しく設定されているかどうか確認してください。処理オプションに入力した値は 1 から 8 で、連続している必要があります。“+”という文字は、埋め込みブランクを示すために使用します。カテゴリ・コード定義は 3 文字、代替原価コード定義は 8 文字である必要があります。マッピングが必要な場合は、処理オプションをブランクにしてください。

---

### はじめる前に

- 代替順序カテゴリ・コードを定義します。『作業原価』ガイドの「代替順序の理解」を参照してください。

## 処理オプション: カテゴリ・コードの一括更新(R51807)

### 処理タブ

---

#### 1. カテゴリ・コード 1 のマッピング

カテゴリ・コード 1 マッピングを指定します。原価コードの選択した桁が元帳カテゴリ・コード 1 にコピーされます。

注: カテゴリ・コード 1、2、3 には、3 桁まで選択できます。代替カテゴリ・コードには、8 桁まで選択できます。スペースを空けるには、“+”を入力します。選択する桁は昇順である必要があります。たとえば、“234”と入力すると原価コードの 2、3、4 桁目がコピーされます。“2+4”と入力すると、2 桁目、スペース、4 桁目がコピーされます。243 という順序の指定は無効になります。

---

#### 2. カテゴリ・コード 2 マッピング

---

カテゴリ・コード 2 マッピングを指定します。原価コードの選択した桁が元帳カテゴリ・コード 2 にコピーされます。

注: カテゴリ・コード 1、2、3 には、3 桁まで選択できます。代替カテゴリ・コードには、8 桁まで選択できます。スペースを空けるには、“+”を入力します。選択する桁は昇順である必要があります。たとえば、“234”と入力すると原価コードの 2、3、4 桁目がコピーされます。“2+4”と入力すると、2 桁目、スペース、4 桁目がコピーされます。243 という順序の指定は無効になります。

### 3. カテゴリ・コード 3 のマッピング

カテゴリ・コード 3 マッピングを指定します。原価コードの選択した桁が元帳カテゴリ・コード 3 にコピーされます。

注: カテゴリ・コード 1、2、3 には、3 桁まで選択できます。代替カテゴリ・コードには、8 桁まで選択できます。スペースを空けるには、“+”を入力します。選択する桁は昇順である必要があります。たとえば、“234”と入力すると原価コードの 2、3、4 桁目がコピーされます。“2+4”と入力すると、2 桁目、スペース、4 桁目がコピーされます。243 という順序の指定は無効になります。

### 4. カテゴリ・コード 4 マッピング

代替原価コードのマッピングを指定します。原価コードの選択した桁が元帳代替原価コードにコピーされます。

注: カテゴリ・コード 1、2、3 には、3 桁まで選択できます。代替カテゴリ・コードには、8 桁まで選択できます。スペースを空けるには、“+”を入力します。選択する桁は昇順である必要があります。たとえば、“234”と入力すると原価コードの 2、3、4 桁目がコピーされます。“2+4”と入力すると、2 桁目、スペース、4 桁目がコピーされます。243 という順序の指定は無効になります。

---

## 作業へのコミット済み原価の転記

---

〈上級および技術的操作〉メニュー(G5131)から、〈作業へのコミット済み原価の転記〉を選択します。

作業原価をトラッキングするには、〈作業へのコミット済み原価の転記〉プログラム(R00932)を実行してください。このプログラムを実行すると、購買金額(PA)元帳と購買数量(PU)元帳に対する勘定残高テーブル(F0902)の金額が再計算されます。また、購買明細履歴テーブル(F43199)の情報を基に勘定残高テーブルの月次金額も再計算されます。

## 処理オプション:コミット済み原価の再転記(R00932)

### 処理タブ

---

#### 処理

##### 1. 開始会計年度(必須)

開始会計年度を入力してください。

##### 2. 終了会計年度

従業員(履歴および人事異動)

終了会計年度を入力してください。空白にした場合、開始会計年度が使用されます。

##### 3. 製造債務の処理

製造債務を処理するには“1”を入力してください。

---

## 分割融資の実行用勘定科目情報の更新

---

〈上級および技術的操作〉メニュー(G5131)から、〈BU/OBJ/SUB/CO F0901>F51 更新〉を選択します。

〈BU/OBJ/SUB/CO F0901>F51 更新〉プログラム(R51806)により、ビジネスユニット(作業番号)、主科目(原価タイプ)、補助科目(原価コード)および会社が、勘定科目マスター(F0901)から分割融資の実行レポート・マスター(F51911)に自動的に更新されます。既存の分割融資の実行取引がある勘定の、会社番号または勘定科目コードを変更する場合は、必ずこのプログラムを実行してください。〈BU/OBJ/SUB/CO F0901>F51 更新〉プログラムを実行すると、分割融資の実行情報が新しい勘定科目コードに正しく割り当てられます。

## 計算方法の更新

---

〈上級および技術的操作〉メニュー(G5131)から、〈計算方法の変更〉を選択します。

〈計算方法の変更〉プログラム(R519901)を実行して、勘定科目マスター(F0901)に指定した各勘定科目に対する計算方法を自動的に更新します。これにより、計算方法を一括更新したり、新しい作業の勘定科目に計算方法を迅速に割り当てることができます。また、〈計算方法の変更〉プログラムは、新しい計算方法に基づいて勘定残高テーブル(F0902)の最終予測金額を更新します。

更新される勘定科目を指定するには、データ選択を使用します。新しい計算方法を指定するには、処理オプションで行います。

このプログラムのバージョンを設定して、テスト・モードで実行します。結果を確認してから、このプログラムを最終モードで実行してください。

---

注:

このプログラムには、更新を中断するチェック機能がついていないので注意してください。

---

## 処理オプション: 計算方法の変更(R519901)

### 処理タブ

---

#### 1. 新しい計算方法

勘定科目マスター(F0901)を更新する新しい計算方法を指定します。データ選択を使って更新レコードを限定してください。

---

## 作業原価予測の再計算

---

〈上級および技術的操作〉メニュー(G5131)から、〈予測の再計算〉を選択します。

社内の組織改革などにより異なる計算方法が必要になったり、最終予測が正しくないと思われる場合、プロジェクトに対する最終予測を再計算します。計算方法を更新して〈予測の再計算〉プログラム(R51803)を実行すると、最終予測情報が再計算されます。このプログラムは特別な場合のみ実行してください。

## 処理オプション: 予測の再計算(R51803)

### 処理タブ

---

#### 1. 期間範囲

開始期間

処理レコードの開始期間番号を指定します。

注: 会社の現行会計日付を使用する場合は、ブランクにするかゼロを入力してください。

終了期間

処理レコードの終了期間番号を指定します。

注: 会社の現行会計日付を使用する場合は、ブランクにするかゼロを入力してください。

---

---

## 2. 会計年度範囲

### 開始年度

処理レコードの開始会計年度を指定します。4桁で入力してください。例: 2001

注: 会社の現行会計日付を使用する場合は、ブランクにするかゼロを入力してください。

### 終了年度

処理レコードの終了会計年度を指定します。開始年度を指定し、終了年度をブランクにした場合は、エラーになります。4桁で入力してください。例: 2001

注: 会社の現行会計日付を使用する場合は、ブランクにするかゼロを入力してください。

---

## 印刷タブ

---

### 1. レポートの印刷

ブランク = 印刷する

1 = 印刷しない

レポートを印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク    印刷する(デフォルト)

1          印刷しない

---

## 最終予測情報の削除

---

〈レポート・ライター〉メニュー(GH9111)から、〈バッチ・バージョン〉を選択します。

〈作業原価予測の削除〉プログラム(R51997)を実行して、勘定残高テーブル(F0902)と取引明細テーブル(F0911)から、選択した作業原価予測や監査証跡情報を削除します。データ選択は会社別となります。〈作業原価予測の削除〉プログラムにより、元帳タイプ HA および HU が更新されます。

### 処理オプション: 作業原価予測の削除(R51997)

#### 処理タブ

---

##### 1. F0902 HA/HU 残高の削除

ブランク = 削除する

1 = 残す

F0902(HA/HU 元帳)の残高を保持するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク = F0902(HA/HU 元帳)の残高を削除する。F0911 の HA/HU 取引は自動的に削除されます。

1 = F0902(HA/HU 元帳)の残高を保持する。

---

## 作業取引の集計

---

〈上級および技術的操作〉メニュー(G5131)から、〈作業取引の集計〉を選択します。

作業集計プロセスでは、勘定科目マスター(F0901)、勘定残高テーブル(F0902)、および取引明細テーブル(F0911)でレコードの集計を行うことができます。システムにより、集計した作業に対する総勘定元帳の整合性が管理されます。特定の作業をプロセスするレコード数を集計すると、パフォーマンス能力とシステムのディスク許容量が増加されます。作業取引の集計すると、作業をシステムから削除するよう選択できます。

〈作業取引の集計〉プログラム(R09811)を実行すると、指定範囲の明細勘定科目の残高が 1 つの集計勘定科目に集計されます。これにより、前年度の取引がまとめられます。

〈作業取引の集計〉に対する AAI(自動仕訳)は SM01 です。集計レベルを AAI(自動仕訳)で制御するには、[主科目]フィールドまたは[補助科目]フィールドのいずれかにあるアスタリスク(\*)を割り当て、集計に対して明細情報を指定します。作業集計 AAI(SM01)で一方にアスタリスク(\*)を割り当てると、値を指定したほうの勘定科目レベルで残高が集計されます。

---

**注意:**

J.D. Edwards では、すべての作業取引を集計してから、仕訳を除去することをお勧めします。作業取引を集計しないで仕訳を除去すると、作業情報が削除され、作業取引のレコードが失われてしまいます。

---

## 処理オプション: 取引の集計(R09811)

---

**期間数**

1. 明細を保存する期間数

01 = 現行期間の明細のみを保存する

---

### 処理オプションの追加情報

**保持期間**

このフィールドには、集計する期間数を入力します。保持期間を計算する際は、勘定残高テーブル(F0902)から 14 期間の転記額が使用されます。会計年度が 12 期間の場合、保持期間数に 2 を追加します。これにより、前年度からの情報を保持することができます。たとえば、通年で集計する場合は、“14”と入力します。

現行の会計年度の情報のみを保持する場合、期間数に 2 を追加する必要はありません。

## 前年度作業仕訳の除去

---

〈データの集計および除去〉メニュー(G09317)から、〈前年度仕訳の除去〉を選択します。

前年会計年度の作業取引を集計した後、これらの作業に関連する仕訳入力を除去することができます。〈前年度仕訳の除去〉プログラム(R09911)を使用すると、作業に関連する作業原価情報を保存、除去できます。作業は、ビジネスユニット・マスター(F0006)、勘定科目マスター(F0901)、勘定残高ファイル(F0902)および分割融資の実行レポート・マスター(F51911)に保管されます。

---

**注:**

J.D. Edwards では、一連の作業原価および財務レポートを実行してから、作業の除去、削除を行うことをお勧めします。また、ビジネスユニット・マスター(F0006)、勘定科目マスター(F0901)、勘定残高ファイル(F0902)および分割融資の実行レポート・マスター(F51911)をバックアップしてください。作業に対する未処理トランザクションをすべて転記してから、作業を除去してください。

---

**はじめる前に**

- 作業を除去するには、まず〈作業原価マスターの改訂〉フォームにアクセスする必要があります。作業の転記編集コード(グリッドにある PE)を“P”に変更します。これにより、この作業が除去の対象となります。



## 処理オプション: 前年度仕訳の除去(R09911)

---

### 削除オプション

#### 1. 古い 1099 レコードの削除

3 年(今年度、前年および前々年度)以上前の 1099 取引を除去および削除するには、“1”を入力してください。ブランクにした場合、除去はされますが物理的には削除されません。

#### 2. 請求可能な取引レコードの削除

有効な請求コードが設定された請求可能な取引を削除および除去するには、“1”を入力してください。ブランクにした場合、“X”または“Y”以外のすべての請求コードが除去されますが、削除はされません。ただし“X”と“Y”の請求可能取引は除去、削除されます。(注)このオプションは、サービス請求システムを使用し、J.D. Edwards のエネルギー・モジュールを使用していないユーザーを対象としています。

---

## 作業の除去

---

〈上級および技術的操作〉メニュー(G5131)から、〈作業原価の除去〉を選択します。

〈作業原価の除去〉プログラム(R51840)を実行して、システムから作業を除去します。作業情報は次のテーブルから除去されます。

- F0902 (勘定残高)
- F0911 (取引明細)

---

### 注:

〈作業原価の除去〉プログラムを使用すると、作業に関連する F0902 および F0911 のレコードがすべて除去されます。転記編集コードが P のレコードのみが除去されます。除去を実行する前に〈作業取引の集計〉プログラム(R09811)を使用して F0911 レコードを集計する場合は、このプログラムを使用して F0911 レコードを除去しないでください。集計済みレコードが除去されてしまいます。集計済み F0911 取引レコードは、〈前年度仕訳の除去〉プログラム(R09911)を使用して除去してください。ただし、R09911 では作業マスター・レコードの転記編集コードは編集できません。

---

〈作業原価の除去〉プログラム(R51840)を使用して作業を除去した後に勘定科目マスター(F0901)レコード削除する場合、〈勘定科目マスター・レコードの削除〉プログラム(R09814)を使用してください。このプログラムを使用すると選択した勘定科目マスター・レコードが削除されて、勘定残高レコード除去テーブル(F0902P)と取引明細レコード除去テーブル(F0911P)から作業情報が復元できないようになります。

